



0017737-002

328.333-N689h2

非常時經濟法令大集成

日本窒素肥料談話会・編

審美書院

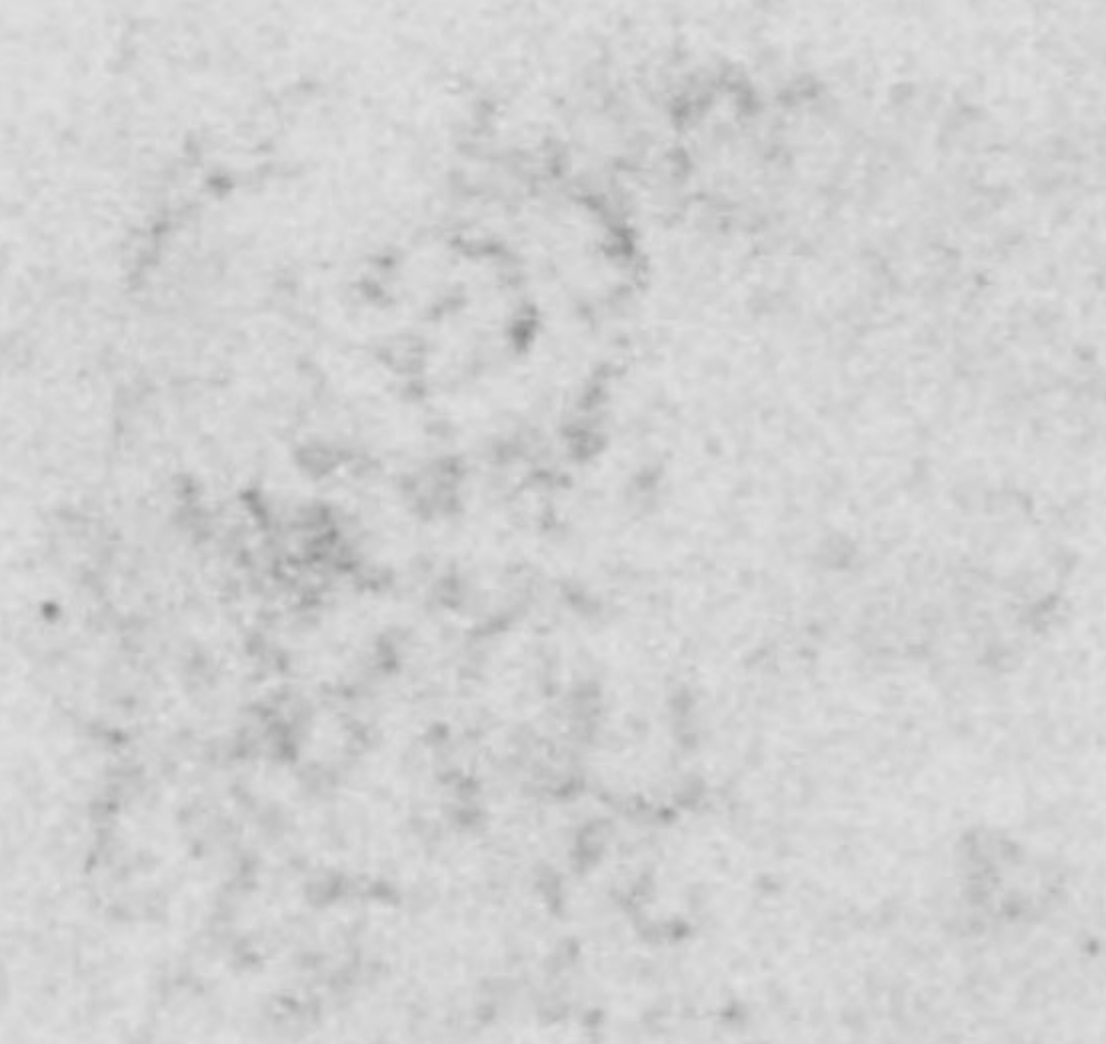
続編 第1-2巻

1938-1939

ACI

非時經濟法大集

卷一 總論



日本窒素肥料談話會編

非常時經濟法令大集成
續編
第二卷

發賣所
ダイヤモンド社

328.333
N689k2



688977

序

非常時經濟法令大集成は茲に第三卷（續編第二卷）を出すことになつた。第一卷は昨年三月に發行されたのであるが、我國の非常時立法は當時に於ては臨時立法の性質を有するものが多く、一部のものを除いては法律自ら其廢止時期を規定してゐた。然るに事變の重大さと深刻さとは益々加重され此の第三卷に於ては之等非常時立法は漸次恒久立法の性質を帯び來るに到つた。即ち國家總動員法の全面的發動が意圖され、今日存在する臨時立法は總動員法の當該規定の發動を代行する意味のものとして殘存してゐると云つても過言ではないと思はれる。それ自身劃期的内容を有する非常時立法が恒久立法たるの性質を有し來つたことは我國法制の根幹に觸れる重大問題である。

上記の如き非常時立法の變遷は本卷に於ても直ちに認められる。例へば國家總動員法直接の附屬法令が約二百五十頁、電力管理法、重要肥料業統制法、人造石油製造事業法等重要な國策事業に關する恒久的立法に屬する法令が約二百八十頁を占め、更に輸出入品等臨時措置法、臨時資金調整法等約三百頁が今日に於ては國家總動員法の一部を代行してゐるものと考ふべきこと前記の如しとすれば合計八百數十頁に亘る最も重要な非常時立法は今や恒久的なものとなつたと云ひ得るのである。

斯くの如く非常時立法は極めて短時に其法制上の基礎を確立し極めて廣範圍に涉つて國民の日常生活を支配するに到つた。今日に於ては最早之等の法令を離れて吾人の法律生活はあり得ない。之等非常時法令の一切を網羅する本書こそは或人の評の如くに非常時の六法全書とも稱すべき重大使命を有するものであつて、實務家の座右に缺く可からざるもののみならず其の文化的意義も蓋し渺らざるものがあると思ふ。此の意味に於て本書が江湖に貢獻する所があれば本書發行の目的は達せられたのである。

本卷も亦前卷と同じく日本窒素肥料株式會社本社談話會有志諸君の勤務時間外の努力に成つたものである。編者として茲に感謝の意を表する。

昭和十四年十二月一日

編者識

正編 序

日支事變を契機とし第七十一—第七十二議會を中心としてなされた我國に於ける非常時經濟立法は實に我法制史上劃期的なものであつて之等の法律に關聯して相次いで發布せられる附屬法令は其内容甚だ重要なものみならず其の量も亦甚だ多く實務家は其の條文を探し求めるだけでも多大の手續を要すると云ふ有様である。

本書は日本窒素肥料株式會社本社談話會の諸君が社務の餘暇を利用して所謂非常時經濟立法の全部を網羅し施行令、施行規則、施行細則並に外地關係法令等を一纏めにして編纂したもので其の目的は専ら社内實際執務上の必要に依り之に便せんが爲めのものである。

非常時の特異性を強調して成れる之等八百餘頁に及ぶ膨大な法令は實に獨逸のヒットラー法典にも比すべく我國法制上の一偉觀であつて又如何に事態が緊急逼迫せるものなるかを端的に物語るものである。此の意味に於て本書は今や曠古の大事業を成し遂げんとする我日本の現下の姿を寫す好個の金文字塔でもある。

本書が實務家、學者諸君に何等かの寄與を有するならば編者の幸とする所である。

昭和十三年二月十一日

編者 識

續編 第一卷 序

本書は非常時經濟法令大集成の續編第一卷として第七十三議會に於て成立した國家總動員法、電力管理法等の所謂戰時法令の全部と前卷發行後戰時體制強化に伴つて發令せられた諸法令を普ねく採録蒐集したものである。之等の諸法令は何れも現下の國民生活を直接支配し然も從來の法律觀念のみを以てしては律し得ざるものも少なくない。従つて斯種法令の信頼すべき綜合法典の刊行こそは今日の緊要事であつて之無くしては實務家は仕事が出来ないと云つても過言ではないのである。本書前卷は豫想外の好評を博し八版の多數を重ねたが、本續卷は學者、實務家或は未知の人士よりの盛なる要望もあつて前卷と同じく日本窒素肥料株式會社本社談話會の諸君に依り再び編纂刊行される事となつたものである。

非常時經濟法令大集成は本卷と前卷を合しただけでも既に二千頁を超え、特に本卷は本年三月以降僅々七ヶ月餘の短時日に發令を見た戰時法令のみの集成であるがそれのみでも一千餘頁に達し、之を單に我國の法律製造能力として觀ても眞に驚くべきものである。然も之等の法令は既存の我が法律體系に對し少くとも形式上には何等矛盾、破綻の危懼をすら抱かしめるものではない。實に我國法律學の完璧を物語るものである。唯遺憾とするのは實質上著しき特異性を有する之等法令の綜合的整備と研究とが未だ不十分な事である。元來本書の如きも一營利會社の有志社員の發意に俟つべきものではあるまいと思ふ。

本書の編纂員であつた法學士織田淳磨君は陸軍歩兵少尉として既に第一線に立ち又法學士萩野好直君も亦歩兵補充兵として應召され兩君とも勇躍出發された。本書は夫れ自身が國家非常時の波をひしひしと身に感じつゝ生れたのである。極めて多忙と聞く軍隊生活の寸暇に上記二君が本書を編まれる時を想像するのは本書を世に出す喜びの一つである。

昭和十三年十月二十日

編者 識

凡例

一、本卷ハ現在施行サレツ、アル戰時立法ノ全部ヲ網羅スル目的ヲ以テ國家總動員法其他左記法律及其ノ附屬法令並ニ外地ノ該當法令ノ一切ヲ採録シタ。而シテ之等ノ法令ハ屢次ノ改正ヲ施サレタルモノ多ク其ノ今日ニ於ケル現行條文ヲ檢出スルコトハ相當ノ手數ヲ要スルノテ本卷ニ於テハ此ノ不便ヲ除クタメ左記ノ國家總動員法乃至工業組合法迄ノ重要十五法律及其ノ附屬法令全部ヲ現行條文ノ形ニ改正シタモノヲ掲載シタ。

- 國家總動員法及其ノ附屬法令全部
- 輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律及其ノ附屬法令全部
- 臨時資金調整法及其ノ附屬法令全部
- 外國爲替管理法及其ノ附屬法令全部
- 航空機・工作機械・自動車・人造石油ノ各製造事業法及其ノ附屬法令全部
- 產金法、重要礦物増産法及其ノ附屬法令全部
- 電力管理法及其ノ附屬法令全部
- 重要肥料業統制法、臨時肥料配給統制法、硫酸アンモニア増産及配給統制法及其ノ附屬法令全部
- 工業組合法及其ノ附屬法令全部
- 第七十四議會ヲ通過セル非常時經濟關係ノ法律並ニ本卷締切期日迄ニ公布セラレタル其ノ附屬法令全部
- 其ノ他非常時經濟關係法令ニシテ本書續編第一卷締切後本卷締切期日迄ノ間ニ公布セラレタルモノ

一、本卷ニ收録セル法令ハ左ノ締切期日迄ノモノデアル。
 收録締切期日 昭和十四年十月二十一日 (前卷續編第一卷締切期日ハ昭和十三年十月十三日)
 但シ外地關係ハ左ノ如シ

朝鮮	收録締切期日	昭和十四年九月三十日	(國家總動員法ニ關シ十月三十一日)
臺灣	收録締切期日	昭和十四年九月三十日	(前卷續編第一卷締切期日ハ昭和十三年九月二十五日)
樺太	收録締切期日	昭和十四年八月三十一日	(前卷續編第一卷締切期日ハ昭和十三年九月五日)
關東州	收録締切期日	昭和十四年八月三十一日	(前卷續編第一卷締切期日ハ昭和十三年九月二十五日)

南洋群島 收録締切期日 昭和十四年八月三十一日

(前卷續編第一卷締切期日ハ昭和十三年八月三十一日)

一、本卷ノ編纂ハ收録セル各法律ノ後ニ其ノ附屬法令ヲ一括收録シテ「何々法關係法令」ナル標題ヲ附シ、其ノ標題ノ五十音順ニ依リ配列シタ。

一、貴衆兩院委員長ノ報告ハ第七十四議會ニ於テ成立シタル法律ニ付テノミ採録シタ。其レ以前ノモノニ付テハ既刊ノ本法令集ノ當該個所ヲ參照サレ度イ。

一、卷末ノ索引ハ本法令集三卷ノ全部ニ亘リ收録セル法令ヲ各法令毎ニ其ノ名稱ニ依リ五十音順ニ配列シ、本法ト異ル名稱ヲ有スル附屬法令ヲモ獨立ニ檢出シ得ル様ニシタ。但シ告示ハ繁雜ヲ避クル爲重要ナルモノ、ミニ止メタ。一、本書ニ使用セル略語並ニ略號ハ左ノ通デアル。

1. 法	勅令	臺灣總督府令	臺令
勅	勅令	關東局令	樺令
制	制令	樺太廳令	關東局告示
律	律令	南洋廳令	南洋廳告示
關令	關令	內閣告示	藏訓・商訓
藏令	藏令	大藏省告示	大藏省訓令
商令	商令	商工省告示	商工省訓令
朝鮮總督府令	朝鮮總督府令	朝鮮總督府告示	

2. 法令ノ名稱ニ「」ヲ附シタルモノハ當該法令ガ廢止セラレタルコトヲ示ス。

3. 沿革ノ項中「」ヲ附シタルモノハ全文改正ニ依リ効力ヲ失ヒタルモノナルコトヲ示ス。

4. 標題ニ「—續—」ヲ附記シタルモノハ當該關係法令ニシテ本書ニ收録セルモノヨリ以前ノモノガ本書前二卷ノ内ニ既ニ收録セラレテキルモノナルコトヲ示ス。從テ「—續—」ノ表示アルモノニ就テハ本書索引或ハ續編第一卷索引ニ依ツテ前二卷ヲ參照セラレ度イ。

一、輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律關係法令ニシテ價格等統制令ノ規定ニ依リ同令ニ依ル告示ト見做サレタモノハ、編輯ノ都合上輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律關係法令ノ部ニ配列シ、當該個所ニ於テ各告示方價格等統制令ニ依ルコト、成リタルコトヲ明ニスルコト、シタ。

目次

(ゴジツクハ法律並ニ關係法令中主要ナルモノヲ示ス)
(一字低キモノハ外地關係法令ナル事ヲ示ス)

アルコール專賣法關係法令一續一

- 昭和十四年度中收納スルアルコールノ賠償價格表 (昭一四・三三、廣告九二)
アルコール賣渡價格表 (昭一四・三三、廣告九三)

營業收益稅法關係法令一續一

- 營業收益稅法施行規則中改正ノ件 (昭一四・八一、勅令五九七)
營業收益稅法施行規則等ノ規定ニ依ル検査章書式中改正 (昭一四・四一、勅令一一)
朝鮮營業稅令中改正ノ件 (昭一三・一一、勅令三三)
朝鮮營業稅令中改正ノ件 (昭一三・一一、勅令三三)
朝鮮營業稅令中改正ノ件 (昭一四・九二、勅令四一)
樺太營業收益稅規則中改正 (昭一三・一〇七、勅令七六)
樺太營業收益稅規則中改正 (昭一四・八二、勅令七七)
關東州營業稅措置規則中改正 (昭一四・五九、勅令四九)

海運組合法關係法令

- 衆議院委員長報告
貴族院委員長報告

外國爲替管理法關係法令

- 外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件 (昭八・三二、勅令二八)
外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件 (昭八・四二、勅令七)
外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件 (昭八・四二、勅令八)
外國爲替管理法ニ基ク臨時措置ニ關スル命令ノ件 (昭一二・二八、勅令一一)
外國爲替管理法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件 (昭八・四二、勅令六)
外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件 (昭八・四二、勅令四〇)
外國爲替管理法ニ關スル施行手續 (昭八・四二、勅令四一)
外國爲替管理法ニ基ク臨時措置ニ關スル命令ノ件 (昭一二・二二、勅令二)
朝鮮ト滿洲國又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域トノ間ノ貨物ノ輸出入ニ關スル取引又ハ行爲及通貨等ノ携帶ニ關スル外國爲替管理法ニ基ク命令ニ關スル特例ノ件 (昭一三・八一、勅令一五二)
臺灣外國爲替管理規則 (昭八・四二、勅令五七)
臺灣外國爲替管理規則施行細則 (昭八・五二、勅令六〇)

臺灣外國爲替管理臨時措置規則 (昭一二・一六、勅令三)

- 外國爲替管理法ニ基ク命令及同法ニ關スル施行手續 (昭八・四二、勅令七)
關東州外國爲替管理令 (昭八・九一、勅令四一)
關東州外國爲替管理規則 (昭一二・一〇八、勅令九五)
關東州外國爲替管理規則施行細則 (昭一二・一〇八、勅令九六)
關東州外國爲替管理令ニ基ク臨時措置ニ關スル命令ノ件 (昭一二・一〇八、勅令九七)
獨逸國生産品ノ輸入ニ關スル關東州外國爲替管理令ニ基ク命令ノ件 (昭一四・三二、勅令一一)
樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律關係法令
衆議院委員長報告
貴族院委員長報告
明治四十五年法律第二十三號中改正法律 (樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル件) (昭一四・三三、法一八)
明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘ニ關スル件中改正 (昭一四・八四、勅令七五)

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ル、コトニ關スル法律關係法令一續一

- 衆議院委員長報告
貴族院委員長報告
昭和十三年法律第二十三號中改正法律 (關東局、朝鮮總督府、臺灣

北支那開發株式會社法關係法令一續一

- 北支那開發株式會社法第二十九條第三項ノ規定ニ依ル計算方法ニ關スル件 (昭一四・二八、勅令一一)
北支那開發株式會社所得稅又ハ營業收益稅ノ免除ヲ受ケントスルトキノ申請ニ關スル件 (昭一三・一三〇、勅令六七)
北支那開發株式會社及中支那振興株式會社政府出資財産評價委員會官制中改正ノ件 (昭一四・六一、勅令三四)

金資金特別會計法關係法令一續一

- 金資金特別會計法中改正法律案ニ對スル衆議院委員長報告 (昭一八)
金資金特別會計法中改正法律案ニ對スル貴族院委員長報告 (昭一〇)
金資金特別會計法中改正法律 (昭一四・三二、法二四)
金資金ノ運用ニ關スル件 (昭一四・三三、勅令三七)
政府買上金地金概算代金支拂規則 (昭一四・四二、勅令一七)

軍機保護法關係法令一續一

- 軍機保護法施行規則中改正 (昭一四・八一、勅令一〇)

軍馬資源保護法關係法令

- 衆議院委員長報告

貴族院委員長報告……………三三

軍馬資源保護法……………三三

軍馬資源保護法施行令……………三三

軍馬資源保護法施行規則……………三三

軍馬資源保護法施行令第八條第一項第二號ノ區域指定……………三三

軍馬資源保護法施行規則第九十五條第二項ニ規定スル法人指定……………三三

軍用保護馬鍛錬中央會登記取扱手續……………三三

軍用保護馬衛生護蹄施設獎勵規則……………三三

軍用資源秘密保護法關係法令

衆議院委員長報告……………三三

貴族院委員長報告……………三三

軍用資源秘密保護法……………三三

軍用資源秘密保護法施行令……………三三

軍用資源秘密保護法施行規則……………三三

軍用資源秘密保護法施行令第十三條ノ適用ニ關スル件……………三三

軍用資源秘密保護法施行令第十三條ノ適用ニ關スル件……………三三

國有鐵道軍用資源秘密保護規則……………三三

軍用自動車検査法關係法令

衆議院委員長報告……………三三

貴族院委員長報告……………三三

軍用自動車検査法……………三三

輕金屬製造事業法施行規則……………三三

臺灣土地收用規則施行規則中改正……………三三

工業組合法關係法令

工業組合法中改正法律案ニ對スル衆議院委員長報告……………三三

工業組合法中改正法律案ニ對スル貴族院委員長報告……………三三

工業組合法……………三三

工業組合法施行規則……………三三

工業組合法中主務大臣ノ行フ職務ニ關スル件……………三三

工業組合法第三十三條ノ第二項ノ規定ニ依リ小工業者ノ範圍ヲ定ムルノ件……………三三

工業組合中央會ノ設立ニ關スル件……………三三

工業組合法第一條第二項ノ規定ニ依ル重要工業品指定……………三三

工業組合法第九條第二項ノ規定ニ依ル重要輸出品指定……………三三

工業組合法施行規則第二十條ニ依ル命令……………三三

工業組合法施行規則第二十條ニ依ル命令……………三三

工業組合法施行規則第二十條ニ依ル命令……………三三

工業組合法施行規則第二十條ニ依ル命令……………三三

軍用自動車検査法施行令……………三三

軍用自動車検査法施行規則……………三三

軍用自動車検査法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……………三三

關東州軍用自動車検査令……………三三

關東州軍用自動車検査令施行規則……………三三

輕金屬製造事業法關係法令

衆議院委員長報告……………三三

貴族院委員長報告……………三三

輕金屬製造事業法……………三三

輕金屬製造事業法施行令……………三三

輕金屬製造事業法施行規則……………三三

輕金屬製造事業委員會官制……………三三

輕金屬製造研究獎勵金交付規則……………三三

輕金屬製造事業法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件……………三三

輕金屬製造事業法施行規則……………三三

土地收用令中改正ノ件……………三三

朝鮮所得稅令中改正ノ件……………三三

朝鮮營業稅令中改正ノ件……………三三

地方稅ノ賦課ニ關スル件中改正……………三三

重要物資製造事業用品ノ輸入稅免除ニ關スル件中改正……………三三

輕金屬製造事業法ノ一部ヲ臺灣ニ施行スルノ件……………三三

工業組合法及同法施行規則施行ニ關シ取扱方……………三三

朝鮮工業組合令……………三三

朝鮮工業組合令施行規則……………三三

朝鮮工業組合中央會ノ設立ニ關スル件……………三三

朝鮮工業組合登記取扱規則……………三三

朝鮮工業組合令施行規則第二十七條ニ關スル件……………三三

朝鮮工業組合令施行規則第三十條及第三十四條ノ規定ニ關スル件……………三三

航空機製造事業法關係法令

航空機製造事業法……………三三

航空機製造事業法施行令……………三三

航空機製造事業法施行規則……………三三

航空機製造事業法施行ニ關スル件……………三三

航空機製造事業委員會官制……………三三

航空機技術委員會官制……………三三

航空機製造事業法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件……………三三

航空機製造事業法施行規則……………三三

土地收用令中改正ノ件……………三三

朝鮮所得稅令中改正ノ件……………三三

朝鮮營業稅令中改正ノ件……………三三

重要物資製造事業用品ノ輸入稅免除ニ關スル件……………三三

地方税ノ賦課ニ關スル件中改正……………(昭三三・一一一、朝令二二〇)……………二六

工作機械製造事業法關係法令

工作機械製造事業法……………(昭三三・三三〇、法四〇)……………二六
工作機械製造事業法施行令……………(昭三三・七九、勅五〇〇)……………二七
工作機械製造事業法施行規則……………(昭三三・七九、南令五〇)……………二七
工作機械製造事業委員會官制……………(昭三三・一〇一、勅六八一)……………二八
工作機械試作獎勵金交付規則……………(昭三三・八一、南令七四)……………二九

小運送業法關係法令一續

戰時又ハ事變ニ際シ軍事輸送上必要ナル小運送業ノ實施ニ關スル件中改正ノ件……………(昭一四・六・二四、勅四一四)……………二八
小運送業法施行規則中改正……………(昭一四・八・三一、勅令一四)……………二八
小運送業法第十七條ノ規定ニ依ル職權委任ニ關スル件……………(昭一四・八・三一、勅令一三)……………二八
行政諸法臺灣施行令中改正ノ件……………(昭一三・二・二五、勅七五五)……………二八
小運送業法施行規則……………(昭一四・一・三〇、勅令五)……………二八
小運送業法及行政諸法臺灣施行令ニ依ル職權委任ニ關スル件……………(昭一四・一・三〇、勅令六)……………二八

國家動員法關係法令

國家總動員法……………(昭一三・四・一、法五五)……………二七
國家總動員法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……………(昭一三・五・四、勅三二六)……………二七
南洋群島ニ於ケル國家總動員ニ關スル件……………(昭一三・五・四、勅三二七)……………二七
關東州國家總動員令……………(昭一四・八・二六、勅六〇九)……………二九

學校卒業者使用制限令第一條ノ學科指定

學校卒業者使用制限令施行規則……………(昭一三・八・二六、厚告二二〇)……………二七
學校卒業者使用制限令第一條ノ學科指定……………(昭一三・九・八、朝令一八九)……………二八
學校卒業者使用制限令第一條ノ學科指定……………(昭一三・九・八、朝令七三三)……………二八
學校卒業者使用制限令第一條ノ學科指定……………(昭一三・九・八、朝令七三三)……………二八
學校卒業者使用制限令施行規則……………(昭一三・九・一五、勅令一一七)……………二九
學校卒業者使用制限令第一條ノ學科指定……………(昭一三・九・一五、勅令三二五)……………二九
學校卒業者使用制限令第一條ノ學科指定……………(昭一三・九・一五、勅令三二五)……………二九
學校卒業者使用制限令第一條ノ學科指定……………(昭一三・九・一五、勅令三二五)……………二九
學校卒業者使用制限令施行規則……………(昭一三・九・二〇、南令三三)……………三〇
學校卒業者使用制限令第一條ノ學科指定……………(昭一三・九・二〇、南令三五)……………三〇
學校卒業者使用制限令第一條ノ學科指定……………(昭一三・九・二〇、南令三五)……………三〇
關東州學校卒業者使用制限令……………(昭一三・九・二〇、南令六六)……………三〇
昭和十五年ニ於ケル學校卒業者ヲ雇傭契約ニ基キ使用セントスル者ノ申込ニ關スル件……………(昭一四・七・二二、局告四七)……………三二
從業者雇入制限令……………(昭一四・三・三一、勅一二六)……………三三
從業者雇入制限令施行規則……………(昭一四・四・一〇、厚令四)……………三三
從業者雇入制限令第一條第一號ノ職業指定……………(昭一四・四・一〇、厚令六〇)……………三六

總動員業務指定令

國民徵用令……………(昭一四・七・五、勅四四三)……………二九
國民徵用令施行規則……………(昭一四・七・八、勅四五二)……………二九
國民徵用令第十九條第三項ノ規定ニ依ル徵用セラルベキ者ノ出頭旅費支辨方ニ關スル件……………(昭一四・七・二一、厚令一八)……………三〇
國民徵用令第十九條第三項ノ規定ニ依ル徵用セラルベキ者ノ出頭旅費支辨方ニ關スル件……………(昭一四・七・二一、厚令一九)……………三〇
國民徵用令ニ依リ陸軍ニ徵用セラレタル者ノ給與ニ關スル件……………(昭一四・七・二一、厚令二〇)……………三〇
國民徵用令施行規則……………(昭一四・九・三〇、朝令一六四)……………三〇
國民徵用令第十九條第三項ノ規定ニ依ル徵用セラルベキ者ノ出頭旅費支辨方ニ關スル件……………(昭一四・九・三〇、朝令一六五)……………三〇
國民徵用令第十九條第三項ノ規定ニ依ル徵用セラルベキ者ノ出頭旅費支辨方ニ關スル件……………(昭一四・九・三〇、朝令一六六)……………三〇
國民徵用令施行規則……………(昭一四・九・三〇、朝令一六七)……………三〇
國民徵用令第十九條第三項ノ規定ニ依ル徵用セラルベキ者ノ出頭旅費支辨方ニ關スル件……………(昭一四・九・二九、勅令一〇〇)……………三〇
國民徵用令第十九條第三項ノ規定ニ依ル徵用セラルベキ者ノ出頭旅費支辨方ニ關スル件……………(昭一四・九・二九、勅令一〇一)……………三〇
國民徵用令第十九條第三項ノ規定ニ依ル徵用セラルベキ者ノ出頭旅費支辨方ニ關スル件……………(昭一四・九・二九、勅令一〇二)……………三〇
學校卒業者使用制限令……………(昭一三・八・二四、勅五九九)……………二七
學校卒業者使用制限令施行規則……………(昭一三・八・二六、厚令三三)……………二九
學校卒業者使用制限令第一條ノ學科指定……………(昭一三・八・二六、厚令二一九)……………二七

從業者雇入制限令第一條第二號ノ學校卒業者指定

從業者雇入制限令施行規則……………(昭一四・四・一〇、厚令六一)……………二八
從業者雇入制限令施行規則……………(昭一四・七・三一、朝令一一六)……………二八
從業者雇入制限令第一條第一號ノ職業指定……………(昭一四・七・三一、朝令六三)……………二八
從業者雇入制限令第一條第二號ノ學校卒業者指定……………(昭一四・七・三一、朝令六四)……………二八
從業者雇入制限令施行規則……………(昭一四・七・二九、勅令八五)……………二九
從業者雇入制限令第一條第一號ノ職業指定……………(昭一四・七・二九、勅令二六四)……………二九
從業者雇入制限令第一條第二號ノ學校卒業者指定……………(昭一四・七・二九、勅令二六五)……………二九
從業者雇入制限令施行規則……………(昭一四・七・一五、勅令六五)……………二九
從業者雇入制限令第一條第一號ノ職業指定……………(昭一四・七・一五、勅令二三四)……………二九
從業者雇入制限令第一條第二號ノ學校卒業者指定……………(昭一四・七・一五、勅令二三五)……………二九
從業者雇入制限令施行規則……………(昭一四・八・一、南令三九)……………三〇
從業者雇入制限令第一條第一號ノ職業指定……………(昭一四・八・一、南令七五)……………三〇
從業者雇入制限令第一條第二號ノ學校卒業者指定……………(昭一四・八・一、南令七六)……………三〇
工業就業時間制限令……………(昭一四・三・三一、勅一二七)……………三〇
工場就業時間制限令施行規則……………(昭一四・四・一九、厚令七)……………三〇
工場就業時間制限令第二條ノ事業指定……………(昭一四・四・一九、厚令七四)……………三六

國民職業能力申告令第二條第四號ノ技能者養成施設指定 (昭一四・五二八、勅令四二六)……………五七六

國民職業能力申告令第二條第五號ノ檢定、試験及免許指定 (昭一四・五二五、勅令四二七)……………五七七

國民職業能力申告令第十四條ノ官廳指定 (昭一四・五二五、勅令四二七)……………五七七

國民職業能力申告令施行規則……………(昭一四・五二五、勅令四二八)……………五七八

國民職業能力申告令第十四條ノ規定ニ依ル官廳被用者ノ特例ニ關スル件……………(昭一四・五二二、勅令六三)……………五七九

國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業指定 (昭一四・五二二、勅令六三)……………五七九

國民職業能力申告令第二條第三號ノ學校指定 (昭一四・五二二、勅令一七三)……………五八〇

國民職業能力申告令第二條第三號ノ學科指定 (昭一四・五二二、勅令一七三)……………五八〇

國民職業能力申告令第二條第四號ノ技能者養成施設指定 (昭一四・五二二、勅令一七四)……………五八〇

國民職業能力申告令第二條第五號ノ檢定、試験及免許指定 (昭一四・五二二、勅令一七五)……………五八〇

國民職業能力申告令第十四條ノ官廳指定 (昭一四・五二二、勅令一七六)……………五八〇

國民職業能力申告令第十四條ノ官廳指定 (昭一四・五二二、勅令一七七)……………五八〇

國民職業能力申告令施行規則……………(昭一四・五二八、勅令四二)……………五八〇

國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業指定 (昭一四・五二八、勅令一五四)……………五八一

國民職業能力申告令第二條第三號ノ學校指定 (昭一四・五二八、勅令一五五)……………五八一

國民職業能力申告令第二條第三號ノ學科指定 (昭一四・五二八、勅令一五六)……………五八一

國民職業能力申告令第二條第四號ノ技能者養成施設指定 (昭一四・五二八、勅令一五七)……………五八二

國民職業能力申告令第二條第五號ノ檢定、試験及免許指定 (昭一四・五二八、勅令一五八)……………五八二

國民職業能力申告令施行規則……………(昭一四・二二八、勅令六)……………五八三

國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業指定 (昭一四・二二八、勅令一)……………五八三

國民職業能力申告令第二條第三號ノ學校指定 (昭一四・二二八、勅令二)……………五八三

國民職業能力申告令第二條第三號ノ學科指定 (昭一四・二二八、勅令三)……………五八三

國民職業能力申告令第二條第四號ノ技能者養成施設指定 (昭一四・二二八、勅令四)……………五八三

國民職業能力申告令第二條第五號ノ檢定、試験及免許指定 (昭一四・二二八、勅令五)……………五八三

國民職業能力申告令第十四條ノ官廳指定 (昭一四・三二〇、勅令二)……………五八三

醫療關係者職業能力申告令……………(昭一三・八二四、勅令六〇〇)……………五八四

醫療關係者職業能力申告令施行規則……………(昭一三・九一五、勅令二六)……………五八四

醫療關係者職業能力申告令施行規則……………(昭一三・九二二、勅令一九四)……………五八五

醫療關係者職業能力申告令施行規則……………(昭一三・九一八、勅令二〇)……………五八五

醫療關係者職業能力申告令施行規則……………(昭一三・九二八、勅令七四)……………五八五

醫療關係者職業能力申告令施行規則……………(昭一三・九二〇、勅令三五)……………五八六

船員職業能力申告令……………(昭一四・一三〇、勅令二二)……………五八七

船員職業能力申告令施行規則……………(昭一四・一三〇、勅令二)……………五八七

船員職業能力申告令第二條第三號ノ船員養成施設指定 (昭一四・二二八、勅令五四〇)……………五八七

船員職業能力申告書用紙ノ交付ヲ行フ者指定 (昭一四・三二一、勅令五七八)……………五八七

朝鮮船員職業能力申告令施行規則……………(昭一四・三二一、勅令二二)……………五八七

朝鮮船員職業能力申告書用紙ノ交付ヲ行フ者指定 (昭一四・三二一、勅令二八)……………五八七

船員職業能力申告令施行ニ關スル件 (昭一四・三二三、勅令一九)……………五八七

船員職業能力申告書用紙ノ交付ヲ行フ者指定 (昭一四・三二一、勅令九〇)……………五八七

船員職業能力申告令第二條第三號ノ船員養成施設指定 (昭一四・三二一、勅令九一)……………五八七

船員職業能力申告令施行規則……………(昭一四・四一、勅令一五)……………五八七

船員職業能力申告令第二條第三號ノ船員養成施設指定 (昭一四・四一、勅令九)……………五八七

船員職業能力申告令第十一條ノ行政官廳指定 (昭一四・四一、勅令六三)……………五八七

船員職業能力申告令施行規則……………(昭一四・三三三、勅令一〇)……………五八七

獸醫師職業能力申告令……………(昭一四・三四、勅令二六)……………五八七

獸醫師職業能力申告令施行規則……………(昭一四・三四、勅令一一)……………五八七

獸醫師職業能力申告等ニ關スル事務取扱手續 (昭一四・三四、勅令一)……………五八七

獸醫師職業能力申告令施行規則……………(昭一四・三三三、勅令二四)……………五八七

獸醫師職業能力申告令施行規則……………(昭一四・三二八、勅令三〇)……………五八七

獸醫師職業能力申告令施行規則……………(昭一四・三二八、勅令三)……………五八七

學校技能者養成令……………(昭一四・三三三、勅令一三〇)……………五八七

工場事業場技能者養成令……………(昭一四・三三三、勅令三一)……………五八七

工場事業場技能者養成令施行規則……………(昭一四・四四、勅令三)……………五八七

工場事業場技能者養成補助規則……………(昭一四・七二八、勅令二二)……………五八七

工場事業場技能者養成令第二條ノ事業指定 (昭一四・四四、勅令五五)……………五八七

工場事業場技能者養成令第四條ノ事業主ニ屬セラル、養成工タルヘキ者ノ資格指定……………(昭一四・四四、勅令三〇)……………五八七

工場事業場技能者養成令施行規則第四條第一項ノ規定ニ依リ昭和十四年ニ於テ養成ヲ開始スヘキ養成工ノ比率……………(昭一四・四四、勅令五六)……………五八七

工場事業場技能者養成委員會官制……………(昭一四・五二九、勅令三三)……………五八七

工場事業場技能者養成指針……………(昭一四・九一八、勅令一四)……………五八七

工場事業場技能者養成令施行規則……………(昭一四・六二二、勅令八六)……………五八七

工場事業場技能者養成令第二條ノ事業指定 (昭一四・六二二、勅令八八)……………五八七

工場事業場技能者養成令第四條ノ規定ニ依ル養成工タルヘキ者ノ資格ニ關スル件……………(昭一四・六二二、勅令九一)……………五八七

工場事業場技能者養成令施行規則第四條第一項ノ規定ニ依リ昭和十四年ニ於テ養成ヲ開始スヘキ養成工ノ比率……………(昭一四・六二二、勅令八九)……………五八七

工場事業場技能者養成令施行規則第五條ノ職權指定 (昭一四・六二二、勅令九〇)……………五八七

總動員業務事業主計畫令……………(昭一四・七二六、勅令九三)……………五八七

國境取締法關係法令

總動員試驗研究令... 總動員試驗研究令施行規則... 總動員補償委員會規程... 國家總動員審議會官制... 國家總動員法等ノ施行ノ統轄ニ關スル件... 昭和十二年勅令第五百八十四號當分ノ内資金前渡、前金拂若ハ概算拂フ爲シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ル場合ニ關スル件... 中改正ノ件... 衆議院委員長報告... 貴族院委員長報告... 國境取締法... 國境取締法施行令... 國境取締法施行規則... 國勢調査ニ關スル法律關係法令... 衆議院委員長報告... 貴族院委員長報告... 明治三十五年法律第四十九號中改正法律(國勢調査ニ關スル件)... 關東州國勢調査令... 產金法關係法令... 產金法中改正法律案ニ對スル衆議院委員長報告...

產金法關係法令

低品位含金礦物賣續獎勵金交付規則ニ依リ獎勵金ヲ交付スヘキ金鑽石ノ含金品位及賣續者ニ對スル獎勵金額... 採續獎勵金交付規則... 採續設備獎勵金交付規則... 朝鮮產金令第十二條ノ規定ニ依ル金ノ使用ニ關スル件... 行政諸法臺灣施行令中改正ノ件... 產金法施行規則... 產金獎勵規則... 產金法第十二條ノ規定ニ基ク命令ノ件... 金使用規則... 產金法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件... 產金法ニ基ク金ノ使用ノ制限其ノ他金ノ使用ニ關スル命令ノ件... 關東州ニ於ケル金ノ管理ニ關スル件... 關東州金使用規則... 資源調査法關係法令... 工業調査規則... 商業調査規則... 自動車製造事業法關係法令... 自動車製造事業法...

產金法中改正法律案ニ對スル貴族院委員長報告... 產金法... 產金法施行令... 產金法施行規則... 產金買上規則... 產金法ニ依リ政府ニ賣却スヘキ金地金ノ買上價格... 政府ニ賣却スヘキ金地金ニ關スル試驗手数料等ニ關スル件... 臨時金地金買上規則... 金地金ノ買上ニ關スル事務ヲ取扱フヘキ日本銀行ノ本店又ハ支店指定... 政府買上金地金概算代金支拂規則... 產金獎勵規則... 產金獎勵規則第二十條ノ規定ニ依リ貸與スヘキ鑿岩用機械器具類... 產金法第十二條ノ規定ニ基ク命令ノ件... 金使用規則... 金委員會官制... 朝鮮產金令... 朝鮮產金令施行規則... 朝鮮產金令第一條第一項ノ規定ニ依リ朝鮮銀行ニ賣却スヘキ金地金ノ賣渡價格... 低品位含金礦物賣續獎勵金交付規則...

支那事變特別稅法關係法令一續

自動車製造事業法施行令... 自動車製造事業法施行規則... 支那事變特別稅法關係法令一續... 支那事變特別稅法中改正法律案ニ對スル衆議院委員長報告... 支那事變特別稅法中改正法律案ニ對スル貴族院委員長報告... 支那事變特別稅法施行規則中改正ノ件... 支那事變特別稅法施行規則中改正ノ件... 支那事變特別稅法施行規則第六十八條第二項ノ規定ニヨル檢査章書式中改正... 支那事變特別稅法施行規則ニ依ルラヂオ聽取機指定... 支那事變特別稅法施行細則中改正... 朝鮮支那事變特別稅令中改正ノ件... 朝鮮支那事變特別稅令施行規則中改正... 朝鮮出港稅令施行規則中改正... 支那事變特別稅法ノ一部ヲ臺灣及樺太ニ施行スルノ件中改正ノ件... 臺灣支那事變特別稅令中改正ノ件... 臺灣支那事變特別稅令施行規則中改正...

臺灣支那事變特別稅令施行規則中改正 (昭一四・六一、命令七三)……………六五

支那事變特別稅法第六十九條及附則第五條ノ施行ニ關スル件……………(昭一四・四二、命令四二)……………六六

樺太支那事變特別稅令中改正ノ件(昭一四・四一、勅一七二)……………六六

樺太支那事變特別稅令施行規則中改正 (昭一三・九、勅令七二)……………六七〇

樺太支那事變特別稅令施行規則中改正 (昭一四・四一、勅令一七)……………六七〇

樺太支那事變特別稅令施行規則中改正 (昭一四・五・二、勅令三七)……………六七〇

關東州支那事變特別稅令中改正ノ件 (昭一四・三・三、勅一三八)……………六七〇

關東州支那事變特別稅令施行規則中改正 (昭一四・四一、勅令二二)……………六七〇

關東州支那事變特別稅令施行規則中改正 (昭一四・三・三、勅一三八)……………六七〇

關東州支那事變特別稅令施行規則ニ依ル拂込書、計算書、通知書及檢査章ノ書式等中改正 (昭一四・五・〇、勅令五二)……………六八〇

南洋群島利益配當稅令中改正ノ件(昭一四・四一、勅一七五)……………六八〇

支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律關係法令

衆議院委員長報告……………二二

貴族院委員長報告……………二二

支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律……………(昭一四・三・二七、法三二)……………六八

支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノタメ公債發行ニ關スル法律關係法令

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案ニ對スル衆議院委員長報告……………二二

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案ニ對スル貴族院委員長報告……………二二

昭和十二年法律第八十四號中改正法律(支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)(昭一四・三・二〇、法一七)……………六八

支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租稅ノ減免、徵收猶豫等ニ關スル法律關係法令一續

昭和十二年勅令第五百七十二號施行規則中改正 (昭一四・七五、勅令六八)……………六八

昭和十三年勅令第六百三十九號施行規則 (昭一三・九・二〇、勅令三四)……………六八

重要礦物増産法關係法令

重要礦物増産法……………(昭一三・三・二九、法三五)……………六八

重要礦物増産法施行令……………(昭一三・六・九、勅令一〇)……………六八

重要礦物増産法施行規則……………(昭一三・六・九、勅令三〇)……………六八

重要礦物委員會官制……………(昭一三・七・二八、勅令二四)……………六八

朝鮮重要礦物増産令……………(昭一三・五・一一、勅令二〇)……………六八

朝鮮重要礦物増産令施行規則……………(昭一三・六・七、勅令二三)……………六八

臺灣重要礦物増産令……………(昭一三・八・二三、勅令九)……………六八

臺灣重要礦物増産令施行規則……………(昭一三・九・八、勅令一一)……………六八

重要礦物増産法樺太施行令……………(昭一三・六・二二、勅令三七)……………六八

重要礦物増産法施行規則……………(昭一三・六・二五、勅令四七)……………六八

探礦獎勵金交付規則……………(昭一三・五・二四、勅令二五)……………六八

探礦獎勵金交付規則……………(昭七・八・二九、勅令七八)……………六八

探礦獎勵金交付規則……………(昭一三・八・二八、勅令二二)……………六八

探礦獎勵規則……………(昭一三・九・八、勅令一一三)……………六八

重要産業統制法關係法令一續

セメント製造業ヲ營ム者重要産業ノ統制ニ關スル法律ノ規定ニ依ル統制協定ニ從フノ件……………(昭一三・二・二七、勅令三七)……………七二

セメント製造業ヲ營ム者重要産業ノ統制ニ關スル法律ノ規定ニ依ル統制協定ニ從フノ件……………(昭一四・二・二、勅令七三)……………七二

重要肥料統制法關係法令

重要肥料統制法……………(昭一三・五・二九、法三〇)……………七二

重要肥料統制法施行規則……………(昭一三・一・一一、勅令一)……………七二

硫酸アンモニア輸出入許可規則……………(昭一三・三・一五、勅令一)……………七二

肥料製造業組合令……………(昭一三・一・一一、勅令三九六)……………七二

重要肥料委員會官制……………(昭一三・一・二二、勅令四二二)……………七二

朝鮮重要肥料統制令……………(昭一三・三・六、勅令一)……………七二

朝鮮重要肥料統制令施行規則……………(昭一三・三・九、勅令一四)……………七二

硫酸アンモニア輸出入許可規則……………(昭一三・三・一五、勅令一五)……………七二

重要肥料輸出入制限ニ關スル件……………(昭一三・四・二七、勅令一一)……………七二

昭和十二年律令第十二號ノ肥料ノ種類ニ關スル件……………(昭一三・四・二七、勅令四八)……………七二

臺灣硫酸アンモニア輸出入許可規則 (昭一三・四・二七、勅令四九)……………七二

昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律關係法令

衆議院委員長報告……………七三

貴族院委員長報告……………七三

昭和十四年法律第二號中改正法律案ニ對スル衆議院委員長報告……………七三

昭和十四年法律第二號中改正法律案ニ對スル貴族院委員長報告……………七三

昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律……………(昭一四・三・一六、法二)……………七三

昭和十四年法律第二號中改正法律(昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル件)……………(昭一四・三・三〇、法四)……………七三

昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律關係法令

衆議院委員長報告……………七三

貴族院委員長報告……………七三

昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律……………(昭一四・三・二七、法二九)……………七三

職業紹介法關係法令一續

職業紹介所官制中改正ノ件……………(昭一三・一・一七、勅令七〇)……………七三

職業紹介所官制中改正ノ件……………(昭一四・三・一、勅令三九)……………七三

各職業紹介所ノ名稱、位置及事務取扱ノ範圍中改正 (昭一四・四・一、勅令五四)……………七三

各職業紹介所ノ名稱、位置及事務取扱ノ範圍中改正 (昭一三・二一九、厚告一五五)……七三三

各職業紹介所ノ名稱、位置及事務取扱ノ範圍中改正 (昭一四・九八、厚告一八〇)……七三三

職業紹介所ノ名稱、位置及事務取扱ノ範圍 (昭一三・二一九、厚告一五三)……七三三

一般職業紹介ヲ取扱フ職業紹介所管轄區域中改正 (昭一三・二一九、厚告一五六)……七三三

一般職業紹介ヲ取扱フ職業紹介所管轄區域中改正 (昭一四・四三三、厚告七五)……七三三

一般職業紹介ヲ取扱フ職業紹介所管轄區域中改正 (昭一四・八二四、厚告一六一)……七三八

一般職業紹介ヲ取扱フ職業紹介所管轄區域中改正 (昭一四・九八、厚告一八一)……七三八

所得稅法關係法令——續——

所得稅法施行規則中改正ノ件 (昭一四・八一九、勅令五九六)……七三三

朝鮮所得稅令中改正ノ件 (昭一三・二二四、勅令一)……七三三

朝鮮所得稅令中改正ノ件 (昭一三・二二一、勅令三)……七三三

朝鮮所得稅令中改正ノ件 (昭一四・九二〇、勅令一三)……七三三

朝鮮所得稅令施行規則中改正 (昭一四・一八、勅令三)……七三三

樺太所得稅令施行規則中改正 (昭一三・一〇七、勅令七五)……七三三

樺太所得稅令施行規則中改正 (昭一四・八二九、勅令七六)……七三三

關東州所得稅令施行規則中改正 (昭一四・八三三、局令八二)……七三三

飼料配給統制法關係法令——續——

飼料輸入制限規則 (昭一三・二二六、勅令四七)……七三三

飼料販賣取締規則 (昭一四・一〇一九、勅令五一)……七三三

飼料配給統制法ニ依リ事業ヲ行ハシムルノ件 (昭一三・二二二、勅令二)……七三三

飼料配給統制法施行規則ニ依リ報告ヲ爲スベキ者指定 (昭一三・一〇二四、勅令三八九)……七三三

飼料販賣取締規則第六條ノ規定ニ依リ同條ノ指定飼料並ニ指定飼料及配合飼料ノ販賣價格指定 (昭一四・一〇一九、勅令三七四)……七三三

關東州ノ製産ニ係ル配合飼料ノ製産原地證明書ニ關スル件 (昭一四・一三三、局令二)……七三三

人造石油製造事業法關係法令

人造石油製造事業法 (昭一三・二八二、法五二)……七三三

人造石油製造事業法施行令 (昭一三・二二四、勅令一)……七三三

人造石油製造事業法施行規則 (昭一三・二二四、勅令一)……七三三

液體燃料委員會官制 (昭一三・二二四、勅令二)……七三三

昭和十四年人造石油製造事業獎勵金額 (昭一四・七二六、商告一六七)……七三三

人造石油製造事業法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件 (昭一三・二二四、勅令四)……七三三

人造石油製造事業法施行規則 (昭一三・二二五、勅令一四)……七三三

朝鮮所得稅令中改正ノ件 (昭一三・二二四、勅令一)……七三三

朝鮮營業稅令中改正ノ件 (昭一三・二二四、勅令二)……七三三

土地收用令中改正ノ件 (昭一三・二二五、勅令三)……七三三

地方稅ノ賦課ニ關スル件中改正 (昭一三・八二七、勅令一六九)……七三三

重要物資製造事業用品ノ輸入稅免除ニ關スル件 (昭一三・八三〇、勅令一八一)……七三三

昭和十三年人造石油製造事業獎勵金額 (昭一三・九二四、勅令七四六)……七三三

人造石油製造事業法ノ一部ヲ臺灣ニ施行スルノ件 (昭一三・二二四、勅令五)……七三三

人造石油製造事業法施行ニ關スル件 (昭一三・二二五、勅令四)……七三三

臺灣土地收用規則施行規則中改正 (昭一三・二二五、勅令五)……七三三

人造石油製造事業法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件 (昭一三・二二四、勅令六)……七三三

人造石油製造事業法施行規則 (昭一三・二二五、勅令九)……七三三

青年學校令關係法令

青年學校令改正ノ件 (昭一四・四二六、勅令二五四)……七三三

青年學校令施行規則 (昭一四・四二六、文令二四)……七三三

青年學校令第十二條第七號ノ規定ニ依ル指定 (昭一四・六二六、文令三五九)……七三三

青年學校令施行規則第四條第一號ノ規定ニ依ル指定 (昭一四・六二九、文令三六四)……七三三

青年學校令施行規則第五條第一號ノ規定ニ依ル指定 (昭一四・六二九、文令三五五)……七三三

青年學校令施行規則第三十二條第一號ノ規定ニ依ル指定 (昭一四・六二九、文令三六六)……七三三

青年學校學籍簿ノ様式改正 (昭一四・八一〇、文令三九二)……七三三

青年學校手續ノ様式改正 (昭一四・八一三、文令四〇三)……七三三

青年學校令改正及同施行規則制定ノ要旨並ニ施行上ノ注意事項 (昭一四・六二六、文令一九)……七三三

臺灣青年學校規則 (昭一四・五一、勅令六〇)……七三三

樺太青年學校規程 (昭一四・四一、勅令一四)……七三三

樺太青年學校職員ノ給與ニ關スル件 (昭一四・七一六、勅令六七)……七三三

關東州私立青年學校規則 (昭一四・七一、局令六四)……七三三

關東青年學校規則 (昭一四・七一、局令六三)……七三三

青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律關係法令

衆議院委員長報告 (昭一四・七一六、勅令六七)……七三三

貴族院委員長報告 (昭一四・七一六、勅令六七)……七三三

青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律 (昭一四・四二六、法八七)……七三三

工場法施行規則中改正 (昭一四・五一三、厚令八)……七三三

續夫勞務扶助規則中改正 (昭一四・五一三、厚令九)……七三三

青年學校教育費國庫補助法關係法令

衆議院委員長報告 (昭一四・五一三、厚令九)……七三三

貴族院委員長報告……………(昭一四・三・四、法三二)……………八六
青年學校教育費國庫補助法……………(昭一四・三・四、法三二)……………八七

石油業法關係法令一續

石油業法施行令中改正ノ件……………(昭一三・一一・二四、勅七三三)……………八六
石油業法施行規則中改正……………(昭一三・一一・二五、商令一〇四)……………八六
昭和十四年度ニ於ケル石油保有補助金額……………(昭一四・九・五、商告三六)……………八六
昭和十三年度ニ於ケル石油保有補助金額……………(昭一三・一一・二九、商告一〇三七)……………八六

石油資源開發法關係法令一續

石油資源開發法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……………(昭一三・一一・一九、勅七二四)……………八〇
石油資源開發法施行規則……………(昭一三・一一・二一、商令一三五)……………八〇

船舶建造融資補給及損失補償法關係法令

衆議院委員長報告……………
貴族院委員長報告……………
船舶建造融資補給及損失補償法……………(昭一四・四・五、法七一)……………八三
造船事業法……………(昭一四・四・五、法七〇)……………八三

造船事業法關係法令

衆議院委員長報告……………
貴族院委員長報告……………
造船事業法……………(昭一四・四・五、法七〇)……………八三

兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律關係法令

衆議院委員長報告……………二二
貴族院委員長報告……………二二
昭和十三年法律第六十四號中改正法律(兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル件)……………(昭一四・四・一、法五八)……………八〇

朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律關係法令

衆議院委員長報告……………二二
貴族院委員長報告……………二二
朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律……………(昭一四・四・一、法五九)……………八二

朝鮮マグネサイト開發株式會社關係法令

朝鮮マグネサイト開發株式會社令(昭一四・四・二八、勅七)……………八三
朝鮮所得稅令中改正ノ件……………(昭一四・九・二〇、商一三)……………八三
地方稅ノ賦課ニ關スル件中改正……………(昭一四・九・二〇、商令一五二)……………八四

帝國鑛業開發株式會社關係法令

衆議院委員長報告……………八四
貴族院委員長報告……………八四
帝國鑛業開發株式會社法……………(昭一四・四・二二、法八二)……………八四

大日本航空株式會社關係法令

衆議院委員長報告……………
貴族院委員長報告……………
大日本航空株式會社法……………(昭一四・四・二二、法八四)……………八四
大日本航空株式會社法施行令……………(昭一四・五・一〇、勅三〇九)……………八四
航空法ノ許可ヲ受ケタル大日本航空株式會社ヲ大日本航空株式會社法ノ規定ニ依ル大日本航空株式會社ト爲スコトヲ得ル期間……………(昭一四・五・一〇、商令二三)……………八四
大日本航空株式會社所得稅又ハ營業收益稅免除申請ニ關スル件……………(昭一四・九・二二、商令四〇)……………八四

臺灣米穀移出管理特別會計法關係法令

衆議院委員長報告……………
貴族院委員長報告……………
臺灣米穀移出管理特別會計法……………(昭一四・三・二八、法三五)……………八三
臺灣米穀移出管理特別會計規則……………(昭一四・五・一七、勅三三〇)……………八四

臺灣米穀移出管理令關係法令

臺灣米穀移出管理令……………(昭一四・五・一〇、律五)……………八三
臺灣米穀移出管理令施行規則……………(昭一四・五・一六、商令六五)……………八三
臺灣米穀移出管理令施行規則ニ依ル米穀ノ銘柄及等級指定……………(昭一四・五・三〇、商告一九三)……………八三
昭和十四年第二期作米買入價格……………(昭一四・五・三〇、商告一九四)……………八三
臺灣米穀移出管理委員會官制……………(昭一四・五・一六、勅三二六)……………八三

電力管理法關係法令

帝國鑛業開發株式會社所得稅又ハ營業收益稅免除申請ニ關スル件……………(昭一四・九・二二、商令四一)……………八六
電力管理法……………(昭一三・四・六、法七六)……………八六
電力管理法施行令……………(昭一三・八・九、勅五七五)……………八六
電力管理法施行規則……………(昭一四・三・一八、商令一〇)……………八七
電力管理法附則第二條ノ規定ニ依ル發電又ハ送電ニ關スル件……………(昭一三・八・九、商令六五)……………八六
電力管理準備局官制……………(昭一三・五・六、勅三二〇)……………八六
電力審議會官制……………(昭一三・五・二五、勅三六九)……………八六
電力評價審査委員會官制……………(昭一三・八・一〇、勅五八〇)……………八六

統計資料實地調査ニ關スル法律關係法令

勞働統計每月實地調査令……………(昭一四・四・二八、勅二八三)……………八五
勞働統計每月實地調査施行規則……………(昭一四・四・二八、勅令八)……………八五
勞働統計每月實地調査施行細則……………(昭一四・四・二八、勅令二)……………八六
勞働統計實地調査令中改正……………(昭一四・六・二四、勅四一一)……………八二
勞働統計實地調査施行規則中改正……………(昭一四・六・二四、勅令一〇)……………八二
勞働統計實地調査令第十三條第二項ノ規定ニ基ク指定中改正……………(昭一四・七・七、勅告七)……………八二
勞働統計實地調査令第十三條第二項ノ規定ニ基ク指定中改正……………(昭一四・八・二二、勅告八)……………八二

中支那振興株式會社關係法令一續

中支那振興株式會社法中改正法律案ニ對スル衆議院委員長報告……………八八

中支那振興株式會社法中改正法律案ニ對スル貴族院委員長報告……………九八

中支那振興株式會社法中改正法律……………(昭一四・三三〇、法四六)……………九〇

中支那振興株式會社法第二十七條第三項ノ規定ニ依ル計算方法ニ關スル件……………(昭一四・二二八、附令二)……………九二

北支那開發株式會社及中支那振興株式會社政府出資財産評價委員會官制中改正ノ件……………(昭一四・六一〇、附令三六四)……………九二

日本產金振興株式會社法關係法令——續——

日本產金振興株式會社法中改正法律案ニ對スル衆議院委員長報告……………九三

日本產金振興株式會社法中改正法律案ニ對スル貴族院委員長報告……………九〇

日本產金振興株式會社法中改正法律……………(昭一四・三二七、法三三)……………九三

日本產金振興株式會社法ノ施行ニ關スル件中改正ノ件……………(昭一四・六一二、附令四〇九)……………九四

朝鮮營業稅令中改正ノ件……………(昭一三・一一一、附令三三)……………九六

日本發送電株式會社法關係法令

日本發送電株式會社法……………(昭一三・四六六、法七七)……………九五

日本發送電株式會社法施行令……………(昭一三・八九、勅令七七)……………九五

日本發送電株式會社法施行規則……………(昭一三・八九、通令六六)……………九三

日本發送電株式會社法第十二條及第十六條並ニ昭和十三年法律第七十八號第一條及第五條ノ場合ニ於テ其ノ手續ニ關スル件……………(昭一四・三三三、勅令三三)……………九三

日本發送電株式會社業務規程……………(昭一四・四一、通令一五)……………九三

日本發送電株式會社法第二十七條ノ規定ニ依リ同法第二十五條ノ補償ニ付裁定ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ補償ガ河川、湖又ハ沼ノ使用ニ關スルモノニ關スル件……………(昭一四・六七、通令一)……………九六

日本發送電株式會社法第四條及電力管理ニ伴フ社債處理ニ關スル法律第五條ノ規定ニ基キ移轉セラルル電力設備及其ノ附屬設備ヲ擔保トスル社債ニ關スル件……………(昭一四・三三一、通令八七七)……………九六

米穀配給統制法關係法令

衆議院委員長報告……………九六

貴族院委員長報告……………九三

米穀配給統制法……………(昭一四・四二、法八一)……………九三

米穀配給統制法施行ニ關スル件……………(昭一四・六九、通令五)……………九三

米穀配給統制法一部施行ニ關スル件……………(昭一四・八・九、勅令五五)……………九三

米穀ノ最高販賣價格ニ關スル件……………(昭一四・八・二五、通令八)……………九三

米穀ノ種類、銘柄及等級並ニ最高販賣價格……………(昭一四・八・二五、通令四)……………九三

米穀配給統制法一部施行ニ關スル件……………(昭一四・九・三〇、勅令六七八)……………九三

米穀配給統制法一部施行ニ關スル件……………(昭一四・九・三〇、通令九)……………九三

米穀市場ニ於ケル最低價格及最高價格……………(昭一四・九・三〇、通令三七)……………九三

米穀取引事業審議委員會官制……………(昭一四・八・九、勅令五三)……………九三

取引所稅法施行規則中改正……………(昭一四・九・三〇、通令四四)……………九三

朝鮮米穀市場株式會社令……………(昭一四・九・三三、附令一五)……………九三

暴利取締規則中改正……………(昭一三・二二七、勅令九九)……………九六

暴利取締規則關係法令——續——

有價證券移轉稅法關係法令——續——

有價證券移轉稅法中改正法律案ニ對スル衆議院委員長報告……………九三

有價證券移轉稅法中改正法律案ニ對スル貴族院委員長報告……………九三

有價證券移轉稅法中改正法律……………(昭一四・四一、法五五)……………九三

輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律關係法令

輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律……………(昭一三・九一〇、法九二)……………九六

關稅調整協議會令……………(昭一三・五二五、勅令三六六)……………九六

關稅調整協議會規則……………(昭一三・五二五、通令二六)……………九七

昭和十二年法律第九十二號第三條ノ規定ニ依ル職務執行ノ證券ニ關スル件……………(昭一三・四九、通令一四)……………九七

臨時輸出入許可規則……………(昭一三・一〇一、通令二三)……………九七

輸出品用原材料承認書交付規則……………(昭一三・二二九、通令一〇六)……………九七

輸出品用原材料承認書交付規則第三條第一項ノ規定ニ依ル物品指定……………(昭一三・二二九、通令三七五)……………九七

輸出品用原材料ノ轉用阻止ニ關スル件……………(昭一三・二二九、通令一〇七)……………九七

關東州、滿洲國及中華民國向輸出調整ニ關スル件……………(昭一四・九二〇、通令五三)……………九八

關東州、滿洲國及中華民國向輸出調整ニ關スル件第一條ノ規定ニ依ル物品及團體指定……………(昭一四・九二三、通令四八)……………九八

關東州、滿洲國及中華民國向輸出調整ニ關スル件第二條ノ規定ニ依ル團體指定……………(昭一四・九二三、通令四九)……………九八

關東州、滿洲國及中華民國向輸出調整ニ關スル件第四條ノ規定ニ依ル期間……………(昭一四・九三三、通令五〇)……………九八

(物品販賣價格取締規則)……………(昭一三・七九、通令五六)……………九八

(價格等統制令第二十條ノ規定ニ依ル)物品及年月日指定……………(昭一三・七八、通令三八)……………九八

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)樽寸ノ販賣價格指定……………(昭一三・一一一、通令三三六)……………九八

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)清涼飲料、清酒及麥酒ノ販賣價格……………(昭一四・四一、通令七〇)……………九八

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)砂糖ノ販賣價格指定……………(昭一四・四四、通令七)……………九八

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)カーバイドノ販賣價格指定……………(昭一四・五一、通令一〇二)……………九八

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)故又ハ屑ノ鐵ノ販賣價格指定……………(昭一四・五二、通令一〇九)……………九八

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)バルブノ販賣價格指定……………(昭一四・七三、通令一七三)……………九八

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)アラビヤゴムノ販賣價格指定……………(昭一四・七三、通令一七四)……………九八

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)手編毛絲ノ販賣價格指定……………(昭一四・九二、通令三七)……………九八

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)醋酸ノ販賣價格指定……………(昭一四・九二、通令三七)……………九八

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)醋酸ノ販賣價格指定……………(昭一四・九二、通令三七)……………九八

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)屠紙(製紙原料)ノ販賣價格指定……………(昭一四・九二、通令三七)……………九八

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)雞卵ノ販賣價格指定……………(昭一四・九二七、通令二五六)……………九八

毛織物配給統制規則.....(昭三四・二四、商令一三).....1085

毛織物配給統制規則第二條ノ規定ニ依ル指定

(毛織物販賣價格取締規則).....(昭三三・二四、商令三六).....1080

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)毛織ノ種類及最高價格.....(昭三四・二四、商令三五).....1078

(絹紡織販賣價格取締規則).....(昭三四・二四、商令三五).....1077

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)絹紡織ノ種類及最高價格.....(昭三四・二四、商令三五).....1076

絹紡織ノ番手制限ニ關スル件.....(昭三四・二四、商令三五).....1075

(ステープルファイバー及ステープルファイバー類販賣價格取締規則).....(昭三三・二四、商令三五).....1074

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)ステープルファイバー及ステープルファイバー類ノ種類及最高價格.....(昭三三・二四、商令三五).....1073

ステープルファイバー類ノ番手制限ニ關スル件.....(昭三三・二四、商令三五).....1072

(人造絹織販賣價格取締規則).....(昭三三・二四、商令三五).....1071

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)人造絹織ノ種類及最高價格.....(昭三三・二四、商令三五).....1070

人造絹織ノ太サ制限ニ關スル件.....(昭三三・二四、商令三五).....1069

硝酸製造ニ關スル件.....(昭三三・二四、商令三五).....1068

皮革配給統制規則.....(昭三三・二四、商令三五).....1067

皮革配給統制規則第四條第一項ノ規定ニ依ル販賣業者指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1066

皮革配給統制規則第五條ノ規定ニ依ル輸入業者指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1065

皮革配給統制規則第五條ノ規定ニ依ル移入業者指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1064

皮革配給統制規則第七條ノ第二項ノ規定ニ依ル團體指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1063

皮革配給統制規則第七條ノ三ノ規定ニ依ル輸出業者指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1062

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)皮革ノ販賣價格指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1061

皮革使用制限規則.....(昭三三・二四、商令三五).....1060

皮革使用制限規則第一條但書及第二條但書ノ規定ニ依ル指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1059

ゴム配給統制規則.....(昭三三・二四、商令三五).....1058

ゴム配給統制規則第二條ノ規定ニ依ル配給機關指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1057

ゴム配給統制規則第二條ノ二ノ規定ニ依ル再生ゴム配給機關指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1056

ゴム配給統制規則第三條第一項ノ規定ニ依ル統制團體指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1055

同右.....(昭三三・二四、商令三五).....1054

ゴム配給統制規則附則第三項ノ規定ニ依ルゴムノ價格指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1053

ゴムノ使用制限ニ關スル件.....(昭三三・二四、商令三五).....1052

自動車用タイヤ、チューブ配給統制規則.....(昭三三・二四、商令三五).....1051

自動車用タイヤ、チューブ配給統制規則第一條第三項ノ規定ニ依ル指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1050

自動車用タイヤ、チューブ配給統制規則第八條第一項ノ規定ニ依ル購入票ノ通用區域及有効期限指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1049

屑ゴム及粉末ゴム配給統制規則.....(昭三四・二四、商令一三).....1085

屑ゴム及粉末ゴム配給統制規則第一條ノ規定ニ依ル輸入ゴム配給機關指定.....(昭三四・二四、商令一三).....1084

屑ゴム及粉末ゴム配給統制規則第三條ノ規定ニ依ル粉末ゴム配給機關指定.....(昭三四・二四、商令一三).....1083

屑ゴム及粉末ゴム配給統制規則第四條ノ規定ニ依ル内地ゴム配給機關指定.....(昭三四・二四、商令一三).....1082

屑ゴム及粉末ゴム配給統制規則第六條ノ規定ニ依ル統制團體指定.....(昭三四・二四、商令一三).....1081

ゴム靴ノ販賣制限ニ關スル件.....(昭三三・二四、商令三五).....1080

ゴム靴ノ販賣制限ニ關スル件第一項ノ規定ニ依ル指定.....(昭三三・二四、商令三五).....1079

新聞用巻取紙供給制限規則.....(昭三四・二四、商令一三).....1078

新聞用巻取紙供給制限規則第一條第一項ノ期間及同條第二項ノ比率.....(昭三四・二四、商令一三).....1077

米穀販賣取締規則.....(昭三三・二四、商令三五).....1076

用材生産統制規則.....(昭三四・二四、商令一三).....1075

用材生産統制規則第二條ノ規定ニ依ル検査ヲ受クルヲ要セザル素材及之ヲ受クルヲ要セザル場合指定.....(昭三四・二四、商令一三).....1074

用材生産統制規則第三條第一項ノ規定ニ依ル検査ヲ受クルヲ要セザル場合指定.....(昭三四・二四、商令一三).....1073

用材規格規程.....(昭三四・二四、商令一三).....1072

家畜屠殺制限規則.....(昭三四・二四、商令一三).....1071

原料甘藷配給統制規則.....(昭三四・二四、商令一三).....1070

原料甘藷配給統制規則第一條ノ規定ニ依ル指定.....(昭三四・二四、商令一三).....1069

皮革原料タル水産動物ノ販賣制限ニ關スル件.....(昭三四・二四、商令一三).....1068

(農林水産物及農林水産業用品販賣價格取締規則).....(昭三四・二四、商令一三).....1067

(農林水産物及農林水産業用品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依ル物品及農林水産物ノ生産者ノ組織スル法人指定).....(昭三四・二四、商令一三).....1066

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)雞卵ノ販賣價格指定.....(昭三四・二四、商令一三).....1065

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)除蟲菊乾花ノ販賣價格指定.....(昭三四・二四、商令一三).....1064

(價格等統制令第二十一條ノ規定ニ依ル)副産物ノ販賣價格指定.....(昭三四・二四、商令一三).....1063

輸出水産物取銷法第六條及第七條ノ規定ニ依ル關東州、滿洲國及中華民國向輸出水産物輸出統制ニ關スル件.....(昭三四・二四、商令一三).....1062

關東州、滿洲國及中華民國向輸出水産物輸出統制ニ關スル件第一條ノ規定ニ依ル輸出水産物ノ種類及同條第一項ノ承認ヲ爲スベキ團體指定.....(昭三四・二四、商令一三).....1061

輸出水産物檢閲規則中改正.....(昭三四・二四、商令一三).....1060

(朝) 鮮.....(昭三四・二四、商令一三).....1059

昭和十二年法律第九十二號ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件.....(昭三四・二四、商令一三).....1058

昭和十二年法律第九十二號第三條ノ規定ニ依ル職務執行ノ證票ニ關スル件.....(昭三四・二四、商令一三).....1057

昭和十二年法律第九十二號第一條ニ依ル命令ノ件.....(昭三四・二四、商令一三).....1056

朝鮮物品販賣價格取締規則.....(昭三四・二四、商令一三).....1055

朝鮮物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依ル物品及年月日指定.....(昭三四・二四、商令一三).....1054

鋼使用制限規則 (昭三三・一四、特令六七) 二六六
鉛、亞鉛、錫等使用制限規則 (昭三三・二八、特令五六) 二七
揮發油及重油販賣取締規則 (昭三三・三三、特令五三) 二七
纖維工業設備ニ關スル件 (昭三三・三二、特令一八) 二九
綿製品ノ製造制限ニ關スル件 (昭三三・七二、特令五〇) 二九
皮革配給統制規則 (昭四一・五三、特令三六) 二九
皮革使用制限規則 (昭三三・七九、特令五一) 二九
ゴムノ使用制限ニ關スル件 (昭三三・七八、特令五五) 二九
(關 東 州)
關東州ニ於ケル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件 (昭三三・一一三、特令七七) 一〇〇
關東州臨時輸出許可規則 (昭三三・五三、局令三九) 一〇〇
内地製品發註統制規則 (昭四一・八三、局令八一) 一〇〇
内地製品發註統制規則第一條ノ規定ニ依ル製品指定 (昭四一・八三、局令八一) 一〇〇
關東州臨時鐵鋼類統制規則 (昭四一・八二、局令六三) 一〇〇
綿絲ステープルファイバー混用ニ關スル件 (昭四一・四一、局令一八) 一〇〇
關東州臨時原棉及綿製品統制規則 (昭四一・三二、局令一〇) 一〇〇
(南 洋 群 島)
南洋群島ニ於ケル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件 (昭三三・九三、特令五二) 一〇〇
南洋群島ニ於ケル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件施行規則 (昭三三・一〇三、特令二〇) 一〇〇
南洋群島物品販賣價格取締規則 (昭三三・一一五、特令三八) 一〇〇

南洋群島物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依ル物品及年月日指定 (昭三三・一一五、特令三八) 一〇〇
南洋群島鐵鋼製品配給及販賣取締規則 (昭四一・六二、特令三三) 一〇〇
南洋群島鐵鋼工作物築造許可規則 (昭三三・九〇、特令三三) 一〇〇
南洋群島鐵鋼工作物築造許可規則第一條第一項但書ノ規定ニ依ル許可ヲ要セザル工作物ノ種類指定 (昭四一・六一、特令五二) 一〇〇
南洋群島揮發油及重油販賣取締規則 (昭四一・七一、特令三四) 一〇〇
輸出補償法關係法令一續
輸出補償法施行規則中改正 (昭四一・四四、特令一七) 一〇〇
硫酸アムモニア増産及配給統制法關係法令
硫酸アムモニア増産及配給統制法 (昭三三・四二、特令七〇) 一〇〇
硫酸アムモニア増産及配給統制法施行令 (昭三三・七九、特令九六) 一〇〇
硫酸アムモニア増産及配給統制法施行規則 (昭三三・七九、特令九六) 一〇〇
臨時馬ノ移動制限ニ關スル法律關係法令一續
臨時馬ノ移動制限ニ關スル法律施行規則廢止 (昭四一・七一、特令三一) 一〇〇
臨時資金調整法關係法令
臨時資金調整法中改正法律案ニ對スル衆議院委員長報告 (昭三三・一〇三、特令二〇) 一〇〇
臨時資金調整法中改正法律案ニ對スル貴族院委員長報告 (昭三三・一〇三、特令二〇) 一〇〇

臨時資金調整法 (昭三三・九一、特令八六) 一〇〇
臨時資金調整法施行令 (昭三三・九二、特令八七) 一〇〇
臨時資金調整法施行細則 (昭三三・九二、特令八七) 一〇〇
臨時資金調整法第十四條ノ規定ニ依ル貯蓄債券ノ割増金ニ關スル件 (昭三三・一九、特令七七) 一〇〇
臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ基ク命令ノ件 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
臨時資金調整委員會官制 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
臨時資金審査委員會官制 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
臨時資金調整法ヲ朝鮮ニ施行スル件 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
臨時資金調整法施行規則 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ基ク命令ノ件 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
臨時資金調整法ヲ臺灣ニ施行スル件 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
臺灣臨時資金調整法施行細則 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ依ル資金ノ狀況調査ニ關スル命令ノ件 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
臨時資金調整法ヲ樺太ニ施行スル件 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
臨時資金調整法ノ施行ニ關スル件 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
臨時資金調整法第十六條ニ基ク命令ノ件 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
關東州臨時資金調整令 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
關東州臨時資金調整令施行規則 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇

南洋群島臨時資金調整令 (昭三三・一一一、特令六三) 一〇〇
南洋群島臨時資金調整令施行規則 (昭三三・一一一、特令六三) 一〇〇
臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ基ク命令ノ件 (昭三三・二一、特令八八) 一〇〇
事業資金調整標準ニ關スル件 (昭三三・二九、特令一三) 一〇〇
自治的資金調整標準 (昭三三・二九、特令一三) 一〇〇
臨時資金調整法ニ基ク事業資金調整標準 (昭三三・二九、特令一三) 一〇〇
臨時租稅措置法關係法令一續
臨時租稅措置法中改正法律案ニ對スル衆議院委員長報告 (昭三三・三三、特令一三) 一〇〇
臨時租稅措置法中改正法律案ニ對スル貴族院委員長報告 (昭三三・三三、特令一三) 一〇〇
臨時租稅措置法施行規則中改正 (昭三三・三三、特令一三) 一〇〇
國庫補助金ノ種類及割合指定ノ件 (昭三三・三七、特令一三) 一〇〇
朝鮮臨時租稅措置令中改正ノ件 (昭三三・三三、特令一三) 一〇〇
朝鮮臨時租稅措置令施行規則中改正 (昭三三・三三、特令一三) 一〇〇
臨時租稅措置法ノ一部ヲ臺灣ニ施行スルノ件中改正ノ件 (昭三三・三三、特令一三) 一〇〇
臺灣臨時租稅措置令中改正ノ件 (昭三三・三三、特令一三) 一〇〇
臺灣臨時租稅措置令施行規則中改正 (昭三三・三三、特令一三) 一〇〇

臨時租稅措置法第二十一條及第二十二條ノ施行ニ關スル件中改正 (昭一四・四・一、法令四一)……………三〇一

臺灣臨時租稅措置令施行規則ニ依ル有價證券トシテ興業債券指定 (昭一四・六・八、通告二二一)……………三〇二

臺灣臨時租稅措置令施行規則ニ依ル國庫補助金ノ種類及割合指定 (昭一四・八・四、通告二七二)……………三〇三

臨時租稅措置法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件中改正ノ件 (昭一四・四・一、勅一六九)……………三〇三

樺太臨時租稅措置令 (昭一四・四・一、勅一七四)……………三〇三

樺太臨時租稅措置規則 (昭一四・四・一、勅一七四)……………三〇三

關東州臨時地租措置令中改正ノ件 (昭一四・三・三十一、勅一四〇)……………三〇七

關東州臨時地租措置令施行規則中改正 (昭一四・四・一、局令二四)……………三〇六

臨時通貨法關係法令一續一

昭和十三年勅令第三百八十八號臨時通貨ノ形式等ニ關スル件中改正ノ件 (昭一三・二・二九、勅七三四)……………三二二

臨時肥料配給統制法關係法令

臨時肥料配給統制法 (昭二九・九・一〇、法九一)……………三三三

臨時肥料配給統制法施行令 (昭二二・二・二四、勅六六九)……………三三三

臨時肥料配給統制法施行規則 (昭二三・二・二七、勅令六六)……………三三四

臨時肥料配給統制法ニ依ル事業ニ關スル件 (昭二三・二・二七、勅令六六)……………三三四

臨時肥料配給統制法ニ依ル事業ニ關スル件 (昭二三・二・二七、勅令六六)……………三三四

臨時肥料配給統制法ニ依ル事業ニ關スル件 (昭二二・二・二七、勅令六六)……………三三四

臨時肥料配給統制法ニ依ル事業ニ關スル件 (昭二二・二・二七、勅令六六)……………三三四

臨時陸軍材料資金特別會計法

臨時陸軍材料資金特別會計法 (昭一四・四・一、法五四)……………三三五

臨時利得稅法中改正法律案ニ對スル衆議院委員長報告……………三六六

臨時利得稅法中改正法律案ニ對スル貴族院委員長報告……………三六六

臨時利得稅法中改正法律……………三六七

臨時利得稅法施行規則中改正ノ件 (昭一四・四・一、勅一七一)……………三六九

朝鮮臨時利得稅令中改正ノ件 (昭一四・三・三十一、勅四一)……………三六九

朝鮮臨時利得稅令施行規則中改正 (昭一四・三・三十一、勅令四二)……………三六九

臺灣臨時利得稅令中改正ノ件 (昭一四・三・三十一、勅三三)……………三六九

臺灣臨時利得稅令施行規則中改正 (昭一四・四・一、勅令三九)……………三六九

樺太臨時利得稅令中改正ノ件 (昭一四・四・一、勅一七三)……………三六九

樺太臨時利得稅令施行規則中改正 (昭一四・四・一、勅令一八)……………三六九

關東州臨時利得稅令中改正ノ件 (昭一四・三・三十一、勅一三九)……………三六九

關東州臨時利得稅令施行規則中改正 (昭一四・四・一、勅令二二)……………三六九

臨時利得稅法關係法令

臨時利得稅法中改正法律案ニ對スル衆議院委員長報告……………三六六

臨時利得稅法中改正法律案ニ對スル貴族院委員長報告……………三六六

臨時利得稅法中改正法律……………三六七

臨時利得稅法施行規則中改正ノ件 (昭一四・四・一、勅一七一)……………三六九

朝鮮臨時利得稅令中改正ノ件 (昭一四・三・三十一、勅四一)……………三六九

朝鮮臨時利得稅令施行規則中改正 (昭一四・三・三十一、勅令四二)……………三六九

臺灣臨時利得稅令中改正ノ件 (昭一四・三・三十一、勅三三)……………三六九

臺灣臨時利得稅令施行規則中改正 (昭一四・四・一、勅令三九)……………三六九

樺太臨時利得稅令中改正ノ件 (昭一四・四・一、勅一七三)……………三六九

樺太臨時利得稅令施行規則中改正 (昭一四・四・一、勅令一八)……………三六九

關東州臨時利得稅令中改正ノ件 (昭一四・三・三十一、勅一三九)……………三六九

關東州臨時利得稅令施行規則中改正 (昭一四・四・一、勅令二二)……………三六九

補遺

賃金臨時措置令施行規則……………(昭一四・一〇・二七、勅令一八五)……………三三九

船員給料臨時措置規則……………(昭一四・一〇・二七、勅令一八六)……………三三九

電力調整令施行規則……………(昭一四・一〇・二七、勅令一八八)……………三三九

電力調整令施行規則第一條但書ノ規定ニ依ル許可ヲ受クルコトヲ要セザル場合指定……………(昭一四・一〇・二七、勅令一八八)……………三三九

會社職員給與臨時措置令施行規則……………(昭一四・一〇・二七、勅令一八七)……………三三九

臨時肥料配給統制法第一條第三項第二條及第三條ノ規定ニ依ル命令……………(昭一四・二・二四、勅令二)……………三三三

粗製加里鹽類ノ輸入及販賣ニ關スル件 (昭一三・七・一三、勅令三)……………三三三

過燐酸石灰、石灰窒素、粗製加里鹽類等肥料輸出許可規則 (昭一四・五・三三、勅令四)……………三三三

肥料配給統制規則……………(昭一四・三・二五、勅令二)……………三三七

肥料配給統制規則一部施行ニ關スル經過的措置ニ關スル件 (昭一四・六・二八、勅令七)……………三三七

硫酸アンモニア、過燐酸石灰及石灰窒素ノ販賣價格指定 (昭一四・八・三三、勅令三)……………三三七

肥料用加里鹽ノ配給ニ關スル應急措置ニ關スル件 (昭一四・一〇・三三、勅令一〇)……………三三〇

朝鮮臨時肥料配給統制令……………(昭二二・三・一〇、勅令一八)……………三三〇

朝鮮臨時肥料配給統制令第二條第二項ノ證票様式 (昭一三・一・一八、勅令六)……………三三〇

粗製加里鹽類ノ輸入及販賣ニ關スル件 (昭一三・七・一八、勅令二二)……………三三〇

過燐酸石灰、石灰窒素、粗製加里鹽類等肥料輸出許可規則 (昭一四・八・九、勅令二九)……………三三〇

朝鮮肥料販賣價格取締規則……………(昭一四・三・六、勅令二五)……………三三〇

朝鮮肥料販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依ル肥料ノ種別及販賣價格指定……………(昭一四・八・二九、勅令六九五)……………三三〇

臨時陸軍材料資金特別會計法關係法令

衆議院委員長報告……………九三

貴族院委員長報告……………三三三

價格等統制令施行規則……………(昭一四・一〇・二七、勅令一八三)……………三三五

地代家賃統制令施行規則……………(昭一四・一〇・二七、勅令一八四)……………三三五

アルコール専賣法關係法令

續

昭和十四年度中收納スルアルコールノ賠償價格表

(昭和十四年三月三十一日
大藏省告示第九十二號)

アルコール専賣法第十五條第二項及同法施行細則第十七條ニ依リ昭和十四年度中收納スルアルコールノ賠償價格左表ノ通定ム

アルコール賠償價格表

アルコール度数	製造原酒成分	一升賠償價格
九十九度以上	純粋酒	三三六
九十六度	純粋酒	三三三
九十五度	純粋酒	三三〇
九十四度	純粋酒	三二七
九十三度	純粋酒	三二四
九十二度	純粋酒	三二一
九十一度	純粋酒	三一八
九十度	純粋酒	三一五
八十九度	純粋酒	三一二
八十八度	純粋酒	三〇九
八十七度	純粋酒	三〇六
八十六度	純粋酒	三〇三
八十五度	純粋酒	三〇〇
八十四度	純粋酒	二九七
八十三度	純粋酒	二九四
八十二度	純粋酒	二九一
八十一度	純粋酒	二八八
八十度	純粋酒	二八五
七十九度	純粋酒	二八二
七十八度	純粋酒	二七九
七十七度	純粋酒	二七六
七十六度	純粋酒	二七三
七十五度	純粋酒	二七〇
七十四度	純粋酒	二六七
七十三度	純粋酒	二六四
七十二度	純粋酒	二六一
七十一度	純粋酒	二五八
七十度	純粋酒	二五五
六十九度	純粋酒	二五二
六十八度	純粋酒	二四九
六十七度	純粋酒	二四六
六十六度	純粋酒	二四三
六十五度	純粋酒	二四〇
六十四度	純粋酒	二三七
六十三度	純粋酒	二三四
六十二度	純粋酒	二三一
六十一度	純粋酒	二二八
六十度	純粋酒	二二五
五十九度	純粋酒	二二二
五十八度	純粋酒	二一九
五十七度	純粋酒	二一六
五十六度	純粋酒	二一三
五十五度	純粋酒	二一〇
五十四度	純粋酒	二〇七
五十三度	純粋酒	二〇四
五十二度	純粋酒	二〇一
五十一度	純粋酒	一九八
五十度	純粋酒	一九五
四十九度	純粋酒	一九二
四十八度	純粋酒	一九〇
四十七度	純粋酒	一八七
四十六度	純粋酒	一八四
四十五度	純粋酒	一八一
四十四度	純粋酒	一七八
四十三度	純粋酒	一七五
四十二度	純粋酒	一七二
四十一度	純粋酒	一六九
四十度	純粋酒	一六六
三十九度	純粋酒	一六三
三十八度	純粋酒	一六〇
三十七度	純粋酒	一五七
三十六度	純粋酒	一五四
三十五度	純粋酒	一五一
三十四度	純粋酒	一四八
三十三度	純粋酒	一四五
三十二度	純粋酒	一四二
三十一度	純粋酒	一三九
三十度	純粋酒	一三六
二十九度	純粋酒	一三三
二十八度	純粋酒	一三〇
二十七度	純粋酒	一二七
二十六度	純粋酒	一二四
二十五度	純粋酒	一二一
二十四度	純粋酒	一二八
二十三度	純粋酒	一二五
二十二度	純粋酒	一二二
二十一度	純粋酒	一二〇
二十度	純粋酒	一一七
十九度	純粋酒	一一四
十八度	純粋酒	一一一
十七度	純粋酒	一〇八
十六度	純粋酒	一〇五
十五度	純粋酒	一〇二
十四度	純粋酒	九九
十三度	純粋酒	九六
十二度	純粋酒	九三
十一度	純粋酒	九〇
十度	純粋酒	八七
九度	純粋酒	八四
八度	純粋酒	八一
七度	純粋酒	七八
六度	純粋酒	七五
五度	純粋酒	七二
四度	純粋酒	六九
三度	純粋酒	六六
二度	純粋酒	六三
一度	純粋酒	六〇

特殊ノ品質ヲ有スルアルコール及本表ニ掲ゲザル度数ノアルコールニ付テハ專賣局長官其ノ賠償價格ヲ定ム
容器詰ト爲シタルアルコールニ付テハ容器

アルコール専賣法

代及之ガ包装ニ要スル費用トシテ專賣局長官ノ定ムル金額ヲ加フ

アルコール賣渡價格表

(昭和十四年三月三十一日
大藏省告示第九十三號)

アルコール専賣法第十九條及第二十條ニ依リ政府ノ賣渡スアルコールノ價格左表ノ通定ム昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス昭和十三年^三大藏省告示第九十號ハ本告示施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

アルコール賣渡價格表

アルコール度数	純粋酒	特別酒	特別酒
九十九度以上	一五九・一七六	一五〇・五八	三三三・〇
九十六度	一四八・三九九	一四〇・〇	三三〇・〇
九十五度	一四六・九三七	一三八・〇	三二七・〇
九十四度	一四五・五七五	一三六・〇	三二四・〇
九十三度	一四四・一七三	一三四・〇	三二一・〇
九十二度	一四二・七七五	一三二・〇	三一八・〇
九十一度	一四〇・三七七	一三〇・〇	三一五・〇
九十度	一三八・九七五	一二八・〇	三一二・〇
八十九度	一三七・五七三	一二六・〇	三〇九・〇
八十八度	一三六・一七一	一二四・〇	三〇六・〇
八十七度	一三四・七六九	一二二・〇	三〇三・〇
八十六度	一三三・三六七	一二〇・〇	三〇〇・〇
八十五度	一三二・九六五	一一八・〇	二九七・〇
八十四度	一三一・五六三	一一六・〇	二九四・〇
八十三度	一三〇・一六一	一一四・〇	二九一・〇
八十二度	一二八・七五九	一一二・〇	二八八・〇
八十一度	一二七・三五七	一一〇・〇	二八五・〇
八十度	一二六・三五五	一〇八・〇	二八二・〇
七十九度	一二四・九五3	一〇六・〇	二七九・〇
七十八度	一二三・五五一	一〇四・〇	二七六・〇
七十七度	一二二・一四9	一〇二・〇	二七三・〇
七十六度	一二〇・七四7	一〇〇・〇	二七〇・〇
七十五度	一二〇・三四五	九八・〇	二六七・〇
七十四度	一一八・九四3	九六・〇	二六四・〇
七十三度	一一七・五四1	九四・〇	二六一・〇
七十二度	一一六・一三9	九二・〇	二五八・〇
七十一度	一一四・七三7	九〇・〇	二五五・〇
七十度	一一三・三三五	八八・〇	二五二・〇
六十九度	一一二・九三3	八六・〇	二四九・〇
六十八度	一一一・五三一	八四・〇	二四六・〇
六十七度	一一〇・一一一	八二・〇	二四三・〇
六十六度	一〇九・七〇9	八〇・〇	二四〇・〇
六十五度	一〇八・三〇7	七八・〇	二三七・〇
六十四度	一〇六・九〇5	七六・〇	二三四・〇
六十三度	一〇五・五〇3	七四・〇	二三一・〇
六十二度	一〇四・一〇1	七二・〇	二二八・〇
六十一度	一〇二・六九九	七〇・〇	二二五・〇
六十度	一〇一・二九7	六八・〇	二二二・〇
五十九度	九九・八九5	六六・〇	二一九・〇
五十八度	九七・四九3	六四・〇	二一六・〇
五十七度	九六・〇九1	六二・〇	二一三・〇
五十六度	九四・六89	六〇・〇	二一〇・〇
五十五度	九三・二87	五八・〇	二〇七・〇
五十四度	九一・八85	五六・〇	二〇四・〇
五十三度	九〇・四83	五四・〇	二〇一・〇
五十二度	八九・〇81	五二・〇	一九八・〇
五十一度	八七・679	五〇・〇	一九五・〇
五十度	八六・277	四八・〇	一九二・〇
四十九度	八四・875	四六・〇	一九〇・〇
四十八度	八3・473	四四・〇	一八七・〇
四十七度	八2・071	四二・〇	一八四・〇
四十六度	八0・669	四〇・〇	一八一・〇
四十五度	79・267	三八・〇	一七八・〇
四十四度	77・865	三六・〇	一七五・〇
四十三度	76・463	三四・〇	一七二・〇
四十二度	75・061	三二・〇	一六九・〇
四十一度	73・659	三〇・〇	一六六・〇
四十度	72・257	二八・〇	一六三・〇
三十九度	70・855	二六・〇	一六〇・〇
三十八度	69・453	二四・〇	一五七・〇
三十七度	68・051	二二・〇	一五四・〇
三十六度	66・649	二〇・〇	一五一・〇
三十五度	65・247	一八・〇	一四八・〇
三十四度	63・845	一六・〇	一四五・〇
三十三度	62・443	一四・〇	一四二・〇
三十二度	61・041	一二・〇	一三九・〇
三十一度	59・639	一〇・〇	一三六・〇
三十度	58・237	八・〇	一三三・〇
二十九度	56・835	六・〇	一三〇・〇
二十八度	55・433	四・〇	一二七・〇
二十七度	54・031	二・〇	一二四・〇
二十六度	52・629	〇・〇	一二一・〇
二十五度	51・227	〇・〇	一二〇・〇
二十四度	49・825	〇・〇	一一九・〇
二十三度	48・423	〇・〇	一一八・〇
二十二度	47・021	〇・〇	一一七・〇
二十一度	45・619	〇・〇	一一六・〇
二十度	44・217	〇・〇	一一五・〇
十九度	42・815	〇・〇	一一四・〇
十八度	41・413	〇・〇	一一三・〇
十七度	40・011	〇・〇	一一二・〇
十六度	38・609	〇・〇	一一一・〇
十五度	37・207	〇・〇	一一〇・〇
十四度	35・805	〇・〇	一〇九・〇
十三度	34・403	〇・〇	一〇八・〇
十二度	33・001	〇・〇	一〇七・〇
十一度	31・599	〇・〇	一〇六・〇
十度	30・197	〇・〇	一〇五・〇
九度	28・795	〇・〇	一〇四・〇
八度	27・393	〇・〇	一〇三・〇
七度	25・991	〇・〇	一〇二・〇
六度	24・589	〇・〇	一〇一・〇
五度	23・187	〇・〇	一〇〇・〇
四度	21・785	〇・〇	九九・〇
三度	20・383	〇・〇	九八・〇
二度	18・981	〇・〇	九七・〇
一度	17・579	〇・〇	九六・〇

特殊ノ品質ヲ有スルアルコール及本表ニ掲ゲザル度数ノアルコールニ付テハ專賣局長官其ノ賣渡價格ヲ定ム
容器詰ト爲シタルアルコールニ付テハ容器代及之ガ包装ニ要スル費用トシテ專賣局長官ノ定ムル金額ヲ加フ
政府ニ於テ變性ヲ施シタルアルコールニ付テハ之ガ變性ニ要スル費用トシテ專賣局長官ノ定ムル金額ヲ加フ
(参照)
昭和十三年^三大藏省告示第九十號ハ本表ト同伴ナリ

營業收益税法關係法令

營業收益税法施行規則中改正ノ件

昭和十四年八月十九日
勅令第五百九十七號

- 第十條 左ニ掲クル物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ營業收益税法第八條ノ規定ニ依リ營業收益税ヲ免除ス
- 一 金、銀、銅、鉛、亜鉛、錫、ニッケル、クロム、コバルト、鐵、アルミニウム及マグネシウムノ地金並ニ水銀
 - 二 鐵ノ條、竿、丁形山形類、軌條、板、線及管(鑄鐵管ヲ除ク)
 - 三 銅ノ合金ノ條、竿、板及管
 - 四 アルミニウムノ合金及マグネシウムノ合金
 - 五 球軸受、コロ軸受及同部分品
 - 六 汽罐、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
 - 七 アルミナ、クリオライト、チタン白、カーボンブラック、石灰窒素、硫酸カリ、磷酸アンモン、硫酸アンモン、硝酸

- (アンモニア酸化ニ依ルモノ)、石炭酸、グリコール、グリセリン、メタノール、アセトン、ブタノール、合成イソブチルアルコール、合成ベンゾール、合成トルオール、アセチルセルロース、人造ゴム、人造レジン(フェノールレジンヲ除ク)、人造タンニン、タンニンエキス及タンニン代用エキス(バルブ廢液ヨリ製造スルモノ)
- 八 纖維素バルブ、蛋白人造纖維、ガラス纖維、岩石纖維及石棉
 - 九 光學用ガラス
 - 十 コンデンスドミルク、カゼイン及大豆カゼイン
 - 十一 感光性乳劑用ゼラチン
 - 十二 鯨革及鯨革

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
法人ノ營業收益税ニ付テハ本令施行後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ營業收益税ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス

(參照)
大正十五年九月九日勅令第三百三號營業收益税法施行規則抄録

第十條 左ニ掲クル物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ營業收益税法第八條ノ規定ニ依リ營業收益税ヲ免除ス

- 一 金、銀、銅、鉛、錫、ニッケル、クロム、コバルト、鐵及アルミニウムノ地金
- 二 鐵ノ條、竿、丁形山形類、軌條、板、線及管(鑄鐵管ヲ除ク)
- 三 銅ノ合金ノ條、竿、板及管
- 四 アルミニウムノ合金及マグネシウムノ合金
- 五 汽罐、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
- 六 アルミナ、クリオライト、チタン白、カーボンブラック、石灰窒素、硫酸カリ、磷酸アンモン、硫酸アンモン、硝酸(アンモニア酸化ニ依ルモノ)、石炭酸、グリコール、グリセリン、メタノール、アセトン、ブタノール、アセチルセルロース、人造ゴム及タンニンエキス
- 七 纖維素バルブ
- 八 光學用ガラス
- 九 コンデンスドミルク及カゼイン

營業收益税法施行規則ノ規定ニ依ル検査書式中改正

(昭和十四年四月一日)
大藏省令第十一號

「及支那事變特別税法施行規則第六十八條第一項」ヲ「並ニ支那事變特別税法施行規則第六十八條第一項及第二項」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)
昭和十二年四月大藏省令第八號ハ營業收益税法施行規則等ノ規定ニ依ル検査書式ノ件ナリ

樺太營業收益税規則中改正

昭和十三年十月七日
樺太廳令第七十六號

第九條第十一號中「酒精」ノ下ニ「又ハ纖維素バルブ廢液ヲ原料トシテ製造スル酒精及粘結劑」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ法人ノ營業收益税ニ付テハ本令施行後ニ終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

樺太營業收益税規則中改正

昭和十四年八月二十九日
樺太廳令第七十七號

第九條 左ニ掲クル物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ其ノ申請ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生ズル純益ニ付營業收益税ヲ免除ス

- 一 金、銀、銅、鉛、錫、ニッケル、クロム、コバルト、鐵、アルミニウム及マグネシウムノ地金並ニ水銀

- 二 鐵ノ條、竿、丁形山形類、軌條、板、線及管(鑄鐵管ヲ除ク)
- 三 銅ノ合金ノ條、竿、板及管
- 四 アルミニウムノ合金及マグネシウムノ合金
- 五 球軸受、コロ軸受及同部分品
- 六 汽罐、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
- 七 アルミナ、クリオライト、チタン白、カーボンブラック、石灰窒素、硫酸カリ、磷酸アンモン、硫酸アンモン、硝酸(アンモニア酸化ニ依ルモノ)、石炭酸、グリコール、グリセリン、メタノール、アセトン、ブタノール、合成イソブチルアルコール、合成ベンゾール、合成トルオール、アセチルセルロース、人造ゴム、人造レジン(フェノールレジンヲ除ク)、人造タンニン、タンニンエキス及タンニン代用エキス(バルブ廢液ヨリ製造スルモノ)
- 八 纖維素バルブ、蛋白人造纖維、ガラス纖維、岩石纖維及石棉
- 九 光學用ガラス
- 十 コンデンスドミルク、カゼイン及大豆カゼイン
- 十一 感光性乳劑用ゼラチン
- 十二 鯨革及鯨革
- 十三 甜菜糖、澱粉及麥粉

十四 揮發油混入ノ用ニ供セラルル酒精又ハ纖維素バルブ廢液ヲ原料トシテ製造スル酒精及粘結劑

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
法人ノ營業收益税ニ付テハ本令施行後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ營業收益税ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス

關東州營業稅措置規則中改正

昭和十四年五月九日
關東局令第四十九號

第一條中「輕減」ヲ「輕減又ハ免除」ニ改ム

第五條ノ二 關東州所得稅令第二十二條ノ規定ニ依リ指定シタル物産ノ製造及關東州臨時租稅措置令第一條ノ三第二項ノ規定ニ依ル製造方法ニ依ル物産ノ製造ヲ開始シタル者又ハ其ノ設備ヲ増設シタル者ニハ製造開始又ハ設備増設ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ物産ノ製造業務又ハ其ノ増設シタル設備ニ依ル物産ノ製造業務ヨリ生ズル売上金額ニ付營業稅ヲ免除ス

前項ノ規定ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受クル製造業ノ承繼又ハ其ノ承繼ト認ムベキ事實アリタル場合ニ於テ其ノ業務ニ付營業稅ヲ免除スル期間殘存スルトキハ現營業

者ハ其ノ殘存期間ヲ承繼ス
 第五條ノ三 前條第一項ノ規定ニ依リ營業
 稅ノ免除ヲ受クベキ製造業ノ設備ノ増設
 ハ昭和十四年四月一日以後爲シタル設備
 ノ増設ニシテ増設前ノ製造能力ニ對シ十
 分ノ三以上ニ相當スル製造能力ヲ増加シ
 タルモノニ限ル
 第六條第一項中「輕減」ヲ「輕減又ハ免除」
 ニ、同條第二項ヲ左ノ如ク改ム
 前項ノ申請書ニハ第二條ノ規定ニ依ル營
 業稅ノ輕減ヲ受ケントスル場合ハ平常課
 稅標準額ノ計算書ヲ、第五條ノ二ノ規定
 ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受ケントスル場合
 ニ於テ免稅製造業務ヨリ生ズル賣上金額
 ト其ノ他ノ賣上金額トヲ有スルトキハ免
 稅製造業務ヨリ生ズル賣上金額ト其ノ他
 ノ賣上金額トヲ區分シタル計算書ヲ添附
 スベシ

附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

海運組合法關係法令

船舶建造融資補給及損失補償法案、
 造船事業法案及海運組合法案ニ對
 スル貴衆兩院委員長報告

衆議院

野田文一郎君 船舶建造融資補給及損失
 補償法案、造船事業法案、海運組合法案ノ
 三案ニ付キマシテ、委員會ノ審査ノ經過並
 ニ結果ヲ御報告申上ゲマス
 船舶建造融資補給及損失補償法案ハ去ル
 九日委員會指名セラレマシテ、直チニ委員
 會ヲ開イタノデアリマス、ソレニ依リテ委員
 會長、理事ノ互選ヲ行ヒ、去ル十一月一日ニ
 造船事業法案、海運組合法案モ同ジ委員ニ
 付託セラレマシタカラ、三案ヲ一括シテ審
 査ヲ進メマシタ

船舶建造融資補給及損失補償法案ノ概要
 ハ、政府ノ提案理由ニ依リマスレバ、我が
 海運界ニ於テ多年要望シ來ツタ造船金融ノ
 制度ヲ確立シ、業者ヲシテ船舶建造ヲ計畫
 的ニ實行セシムルト共ニ、併セテ賠償ノ低
 減ヲ期シ、以テ本法海運發展ノ根柢ヲ確立
 セントスルニアルト云フコトデアリマス、
 其ノ内容ヲ要約申シマスレバ、償還年
 限ヲ十五年以内ニ致シマシテ、船舶建造ノ
 資金ヲ低利ヲ以テ貸付ケルノデアリマス、
 而シテ場合ニ依リマシテハ、政府ノ認可ヲ

海運組合法

受ケル時ニハ、其ノ不足ノ部分ニ付テハ、
 他ノ擔保ヲ供セシメテ全額ヲ支給スル場合
 モアルノデアリマス、尙ホ損失補償ニ付キ
 マシテハ、金融機關ノ受ケテ損失ノ百分ノ
 七ヲ政府ガ補償ヲ致スノデアリマス、而シ
 テ其ノ損害ノ額ハ、船舶建造損失審査會ニ
 於テ決定スルト云フコトニナツテ居リマ
 ス

造船事業法案ハ、造船事業ヲ許可制度ト
 致シマシテ、政府ガ之ニ關與ヲ致シテ指導
 監督ヲスルト云フコトガ根本ノ規定デアリ
 マス、而シテ造船事業ノ爲ニハ土地ノ使用
 又ハ敷用、或ハ金融調達ノ便宜ヲ與ヘルト
 云フコトデアリマス、更ニ又船舶ノ新造ノ
 獎勵、即チ從來未ダ造ラレタルコトナキ新
 ナル船舶造ル爲ニ獎勵金ヲ交付シテ、造船
 技術ノ進歩發達ヲ圖ルト云フコトデアリマ
 ス、又推進性能ノ試驗ノ施行ヲ致スト云フ
 ヤウナコトデアリマス、尙ホ造船事業者ノ
 組合ノ制度ヲ認メマシテ、自治的ニ業者ヲ
 シテ互ニ協力セシメ、政府ノ關與ニ依リテ
 更ニ之ヲ強化スルト云フヤウナコトガ、先
 づ法案ノ骨子デアリマス

更ニ海運組合法ハ、從來船主協會ト云フ
 ヤウナモノデ大體自治的ニヤツテ居リマス
 ガ、今日ノ趨勢カラ申シマスレバソレノミ
 デハ十分デアリマセスカラ、海運組合及ビ
 組合聯合會ヲ設立セシメルノデアリマス、
 實際カラ申セバ、從來ノ船主協會ト云フモ
 ノヲ改組スルト云フコトニナルノデアリマ
 ス、斯様ニシテ我國ノ海運政策ニ適應シテ
 運賃トカ、或ハ船舶料トカト云フヤウナモ
 ノニ付テ、指導監督ヲスル制度ニスルト云

フコトデアリマス

以上ノ三案ハ何レモ業者一般ノ要望デア
 リマシテ、提案ノ趣旨ニハ委員諸君モ最初
 ヲリ異論ハナイノデアリマス、唯此ノ三ツ
 ノ法案ヲ完全ニ活用シテ其ノ效果アラシム
 ル爲ニハ、從來ノ一大弊害ヲ根本的ニ刷新
 ヲ致サナケレバナラス、其ノ弊害トハ何デ
 アルカト申シマスルト、元來今日ノ時代ニ
 於テ、海運政策ニ付テ内地外地ガ別ニナツ
 テ居ルト云フコトハ、海運事業ノ發達ヲ阻
 碍スルモノデアリ、朝鮮ハ朝鮮總督府、關東
 州ハ關東局デアル、内地ハ逡信省ト云フ風
 ニ、内地外地ノ間ニ統一ヲ缺クコトガ今日
 ノ最モ大ナル弊害デアリ、此ノ根本ニ向ッ
 テ改善ヲ加フルニアラザレバ、此ノ三案ガ
 成立シテモ恐クハ十分ニ其ノ機能ヲ發揮ス
 ルコトガ出来ヌデアラウ、斯ウ云フコトガ
 委員ノ共通ノ考ヘ方デアリマシテ、此ノ考
 ヘ方ニ基イテ政府當局ニ質問ヲ致サレタノ
 デアリマス、此ノ問題ノ解決ハ逡信省ノミ
 ヲ以テ進行スルコトハ困難デアリマスカラ、
 之ニ關係ノ各省其ノ他ノ官廳ニ對シテ、
 其ノ所信ヲ質スト云フコトガ最も必要デア
 ルト云フコトデ、海軍大臣、拓務大臣、興亞
 院總務長官、朝鮮總督府政務總監、對滿事
 務局長長、是等ノ人ノ出席ヲ求メマシテ、
 委員諸君ト熱心ニ質問應答セラレタノデ
 アリマス、國務大臣並ニ政府委員ノ御答辯
 ハ、大體ニ於テ質疑者ト其ノ感同ジウセ
 ラレノデアリマシタ、殊ニ海軍大臣ハ有
 力ナル商船隊ノアルト云フコトハ、海軍ノ
 立場トシテハ最も望マシイノデアリ、優秀
 ナル船舶ガ商船隊ヲ作ツテ、一朝有事ノ際

ニ働ラスト云フコトハ、海軍ノ年來希望スル所デア、又日滿支ヲ一體トシテ考ヘ...

トハ船員ノ供給デアリマス、船ハ造ツテモ今日ノ學校ノ状態カラ云ヘバ、到底其ノ船...

キイノデア、是等ノ小型ノ船ニ對シテハヤハリ大型船ト同様ノ援助ヲスル方法デア...

イト存ジマス、第一、船舶建造融資補給及損失補償法案、是ハ船舶建造ニ對スル資金...

ガ燃料ニ不足ヲ告ゲテ居ルト云フコトハ公知ノ事實デアリマスガ、近來秋田地方ニ於...

セントスレバ、遠洋航路ニ於ケル配給ノ手配ニ最善ヲ盡サナケレバナラス、此ノ點ニ...

貴族院 船舶建造融資補給及損失補償法案、海運組合法案及造船業法案、三案ニ關スル特別...

企業院總裁及文部 厚生兩省當局ニモ委員
會ニ出席ヲ求メマシテ、熱心ナル質素廉價
ガ交シテノデゴザイマス、此ノ三案ハ五
ニ關聯致シテ居ルモノガ多ク、デゴザイ
スカラ、茲ニ一括綜合シテ質問中ノ主ナル
モノヲ申上ゲマス、一、海運擴充ニ關スル
一般方針如何トノ間ニ對シマシテ、政府ハ、
生産擴充計畫ニ伴フ船隻ノ需要、海外航權
ノ擴張ニ關シテ見地等ヨリ計算シテ、
昭和十七年度末迄ニハ千トシ以上ノ船隻
ヲ七百五十萬トシ、ヲ保有スルコトガ必要
ト考ヘル、即チ十四年度以降三年間ニ二
百五十萬トシ、ヲ新造スルコトヲ目標トシ
テ居ル、右ニ付十六年度末迄ノ所要資金總
額ハ九億二千萬圓ヲ豫定シ、之ニ要スル資
材ヲ準備シ、造船能力モ之ニ對應スルヤ
ウ施設ヲ擴張スル計畫デアアル、又船隻
乗組ムベキ船員ノ養成維持モ急務デアアル
デ、造船ナキヲ期スル考デアアル、尙將來ハ
海運行政機關ノ擴大強化ヲ考ヘルトノ答
辯デゴザイマシタ、次ニ三箇年ノ間ニ二百
五十萬トシヲ増加スルコト云フモ、今日ノ造
船業ノ難ヨリ見テ到底不可能ノヤウニ思ハ
レル、又資材資金等モ今日ノ現狀ヨリ推算
シテ至難デハナイカト云フ間ニ對シマシテ、
政府ハ、決シテ容易ナコトトハ思ハナイケ
レドモ、生産力擴充計畫ハ内閣ニ於テ、各

方面ノ角度カラ考案檢討ヲシテ、是クハ
是非必要デアルト極メタモノデアリマシテ、
此ノ造船計畫モ其ノ計畫ノ一部ニ包含サレ
テ居ルノデアアル、從テ之ヲ造ル資材モ調達
ノ出來ルヤウニ計畫セラレテ、物資動員計畫
ノ中ニ織込シテアルトノ答デゴザイマシタ、
次ニ今日新造セラレル船隻ハ材料、特ニ鋼
鐵ノ異常ナル高價ノ爲メ、外國船ニ比シテ
非常ニ高價デアアル、斯様ナ高價ナル船隻
ク造ラテモ、外國トノ競争ニ堪ヘヌト思フガ、
船價引下ゲノ具體案ガ別ニアルノデアアルカ
トノ間ニ對シテ、政府ハ、從來ノ經驗ニ依
レバ海運好況ノ時ハ造船ノ注文ガ殺到シ、
不況ノ時ハ至テ閑散ニナルノデ、造船所ノ
經營モ困難ニナル、ソレガ爲メ自然ニ値段モ
高クナル、故ニ之ヲ平均ニ造船スルヤウニ致
シタイ、即チ計畫造船トシレバ造船所モ割安
ニ引受ケ得ル譯デアアル、併シ之ヲ實行スルニ
ハ二ツノ難點ガアル、其ノ一ツハ資金難デ
アル、即チ不況ノ際ハ船主ニモ資金ガナク、
金融業者モ警戒シテ貸出ヲセヌノデアアル、
ソレデ今同造船ノ金融制度ヲ確立シテ、不
況ノ時ニモ造船資金ヲ得ルコトガ出來ルヤ
ウニシテ次第デアアル、今一ツノ難點ハ海運
事業ハ好況ノ時ト不況ノ時トノ差ガ多大デ
アル、ソレ故ニ不況ノ時ニハ如何ニ廉價デ
出來テモ新タニ造船ヲスルコトハ損失ヲ増

加スルコトナルノデ、新造ノ希望者ハナ
イ、ソレ故ニ今回組合法ヲ設ケテノデアッ
テ、組合ノ力ニ依テ運賃ノ維持又ハ古船ノ
共同運賃ノ如キ方法ニ依テ、新造ノ途ヲ開
クコトガ出來ルコトニスル積リデアアル、尙
命令航路使用船ノ新造ノ如キモ、時期ヲ考
ヘテ平準作用ニ都合ノ好イヤウニシテ、間
題ノ鋼材價格モ一定量ノ需要ガ確立スレバ
引下ゲラレル、又造船事業法中ニ規定シテ
アル所ノ規格ヲ定ムルコトニ依テ、標準船
型ヲ定メ、機械器具ノ規格統一ヲナス等ノ
方法ニ依テ大量生産ヲナシ、引下ゲニ便
ニスル等種々ノ方策ヲ講ズル積リデアアル、
次ニ鋼材價格ハ更ニ具體的數字ヲ示セバ、
米國鋼材ハ日本著價段ガ「トシ」百八十圓
内外デアアルノ、我ガ造船用鋼材ハ二百五
十圓デアアル、而シテ又一面ニ於テ海軍並ニ
鐵道用材ハ百六十圓ナリト聞イテ居ルガ、
是等ノ差ハ如何ナモノデアアルカ、百六十圓
ガ正當デアラバ二百五十圓ハ暴利ト云
ハナケレバナナイ、船隻ガ増加スルコト云
フコトガ國家ニ必要ナリトスレバ、其ノ所
要鋼材ノ價格モ十分引下ゲルノガ然ルベキ
コトト思フコトト對シマシテ、政府ハ、
外國産ノ品物ト國內産ノ品物トノ價格ノ差
ハ今日ノ現狀ニ於テ已ムヲ得ナイコトデア
ルコトハ御了承ノコトト思フ、國內産ニ大

キナ差ノアルノハ、海軍及鐵道用材デア
テ、是ハ長イ間ノ關係デアアルカラ古イ契約
ノ延長トモ考ヘラレル、又需要平準ニモ依
ル點ガアルト考ヘラレルガ、船舶用材ニ付
テハ篤ト考慮スル積リデアアルトノ答辯ガゴ
イマシタ、次ニ金融機關位ニ貸出利息及補
給利子ニ付テノ質問ニ對シマシテ、政府ハ、
融資額ガ擴大スルニ付テ、銀行以外ニ信託
會社、保險會社ヨリモ貸出ヲスルコトニ考
慮シテ居ル、貸出利率ハ三分七厘ノ豫定デ、
補給ハ手数料トシテ一分ヲ支給シ、尙ソレ
ノレノ金融機關ニ於ケル資金「コスト」ト三
分七厘トノ差ヲ加算スルノデアアルトノ答
アリマシタ、次ニ船員思想ノ涵養ハ最モ重
要ナルコトデアラテ、船内ニ於テハ秩序ト云
フコトハ特ニ嚴守ヲ要スルコトデ、下刈上
ノ思想ヲ赤化思想ノ如キハ大ニ警戒ヲ要ス
ルコトト思フ、然ルニ船員ハ外國ノ港ニ於
テ不用意ノ間ニ赤化思想ニ引込マル、虞ガ
多分ニアル故、之ガ救養ニ不斷ノ注意ヲ必
要トスル、近時産業報國聯盟ノ運動ガ開始
セラレ、其ノ唱ヘラレル所ノ要綱ハ、誠ニ
結構デアアルガ、其ノ一部ニハ階級打破ノ思
想ガ浸潤シテ、資本ハ認メルガ資本家ハ認
メナイ等ノ考ヲ持テテ居ル者モアルヤウニ
考ヘラレル、萬一左様ナ考ヲ有スル者ガア
テ、船員ガ之ニ化セラレルヤウナコトガア

テハ誠ニ憂慮ニ堪ヘナイヤウニ考ヘルガ、
政府ノ考ハ如何トノ間ニ對シマシテ、政府
ハ、船員ガ外國ニ於テ惡思想ノ感化ヲ受ケ
ルコトニ付テハ十分注意シテ居リ、漸次改
善シツ、アルコトト考ヘル、産業報國聯盟
ハ皇國産業人タル主義ヲ以テ設立セラレ、
役員ニ於テモ連議具限ノ士或ハ政府要路ノ
人々ガ參加シテ居ル、ソレ故ニ御示ノヤウ
ナ危險性ハナイト思フ、之ニ參加シテ居ル
海運會社ニ於テモ親和ヲ圖リ、待遇ノ如キ
ハ問題トセズ、上下意思疏通ノ機關ト認識
シテ居ル次第デアリ、海上ニ勤務シテ居ル
人々ハ皆皇國精神ヲ體シテ居リ、階級打破
ノ如キ考ハナイト信ジテ居ルガ、思想涵養
ニ付テハ一層留意スルコトガゴザイマシ
タ、次ニ内外地海運行政ノ統一、延イテハ
滿洲、支那ノ海運トモ協調スル必要ガアル
ト思フガ如何トノ間ニ對シ、政府ヨリ、内
外地海運行政統一ノ問題ハ多年ノ懸案デア
リ、極メテ重要ノコトデアアルガ、法制上ノ一
元化ニハ相當ノ難關ガアルノデ、先ツ法規
ニ付テ之ヲ同一ノモノトシ、運用上一元化
同様に結果ヲ收メタイト考ヘテ居ル、朝鮮
ニ於テモ海運組合ヲ作ル考デアアル、滿洲、
支那ノ海運トノ協調ニ付テハ十分ニ考慮ス
ルトノ答辯ガゴザイマシタ、次ニ船舶ノ増
加ト共ニ船員ノ需要ハ急ニ急デアアルガ、既

ニ今日ニ於テモ船員ヲ得ルノニ困難ヲ感ジ
テ居ル、船員補給ノ點ニ付テ文部省ト通信
省トノ連絡ニ不十分ノ點ハナイカ、高級船
員 無經驗者ノ不足ニ對スル對策ハドウデ
アルカトノ間ニ對シマシテ、政府ハ、商船
學校ノ生徒ヲ増員スルコトニ付テハ目下ノ
急ノ間ニ合ハナイ、ソレ故ニ神戸高等商船
ニ別科ヲ設ケ、大阪ニ於ケル府立高等海員
學校ニ補助ヲ與ヘテ、高級船員ノ下級ノ者
百五十名ヲ本年度内ニ卒業セシメ、十五年
度ニ於テハ兩省連絡ヲ十分ニシテ、更ニ應
急對策ヲ講ズルコトトスル、現ニ乘船勤務
中ノ者デ、其ノ海技免狀ヨリ下級ノ任務ヲ
執ラテ居ル者ガ相當ナ數ニ上ラテ居ルカラ、
其ノ下級適任者ヲ増セバ大分都合ガ好クナ
ル見込デアアル、無經驗士養成増員ニ付テモ、
現在ノ電信學校生徒増員ノ件ニ、岡山商船
學校ガ普通船員ノ養成所トナル故、之ニ無
經驗者ヲ併置シテ行キタイ考デアアルトノ
答辯ガゴザイマシタ、以上ノ外委員會ニ於
キマシテ熱心ナル質素廉價ガアツクノデゴ
ザイマスルガ、詳細ハ速記録ニ依リマシテ
御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス、討論ニ入り
委員會ヨリ、三法案ハ何レモ誠ニ結構ナルモ
ノデ賛成ヲ致ス者デアアルガ、更ニ希望決議
ヲ附シテ、委員會ノ意ノアル所ヲ一層明確
ニ致シタイト發言ガゴザイマシタ、斯ク

ヲ採決ニ入り、委員會ハ三法案トモ右希望決議ヲ附シ可決セラルベキモノト決定致シマシタ、只今右希望決議案ヲ朗讀致シマス
希望決議
今回ノ政府提出海運關係諸法案ハ内外ノ情勢ニ鑑ミ帝國海運ノ健全ナル發達ヲ圖ルガ爲メ喫緊ノ要務ナリト認ムルモ之レガ實施ニ當リテ政府ハ左ノ諸項ニ關シ特別ノ考慮ヲ拂フト共ニ、日、滿、支間ニ於ケル海運ノ調整ニ努メラレムコトヲ望ム

一、内外地海運行政ノ統一ハ多年ノ懸案ニシテ、之レガ解決ヲ爲スニ非ザレバ本法案實施ニ際シテモ其效果ノ完備ヲ期シ難シ政府ハ海運行政ノ特性ニ鑑ミ速ニ之レガ統一ヲ圖ラレタシ

二、政府ハ優秀船舶ノ廉價ナル供給ト建造船ノ圓滿ナル運航ヲ可能ナラシムル爲メ資材ノ配給造船設備ノ充實並ニ船員ノ補充ニ付キ最善ノ努力ヲ拂ヒ新船建造計畫ノ遂行ニ萬遺憾ナキヲ期セラレタシ

三、船員ノ健全ナル思想ヲ涵養スルハ海運事業ノ運轉ニ付キ最モ緊要ト認ム、政府ハ之レガ對策ニ關シ深甚ナル注意ヲ怠ラザラムコトヲ望ム

以上ヲ以テ委員會ノ御報告ヲ終リマス

海運組合法

(昭和十四年四月五日)
法律第六十九號

第一條 本法ニ於テ海運業トハ左ニ掲グル事業ヲ謂フ

一 船舶ニ依リ人又ハ物ヲ運送スル事業

二 船舶ノ貨渡(期間船務ヲ含ム)ヲ爲ス事業

三 船舶ニ依ル人若ハ物ノ運送ニ關スル仲立業又ハ船舶ノ貨渡(期間船務ヲ含ム)若ハ賣買ニ關スル仲立業

前項ノ船舶ニハ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶、漁船其ノ他勅令ヲ以テ定ムル船舶ヲ包含セズ

第二條 海運業者ハ其ノ事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ海運組合ヲ設立スルコトヲ得

海運組合ハ法人トス

第三條 海運組合ノ組員タルコトヲ得ル海運業者ハ内地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル者トス

海運組合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ政府ノ認可ヲ受ケ外地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル海運業者ヲ組員ト爲スコトヲ得

第四條 海運組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

- 一 組員ノ事業ノ爲ニスル共同施設
 - 二 組員間ニ於ケル事業ノ統制
 - 三 組員間ニ於ケル事業ニ關スル紛争ノ解決ノ斡旋
 - 四 組員ノ事業ニ關スル證明及鑑定
 - 五 組員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査
 - 六 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業
- 海運組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ
- 第五條 海運組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組員ニ對シ經費ヲ分賦シ過怠金ヲ課スルコトヲ得
- 第六條 海運組合ヲ設立セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合ノ組員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ヲ以テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ
- 組合ノ設立ニ付組員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得
- 第七條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選

任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

第九條 海運業ノ統制ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ハ兼メ組員タルベキ資格ヲ定メ其ノ資格ヲ有スル者ニ對シ海運組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ海運組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十條 前條第二項ノ規定ニ依リ認可申請アリタル場合ニ於テ定款其ノ他必要ナル事項ニシテ著シク不相當ト認ムルモノアルトキハ政府ハ之ニ變更ヲ加ヘテ認可ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ニ依リ認可申請ナキト

キハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 海運組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十二條 第九條第一項又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ海運組合成立シタルトキハ組員タルベキ資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組員トス

第十三條 政府第十條第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ海運組合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ選擧ナク組員總會ヲ招集スベシ

第十四條 政府ハ海運業ノ統制ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ組員ニ非ズシテ組員タル資格ヲ有スル者ヲシテ海運組合ノ組員トシタルコトヲ得

第十五條 海運組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所ノ所在地

四 組員タル資格ニ關スル規定

五 組員ノ加入及脱退ニ關スル規定

六 役員ニ關スル規定

七 事業ノ執行ニ關スル規定

八 會議ニ關スル規定

九 組員ノ權利義務及經費ノ分擔ニ關スル規定

十 會計及財産ニ關スル規定

十一 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由

第十六條 海運組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ノ選任及解任ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス

監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス

理事ト監事トハ相象スルコトヲ得ズ

組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス

理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ

理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ政府ハ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第十七條 左ノ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ

- 一 定款ノ變更
- 二 收支豫算及經費ノ分賦收入方法
- 三 業務報告及收支決算ノ承認
- 四 第二十條第一項ノ規程ノ制定及變更
- 五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脱退
- 六 解散

前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザルベキノ效力ヲ生ゼズ

第十八條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第十九條 總會ノ議決ハ定款ノ定ムル所ニ依リ出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第十七條第一項第一號、第二號及第四號乃至第六號ニ掲グル事項ノ議決ハ總組合員ノ半數以上ニシテ議決權總數ノ半數以上ニ當ル組合員出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 海運組合ハ組合員間ニ於ケル事業ノ統制ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ定ムベシ
政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運組合

ニ對シ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲メ又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運組合ニ對シ必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十二條 海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲メ又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運組合ノ組合員ニ對シ又ハ組合員及組合員ニ非ザルモ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十三條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、業務執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ、定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 海運組合ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲が法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 總會ノ決議ヲ取消
- 二 役員ノ解任
- 三 事業ノ停止
- 四 解散

第二十五條 海運組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立ノ期間ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議
- 三 破産
- 四 政府ノ解散命令

第二十六條 海運組合ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲メ海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

海運組合聯合會ハ他ノ海運組合聯合會又ハ海運組合ト其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲メ海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第二十七條 海運組合聯合會ハ法人トス
スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員タルベキ資格ヲ有スル組合又ハ聯合會ノ中會員ヲラントスル者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ、第二十九條ニ於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依リ海運組合聯合會ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ其ノ組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ

以テ命令ノ定ムル所ニ依リ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十八條 創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十九條 於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依リ海運組合聯合會ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラズ創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席シタル創立委員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十條 海運組合及海運組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十一條 海運組合及海運組合聯合會ノ清算ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 海運組合及海運組合聯合會ニ

ハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ
第三十三條 民法第五十一條第二項、第五十二條第二項、第五十四條、第五十五條、第五十九條第三號第四號、第六十條乃至第六十四條及第六十六條ノ規定ハ海運組合及海運組合聯合會ニ付テ準用ス但シ民法第六十二條中五日トアルハ之ヲ十日トス

第三十四條 第二十二條ノ規定ニ依リ政府ノ命令ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

海運業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十五條 前條ノ罰則ハ海運業者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條 海運組合又ハ海運組合聯合會ノ理事、監事又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ要求シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲

ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

本條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第三十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ海運組合又ハ海運組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 二 本法ニ依リ政府ノ徵スル報告ヲ爲サズ又ハ檢査ヲ拒ミ其ノ他政府ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ
- 三 本法ニ依リ總會ノ招集ヲ怠リタルトキ
- 四 本法ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置カザルトキ又ハ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セザルトキ

第三十九條 第三十條及第三十一條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ於テハ之ニ違反シタル者ヲ五百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

其ノ他ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隠蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨グタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發シタル命令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同シ

第六條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス
第七條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同シ
第八條 本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲メ外國爲替管理委員會ヲ置ク
外國爲替管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年四月勅令第六十五號ニ依リ同年五月一日ヨリ)

施行)資本逃避防止法ハ之ヲ廢止ス
本法施行前舊法ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ即舊法ニ依ル

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十二年八月二十八日法律第八十一號)

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十二年九月十日法律第八十七號)

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件

(昭和八年四月二十六日)
大藏省令第七號

沿革 昭和八年五月十八日大藏省令第十二號改正
昭和八年八月八日大藏省令第十九號改正
昭和八年九月二十八日大藏省令第二十六號
昭和十一年十一月二十七日大藏省令第三十八號改正
昭和十二年七月七日大藏省令第二十一號改正
昭和十二年十二月十一日大藏省令第五十三號改正
昭和十三年六月四日大藏省令第三十三號改正
昭和十三年十月八日大藏省令第六十二號改正
昭和十四年六月二十三日大藏省令第七號改正

得ズ
但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケ得ズル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主たる材料トスル物ヲ輸出スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出申告又ハ郵便差出ニ際シ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ大藏大臣ニ報告スベシ
第二條 商取引上ノ必要其ノ他ノ實需ニ基クコトナク邦貨ノ爲替相場ノ變動ニ依リ利益ヲ得ルコトヲ目的トシテ外國通貨、外國爲替(本邦ヨリ外國ニ仕向ケ又ハ外國ヨリ本邦ニ仕向ケタル爲替手形、小切手、支拂指圖書、電信爲替及郵便爲替ヲ謂フ但シ本邦ト邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域トノ間ノ圓爲替ヲ除ク以下同シ)又ハ外國ヨリ外國ニ仕向ケタル圓爲替ノ賣買ヲ爲スコトヲ得ズ
第三條 大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
一 邦貨ヲ對價トスル外國通貨、外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入
二 邦貨ヲ對價トスル外國爲替ノ賣却ニシテ外國爲替銀行ニ非ザル者ヲ相手方

トスルモノ又ハ買爲替ノ相殺ヲ目的トスルモノ
三 外國通貨ヲ對價トスル外國爲替タル圓爲替ノ賣却
四 外國通貨ヲ對價トスル外國爲替タル圓爲替ノ買入ニシテ賣爲替ノ相殺ヲ目的トスルモノ
五 通貨、外國通貨、小切手又ハ手形ノ送付又ハ携帶其ノ他外國ニ對スル送金ニシテ第一條及本條ノ他ノ各號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ
六 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地内ニ於テ爲ス支拂
第三條ノ二 外國ニ旅行セントスル者通貨、外國通貨、送金爲替又ハ信用狀(旅行小切手ヲ含ム以下同シ)ヲ外國ニ携帶スルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ出發ニ際シ乗船港所管稅關ヲ經テ大藏大臣ニ報告スベシ
第三條ノ三 大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ本邦銀行券ノ内百圓券ヲ外國ニ送付シ又ハ携帶スルコトヲ得ズ
第四條 左ニ掲グル場合ニハ第三條ノ規定ニ拘ラズ第三條ノ取引又ハ行爲ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルコトヲ要セズ但シ第六號又ハ第十一號ニ掲グル場合ヲ除クノ外通貨又ハ外國通貨ノ外國ヘノ送付又ハ携帶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 本邦ヨリノ貨物(證券ヲ除ク以下同シ)本令ニ於テ證券トハ本邦又ハ外國ノ公債、社債、株式又ハ公債社債ノ利札ヲ謂フ)ノ輸出又ハ本邦ヘノ貨物ノ輸入ノ爲メ必要ナルトキ
二 再保險又ハ海上保險契約ニ基ク保險金ノ支拂ヲ爲ス爲メ必要ナルトキ
三 本邦内ニ於テ支拂ハル、公債、社債若ハ銀行預金ノ利子又ハ金錢信託ノ利益ヲ外國ニ住所ヲ有スル權利者ニ送ル爲メ必要ナルトキ
四 契約上ノ義務トシテ外國ニ於テ六箇月内ニ爲スベキ公債又ハ社債ノ元利拂基金交付ノ爲メ必要ナルトキ
五 外國ニ於テ特許權其ノ他ノ工業所有權ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲スニ必要ナル費用ヲ送ル爲メ必要ナルトキ
六 外國ニ旅行セントスル者其ノ旅費ニ充ツル爲メ其ノ取得シタル信用狀(第十條第五號ノ規定ニ依リ取得シタルモノヲ除ク)ノ金額ト通シ五百圓相當額以下ノ通貨、外國通貨又ハ送金爲替ヲ携帶スル爲メ必要ナルトキ
七 外國ニ旅行シ又ハ滞在スル者ニ對シ一箇年内ノ所要ニ充ツベキ旅費、俸給、給料、手當、學費其ノ他之ニ類スル費用

用トシテ其ノ取得シタル信用狀ノ金額並該旅行者又ハ滞在者ノ出發ニ際シ携帶シタル通貨、外國通貨、送金爲替及信用狀ノ金額ト通シ五百圓相當額以下ヲ送ル爲メ必要ナルトキ又ハ本邦ニ滞在スル者外國ニ在ル家族ニ對シ一箇年内ノ所要ニ充ツベキ生活費五百圓相當額以下ヲ送ル爲メ必要ナルトキ
八 主務大臣ノ指定スル移民ガソノ移住定著ニ必要ナル費用ヲ送金スル爲メ又ハ移民移住ニ必要ナル費用ヲ送金スル爲メ又ハ該移民ノ委託ヲ受ケ其ノ移住定著ニ必要ナル費用ヲ送金スル爲メ必要ナルトキ
九 本邦内又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ住所、本店又ハ主たる事務所ヲ有スル者、該地域ニ於ケル事業又ハ營業ノ爲メ必要ナル資金ヲ該地域ニ送ル爲メ必要ナルトキ
十 本邦ニ於テ發行シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲メ爲替ヲ買入ルルトキ
十一 官廳ノ業務トシテ爲ストキ又ハ官廳ノ必要ニ基キテ爲ストキ
十二 他ノ各號ニ該當スル場合ノ外一箇年ヲ通シ百圓相當額以下ノ金額ヲ送金シ又ハ支拂ヲ爲ス爲メ必要ナルトキ
第五條 銀行ハ第三條ノ規定ニ拘ラズ左ニ

掲ぐる取引又は行爲ヲ爲スニ付大蔵大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一 顧客(銀行ヲ含ム)ノ依頼ニ應ジ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入ヲ爲スコト

二 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買却ニ伴ヒ必要ナル決済ヲ爲ス爲邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入ヲ爲シ又ハ該地域ニ對シテ送金ヲ爲スコト

三 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル取立爲替ノ取立代リ金ヲ該地域へ送金スルコト

四 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル送金爲替ノ支拂ヲ爲スコト

第六條 大蔵大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外貨證券(本邦又ハ外國ノ公債、社債、株式又ハ公債社債ノ利札ニシテ外國通貨ヲ以テ表示スルモノヲ謂ヒ登録シタル公債、社債又ハ株式ニシテ外國通貨ヲ以テ表示スルモノ)ノ外貨證券ト看做ス以下同シ)ヲ有價ニテ取得スルコトヲ得ズ昭和七年七月一日ニ本邦内ニ在リタル外貨證券、昭和七年大蔵省令第十二號第三條第一項若ハ本令第十二條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ輸入シタル外貨證券又

ハ本令第十二條第一項第一號、第三號若ハ第四號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ輸入シタル外貨證券ヲ本邦内ニ於テ取得スル場合並外國人ガ外國ニ於テ有スル資金ヲ以テ外貨證券ヲ取得スル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セズ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ右ニ掲グル規定ニ相當スル資本逃避防止法又ハ外國爲替管理法ニ基テ命令ノ規定ニ依リ輸入シタル外貨證券ヲ本邦内ニ於テ取得スル場合亦同シ

第六條ノ二 大蔵大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國ニ在ル外國ノ外貨證券ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ第十六條第一項ノ規定ニ依リ支拂期日到来後ニ賣却スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 大蔵大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ邦貨ヲ對價トシテ外國通貨ヲ以テ表示スル債權(外國爲替及外貨證券タルモノヲ除ク)ヲ讓受タルコトヲ得ズ

第八條 大蔵大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ何人ノ計算ニ於テスル外貨證券ノ外貨證券ヲ以テ表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ預金又ハ消費貸借ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條 大蔵大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國通貨ヲ以テ

表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ信託又ハ保險(再保險及海上保險ヲ除ク)以下同シ)ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 大蔵大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國通貨ヲ以テ表示スル地方債若ハ社債ヲ發行シ又ハ本邦内ニ在ル財產ヲ擔保トシテ外國ニ於テ外國通貨ヲ以テ表示スル借入金若ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ借入金ヲ爲スコトヲ得ズ但シ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ居住スル者ヨリ該地域ニ於テ邦貨ヲ以テ表示スル借入金ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 大蔵大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國居住者ノ債務ニ付擔保ヲ供スルコトヲ得ズ但シ第六條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外國ニ在ル外貨證券ヲ擔保ニ供スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ外國人ガ外國ニ於テ所有スル財產ヲ擔保ニ供スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十二條 大蔵大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ信用狀ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域へノ貨物ノ輸入ノ爲必要ナルトキ

二 本邦ヨリノ貨物ノ輸出ノ爲必要ナル

トキ

三 再保險又ハ海上保險契約ニ基テ保險金ノ支拂ヲ爲ス爲必要ナルトキ

四 外國ニ旅行スル者ノ旅費ニ充ツル爲該旅行者ノ携帶スル通貨、外國通貨及送金爲替ノ金額ト通シ五百圓相當額以下ノ信用狀ヲ取得スルトキ

五 官廳ヨリ支給ヲ受ケタル旅費其ノ他ノ給與ヲ携帶又ハ送付スル爲メ信用狀ヲ取得スルトキ

六 外國ニ旅行シ又ハ滞在スル者ニ對シ一箇年内ノ所要ニ充ツベキ旅費、俸給、給料、手當、學費其ノ他之類スル費用トシテ第三條ニ掲グル取引又ハ行爲ノ目的物ノ金額並該旅行者又ハ滞在者ノ出發ニ際シ携帶シタル通貨、外國通貨、送金爲替及信用狀ノ金額ト通シ五百圓相當額以下ヲ送ル爲必要ナルトキ

第十二條 大蔵大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ證券ヲ輸入シ又ハ輸出スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本邦内ニ支拂地ヲ有スル證券ノ支拂ヲ受ケタル爲支拂期日前三箇月内又ハ支拂期日以後ニ輸入スルトキ

二 株主、取締役、公債所有者又ハ社債權者ガ内外ノ法令又ハ定款ノ規定ニ基キ義務トシテ又ハ權利ノ行使若ハ保全

ノ爲提出スベキ株式、公債又ハ社債ヲ當該會社、官公署又ハ其ノ財務代理人ニ送付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ

三 前號ニ掲グル株式、公債又ハ社債ノ提出ニ伴ヒ當該會社、官公署又ハ其ノ財務代理人ヨリ株式、公債又ハ社債ヲ返付又ハ交付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ

四 株式引受人又ハ公債若ハ社債ノ應募者ニ對シ之ニ交付スベキ株式又ハ公債若ハ社債ヲ送付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ

五 邦貨ヲ以テ表示スル證券ヲ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域へ輸出シ又ハ該地域ヨリ輸入スルトキ但シ公債社債ノ利札ノ輸出ヲ除ク

證券ヲ輸入シ又ハ輸出シタルモノハ別ニ定ムル所ニ依リ二週間内ニ大蔵大臣ニ報告スベシ但シ外國ニ旅行セントスル者ハ出發前報告ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條ノ二 大蔵大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本邦銀行券ヲ輸入スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 旅行者ガ金額二百圓以下ヲ携帶輸入スルトキ

二 官廳ノ必要ニ基キテ輸入スルトキ

第十二條ノ三 本邦銀行券又ハ外國通貨ヲ

輸入スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ携帶輸入ノ場合ハ本令施行地ニ到着ノ際到着港所管稅關ヲ經テ其ノ他ノ場合ハ輸入後二週間内ニ輸入地所管稅關ヲ經テ大蔵大臣ニ報告スベシ

第十三條 大蔵大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マズシテ貨物ノ輸出ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域へ輸出スルトキ

二 見本トシテ又ハ寄贈ノ爲輸出スルトキ

三 委託販賣ノ爲輸出スルトキ又ハ委託販賣ノ爲輸入シタル貨物ヲ外國向轉送若ハ返送スルトキ

四 貨物輸出前本邦内ニ於テ其ノ代金ヲ外國ヨリ受領済ナルトキ又ハ本邦内ニ於テ外國ヨリ代金受領済ノ貨物ト取換ノ爲輸出スルトキ

五 貨物輸出後二箇月内ニ本邦内ニ於テ外國ヨリ其ノ代金ヲ確實ニ受領スル契約アルトキ

六 本邦ヨリノ貨物ノ輸出又ハ本邦へノ貨物ノ輸入ノ爲必要ナル販賣口錢、損害賠償金其ノ他ノ費用ノ支拂ニ充ツル爲輸出スルトキ

七 檢收後代金ノ確定スベキ性質ノ貨物ヲ輸出スルトキ
 八 郵便ニ依リ價額千圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ又ハ鐵道ニ依リ代金引換ノ取扱ノ下ニ輸出スルトキ
 九 代金取立手形ニ依リ代金ヲ取立テ直ニ之ヲ本邦ニ回金スル契約ノ下ニ一箇月ヲ通シ價額二萬圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ
 十 官廳ノ必要ニ基キテ輸出スルトキ
 十一 價額百圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ
 十二 商慣習ニ依リ外國爲替ヲ取組マザルトキ
 十三 手荷物、引越荷物又ハ船用品(漁業用品ヲ含ム以下同シ)ヲ輸出スルトキ
 外國ヨリ仕向ケラレタル信用狀ニ基キ本邦内ノ銀行ニ宛テタル爲替手形ヲ振出し之ヲ賣却シタルトキ又ハ本邦内ノ銀行ニ船積書類等ヲ提供シ代金ヲ受領シタルトキハ外國爲替ヲ取組ミタルモノト看做ス
 第十三條ノ二 價額ノ全部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズシテ貨物ヲ輸出スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出申告又ハ郵便差出ニ際シ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ大藏大臣ニ報告スベシ但シ左ニ

揭グル物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 一 慈善又ハ救恤ノ爲メ寄贈品
 二 官廳ノ輸出スルモノ
 三 價額百圓以下ノ物
 四 手荷物、引越荷物又ハ船用品
 第十三條ノ三 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組ミ貨物ヲ輸出スル者ハ其ノ爲替取組ニ關シ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出申告又ハ郵便差出ニ際シ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ大藏大臣ニ報告スベシ但シ前條各號ニ掲グル物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 前項ノ報告ヲ爲シタル者其ノ後爲替取組金額ヲ變更セザリシトキハ別ニ定ムル所ニ依リ輸出申告又ハ郵便差出後二週間内ニ爲替取組先銀行ノ證明ヲ附シ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ大藏大臣ニ報告スベシ
 第十三條ノ四 前條第一項ノ報告ヲ爲シタル者其ノ後爲替取組金額又ハ爲替取組金額ヲ變更シタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ輸出申告又ハ郵便差出後二週間内ニ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ大藏大臣ニ報告スベシ但シ爲替取組金額ヲ變更シタル場合ニ在リテハ爲替取組先銀行ノ證明ヲ附スルコトヲ要ス
 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦

貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組ミ貨物ヲ輸出シタル者其ノ取組ミタル爲替ノ價額又ハ買戻ヲ爲シタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ遲滞ナク大藏大臣ニ報告スベシ
 第十四條 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズシテ貨物又ハ證券ヲ輸出シタル者其ノ他該貨物又ハ證券ノ代金ヲ外國ヨリ受領スベキ者ハ其ノ代金ヨリ該貨物又ハ證券ニ付外國ニ於テ要シタル費用及本邦ヘノ輸入貨物ノ代金ニ充當シタルモノヲ除キ該貨物又ハ證券ノ仕向地ニ到着後五箇月内ニ之ヲ本邦ニ回收スベシ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 前項ノ規定ニ依リ代金ノ充當及回收狀況ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月分ヲ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ
 第十五條 本邦内ニ於テ所有スル外貨證券ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後三箇月内ニ本邦内ニ於テ之ヲ賣却シ若ハ取立依頼ヲ爲シ又ハ本邦内ニ於テ之ガ支拂ヲ受ケベシ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限リニ在ラズ
 第十六條 外國ニ於テ所有スル外貨證券又

ハ外國ニ於テ支拂ヲ受ケル外貨證券ノ利息若ハ配當金ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後三箇月内ニ之ガ支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ賣却スベシ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 外國ニ於テ所有スル外貨證券ヲ賣却シ若ハ之ガ支拂ヲ受ケ又ハ外貨證券ノ利息若ハ配當金ヲ外國ニ於テ支拂ヲ受ケ若ハ之ヲ受取ル權利ヲ讓渡シタルトキハ其ノ代リ金ハ其ノ外貨證券、外貨證券ノ利息又ハ配當金ニ付外國ニ於テ要シタル費用トシテ支拂ヒタルモノヲ除キ二箇月内ニ之ヲ本邦ニ取寄スル手續ヲ爲スベシ但シ其ノ金額通シテ千圓相當額未滿ナル場合又ハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 第十六條ノ二 大藏大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ外國ニ在ル不動産、礦業權、森林伐採權若ハ工業所有權又ハ外國ノ國籍ヲ有スル船舶ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 一 本邦内又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ在ル財產ヲ處分シ該地域ニ在ル財產ヲ取得スルトキ
 二 一箇年ヲ通シ價額五萬圓相當額以下ノ財產ヲ取得スルトキ
 三 取得スベキ財產ノ代金ヲ送金シ又ハ

之ガ支拂ヲ爲ス爲メ第三條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ
 四 礦業權又ハ工業所有權ノ設定ヲ受ケルトキ
 五 相続又ハ遺贈ニ因リ取得スルトキ
 六 官廳ノ取得スルトキ
 前項ノ規定ハ外國人ガ無償ニテ又ハ外國ニ於テ所有スル財產ヲ以テ前項ニ掲グル財產ヲ取得スル場合ニハ之ヲ適用セズ
 第十六條ノ三 大藏大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ事業、營業若ハ出資ヲ讓受ケ、出資ヲ爲シ又ハ本邦内ニ在ル財產ヲ取得スル爲メ外國ニ在ル財產ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 一 本邦内若ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ於ケル事業、營業若ハ出資ヲ讓受ケ又ハ本邦内若ハ該地域ニ於テ出資ヲ爲ス爲メ該地域ニ在ル財產ヲ處分スルトキ
 二 外國ニ於ケル事業、營業若ハ出資ヲ讓受ケ又ハ外國ニ於テ出資ヲ爲ス爲メ一箇年ヲ通シ價額五萬圓相當額以下ノ財產ヲ處分スルトキ
 三 第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外貨證券ヲ取得スルトキ
 四 第六條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外貨證券ヲ處分スルトキ

前項ノ規定ハ外國人ガ外國ニ於テ所有スル財產ヲ處分スル場合ニハ之ヲ適用セズ
 第十七條 昭和十一年十二月一日以後既存又ハ新設ノ店舗ニ於テ外國爲替業務ヲ營マントスル銀行ハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケベシ
 昭和十一年十一月三十日迄ニ外國爲替業務ヲ營ム旨ノ届出ヲ爲シタル銀行又ハ前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル銀行ヲ外國爲替銀行ト謂ヒ其ノ外國爲替業務ヲ營ム店舗ハ大藏大臣之ヲ告示ス外國爲替銀行其ノ全部又ハ一部ノ店舗ニ於ケル外國爲替業務ヲ廢止セントスルトキ又ハ其ノ外國爲替業務ヲ營ム店舗ノ名稱若ハ位置ヲ變更セントスルトキハ豫メ大藏大臣ニ届出ズベシ此ノ場合大藏大臣ハ之ヲ告示ス
 第十八條 外國爲替銀行ハ第三條、第六條、第七條及第十二條ノ規定ニ拘ラズ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ要セズ
 一 顧客(銀行ヲ含ム)ノ依頼ニ應ジ外國通貨又ハ外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)ノ賣買ヲ爲スコト
 二 前號ノ規定ニ依リ外國通貨又ハ外國爲替ノ賣買ニ伴ヒ必要ナル範圍ニ於テ

資金調整ノ爲ニ外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)ノ買賣ヲ爲シ又ハ外國ニ對スル送金ヲ爲スコト

三 外國ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル取立爲替ノ取立代リ金ヲ外國ニ送金スルコト

四 外國ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル送金爲替ノ支拂ヲ爲スコト

五 外貨證券ノ支拂ヲ受ケル爲(顧客ノ取立依頼ニ基クモノヲ含ム)支拂期日前三箇月内又ハ支拂期日以後ニ之ヲ輸出スルコト

第十四條ノ規定ハ外國爲替銀行ガ外貨證券ヲ輸出スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第六條ノ二、第十條ノ二、第十五條、第十六條、第二十四條ノ二及第二十四條ノ三ノ規定ハ外國爲替銀行ニハ之ヲ適用セズ

第十八條ノ二 外國爲替銀行第三條又ハ第十一條ニ掲グル取引又ハ行爲ノ相手方トナル場合ニハ顧客(銀行ヲ含ム)ガ其ノ取引又ハ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルコト又ハ許可ヲ受ケタルノ要ナキコトヲ確認スベシ

第十八條ノ三 大藏大臣ハ必要ト認ムルトキハ事項及ビ人ヲ指定シテ本令ニ定ムル

取引又ハ行爲ノ制限ヲ免除スルコトヲ得

第十九條 外國爲替銀行ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月ニ於ケル外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)ノ買賣、邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買賣、取立爲替ノ取扱、送金爲替ノ支拂、信用狀ノ發行等ニ關スル明細書ヲ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ提出スベシ

外國爲替銀行ニ非サル銀行ハ前項ニ準ジ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買賣、取立爲替ノ取扱、送金爲替ノ支拂、信用狀ノ發行等ニ關スル明細書ヲ提出スベシ

第二十條 外國爲替銀行ハ別ニ定ムル所ニ依リ毎日ノ外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)ノ買賣高及買持又ハ買持ノ高等ヲ三日以内ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ外國ニ在ル店舗ノ分ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依リ旬毎ニ通計シ三日以内ニ本店又ハ東京所在店舗ヨリ大藏大臣ニ報告スルヲ以テ足ル

第二十二條ノ二 業トシテ外國通貨ノ買賣ヲ爲スモノ(銀行ヲ除ク)ハ昭和十一年十二月三十一日迄ニ其ノ業務ヲ營ム店舗ヲ大藏大臣ニ届出ヅベシ

昭和十一年十二月一日以後業トシテ外國

通貨ノ買賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其業務ヲ營ムベキ店舗ヲ大藏大臣ニ届出ヅベシ

前二項ノ規定ニ依リ業トシテ外國通貨ノ買賣ヲ爲ス旨ノ届出ヲ爲シタル者ヲ兩替商ト謂ヒ其ノ業務ヲ營ム店舗ノ變更並廢止ハ豫メ之ヲ大藏大臣ニ届出ヅベシ

第二十條ノ三 兩替商又ハ銀行ハ第三條及第七條ノ規定ニ拘ラズ其ノ業務上外國通貨又ハ外貨旅行小切手ノ買入ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ要セズ

第二十條ノ四 兩替商外國通貨又ハ外貨旅行小切手ノ賣却ヲ爲ス場合ニハ相手方ガ其ノ買入ニ付本令其ノ他外國爲替管理法ニ基ク命令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルコト又ハ許可ヲ受ケタルノ要ナキコトヲ確認スベシ

第二十一條 證券ノ買賣又ハ其ノ媒介ヲ主タル業トスル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月ニ於ケル外貨證券ノ買賣又ハ其ノ媒介ニ關スル明細書ヲ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ提出スベシ

第二十二條 昭和十二年十二月一日ニ外國居住者ト邦貨ヲ以テ表示スル預金又ハ消費貸借ノ契約ヲ爲シ居ル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ本令施行後一箇月内ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ其ノ金額千圓未満ナル

場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 本令施行後本邦内又ハ外國ニ於テ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲シタル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月分ヲ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ各號ノ取引又ハ行爲毎ニ其ノ目的物ノ金額通ジテ千圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 外國通貨ノ取得又ハ處分

二 外國爲替ノ取得又ハ處分

三 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ取得又ハ處分

四 前各號ニ包含スル方法ニ依ラザル外國ニ對スル送金

五 外貨證券ノ取得又ハ處分

六 信用狀ノ發行又ハ取得

七 外國通貨ヲ以テ表示スル債權(外國爲替及外貨證券タルモノヲ除ク)又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權ノ讓受

八 外國通貨ヲ以テ表示スル預ケ金又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヘノ預ケ金ノ預入又ハ引出

九 外國通貨ヲ以テ表示スル貸付金又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヘノ貸付金ノ貸付又ハ回收

十 外國通貨ヲ以テ表示スル信託ノ委託

又ハ受託

十一 外國通貨ヲ以テ表示スル保險ノ契約ノ締結

十二 外國通貨ヲ以テ表示スル地方債又ハ社債ノ發行又ハ償還

十三 外國通貨ヲ以テ表示スル預リ金又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ預リ金ノ受入又ハ拂戻

十四 外國通貨ヲ以テ表示スル借入金又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ借入金ノ借入又ハ返済

十五 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地内ニ於テ爲ス支拂又ハ之ガ受領

外國ニ旅行セントスル者ハ前項ノ期限ニ拘ラズ出發前報告ヲ爲スベシ

第二十四條 前條ノ規定ハ第一項第二號ヲ除クノ外國人ガ外國ニ於テ爲シタル取引又ハ行爲ニ付之ヲ適用セズ

第二十四條ノ二 本令施行地内ニ於テ外國居住者ト交互計算勘定其ノ他ノ相殺勘定ヲ有スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月ニ於ケル其ノ内容ヲ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ

第二十四條ノ三 外國ニ於テ事業又ハ營業ヲ爲ス者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ事業又ハ營業ニ關シ毎年一月ヨリ六月迄及七

月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ外國ニ於テ生シタル收入支出及本邦トノ間ノ送金其ノ他資金移動ノ狀況並各期末ニ於テ外國ニ有スル資産負債ノ内容ヲ大藏大臣ニ報告スベシ

前項ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ提出スベキ報告書ハ各期間經過後一箇月内ニ之ヲ當該地ヨリ發送シ本店若ハ之ニ準ズルモノ又ハ東京所在店舗ニ於テ其ノ接受後邊滯ナク提出スベシ

第二十四條ノ四 外國ニ財產(外貨證券、預ケ金、貸付金及信託ノ受益權ヲ除ク)ヲ有スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ財產ニ關シ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ於ケル増減ノ内容及各期末ニ於ケル現在高ヲ大藏大臣ニ報告スベシ但シ該財產ノ期末現在高通ジテ一萬圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ官廳又ハ外國ニ於テ事業若ハ營業ヲ爲ス者ニ之ヲ適用セズ

前條第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 第十九條、第二十一條及第二十三條ノ規定ニ依リ外國ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付大藏大臣ニ提出スベキ明細書又ハ報告書ハ翌月十五日迄ニ之ヲ當該地

ヨリ發送シ本店若ハ之ニ準ズルモノ又ハ東京所在店舗ニ於テ其ノ接受後遲滞ナク提出スベシ

第二十六條 外國通貨、外國爲替若ハ外貨證券ヲ有スル者、外國通貨ヲ以テ表示スル預金、消費貸借、信託若ハ保險ノ契約ヲ爲シ居ル者又ハ外國居住者ト邦貨ヲ以テ表示スル預金若ハ消費貸借ノ契約ヲ爲シ居ル者本令施行地内ニ住所ヲ有スルニ至リタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ届出ヅベシ但シ其ノ金額千圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ外國爲替以外ノモノニ付テハ外國人ニ付テハ適用セズ

第二十七條 本令ニ依リ一定ノ期間内ニ明細書又ハ報告書ヲ提出スベキ義務ヲ負フ者變災其ノ他ノ已ムヲ得ザル事故ニ由リ其ノ期間内ニ提出スルコト能ハザルトキハ其ノ事故止ミタルトキ其ノ事由ヲ具シテ遲滞ナク提出スベシ

第二十八條 大藏大臣ハ必要ト認ムルトキハ事項及人ヲ指定シテ本令ニ定ムルモノノ外報告ヲ徵シ又ハ本令ニ定ムル報告ヲ免除シ若ハ報告ノ期限ヲ延長スルコトヲ得

第二十九條 大藏大臣ハ必要ト認ムルトキ

ハ官吏ヲシテ何人ニ對シテモ外國爲替管理法第一條ノ禁止若ハ制限又ハ同法第四條ノ處分命令ニ關シ必要ナル事項ニ付其ノ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十條 大藏大臣ハ左ニ掲グル財産ヲ有スル者ニ對シ本令ニ定ムルモノノ外之ヲ日本銀行其ノ他大藏大臣ノ指定スル者ニ賣却シ其ノ他之ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ其ノ處分禁止若ハ制限ヲ爲スコトヲ得

一 金地金、外國通貨又ハ外國爲替
二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權
三 外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノ

第三十一條 本令ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ許可ヲ受クル場合及大藏大臣ニ報告スベキ場合ノ手續ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第三十二條 本令ハ昭和八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十三條 本令ノ規定ニ依リ各月分ニ付提出スベキ明細書又ハ報告書ハ昭和八年四月分ヨリ之ヲ提出スベシ

第三十四條 昭和八年三月以前ノ各月分ニ

付昭和七年大藏省令第十二號第七條、第八條、第九條第二項又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ明細書又ハ報告書ヲ提出セザリシ者ニ付テハ仍同令ヲ適用ス昭和七年大藏省令第十二號第三條第三項ノ規定ニ依リ報告書ヲ提出セザリシ者ニ付亦同ジ

第三十五條 第二十二條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ提出スベキ明細書又ハ報告書ニシテ特ニ遠隔ノ地ノ分ニ付テハ郵便ニ依リ本令ノ規定ヲ知り得ベキ月ノ翌月十五日迄ニ當該地ヲ發送スルヲ以テ足ル

第三十六條 昭和六年大藏省令第三十八號又ハ昭和七年大藏省令第十二號ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル者ハ當該取引又ハ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三十七條 昭和六年大藏省令第三十六號及昭和六年大藏省令第三十八號ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前同令ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍同令ニ依ル

第三十八條 昭和十二年十一月三十日以前ニ邦貨ノ強制通用力ヲ有シタル地域ハ本令ノ適用ニ付テハ當分ノ内之ヲ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ト看做ス

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(昭和八年五月十八日大藏省令第十二號)

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和八年八月八日大藏省令第十九號)

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和八年九月二十八日大藏省令第二十六號)

附 則
本令ハ昭和十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十一年十一月二十七日大藏省令第三十八號)

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條第六號、同條第七號、同條第八號、第十一條及第十三條ノ改正規定ハ昭和十二年七月十五日ヨリ、第十三條ノ二、第十三條ノ三及第十三條ノ四ノ改正規定ハ昭和十二年七月二十五日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ第四條第六號ノ規定ハ前項但書ノ規定ニ拘ラズ本令公布ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ
(昭和十一年七月七日大藏省令第二十一號)

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條第二號、同條第七號、同條第八號、第十一條第四號及同條第六號ノ改正規定ハ昭和十二年十二月十八日ヨリ、第十六條ノ二及第十六條ノ三ノ改正規定ハ昭和十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十四條ノ二ノ改正規定ニ依リ提出スベキ報告書ハ昭和十三年一月分ヨリ、第二十四條ノ三及第二十四條ノ四ノ改正規定ニ依リ提出スベキ報告書ハ昭和十二年七月ヨリ十二月迄ノ期間ノ分ヨリ之ヲ提出スベシ
(昭和十二年十二月十一日大藏省令第五十三號)

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十二年六月四日大藏省令第三十三號)

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三條ノ二及第三條ノ三ノ改正規定ハ昭和十三年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十三年十月八日大藏省令第六十二號)

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三條ノ二及第三條ノ三ノ改正規定ハ昭和十三年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十三年十月八日大藏省令第六十二號)

本令ハ昭和十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十四年六月二十三日大藏省令第二十七號)

外國爲替管理法ニ關スル施行手續
(昭和八年四月二十六日)
大藏省 令 第八號

沿革
昭和十一年十一月十七日大藏省令第十九號改正
昭和十二年七月七日大藏省令第二十一號改正
昭和十二年十二月十一日大藏省令第五十四號改正
昭和十三年六月四日大藏省令第三十三號改正
昭和十三年十月八日大藏省令第六十二號改正
昭和十四年六月二十三日大藏省令第二十七號改正

第一條 昭和八年大藏省令第七號外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件(以下單ニ命令ト稱ス)ノ規定ニ依リ取引又ハ行爲ニ付大藏大臣ノ許可ヲ受ケントスル者ハ本令ノ規定ニ依リ正副二通ノ許可申請書ヲ作成シ最寄日本銀行(本店及各支店ヲ謂フ以下同シ)ヲ經テ大藏大臣ニ提出スベシ但シ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ前項ノ手續ニ依リ許可ヲ受ケタルコト業務上其ノ他ノ事由ニ依リ著シク支障アル場合ハ其ノ事情ヲ大藏大臣ニ申出ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ大藏大臣ハ特別ノ手續ヲ定ムルコトアルヘシ

第二條 命令第一條第一項ノ規定ニ依ル金

貨幣、金地金ノ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 輸出セントスル金貨幣又ハ金地金ノ種類、數量及價額
- 三 荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 輸出セントスル物ガ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 五 輸送ノ方法、積出港、仕向港及積載船名、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出郵便局名
- 六 輸出ノ豫定年月日、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出ノ豫定年月日
- 七 輸出ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
- 八 其ノ他參考トナルヘキ事項

第三條 命令第一條第一項ノ規定ニ依ル金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載シ積出港稅關(郵便ニ依ル場合ニハ最寄稅關)ヲ經テ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 輸出セントスル金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ種類、數量、價額及金ノ含有量
- 三 前條第三號乃至第八號ニ記載スル事

外國ニ旅行セントスル者ノ携帶スル手廻品及身邊裝飾品ハ前項ノ手續ニ依ラズ乘船前現品ヲ當該稅關官吏ニ呈示シテ其ノ許可ヲ受クルコトヲ得

第三條ノ二 命令第一條第二項ノ規定ニ依ル金貨幣ノ積出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 金貨幣ノ種類及數量
- 三 積出ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 金貨幣ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 五 積出シタルモノノ處分先
- 六 其ノ他參考トナルヘキ事項

第四條 命令第三條第一號ノ規定ニ依ル外國通貨ノ買入ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 外國通貨ノ種類、金額及所在地
- 三 賣渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 買入ノ豫定時期
- 五 買入ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
- 六 其ノ他參考トナルヘキ事項

第五條 命令第三條第一號又ハ同條第二號

ノ規定ニ依ル外國爲替ノ買入又ハ賣却ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 爲替ノ種類及金額
- 三 爲替ノ受取人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 爲替ノ支拂地、支拂期日並支拂人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 五 現物又ハ豫約ノ別及豫約ニ在リテハ受渡期
- 六 取引ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 七 買入又ハ賣却ノ豫定時期
- 八 買入又ハ賣却ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
- 九 其ノ他參考トナルヘキ事項

第六條 命令第三條第一號ノ規定ニ依ル邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 前條第一號乃至第四號ニ記載スル事項
- 二 賣渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 三 買入ノ豫定時期
- 四 買入ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由

五 其ノ他參考トナルヘキ事項

第七條 命令第三條第三號又ハ同條第四號ノ規定ニ依ル圓爲替ノ買入又ハ賣却ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 爲替ノ種類、金額及對價トシテ支拂セシムル受取ルベキ外國通貨ノ種類
- 三 第五條第三號乃至第九號ニ記載スル事項

第八條 命令第三條第五號ノ規定ニ依ル外國ニ對スル送金ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 送金ノ方法
- 三 送金ノ金額
- 四 受取人アル場合ニハ其ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 五 他人ニ託スル場合ニハ其ノ取扱者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 六 送金ノ豫定時期
- 七 送金ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
- 八 其ノ他參考トナルヘキ事項

第八條ノ二 命令第三條ノ三ノ規定ニ依ル銀行券ノ送付又ハ携帶ニ關スル許可申請書ニハ前條ノ規定ニ準ジ適宜必要ナル事

項ヲ記載スベシ

外國ニ旅行セントスル者ハ乘船前前項ノ規定ニ依ル許可申請書一通ヲ乘船港所管稅關ヲ經テ大藏大臣ニ提出スルコトヲ得

第九條 命令第三條第六號ノ規定ニ依ル外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地内ニ於テ爲ス支拂ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 委託者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 三 支拂金額
- 四 支拂委託ノ方法
- 五 支拂ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 六 支拂ノ豫定時期
- 七 立替支拂ニ在リテハ其ノ代リ金回收ノ方法及豫定時期
- 八 支拂人ト支拂委託者トノ關係及支拂ヲ委託セラレ之ヲ引受ケタル理由
- 九 其ノ他參考トナルヘキ事項

第十條 命令第六條又ハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル外貨證券ノ有價取得又ハ處分ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 外貨證券ノ名稱、金額、數量及所在地
- 三 對價タル通貨等ノ種類及豫定額

- 四 外貨證券ノ受渡又ハ擔保差入等ノ地業及氏名又ハ商號
- 五 取引ノ相手方又ハ媒介人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 六 取得、賣却又ハ擔保差入等ノ豫定時期
- 七 取得、賣却又ハ擔保差入等ヲ必要トスル理由
- 八 其ノ他參考トナルヘキ事項

第十一條 命令第七條ノ規定ニ依ル外國通貨ヲ以テ表示スル債權ノ讓受ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 債權ノ種類及金額
- 三 債務者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 讓受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 五 讓受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 六 讓受ノ豫定時期
- 七 讓受ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
- 八 其ノ他參考トナルヘキ事項

第十二條 命令第八條又ハ第九條ノ規定ニ依ル預金消費貸借、信託又ハ保險ノ契約ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 預金、預金高ノ最高限度又ハ消費貸借、信託若ハ保險ノ契約金額

- 三 契約ノ種類及豫定主要條件
 - 四 他人ノ計算ニ於ケルモノニ在リテハ其ノ者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 五 契約ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 六 契約ノ豫定期
 - 七 契約ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
 - 八 其ノ他参考トナルベキ事項
- 前項ノ許可申請書ハ當事者雙方ヨリ提出スルモノトシ但シ當事者ノ一方ガ本令施行地外ニ在ルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十三條 命令第十條ノ規定ニ依ル地方債若ハ社債ノ發行又ハ借入金ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 二 地方債若ハ社債發行豫定期又ハ借入豫定期額及豫定主要條件
 - 三 擔保物ノ種類、數量及所在地
 - 四 地方債若ハ社債ノ豫定發行地又ハ豫定借入地
 - 五 契約ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 六 地方債若ハ社債發行又ハ借入ノ豫定期
 - 七 地方債若ハ社債發行又ハ借入ノ目的

- 八 其ノ他参考トナルベキ事由
 - 第十三條ノ二 命令第十條ノ二ノ規定ニ依ル擔保提供ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 - 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 二 擔保提供ノ豫定期
 - 三 擔保物ノ種類、數量及所在地
 - 四 債務者タル外國居住者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 五 債權者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 六 債務ノ金額及主要條件
 - 七 擔保提供ノ必要トスル理由
 - 八 其ノ他参考トナルベキ事項
- 第十四條 命令第十一條ノ規定ニ依ル信用狀ノ取得ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 二 信用狀ノ種類、金額及主要條件
 - 三 信用狀ニ依ル手形振出人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 四 信用狀發行者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 五 取得ノ豫定期
 - 六 取得ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
 - 七 旅行信用狀ニ在リテハ旅行ノ豫定計

- 畫、同一ノ旅行ノ爲他ニ取得スル旅行信用狀アルトキハ其ノ金額及別ニ攜帶又ハ送付スル旅費アルトキハ其ノ金額
- 八 其ノ他参考トナルベキ事項
- 第十五條 命令第十二條第一項ノ規定ニ依ル證券ノ輸入又ハ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 二 證券ノ名稱、數量及所在地
 - 三 證券ヲ取得シタル原因及時期
 - 四 證券ノ發送人及名宛人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 五 證券カ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 六 輸送ノ方法、輸入ニ在リテハ郵便差出地又ハ輸入港及豫定積載船名、輸出ニ在リテハ差出郵便局名又ハ積出港及豫定積載船名
 - 七 輸入又ハ輸出ノ豫定期、郵便ニ依リ輸出スルモノニ在リテハ差出ノ豫定期
 - 八 證券ガ賣買ノ目的タルモノニ在リテハ其ノ代金決済ノ方法及豫定期
 - 九 輸入又ハ輸出ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
 - 十 其ノ他参考トナルベキ事項

- 第十六條 證券ヲ攜帶輸入セントスル者ハ本令施行地ニ到着ノ際前條ノ規定ニ依ル輸入許可申請書正副二通ヲ到着港所管稅關ヲ經テ大藏大臣ニ提出スルコトヲ得
- 第十六條ノ二 命令第十二條ノ二ノ規定ニ依ル本邦銀行券ノ輸入ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 二 銀行券ノ名稱、種類、數量及金額
 - 三 銀行券ヲ取得シタル原因及時期
 - 四 銀行券ノ發送人及名宛人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 五 銀行券ガ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 六 輸送ノ方法、積出港、輸入港及積載船名
 - 七 輸入ノ豫定期
 - 八 輸入ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
 - 九 其ノ他参考トナルベキ事項
- 前項ノ許可申請書ハ正副二通ヲ輸入地所管稅關ヲ經テ大藏大臣ニ提出スベシ
- 第十七條 命令第十三條第一項ノ規定ニ依ル價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 二 輸出貨物ノ品名、數量及價額
 - 三 荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 四 貨物ガ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 五 輸送ノ方法、積出港、積載船名、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出郵便局名
 - 六 貨物ノ代金ノ受領ノ方法及見込時期
 - 七 本邦内ニ在ル者ヨリ代金ノ支拂ヲ受クル場合ニハ其ノ支拂人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 八 他人ガ外國ヨリ代金ヲ受領スル場合ニハ其ノ者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 九 輸出ノ豫定期、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出ノ豫定期
 - 十 外國爲替ヲ取組マザル理由
 - 十一 其ノ他参考トナルベキ事項
- 前項ノ許可申請書ハ積出港稅關(郵便又ハ鐵道ニ依ル場合ニハ差出郵便局又ハ積出港所在地ヲ管轄スル稅關)ヲ經テ大藏大臣ニ提出スベシ但シ業務上其ノ他ノ事由ニ依リ著シク支障アル場合ハ最寄稅關ヲ經テ提出スルコトヲ得
- 第十八條 命令第十四條第一項但書ノ規定ニ依ル價額ノ全部又ハ一部ニ付爲替ヲ取

- 組マズシテ輸出シタル貨物又ハ證券ノ代金ノ不回收又ハ回收期間延長ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 二 他人ガ輸出申告又ハ郵便差出ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 三 荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 - 四 輸出貨物ノ品名又ハ輸出證券ノ名稱、數量、價額及送り狀金額
 - 五 輸出ノ時期及輸送ノ方法
 - 六 輸出貨物又ハ證券ノ仕向地及到着時期
 - 七 不回收金額又ハ回收期間延長ノ必要トスル金額
 - 八 回收期間延長ノ場合ニ在リテハ回収ノ見込時期及方法
 - 九 不回收又ハ回收期間延長ノ必要トスル理由
 - 十 其ノ他参考トナルベキ事項
- 前項ノ許可申請書ニシテ貨物ニ關スルモノニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス
- 第十八條ノ二 命令第十五條又ハ第十六條第一項ノ各但書ノ規定ニ依ル外貨證券等ノ賣却、取立依頼又ハ支拂金受領ノ期間延長ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 外貨證券ノ名稱、數量及所在地
 三 外貨證券、外貨證券ノ利益又ハ配當金ノ支拂期日及支拂金額
 四 期間延長ノ必要トスル金額
 五 賣却、取立依頼又ハ支拂金受領ノ見込時期
 六 期間延長ノ必要トスル理由
 七 其ノ他參考トナルベキ事項
 第十八條ノ三 命令第十六條第二項但書ノ規定ニ依ル外貨證券等ノ代リ金ノ不取寄又ハ取寄期間延長ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 外貨證券ノ名稱、數量及所在地
 三 外貨證券、外貨證券ノ利益若ハ配當金ノ賣却又ハ支拂金受領ノ時期及金額
 四 賣却先又ハ支拂人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 五 不取寄金額又ハ取寄期間延長ノ必要トスル金額
 六 取寄期間延長ノ場合ニ在リテハ取寄ノ見込時期及方法
 七 不取寄又ハ取寄期間延長ノ必要トスル理由
 八 其ノ他參考トナルベキ事項
 第十八條ノ四 命令第十六條ノ二ノ規定ニ

依ル不動産等ノ取得ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 取得スル不動産等ノ種類、數量及所在地
 三 取得ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 四 對價タル通貨等ノ種類、數量、價額及所在地
 五 取得ノ豫定期
 六 取得ノ必要トスル理由
 七 其ノ他參考トナルベキ事項
 第十八條ノ五 命令第十六條ノ三ノ規定ニ依ル財產ノ處分ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 出資先、事業、營業若ハ出資ノ讓受又ハ財產ノ取得ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 三 出資又ハ出資ノ讓受ノ場合ニハ出資額及出資先ノ事業又ハ營業ノ財產及損益ノ狀況
 四 事業又ハ營業ノ讓受ノ場合ニハ事業又ハ營業ノ所在地、種類財產及損益ノ狀況
 五 財產ノ取得ノ場合ニハ財產ノ種類、數量、價額及所在地

六 讓受又ハ取得ノ對價タル通貨等ノ種類、數量、價額及所在地
 七 處分スル財產ノ種類、數量、價額及所在地
 八 處分及出資、讓受又ハ取得ノ豫定期
 九 處分及出資、讓受又ハ取得ノ必要トスル理由
 十 其ノ他參考トナルベキ事項
 第十八條ノ六 命令第十七條第一項ノ規定ニ依リ外國爲替業務ヲ營マントスル場合ニ於ケル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 一 申請銀行ノ住所及商號
 二 外國爲替業務ヲ營マントスル店舗ノ名稱及所在地
 三 前號ノ店舗ニ於ケル外國爲替業務開始ノ時期
 四 外國爲替業務ヲ營ムコトヲ必要トスル理由
 五、其ノ他參考トナルベキ事項
 第十八條ノ七 命令第十七條第三項ノ規定ニ依ル届出書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 一 届出銀行ノ住所及商號
 二 外國爲替業務ヲ廢止セントスル場合ニ在リテハ店舗ノ名稱及所在地、名稱又ハ位置ノ變更ノ場合ニ在リテハ新舊

名稱又ハ新舊所在地
 三 廢止又ハ變更ノ時期
 四 廢止又ハ變更ノ必要トスル理由
 五 其他參考トナルベキ事項
 第十八條ノ八 命令第二十條ノ二第一項ノ規定ニ依ル届出書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 一 届出者ノ住所、氏名又ハ商號及他ノ職業ヲ併セ營ム者ニ在リテハ其ノ職業者氏名及出資金額
 二 届出者法人ナルトキハ資本金、出資者氏名及出資金額
 三 業務ヲ營ム店舗ノ名稱及所在地
 四 業務ヲ開始シタル時期
 五 外國ニ本店、支店其ノ他ノ營業所又ハ取引店ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ名稱及所在地
 六 其ノ他參考トナルベキ事項
 命令第二十條ノ二第二項ノ規定ニ依ル届出書ノ記載ニ付テハ前項ノ規定ヲ、同條第三項ノ規定ニ依ル届出書ノ記載ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス
 第十九條 法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ外國ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付許可ヲ申請スル場合ニハ法人ノ本店、主たる事務所又ハ東京所在店舗ヨリ申請書ヲ提出スベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ取引又ハ行爲ヲ爲ス者ノ住所、職

業及氏名又ハ商號ヲモ記載スベシ
 人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ外國ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付許可ヲ申請スル場合ニハ本人又ハ使用主ヨリ申請書ヲ提出スベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ取引又ハ行爲ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號ヲモ記載スベシ
 第二十條 命令第一條第三項、第十二條第二項、第十三條ノ二、第十三條ノ四第一項、同條第二項、第十九條、第二十條、第二十一條、第二十三條、第二十四條ノ二又ハ第二十四條ノ四第一項ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ提出スベキ明細書又ハ報告書ハ別ニ定ムルモノノ外各本令附屬書式ニ準據シテ正副二通ヲ作成シ命令第一條第三項、第十三條ノ二、第十三條ノ四第一項及同條第二項ノ規定ニ依リ報告書ヲ除キ最寄日本銀行ヲ經テ提出スベシ
 命令第三條ノ二、第十二條ノ三、第十三條ノ三第一項及同條第二項ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ提出スベキ報告書ハ本令附屬書式ニ準據シテ一通ヲ作成シ提出スベシ
 命令第十四條第二項ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ提出スベキ報告書ハ本令附屬書式ニ準據シテ一通ヲ作成シ直接提出スベシ
 命令第二十四條ノ三第一項ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ提出スベキ報告書ハ正副二通

ヲ作成シ最寄日本銀行ヲ經テ提出スベシ
 命令第二十二條又ハ第二十六條第一項ノ規定ニ依ル報告書又ハ届出書ハ命令第二十三條ノ規定ニ依ル各報告書ノ書式ニ準據シ作成スベシ
 命令第十七條第三項又ハ第二十條ノ二ノ規定ニ依ル届出書及前項ノ報告書又ハ届出書ハ正副二通ヲ作成シ最寄日本銀行ヲ經テ提出スベシ
 前各項ノ手續ニ依リ報告書ルコト業務上其ノ他ノ事由ニ依リ著シク支障アル場合ハ其ノ事情ヲ大藏大臣ニ申出ヅルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ大藏大臣ハ特別ノ手續ヲ定ムルコトアルベシ
 第二十一條 昭和七年大藏省令第十三號第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リスタンプノ押捺ヲ受ケ得ル外貨證券ニシテ未ダ押捺ヲ受ケザルモノニ付テハ所有者其ノ他ノ利害關係人ハ最寄日本銀行ニ證券ヲ呈示シテ附屬様式ノスタンプノ押捺ヲ受ケタルコトヲ得
 第二十二條 命令第十二條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケテ輸入シタル外貨證券ニシテ同條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタルモノニ付テハ所有者其ノ他ノ利害關係人ハ最寄日本銀行ニ證券ヲ呈示シテ附屬様式ノスタンプノ押捺ヲ受ケタルコトヲ得但

外國爲替管理法

シ輸入許可ニ際シスタンプノ押捺ヲ受クルコトヲ得ザル旨ヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ規定ハ命令第十二條第一項第一號、第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ輸入シタル外貨證券ニシテ同條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタルモノニ付之ヲ準用ス但シ大藏大臣ガスタンプノ押捺ヲ受クルコトヲ得ザル旨ヲ日本銀行ニ通知シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第二十三條 官廳ハ大藏大臣ノ同意ヲ得テ前二條ノ規定ニ該當セザル外貨證券ニ附屬様式ノスタンプノ押捺ヲ受クルコトヲ得

附則

本令ハ昭和八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス昭和七年大藏省令第十三號ノ規定ニ依リ提出セル許可申請書ハ當該事項ニ關スル本令ノ規定ニ依リ提出セルモノト看做ス

附則

本令ハ昭和十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十一年十二月三十一日以前ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付提出スベキ明細書又ハ報告書ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
(昭和十一年十一月二十七日大藏省令第三十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條ノ改正規定及改正附屬様式ハ昭和十二年七月二十五日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十二年七月七日大藏省令第二十二號)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十七條第二項及第十八條第二項ノ改正規定ハ昭和十二年十二月十八日ヨリ之ヲ施行ス
前項ノ規定ニ拘ラズ昭和十二年十二月三十一日以前ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付提出スベキ命令第二十三條ノ規定ニ依ル外貨證券所有高増減報告書、外貨預ケ金高増減報告書、外貨貸付金高増減報告書、外貨表示ノ保險契約報告書又ハ外貨借入金高増減報告書及命令第十四條ノ規定ニ依ル代金充當及回收報告書ノ書式ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
(昭和十二年十二月十一日大藏省令第五十四號)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス
(昭和十三年六月四日大藏省令第三十四號)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十

三年九月三十日以前ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付提出スベキ報告書ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
(昭和十三年十月八日大藏省令第六十三號)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十四年六月二十三日大藏省令第二十八號)

Table with columns for (甲) 買入者(輸入人), (乙) 仕向地, and (丙) 買入者(輸入人). It includes fields for name, address, and monthly transaction amounts.

Table with columns for (甲) 買入者(輸入人), (乙) 仕向地, and (丙) 買入者(輸入人). It includes fields for name, address, and monthly transaction amounts.

Table with columns for (甲) 買入者(輸入人), (乙) 仕向地, and (丙) 買入者(輸入人). It includes fields for name, address, and monthly transaction amounts.

Table with columns for (甲) 買入者(輸入人), (乙) 仕向地, and (丙) 買入者(輸入人). It includes fields for name, address, and monthly transaction amounts.

外國爲替管理法

外國為替管理法

第七條 / 二

令第十三號ノ三(又ハ令第十三號ノ四)ノ規定ニ依リ一書ヲ提出シ得ル報告書

提出申付書
提出申付年月日
提出申付者
住所 氏名又ハ商號

Table with 10 columns: 1. 報告ノ記載事項(報告ノ種類), 2. 報告ノ時期, 3. 報告ノ内容, 4. 仕向地(匯入ノ仕向地), 5. 報告人(匯入ノ仕向地ノ住所), 6. 報告ノ金額, 7. 報告ノ外貨, 8. 報告ノ内貨, 9. 報告ノ外貨ノ種類, 10. 報告ノ内貨ノ種類

第七條 / 三(二)

令第十三號ノ三(又ハ令第十三號ノ四)ノ規定ニ依リ一書ヲ提出シ得ル報告書

提出申付書
提出申付年月日
提出申付者
住所 氏名又ハ商號

Table with 7 columns: 1. 報告ノ記載事項(報告ノ種類), 2. 報告ノ時期, 3. 報告ノ内容, 4. 仕向地(匯入ノ仕向地), 5. 報告人(匯入ノ仕向地ノ住所), 6. 報告ノ金額, 7. 報告ノ外貨

第八條

令第十四號ノ規定ニ依リ代金請求及匯收報告書

提出申付書
提出申付年月日
提出申付者
住所 氏名又ハ商號

Table with 4 columns: 1. 貨物種類, 2. 仕向地, 3. 代金請求, 4. 匯收

注意 1. 提出日... 2. 提出ノ代金... 3. 提出ノ匯收... 4. 提出ノ仕向地... 5. 提出ノ報告人... 6. 提出ノ報告ノ種類... 7. 提出ノ報告ノ時期... 8. 提出ノ報告ノ内容... 9. 提出ノ報告ノ金額... 10. 提出ノ報告ノ外貨... 11. 提出ノ報告ノ内貨... 12. 提出ノ報告ノ外貨ノ種類... 13. 提出ノ報告ノ内貨ノ種類... 14. 提出ノ報告ノ外貨ノ種類... 15. 提出ノ報告ノ内貨ノ種類...

第九條

令第一號ノ規定ニ依リ代金請求及匯收報告書

提出申付書
提出申付年月日
提出申付者
住所 氏名又ハ商號

Table with 4 columns: 1. 貨物種類, 2. 仕向地, 3. 代金請求, 4. 匯收

注意 1. 提出日... 2. 提出ノ代金... 3. 提出ノ匯收... 4. 提出ノ仕向地... 5. 提出ノ報告人... 6. 提出ノ報告ノ種類... 7. 提出ノ報告ノ時期... 8. 提出ノ報告ノ内容... 9. 提出ノ報告ノ金額... 10. 提出ノ報告ノ外貨... 11. 提出ノ報告ノ内貨... 12. 提出ノ報告ノ外貨ノ種類... 13. 提出ノ報告ノ内貨ノ種類... 14. 提出ノ報告ノ外貨ノ種類... 15. 提出ノ報告ノ内貨ノ種類...

第十條

令第二十四號ノ二ノ規定ニ依リ相殺報告書

提出申付書
提出申付年月日
提出申付者
住所 氏名又ハ商號

Table with 4 columns: 1. 仕向地, 2. 金額, 3. 仕向地, 4. 金額

注意 1. 相殺ノ内容... 2. 相殺ノ時期... 3. 相殺ノ内容... 4. 相殺ノ時期... 5. 相殺ノ内容... 6. 相殺ノ時期... 7. 相殺ノ内容... 8. 相殺ノ時期... 9. 相殺ノ内容... 10. 相殺ノ時期...

第十一條

令第二十四號ノ四ノ規定ニ依リ在外住居報告書

提出申付書
提出申付年月日
提出申付者
住所 氏名又ハ商號

Table with 4 columns: 1. 仕向地, 2. 金額, 3. 仕向地, 4. 金額

注意 1. 在外住居ノ内容... 2. 在外住居ノ時期... 3. 在外住居ノ内容... 4. 在外住居ノ時期... 5. 在外住居ノ内容... 6. 在外住居ノ時期... 7. 在外住居ノ内容... 8. 在外住居ノ時期... 9. 在外住居ノ内容... 10. 在外住居ノ時期...

外國為替管理法

第十二條

令第三號ノ二ノ規定ニ依リ在外住居報告書

提出申付書
提出申付年月日
提出申付者
住所 氏名又ハ商號

Table with 4 columns: 1. 仕向地, 2. 金額, 3. 仕向地, 4. 金額

注意 1. 在外住居ノ内容... 2. 在外住居ノ時期... 3. 在外住居ノ内容... 4. 在外住居ノ時期... 5. 在外住居ノ内容... 6. 在外住居ノ時期... 7. 在外住居ノ内容... 8. 在外住居ノ時期... 9. 在外住居ノ内容... 10. 在外住居ノ時期...

第十三條

令第十二號ノ三ノ規定ニ依リ在外住居報告書

提出申付書
提出申付年月日
提出申付者
住所 氏名又ハ商號

Table with 4 columns: 1. 仕向地, 2. 金額, 3. 仕向地, 4. 金額

注意 1. 在外住居ノ内容... 2. 在外住居ノ時期... 3. 在外住居ノ内容... 4. 在外住居ノ時期... 5. 在外住居ノ内容... 6. 在外住居ノ時期... 7. 在外住居ノ内容... 8. 在外住居ノ時期... 9. 在外住居ノ内容... 10. 在外住居ノ時期...

得ス
但シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ備積スル場合
ハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ金貨幣、
金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料ト
スル物ヲ輸出スル者ハ別ニ定ムル所ニ依
リ其ノ輸出申告又ハ郵便差出ニ際シ税關
又ハ差出郵便局所ヲ經テ朝鮮總督ニ報告
スヘシ

第二條 商取引上ノ必要其ノ他ノ實需ニ基
クコトナク邦貨ノ爲替相場ノ變動ニ依リ
利益ヲ得ルコトヲ目的トシテ外國通貨、
外國爲替(本邦ヨリ外國ニ仕向ケ又ハ外
國ヨリ本邦ニ仕向ケタル爲替手形、小切
手、支拂指圖書、電信爲替及郵便爲替ヲ
謂フ)但シ本邦ト邦貨ノ強制通用力ヲ有ス
ル地域トノ間ノ圓爲替ヲ除ク(以下同シ)
又ハ外國ヨリ外國ニ仕向ケタル圓爲替ノ
賣買ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルニ非サレ
ハ左ニ掲ケル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ
得ス

一 邦貨ヲ對價トスル外國通貨、外國爲
替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域
ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入

二 邦貨ヲ對價トスル外國爲替ノ賣却ニ
シテ外國爲替銀行ニ非サル者ヲ相手方

トスルモノ又ハ買爲替ノ相殺ヲ目的ト
スルモノ

三 外國通貨ヲ對價トスル外國爲替タル
圓爲替ノ賣却

四 外國通貨ヲ對價トスル外國爲替タル
圓爲替ノ買入ニシテ賣爲替ノ相殺ヲ目
的トスルモノ

五 通貨、外國通貨、小切手又ハ手形ノ
送付又ハ携帶其ノ他外國ニ對スル送金
ニシテ第一條及本條ノ他ノ各號ニ包含
スル方法ニ依ラサルモノ

六 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ朝鮮
ニ於テ爲ス支拂

第三條ノ二 外國ニ旅行セントスル者通貨、
外國通貨、送金爲替又ハ信用狀(旅行小
切手ヲ含ム以下同シ)ヲ外國ニ携帶スル
トキハ別ニ定ムル所ニ依リ出發又ハ通過
ニ際シ乘船港、最終航空機離陸地又ハ國
境通過地所管官署ヲ經テ朝鮮總督ニ報告
スヘシ

第三條ノ三 朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルニ非
サレハ本邦銀行券ノ内百圓券ヲ外國ニ送
付シ又ハ携帶スルコトヲ得ス

第四條 左ニ掲ケル場合ニハ第三條ノ取引
又ハ行爲ヲ爲スニ付第三條ノ規定ニ拘ラ
ス朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルコトヲ要セズ
但シ第六號又ハ第十一號ニ掲ケル場合ヲ

除クノ外國通貨又ハ外國通貨ノ外國ヘノ送
付又ハ携帶ニ付テハ此ノ限ニアラズ

一 本法ヨリノ貨物(證券ヲ除ク)以下同
シ本令ニ於テ證券トハ本邦又ハ外國ノ
公債、社債、株式又ハ公債社債ノ利札
ヲ謂フ)ノ輸出又ハ本邦ヘノ貨物ノ輸
入ノ爲ニ必要ナルトキ

二 再保險又ハ海上保險契約ニ基テ保險
金ノ支拂ヲ爲ス爲ニ必要ナルトキ

三 本邦内ニ於テ支拂ハルル公債、社債
若ハ銀行預金ノ利子又ハ金銭信託ノ利
益ヲ外國ニ住所ヲ有スル權利者ニ送ル
爲ニ必要ナルトキ

四 契約上ノ義務トシテ外國ニ於テ六箇
月内ニ爲スベキ公債又ハ社債ノ元利拂
基金交付ノ爲ニ必要ナルトキ

五 外國ニ於テ特許權其ノ他ノ工業所有
權ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ
爲スニ必要ナル費用ヲ送付スル爲ニ必要
ナルトキ

六 外國ニ旅行セントスル者其ノ旅費ニ
充ツル爲其ノ取得シタル信用狀(第十
一條第五號ノ規定ニ依リ取得シタルモ
ノヲ除ク)ノ金額ト通シ五百圓相當額
以下ノ通貨、外國通貨又ハ送金爲替ヲ
携帶スル爲ニ必要ナルトキ

七 外國ニ旅行シ又ハ滞在スル者ニ對シ

一箇年内ノ所要ニ充ツベキ旅費、俸給、
給料、手當、學費其ノ他之ニ類スル費
用トシテ其ノ取得シタル信用狀ノ金額
並ニ該旅行者又ハ滞在者ノ出發ニ際シ
携帶シタル通貨、外國通貨、送金爲替
及信用狀ノ金額ト通シ五百圓相當額以
下ヲ送ル爲ニ必要ナルトキ又ハ本邦ニ滞
在スル者外國ニ在ル家族ニ對シ一箇年
内ノ所要ニ充ツベキ生活費五百圓相當
額以下ヲ送ル爲ニ必要ナルトキ

八 朝鮮總督ノ指定スル移民カ其ノ移住
定著ニ必要ナル費用ヲ送金スル爲又ハ
移植民事業ヲ行フ會社其ノ他ノ法人カ
該移民ノ委託ヲ受ケ其ノ移住定著ニ必
要ナル費用ヲ送金スル爲ニ必要ナルトキ

九 本邦内又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有ス
ル地域ニ住所、本店又ハ主タル事務所
ヲ有スル者ノ該地域ニ於ケル事業又ハ
營業ノ爲ニ必要ナル資金ヲ該地域ニ送ル
爲ニ必要ナルトキ

十 本邦ニ於テ發行シタル信用狀ニ基キ
爲替ヲ賣却シ又ハ之カ支拂ヲ爲シ若ハ
支拂ノ爲爲替ヲ買入ルルコトキ

十一 官廳ノ業務トシテ爲ストキ又ハ官
廳ノ必要ニ基キ爲ストキ

十二 他ノ各號ニ該當スル場合ノ外一箇
年ヲ通シ百圓相當額以下ノ金額ヲ送金

シ又ハ支拂ヲ爲ス爲ニ必要ナルトキ

第五條 銀行ハ第三條ノ規定ニ拘ラズ左
ニ掲ケル取引又ハ行爲ヲ爲スニ付朝鮮總督
ノ許可ヲ受ケタルコトヲ要セズ

一 顧客(銀行ヲ含ム)ノ依頼ニ應ジ邦
貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケ
タル圓爲替ノ買入ヲ爲スコト

二 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕
向ケタル圓爲替ノ賣却ニ伴ヒ必要ナル
決済ヲ爲ス爲邦貨ノ強制通用力ヲ有ス
ル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入ヲ爲
シ又ハ該地域ニ對スル送金ヲ爲スコト

三 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ
朝鮮ニ仕向ケタル送金爲替ノ支拂ヲ爲
スコト

四 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ
朝鮮ニ仕向ケタル取立爲替ノ取立代リ
金ヲ該地域ヘ送金スルコト

第六條 朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレ
バ外貨證券(本邦又ハ外國ノ公債、社債、
株式又ハ公債社債ノ利札ニシテ外國通貨
ヲ以テ表示スルモノヲ謂ヒ登錄シタル公
債、社債又ハ株式ニシテ外國通貨ヲ以テ
表示スルモノ)ハ之ヲ外貨證券ト看做ス以
下同シ)ヲ有價ニテ取得スルコトヲ得ス
昭和七年七月十五日ニ本邦内ニ在リタル
外貨證券、昭和七年朝鮮總督府令第六十

三號第三條第一項若ハ本令第十二條第一
項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ輸入シタル外
貨證券又ハ第十二條第一項第一號、第三
號若ハ第四號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケク
シテ輸入シタル外貨證券ヲ本邦内ニ於テ
取得スル場合及外國人カ外國ニ於テ有
ル資金ヲ以テ外貨證券ヲ取得スル場合ニ
ハ前項ノ規定ヲ適用セズ内地、臺灣又ハ
樺太ニ於テ之ニ相當スル法令ノ規定ニ依
リ輸入シタル外貨證券ヲ本邦内ニ於テ取
得スル場合亦同シ

第六條ノ二 朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルニ非
ザレバ外國ニ在ル外國ノ外貨證券ヲ處分
スルコトヲ得ズ但シ第十六條第一項ノ規
定ニ依リ支拂期日到来後ニ賣却スル場合
ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ外國人ニ之ヲ適用セズ

第七條 朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレ
バ邦貨ヲ對價トシテ外國通貨ヲ以テ表示
スル債權(外國爲替及外貨證券タルモノ
ヲ除ク以下同シ)ヲ讓受タルコトヲ得ズ

第八條 朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレ
バ朝鮮ニ於テ何人ノ計算ニ於テスル間
ハズ外國通貨ヲ以テ表示スル債權又ハ債
務ヲ取得スベキ預金又ハ消費貸借ノ契約
ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條 朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレ

朝鮮ニ於テ外國通貨ヲ以テ表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ信託又ハ保險(再保險及海上保險ヲ除ク以下同シ)ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國通貨ヲ以テ表示スル地方債若ハ社債ヲ發行シ又ハ本邦内ニ在ル財産ヲ擔保トシテ外國ニ於テ外國通貨ヲ以テ表示スル借入金若ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ借入金ヲ爲スコトヲ得ズ但シ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ居住スル者ヨリ該地域ニ於テ邦貨ヲ以テ表示スル借入金ヲ爲スコトハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ朝鮮ニ於テハ信用狀ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ貨物ノ輸入ノ爲ニ必要ナルトキ

二 本邦ヨリノ貨物ノ輸出ノ爲ニ必要ナルトキ

三 再保險又ハ海上保險契約ニ基ク保險金ノ支拂ヲ爲ス爲ニ必要ナルトキ

四 外國ニ旅行スル者ノ旅費ニ充ツル爲該旅行者ノ携帶スル通貨、外國通貨及送金爲替ノ金額ト通ジ五百圓相當額以下ノ信用狀ヲ取得スルトキ

五 官廳ヨリ支給ヲ受ケタル旅費其ノ他ノ給與ヲ携帶又ハ送付スル爲信用狀ヲ取得スルトキ

六 外國ニ旅行シ又ハ滞在スル者ニ對シ一箇年内ノ所要ニ充ツベキ旅費、俸給、給料、手當、學費其ノ他之ニ類スル費用トシテ第三條ノ取引又ハ行爲ノ目的物ノ金額並ニ該旅行者又ハ滞在者ノ出發ニ際シ携帶シタル通貨、外國通貨、送金爲替及信用狀ノ金額ト通ジ五百圓相當額以下ヲ送ル爲ニ必要ナルトキ

第十二條 朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ證券ヲ輸入シ又ハ輸出スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本邦内ニ支拂地ヲ有スル證券ノ支拂ヲ受ケタル爲支拂期日前三箇月内又ハ支拂期日前以後ニ輸入スルトキ

二 株主、取締役、公債所有者又ハ社債權者カ内外ノ法令又ハ定款ノ規定ニ基

キ義務トシテ又ハ權利ノ行使若ハ保全ノ爲提出スベキ株式、公債又ハ社債ヲ當該會社、官公署又ハ其ノ財務代理人ニ送付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ

三 前號ニ掲グル株式、公債又ハ社債ノ提出ニ伴ヒ當該會社、官公署又ハ其ノ財務代理人ヨリ株式、公債又ハ社債ヲ返付又ハ交付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ

四 株式引受人又ハ公債若ハ社債ノ應募者ニ對シ之ニ交付スベキ株式又ハ公債若ハ社債ヲ送付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ

五 邦貨ヲ以テ表示スル證券ヲ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘ輸出シ又ハ該地域ヨリ輸入スルトキ但シ公債社債ノ利札ノ輸出ヲ除ク

證券ヲ輸入シ又ハ輸出シタル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ二週間内ニ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ外國ニ旅行セントスル者ハ出發前報告ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條ノ二 朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本邦銀行券ヲ輸入スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 旅行者ガ金額二百圓以下ヲ携帶輸入スルトキ

二 官廳ノ必要ニ基キテ輸入スルトキ

第十二條ノ三 本邦銀行券又ハ外國通貨ヲ輸入スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ携帶輸入ノ場合ハ本令施行地ニ到着ノ際到着港最初ノ航空機著陸地又ハ國境通過地所管稅關ヲ經テ其ノ他ノ場合ハ輸入後二週間内ニ輸入地所管稅關ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スベシ

第十三條 朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マズシテ貨物ノ輸出ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘ輸出スルトキ

二 見本トシテ又ハ寄贈ノ爲輸出スルトキ

三 委託販賣ノ爲輸出スルトキ又ハ委託販賣ノ爲輸入シタル貨物ヲ外國向轉送若ハ返送スルトキ

四 貨物輸出前本邦内ニ於テ其ノ代金ヲ外國ヨリ受領済ナルトキ又ハ本邦内ニ於テ外國ヨリ代金受領済ノ貨物ト取換ノ爲輸出スルトキ

五 貨物輸出後二箇月内ニ本邦内ニ於テ外國ヨリ其ノ代金ヲ確實ニ受領スル契約アルトキ

六 本邦ヨリノ貨物ノ輸出又ハ本邦ヘノ貨物ノ輸入ノ爲ニ必要ナル販賣口錢、損

害賠償金其ノ他ノ費用ノ支拂ニ充ツル爲輸出スルトキ

七 檢收後代金ノ確定スベキ性質ノ貨物ヲ輸出スルトキ

八 郵便ニ依リ價額千圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ又ハ鐵道ニ依リ代金引換ノ取扱ノ下ニ輸出スルトキ

九 代金取立手形ニ依リ代金ヲ取立テ直ニ之ヲ本邦ニ回金スル契約ノ下ニ一箇月ヲ通シ價額二萬圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ

十 官廳ノ必要ニ基キテ輸出スルトキ

十一 價額百圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ

十二 商慣習ニ依リ外國爲替ヲ取組マズルトキ

十三 手荷物、引越荷物又ハ船用品(漁業用品ヲ含ム以下同シ)ヲ輸出スルトキ

十四 大正九年法律第五十三號第二條第四號及第五號ニ掲グル物品、同法第二條ノ二ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケル物品並ニ同法第六條ノ規定ニ依リ外國ヨリ仕向ケラレタル信用狀ニ基キ本邦内ノ銀行ニ宛テタル爲替手形ヲ振出シ之ヲ賣却シタルトキ又ハ本邦内ノ銀行ニ船積書類等ヲ提供シ代金ヲ受領シタルトキハ外國爲替ヲ取組ミタルモノト看做ス輸出スルコトヲ得ル物品ヲ輸出スルトキ

第十三條ノ二 價額ノ全部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズシテ貨物ヲ輸出スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出申告又ハ郵便差出ニ際シ稅關又ハ差出郵便局所ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ左ニ掲グル物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 慈善又ハ救恤ノ爲ノ寄贈品

二 官廳ノ輸出スル物

三 價額百圓以下ノ物

四 手荷物、引越荷物又ハ船用品

五 大正九年法律第五十三號第二條第四號及第五號ニ掲グル物品、同法第二條ノ二ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケル物品並ニ同法第六條ノ規定ニ依リ輸出スル物品

第十三條ノ三 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組ミ貨物ヲ輸出スル者ハ其ノ爲替取組ニ關シ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出申告又ハ郵便差出ニ際シ稅關又ハ差出郵便局所ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ前條各號ニ掲グル物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ報告ヲ爲シタル者其ノ後爲替取組金額ヲ變更セザリシトキハ別ニ定ムル所

ニ依リ輸出申告又ハ郵便差出後二週間内ニ爲替取組先銀行ノ證明ヲ添ヘ税關又ハ差出郵便局所ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第十三條ノ四 前條第一項ノ報告ヲ爲シタル者其ノ後爲替ヲ取組マズ又ハ爲替取組金額ヲ變更シタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ輸出申告又ハ郵便差出後二週間内ニ税關又ハ差出郵便局所ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スベシ此ノ場合ニ於テハ爲替取組金額變更ノ報告ニハ爲替取組先銀行ノ證明アルコトヲ要ス

價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組ミ貨物ヲ輸出シタル者其ノ取組ミタル爲替ノ償還又ハ買戻ヲ爲シタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ税關又ハ差出郵便局所ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スベシ

第十四條 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズシテ貨物又ハ證券ヲ輸出シタル者其ノ他該貨物又ハ證券ノ代金ヲ外國ヨリ受領スベキ者ハ其ノ代金ヨリ該貨物又ハ證券ニ付外國ニ於テ要シタル費用及本邦ヘノ輸入貨物ノ代金ニ充當シタルモノヲ除キ該貨物又ハ證券

券ノ仕向地ニ到着後五箇月内ニ之ヲ本邦ニ回収スベシ但シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ代金ノ充當及回収狀況ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月分ヲ翌月十五日迄ニ朝鮮總督ニ報告スベシ

第十五條 本邦内ニ於テ所有スル外貨證券ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後三箇月内ニ本邦内ニ於テ之ヲ賣却シ若ハ取立依頼ヲ爲シ又ハ本邦内ニ於テ之ヲ支拂ヲ受ケベシ但シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 外國ニ於テ所有スル外貨證券又ハ外國ニ於テ支拂ヲ受ケル外貨證券ノ利金若ハ配當金ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後三箇月内ニ之ヲ支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ賣却スベシ但シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

外國ニ於テ所有スル外貨證券ヲ賣却シ若ハ之ヲ支拂ヲ受ケ又ハ外貨證券ノ利金若ハ配當金ヲ外國ニ於テ支拂ヲ受ケ若ハ之ヲ受取ル權利ヲ讓渡シタルトキハ其ノ代金ハ其ノ外貨證券又ハ外貨證券ノ利金若ハ配當金ニ付外國ニ於テ要シタル費用トシテ支拂ヒタルモノヲ除キ二箇月内ニ之ヲ本邦ニ取寄ル手續ヲ爲スベシ但シ其ノ金額通シテ千圓相當額未滿ナル場合

又ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條ノ二 朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ズレバ外國ニ在ル不動産、礦業權、森林伐採權若ハ工業所有權又ハ外國ノ國籍ヲ有スル船舶ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本邦内又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ在ル財産ヲ處分シ該地域ニ在ル財産ヲ取得スルコトキ

二 一箇年ヲ通シ價額五萬圓相當額以下ノ財産ヲ取得スルコトキ

三 取得スヘキ財産ノ代金ヲ送金シ又ハ之ヲ支拂ヲ爲ス爲第三條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルコトキ

四 礦業權又ハ工業所有權ノ設定ヲ受ケルコトキ

五 相續又ハ遺贈ニ因リ取得スルコトキ

六 官廳ノ取得スルコトキ

前項ノ規定ハ外國人カ無價ニテ又ハ外國ニ於テ所有スル財産ヲ以テ前項ニ掲グル財産ヲ取得スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十六條ノ三 朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ズレバ事業、營業若ハ出賣ヲ讓受ケ、出賣ヲ爲シ又ハ本邦内ニ在ル財産ヲ取得スル爲外國ニ在ル財産ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本邦内若ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ於ケル事業、營業若ハ出賣ヲ讓受ケ又ハ本邦内若ハ該地域ニ於テ出賣ヲ爲ス爲該地域ニ在ル財産ヲ處分スルコトキ

二 外國ニ於ケル事業、營業若ハ出賣ヲ讓受ケ又ハ外國ニ於テ出賣ヲ爲ス爲一箇年ヲ通シ價額五萬圓相當額以下ノ財産ヲ處分スルコトキ

三 第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外貨證券ヲ取得スルコトキ

四 第六條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外貨證券ヲ處分スルコトキ

前項ノ規定ハ外國人カ外國ニ於テ所有スル財産ヲ處分スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十七條 昭和十一年十二月一日以後既存又ハ新設ノ店舗ニ於テ外國爲替業務ヲ營マントスル銀行ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケヘシ

昭和十一年十一月三十日迄ニ外國爲替業務ヲ營ム旨ノ届出ヲ爲シタル銀行又ハ前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル銀行ヲ外國爲替銀行ト謂ヒ其ノ外國爲替業務ヲ營ム店舗ハ朝鮮總督之ヲ告示ス

外國爲替銀行其ノ全部又ハ一部ノ店舗ニ於ケル外國爲替業務ヲ廢止セントスルトキ又ハ其ノ外國爲替業務ヲ營ム店舗ノ名

稱若ハ位置ヲ變更セントスルトキハ豫メ朝鮮總督ニ届出ヲヘシ此ノ場合朝鮮總督ハ之ヲ告示ス

第十八條 外國爲替銀行ハ第三條、第六條、第七條及第十二條ノ規定ニ拘ラス左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スニ付朝鮮總督ノ許可ヲ受ケルコトヲ要セス

一 顧客(銀行ヲ含ム)ノ依頼ニ應ジ外國通貨又ハ外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)ノ買買ヲ爲スコト

二 前號ノ規定ニ依リ外國通貨又ハ外國爲替ノ買買ニ伴ヒ必要ナル範圍ニ於テ資金調整ノ爲ニ外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)ノ買買ヲ爲シ又ハ外國ニ對スル送金ヲ爲スコト

三 外國ヨリ朝鮮ニ仕向ケタル送金爲替ノ支拂ヲ爲スコト

四 外國ヨリ朝鮮ニ仕向ケタル取立爲替ノ取立代リ金ヲ外國ニ送金スルコト

五 外貨證券ノ支拂ヲ受ケル爲(顧客ノ取立依頼ニ基クモノヲ含ム)支拂期日前三箇月内又ハ支拂期日以後ニ之ヲ輸出スルコト

第十四條ノ規定ハ外國爲替銀行カ外貨證券ヲ輸出スル場合ニハ之ヲ適用セス

第六條ノ二、第十條ノ二、第十五條、第十六條、第二十二條ノ二及第二十三條ノ三ノ規定ハ外國爲替銀行ニハ之ヲ適用セス

第十八條ノ二 外國爲替銀行第三條又ハ第十一條ノ取引又ハ行爲ノ相手方ト爲ル場合ニハ顧客(銀行ヲ含ム)ガ其ノ取引又ハ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルコト又ハ許可ヲ受ケタルノ要ナキコトヲ確認スベシ

第十八條ノ三 朝鮮總督ハ必要ト認ムルトキハ事項及人ヲ指定シテ本令ニ定ムル取引又ハ行爲ノ制限ヲ免除スルコトヲ得

第十九條 外國爲替銀行ハ別ニ定ムル所ニ依リ毎月ニ於ケル外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)ノ買買、邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買買、取立爲替ノ取扱、送金爲替ノ支拂、信用狀ノ發行等ニ關スル明細書ヲ翌月十五日迄ニ朝鮮總督ニ提出スベシ

外國爲替銀行ニ非ズル銀行ハ前項ニ準ジ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買買、取立爲替ノ取扱、送金爲替ノ支拂、信用狀ノ發行等ニ關スル明細書ヲ提出スベシ

第二十條 外國爲替銀行ハ別ニ定ムル所ニ依リ毎日ノ外國爲替(外國爲替銀行ノ業

務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)買賣
高及賣持又ハ買持ノ高等ヲ三日内ニ朝鮮
總督ニ報告スベシ但シ外國ニ在ル店舗ノ
分ヘ付テハ別ニ定ムル所ニ依リ旬毎ニ通
算シ三日内ニ本店又ハ之ニ準ズルモノヨ
リ朝鮮總督ニ報告スルヲ以テ足ル

第二十二條ノ二 業トシテ外國通貨ノ買賣ヲ
爲ス者(銀行ヲ除ク)ハ昭和十一年十二
月三十一日毎ニ其ノ業務ヲ營ム店舗ヲ朝
鮮總督ニ届出ツベシ

昭和十一年十二月一日以後業トシテ外國
通貨ノ買賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其ノ
業務ヲ營ムベキ店舗ヲ朝鮮總督ニ届出ヅ
ヘシ前二項ノ規定ニ依リ業トシテ外國通
貨ノ買賣ヲ爲ス旨ノ届出ヲ爲シタル者ヲ
兩替商ト謂ヒ其ノ業務ヲ營ム店舗ノ變更
並ニ廢止ハ豫メ之ヲ朝鮮總督ニ届出ヅ
ベシ

第二十條ノ三 兩替商又ハ銀行ハ第三條及
第七條ノ規定ニ拘ラズ其ノ業務上外國通
貨又ハ外貨旅行小切手ノ買入ヲ爲スニ付
朝鮮總督ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ
第二十條ノ四 兩替商外國通貨又ハ外貨旅
行小切手ノ賣却ヲ爲ス場合ニハ相手方ガ
其ノ買入ニ付本令其ノ他外國爲替管理法
ニ基テ命令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル
コト又ハ許可ヲ受ケタルノ要ナキコトヲ確

認スベシ
第二十一條 證券ノ買賣又ハ其ノ媒介ヲ主
タル業トスル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ毎
月ノ外貨證券ノ買賣又ハ其ノ媒介ニ關ス
ル明細書ヲ翌月十五日迄ニ朝鮮總督ニ提
出スベシ

第二十二條 本邦内又ハ外國ニ於テ左ニ掲
グル取引又ハ行爲ヲ爲シタル者ハ別ニ定
ムル所ニ依リ一箇月分ヲ取極メ翌月十五
日迄ニ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ各號ノ
取引又ハ行爲毎ニ其ノ目的物ノ金額通ジ
テ千圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在
ラズ

- 一 外國通貨ノ取得又ハ處分
- 二 外國爲替ノ取得又ハ處分
- 三 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕
向ケタル圓爲替ノ取得又ハ處分
- 四 前各號ニ包含スル方法ニ依ラザル外
國ニ對スル送金
- 五 外貨證券ノ取得又ハ處分
- 六 信用狀ノ發行又ハ取得
- 七 外國通貨ヲ以テ表示スル債權(外國
爲替及外貨證券タルモノヲ除ク)又ハ
邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對ス
ル債權ノ讓受
- 八 外國通貨ヲ以テ表示スル預ケ金又ハ
邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヘノ預

ケ金ノ預入又ハ引出
九 外國通貨ヲ以テ表示スル貸付金又ハ
邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヘノ貸
付金ノ貸付又ハ回收

- 十 外國通貨ヲ以テ表示スル信託ノ委託
又ハ受託
 - 十一 外國通貨ヲ以テ表示スル保險ノ契
約ノ締結
 - 十二 外國通貨ヲ以テ表示スル地方債又
ハ社債ノ發行又ハ償還
 - 十三 外國通貨ヲ以テ表示スル預リ金又
ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリ
ノ預リ金ノ受入又ハ拂戻
 - 十四 外國通貨ヲ以テ表示スル借入金又
ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリ
ノ借入金ノ借入又ハ返済
 - 十五 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ朝
鮮ニ於テ爲ス支拂又ハ受領
- 外國ニ旅行セントスル者ハ前項ノ期限ニ
拘ラズ出發前報告ヲ爲スベシ
- 第二十三條 前條ノ規定ハ第一項第二號ヲ
除クテ外國人カ外國ニ於テ爲シタル取
引又ハ行爲ニ付之ヲ適用セズ
- 第二十三條ノ二 本令施行地内ニ於テ外國
居住者ト交互計算勘定其ノ他ノ相殺勘定
ヲ有スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月ニ
於ケル其ノ内容ヲ翌月十五日迄ニ朝鮮總

督ニ報告スベシ
第二十三條ノ三 外國ニ於テ事業又ハ營業
ヲ爲ス者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ事業
又ハ營業ニ關シ毎年一月ヨリ六月迄及七
月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ外國ニ於テ生
ジタル收入支出及本邦トノ間ノ送金其ノ
他資金移動ノ狀況並各期末ニ於テ外國ニ
有スル資産負債ノ内容ヲ朝鮮總督ニ報告
スベシ

前項ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ提出スベキ
報告書ハ各期間經過後一箇月内ニ之ヲ當
該地ヨリ發送シ本店若ハ之ニ準ズルモノ
又ハ京城所在店舗ニ於テ其ノ接受後遲滯
ナク提出スベシ

第二十三條ノ四 外國ニ財産(外貨證券、預
ケ金、貸付金及信託ノ受益權ヲ除ク)ヲ有
スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ財産ニ
關シ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二
月迄ノ各期間ニ於ケル増減ノ内容及各期
末ニ於ケル現在高ヲ朝鮮總督ニ報告スベ
シ但シ該財産ノ期末現在高通ジテ一萬圓
相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ規定ハ官廳又ハ外國ニ於テ事業若
ハ營業ヲ爲ス者ニ之ヲ適用セズ
前條第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ
準用ス

第二十四條 第十九條、第二十一條及第二

十二條ノ規定ニ依リ外國ニ於ケル取引又
ハ行爲ニ付朝鮮總督ニ提出スベキ明細書
又ハ報告書ハ翌月十五日迄ニ之ヲ當該地
ヨリ發送シ本店又ハ之ニ準ズルモノニ於
テ其ノ接受後遲滯ナク提出スベシ

第二十五條 外國通貨、外國爲替若ハ外貨
證券ヲ有スル者、外國通貨ヲ以テ表示ス
ル預金、消費貸借、信託若ハ保險ノ契約
ヲ爲シ居ル者又ハ外國居住者ト邦貨ヲ以
テ表示スル預金若ハ消費貸借ノ契約ヲ爲
シ居ル者本令施行地内ニ住所ヲ有スルニ
至リタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ翌月
十五日迄ニ朝鮮總督ニ届出ツベシ但シ其
ノ金額千圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限
ニ在ラズ

前項ノ規定ハ外國爲替以外ノモノニ付テ
ハ外國人ニ付之ヲ適用セズ

第二十六條 本令ニ依リ一定ノ期間内ニ明
細書又ハ報告書ヲ提出スベキ義務ヲ負フ
者變災其ノ他ノ已ムヲ得タル事故ニ依リ
期間内ニ提出スルコト能ハザルトキハ其
ノ事故止ミタルトキ其ノ事由ヲ具シテ遲
滯ナク提出スベシ

第二十七條 朝鮮總督ハ必要ト認ムルトキ
ハ事項及人ヲ指定シテ本令ニ定ムルモノ
ノ外報告ヲ徴シ又ハ本令ニ定ムル報告ヲ
免除シ若ハ報告ノ期限ヲ延長スルコトヲ

得
第二十八條 朝鮮總督ハ必要ト認ムルトキ
ハ官吏ヲシテ何人ニ對シテモ外國爲替管
理法第一條ノ禁止若ハ制限又ハ同法第四
條ノ處分命令ニ關シ必要ナル事項ニ付其
ノ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ
得

第二十九條 朝鮮總督ハ左ニ掲ケル財産ヲ
有スル者ニ對シ本令ニ定ムルモノノ外之
ヲ朝鮮銀行其ノ他朝鮮總督ノ指定スル者
ニ賣却シ其ノ他之ニ關シ必要ナル處分ヲ
爲スベキコトヲ命シ又ハ其ノ處分ノ禁止
若ハ制限ヲ爲スコトヲ得

一 金地金、外國通貨又ハ外國爲替
ニ對スル債權

二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債
權又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者
ニ對スル債權

三 外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ケ
ザルモノ

第三十條 本令ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ許
可ヲ受ケル場合及朝鮮總督ニ報告スベキ
場合ノ手續ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第三十一條 本令ハ昭和八年五月一日ヨリ
之ヲ施行ス

第三十二條 本令ノ規定ニ依リ毎月分ニ付
提出スベキ明細書又ハ報告書ハ昭和八年

四月分ヨリ之ヲ提出スベシ

第三十三條 本令施行ノ際現ニ外國爲替業務ヲ營ム銀行ハ本令施行ノ日ヨリ二週間内ニ其ノ業務ヲ營ム店舗ノ名稱及所在地ヲ具シ之ヲ朝鮮總督ニ届出ツベシ

第三十四條 昭和三十二年十二月一日ニ外國居住者ト邦貨ヲ以テ表示スル預金又ハ消費貸借ノ契約ヲ爲シ居ル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ本令施行後一箇月内ニ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ其ノ金額千圓未満ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條 左ノ朝鮮總督府令ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前第一號又ハ第二號ニ掲グル朝鮮總督府令ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍同令ニ依ル

一 昭和六年朝鮮總督府令第五百五十二號
 二 昭和六年朝鮮總督府令第五百五十三號
 三 昭和七年朝鮮總督府令第六十三號
 四 昭和七年朝鮮總督府令第六十四號
 第三十六條 昭和八年三月以前ノ毎月分ニ付昭和七年朝鮮總督府令第六十三號(資本逃避防止法ニ基ク命令ノ件)第七條、

第八條、第九條第二項又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ明細書又ハ報告書ヲ提出セザリシ者ニ付テハ仍同令ヲ適用ス同令第三條第三項ノ規定ニ依リ報告書ヲ提出セザリシ者ニ付亦同ジ

第三十七條 第二十四條又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ提出スベキ明細書又ハ報告書ニシテ特ニ遼隔ノ地ノ分ニ付テハ郵便ニ依リ本令ノ規定ヲ知り得ベキ月ノ翌月十五日迄ニ當該地ヲ發送スルヲ以テ足ル

第三十八條 昭和六年朝鮮總督府令第五百十三號(金ヲ主タル材料トスル製品又ハ金ノ合金ノ輸出等取締ニ關スル件)又ハ昭和七年朝鮮總督府令第六十三號(資本逃避防止法ニ基ク命令ノ件)ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル者ハ當該取引又ハ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三十九條 昭和十二年十一月三十日以前ニ邦貨ノ強制通用力ヲ有シタル地域ハ本令ノ適用ニ付テハ當分ノ内ニ之ヲ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ト看做ス

附 則
 本令ハ昭和十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十一年十二月三十一日以前ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付提出スベキ明細書又ハ報告書ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

(昭和十一年十二月三日朝鮮總督府令第五百十九號)

附 則
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條第六號乃至第八號、第十一條及第十三條ノ改正規定ハ昭和十二年七月十五日ヨリ、第十三條ノ二、第十三條ノ三及第十三條ノ四ノ改正規定ハ昭和十二年七月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ第四條第六號ノ規定ハ前項但書ノ規定ニ拘ラス本令發布ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ(昭和十二年七月十二日朝鮮總督府令第八十五號)

附 則
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條第二號、同條第七號、同條第八號、第十一條第四號及同條第六號ノ改正規定ハ昭和十二年十二月十八日ヨリ、第十六條ノ二及第十六條ノ三ノ改正規定ハ昭和十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條ノ二ノ改正規定ニ依リ提出スベキ報告書ハ昭和十三年一月分ヨリ、第二十三條ノ三及第二十三條ノ四ノ改正規定ニ依リ提出スベキ報告書ハ昭和十二年七月ヨリ十二月迄ノ期間ノ分ヨリ之ヲ提出スベシ(昭和十二年十二月七日朝鮮總督府令第五百三號)

附 則
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十三年八月一日朝鮮總督府令第五百十號)

ル者ハ本令ノ規定ニ依リ許可申請書正副二通ヲ作成シ最寄朝鮮銀行(本店及支店ヲ謂フ以下同ジ)ヲ經テ之ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ但シ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ手續ニ依リ許可ヲ受ケタル業務上其ノ他ノ事由ニ依リ著シク支障アル場合ハ其ノ事情ヲ朝鮮總督ニ申出ヅルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ朝鮮總督ハ特別ノ手續ヲ定ムルコトアルベシ

第二條 命令第一條第一項ノ規定ニ依リ金貨幣、金地金ノ輸出許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 輸出セントスル金貨幣又ハ金地金ノ種類、數量及價額
 三 荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 四 輸出セントスル物カ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 五 輸送ノ方法、輸出地、仕向地及船舶
 六 輸出ノ豫定年月日、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出ノ郵便局所名
 七 輸出ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事

由
 八 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

第三條 命令第一條第一項ノ規定ニ依リ金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ輸出地稅關(郵便ニ依ル場合ニハ最寄稅關)ヲ經テ之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 輸出セントスル金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ種類、數量、價額及金ノ含有量
 三 前條第三號乃至第八號ニ掲グル事項外國ニ旅行セントスル者ノ携帶スル手廻品及身邊裝飾品ハ前項ノ手續ニ依ラス現品ヲ稅關官吏ニ呈示シテ其ノ許可ヲ受ケルコトヲ得

第三條ノ二 命令第一條第二項ノ規定ニ依リ金貨幣ノ鑄造ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 金貨幣ノ種類及數量
 三 鑄造ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 四 金貨幣ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 五 鑄造シタルモノノ處分先
 六 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

附 則
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三條ノ二及第三條ノ三ノ改正規定ハ昭和十四年一月六日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十三年十二月二十六日朝鮮總督府令第五百四十五號)

附 則
 本令ハ昭和十四年七月十日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十四年七月七日朝鮮總督府令第五百六號)

外國爲替管理法ニ關スル施行手續
 (昭和八年四月二十八日)
 (朝鮮總督府令第四十一號)

沿革
 昭和十一年十一月朝鮮總督府令第五百二十號改正
 昭和十二年七月朝鮮總督府令第八十六號改正
 昭和十二年十二月七日朝鮮總督府令第五百四號改正
 昭和十三年八月一日朝鮮總督府令第五百十一號改正
 昭和十三年十二月二十六日朝鮮總督府令第五百四十六號改正
 昭和十四年七月七日朝鮮總督府令第五百七號改正

第一條 昭和八年朝鮮總督府令第四十號(以下單ニ命令ト稱ス)ノ規定ニ依リ取引又ハ行爲ニ付朝鮮總督ノ許可ヲ受ケントス

外國爲替管理法 (朝鮮)

第四條 命令第三條第一號ノ規定ニ依ル外國通貨ノ買入許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 外國通貨ノ種類、金額及所在地
- 三 買渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 買入ノ豫定期
- 五 買入ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
- 六 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第五條 命令第三條第一號又ハ同條第二號ノ規定ニ依ル外國爲替ノ買入又ハ賣却許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 爲替ノ種類及金額
- 三 爲替ノ受取人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 爲替ノ支拂地、支拂期日並ニ支拂人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 五 現物又ハ豫約ノ別及豫約ニ在リテハ受渡期
- 六 取引ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 七 買入又ハ賣却ノ豫定期
- 八 買入又ハ賣却ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
- 九 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第六條 命令第三條第一號ノ規定ニ依ル邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 前條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項
- 三 買渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 買入ノ豫定期
- 五 買入ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
- 六 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第七條 命令第三條第三號又ハ同條第四號ノ規定ニ依ル圓爲替ノ買入又ハ賣却許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 爲替ノ種類、金額及對價トシテ支拂ヒ又ハ受取ルベキ外國通貨ノ種類
- 三 第五條第三號乃至第九號ニ掲ケタル事項

第八條 命令第三條第五號ノ規定ニ依ル外國ニ對スル送金許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 送金ノ方法
- 三 送金額
- 四 受取人アル場合ニハ其ノ住所、職業及氏名又ハ商號

第九條 命令第三條第六號ノ規定ニ依ル外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ朝鮮ニ於テ爲ス支拂ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 委託者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 三 支拂金額
- 四 支拂委託ノ方法
- 五 支拂ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 六 支拂ノ豫定期
- 七 立替支拂ニ在リテハ其ノ代リ金回收ノ方法及豫定期

第十條 命令第三條第七號ノ規定ニ依ル外國通貨ヲ以テ表示スル債權ノ讓受許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 債權ノ種類及金額
- 三 債務者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 讓渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 五 讓渡ノ豫定期
- 六 讓受ノ豫定期

第十一條 命令第七條ノ規定ニ依ル外國通貨ヲ以テ表示スル債權ノ讓受許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 債權ノ種類及金額
- 三 債務者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 讓渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 五 讓渡ノ豫定期
- 六 讓受ノ豫定期

第十二條 命令第六條又ハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル外貨證券ノ有價取得又ハ處分ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 外貨證券ノ名稱、金額、數量及所在地
- 三 對價タル通貨等ノ種類及豫定期
- 四 外貨證券ノ受渡又ハ擔保差入等ノ地
- 五 取引ノ相手方又ハ媒介人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 六 取得、賣却又ハ擔保差入等ノ豫定期
- 七 取得、賣却又ハ擔保差入等ヲ必要トスル事由
- 八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十三條 命令第七條ノ規定ニ依ル外國通貨ヲ以テ表示スル債權ノ讓受許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 債權ノ種類及金額
- 三 債務者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 讓渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 五 讓渡ノ豫定期
- 六 讓受ノ豫定期

第十四條 命令第十條ノ規定ニ依ル地方債若ハ社債又ハ借入金ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 地方債若ハ社債發行豫定期又ハ借入豫定期額及豫定主要條件

第十五條 命令第十條ノ規定ニ依ル地方債若ハ社債又ハ借入金ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 地方債若ハ社債發行豫定期又ハ借入豫定期額及豫定主要條件

第十六條 命令第十條ノ規定ニ依ル地方債若ハ社債又ハ借入金ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 地方債若ハ社債發行豫定期又ハ借入豫定期額及豫定主要條件

第十七條 命令第十條ノ規定ニ依ル地方債若ハ社債又ハ借入金ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 地方債若ハ社債發行豫定期又ハ借入豫定期額及豫定主要條件

第十八條 命令第十條ノ規定ニ依ル地方債若ハ社債又ハ借入金ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 地方債若ハ社債發行豫定期又ハ借入豫定期額及豫定主要條件

第十九條 命令第十條ノ規定ニ依ル地方債若ハ社債又ハ借入金ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 地方債若ハ社債發行豫定期又ハ借入豫定期額及豫定主要條件

三 信用狀ニ依ル手形振出人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四 信用狀發行者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 取得ノ豫定期

六 取得ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由

七 旅行信用狀ニ在リテハ旅行ノ豫定計畫、同一ノ旅行ノ爲ニ取得スル旅行信用狀アルトキハ其ノ金額及別ニ攜帶又ハ送付スル旅費アルトキハ其ノ金額

八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十五條 命令第十二條第一項ノ規定ニ依ル證券ノ輸入又ハ輸出許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 證券ノ名稱、數量及所在地

三 證券ノ取得シタル原因及時期

四 證券ノ發送人及名宛人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 證券カ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 輸送ノ方法、輸入ニ在リテハ郵便差出地又ハ輸入地及船舶ニ依ルモノニ在リテハ豫定積載船名、輸出ニ在リテハ差出郵便局所名又ハ輸出地及船舶ニ依ルモノニ在リテハ豫定積載船名

七 輸入又ハ輸出ノ豫定期、郵便ニ依リ輸出スルモノニ在リテハ差出ノ豫定期

八 證券ガ賣買ノ目的タルモノニ在リテハ其ノ代金決済ノ方法及豫定期

九 輸入又ハ輸出ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由

十 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十六條 證券ヲ携帶輸入セントスル者ハ朝鮮ニ到着ノ際前條ノ規定ニ依ル輸入許可申請書正副二通ヲ到着地所管稅關ヲ經テ朝鮮總督ニ提出スルコトヲ得

第十六條ノ二 命令第十二條ノ二ノ規定ニ依ル本邦銀行券ノ輸入ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 銀行券ノ名稱、種類、數量及金額

三 銀行券ヲ取得シタル原因及時期

四 銀行券ノ發送人及名宛人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 銀行券カ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 輸送ノ方法、積出港、輸入港及積載船名

七 輸入ノ豫定期

八 輸入ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由

九 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

前項ノ許可申請書ハ正副二通ヲ輸入地所管稅關ヲ經テ朝鮮總督ニ提出スベシ

第十七條 命令第十三條第一項ノ規定ニ依ル價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 輸出貨物ノ品名、數量及價額

三 荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四 貨物カ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 輸送ノ方法、輸出地、船舶ニ依ルモノニ在リテハ積載船名、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出郵便局名

六 貨物ノ代金ノ受領ノ方法及見込時期

七 本邦内ニ在ル者ヨリ代金ノ支拂ヲ受タル場合ニハ其ノ支拂人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

八 他人カ外國ヨリ代金ヲ受領スル場合ニハ其ノ者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

九 輸出ノ豫定期、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出ノ豫定期

十 外國爲替ヲ取組マザル事由

十一 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

前項ノ許可申請書ハ積出地稅關(郵便又ハ鐵道ニ依ル場合ニハ差出郵便局所又ハ積出郵便所所在地ヲ管轄スル稅關)ヲ經テ朝鮮總督ニ提出スベシ但シ業務上其ノ他ノ事由ニ依リ著シク支障アル場合ハ最寄稅管ヲ經テ提出スルコトヲ得

第十八條 命令第十四條第一項但書ノ規定ニ依ル價額ノ全部又ハ一部ニ付爲替ヲ取組マズシテ輸出シタル貨物又ハ證券ノ代金ノ不回收又ハ回收期間延長ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 他人カ輸出申告又ハ郵便差出ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

三 荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四 輸出貨物ノ品名又ハ輸出證券ノ名稱、數量、價額及送り狀金額

五 輸出ノ時期及輸送ノ方法

六 輸出貨物又ハ證券ノ仕向地及到着時期

七 不回收金額又ハ回收期間延長ノ必要トスル金額

八 回收期間延長ノ場合ニ在リテハ回收ノ見込時期及方法

九 不回收又ハ回收期間延長ヲ必要トスル理由

十 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

前項ノ許可申請書ニシテ貨物ニ關スルモノニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十八條ノ二 命令第十五條但書又ハ第十六條第一項但書ノ規定ニ依ル外貨證券等ノ賣却、取立依頼又ハ支拂金受領ノ期間延長ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 外貨證券ノ名稱、數量及所在地

三 外貨證券、外貨證券ノ利金又ハ配當金ノ支拂期日及支拂金額

四 期間延長ヲ必要トスル金額

五 賣却、取立依頼又ハ支拂金受領ノ見込時期

六 期間延長ヲ必要トスル理由

七 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十八條ノ三 命令第十六條第二項但書ノ規定ニ依ル外貨證券等ノ代金ノ不回收又ハ取寄期間延長ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 外貨證券ノ名稱、數量及所在地

三 外貨證券、外貨證券ノ利金若ハ配當金ノ賣却又ハ支拂金受領ノ時期及金額

四 賣却先又ハ支拂人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 不取寄金額又ハ取寄期間延長ヲ必要トスル金額

六 取寄期間延長ノ場合ニ在リテハ取寄ノ見込時期及方法

七 不取寄又ハ取寄期間延長ヲ必要トスル理由

八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十八條ノ四 命令第十六條ノ二ノ規定ニ依ル不動産等ノ取得ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 取得スル不動産等ノ種類、數量及所在地

三 取得ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四 對價タル通貨等ノ種類、數量、價額及所在地

五 取得ノ豫定期

六 取得ヲ必要トスル事由

七 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十八條ノ五 命令第十六條ノ三ノ規定ニ依ル財產ノ處分ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 出賣先、事業、營業若ハ出賣ノ讓受又ハ財產ノ取得ノ相手方ノ住所、職業及

氏名又ハ商號
 三 出賣又ハ出賃ノ讓受ノ場合ニハ出賃額及出賃先ノ事業又ハ營業ノ財産及損益ノ狀況
 四 事業又ハ營業ノ讓受ノ場合ニハ事業又ハ營業ノ所在地、種類、財産及損益ノ狀況
 五 財産ノ取得ノ場合ニハ財産ノ種類、數量、價額及所在地
 六 讓受又ハ取得ノ對價タル通貨等ノ種類、數量、價額及所在地
 七 處分スル財産ノ種類、數量、價額及所在地
 八 處分及出賃、讓受又ハ取得ノ豫定時期
 九 處分及出賃、讓受又ハ取得ノ必要トスル事由
 十 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 第十八條ノ六 命令第十七條第一項ノ規定ニ依リ外國爲替業務ヲ營マントスル場合ニ於ケル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 申請銀行ノ住所及商號
 二 外國爲替業務ヲ營マントスル店舗ノ名稱及所在地
 三 前號ノ店舗ニ於ケル外國爲替業務開始ノ時期

四 外國爲替業務ヲ營ムコトヲ必要トスル理由
 五 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 第十八條ノ七 命令第十七條第三項ノ規定ニ依リ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 届出銀行ノ住所及商號
 二 外國爲替業務ヲ廢止セントスル場合ニ在リテハ店舗ノ名稱及所在地、名稱又ハ位置ノ變更ノ場合ニ在リテハ新舊名稱又ハ新舊所在地
 三 廢止又ハ變更ノ時期
 四 廢止又ハ變更ノ必要トスル理由
 五 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 第十八條ノ八 命令第二十條ノ二第一項ノ規定ニ依リ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 届出者ノ住所、氏名又ハ商號及他ノ職業ヲ併セテ營ム者ニ在リテハ其ノ職業
 二 届出者法人ナルトキハ資本金、出資者氏名及出資金額
 三 業務ヲ營ム店舗ノ名稱及所在地
 四 業務ヲ開始シタル時期
 五 外國ニ本店、支店其ノ他ノ營業所又ハ取引店ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ名稱及所在地
 六 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 命令第二十條ノ二第二項ノ規定ニ依リ届

書ノ記載ニ付テハ前項ノ規定ヲ、同條第三項ノ規定ニ依リ届書ノ記載ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス
 第十九條 法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ外國ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付許可ヲ申請スル場合ニハ法人ノ本店又ハ主タル事務所ヨリ申請書ヲ提出スベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ取引又ハ行爲ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號ヲモ記載スベシ
 人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ外國ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付許可ヲ申請スル場合ニハ本人又ハ使用主ヨリ申請書ヲ提出スベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ取引又ハ行爲ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號ヲモ記載スベシ
 第二十條 命令第一條第三項、第十二條第二項、第十三條ノ二、第十三條ノ四、第十九條、第二十條、第二十一條、第二十二條、第二十三條ノ二又ハ第二十三條ノ四第一項ノ規定ニ依リ提出スベキ明細書又ハ報告書ハ別ニ定ムルモノノ外各本令附屬書式ニ準據シテ正副二通ヲ作成シ命令第一條第三項、第十三條ノ二及第十三條ノ四ノ規定ニ依リ報告書ヲ除キ最寄朝鮮銀行ヲ經テ提出スベシ
 命令第三條ノ二及第十三條ノ三ノ規定ニ

依リ朝鮮總督ニ提出スヘキ報告書ハ本令附屬書式ニ準據シテ一通ヲ作成シ提出スヘシ
 命令第十四條第二項ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ提出スベキ報告書ハ本令附屬書式ニ準據シテ一通ヲ作成シ直接提出スベシ
 命令第二十三條ノ三第一項ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ提出スベキ報告書ハ正副二通ヲ作成シ最寄朝鮮銀行ヲ經テ提出スベシ
 命令第二十五條第一項又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ報告書又ハ届書ハ命令第二十二條ノ規定ニ依リ各報告書ノ書式ニ準シテ作成スベシ
 命令第十七條第三項又ハ第二十條ノ二ノ規定ニ依リ届書及前項ノ報告書又ハ届書ハ正副二通ヲ作成シ最寄朝鮮銀行ヲ經テ提出スベシ
 前各項ノ手續ニ依リ報告スルコト業務上其ノ他ノ事由ニ依リ著シシ支障アル場合ハ其ノ事情ヲ朝鮮總督ニ申出ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ朝鮮總督ハ特別ノ手續ヲ定ムルコトアルベシ
 第二十一條 昭和七年朝鮮總督府令第六十四號(資本逃避防止法ニ關スル施行手續)
 第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リスタンプノ押捺ヲ受ケ得ル外貨證券ニシテ未タ其ノ押捺ヲ受ケタルモノニ付テハ所有者又

ハ其ノ他ノ利害關係人ハ最寄朝鮮銀行ニ證券ヲ呈示シテ附屬書式ノスタンプノ押捺ヲ受ケタルコトヲ得
 第二十二條 命令第十二條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケテ輸入シタル外貨證券ニシテ同條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタルモノニ付テハ所有者又ハ其ノ他ノ利害關係人ハ最寄朝鮮銀行ニ證券ヲ呈示シテ附屬書式ノスタンプノ押捺ヲ受ケタルコトヲ得但シ輸入許可ニ際シスタンプノ押捺ヲ受ケタルコトヲ得ザル旨ヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 前項ノ規定ハ命令第十二條第一項但書第一號、第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ輸入シタル外貨證券ニシテ同條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタルモノニ付テハ準用ス但シ朝鮮總督カスタンプノ押捺ヲ受ケタルコトヲ得ザル旨ヲ朝鮮銀行ニ通知シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 第二十三條 官廳ハ朝鮮總督ノ承認ヲ受ケ前二條ノ規定ニ該當セザル外貨證券ニ附屬書式ノスタンプノ押捺ヲ受ケタルコトヲ得
 附 則
 本令ハ昭和八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス昭和七年朝鮮總督府令第六十四號(資本逃

避防止法ニ關スル施行手續)ノ規定ニ依リ提出シタル許可申請書ハ之ヲ本令ノ規定ニ依リ提出シタルモノト看做ス
 附 則
 本令ハ昭和十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十一年十二月三十一日以前ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付提出スベキ明細書又ハ報告書ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ(昭和十一年十一月朝鮮總督府令第八十六號)
 附 則
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條ノ改正規定及附屬書式改正ニ關スル規定ハ昭和十二年七月二十五日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十二年七月朝鮮總督府令第八十六號)
 附 則
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十七條第二項及第十八條第二項ノ改正規定ハ昭和十二年十二月十八日ヨリ之ヲ施行ス
 前項ノ規定ニ拘ラズ昭和十二年十二月三十一日以前ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付提出スベキ命令第二十二條ノ規定ニ依リ外貨證券所有高増減報告書、外貨預ケ金高増減報告書、外貨貸付金高増減報告書、外貨表示ノ

保險契約報告書又ハ外貨借入金高増減報告書及命令第十四條ノ規定ニ依ル代金充當及回收報告書ノ書式ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル(昭和十二年十二月十七日朝鮮總督府令第一四七號)

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十三年八月二日朝鮮總督府令第一二一號)

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十三年十二月三十一日以前ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付提出スヘキ報告書ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
(昭和十三年十二月二十六日朝鮮總督府令第一四十六號)

附則
本令ハ昭和十四年七月十日ヨリ之ヲ施行ス(別記様式省略)

外國爲替管理法ニ基ク臨時措置ニ關スル命令ノ件

(昭和十二年一月十二日)
朝鮮總督府令 第二二號

沿革 昭和十二年七月朝鮮總督府令第八十七號改正
昭和十二年九月朝鮮總督府令第三十四號改正

昭和十二年十二月十七日朝鮮總督府令第一四七號改正
昭和十三年三月二十八日朝鮮總督府令第一二一號改正
昭和十三年十二月二十六日朝鮮總督府令第一四十七號改正

第一條 昭和八年朝鮮總督府令第四十號第四條第一號及第十一號ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレハ本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ貨物ノ輸入ニ必要ナル決済ヲ爲ス爲同令第三條ニ掲グル取引又ハ行爲(本令施行前締結シタル外國爲替ノ豫約ノ實行ヲ含ム)ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 一箇月ヲ通ジ金額百圓相當額以下ノ取引又ハ行爲ヲ爲スコトキ
二 第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ取得シタル信用狀又ハ同條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ取得シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之カ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲爲替ヲ買入ルルコトキ
三 本令施行ノ際輸入貨物又ハ外國ヨリ積出濟ノ貨物ニ關スル荷付爲替手形ノ決済ノ爲必要ナルコトキ
四 本令施行後一週間内ニ外國ヨリ積出シタル貨物ニ關スル荷付爲替手形ノ決済ノ爲昭和十二年一月八日前締結シタル外國爲替ノ豫約ノ實行ヲ爲スコトキ

第二條 昭和八年朝鮮總督府令第四十號第十一條第一號ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレハ本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ貨物ノ輸入ノ爲必要ナル信用狀ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ其ノ金額一箇月ヲ通ジ百圓相當額以下ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第三條 昭和八年朝鮮總督府令第四十號第十四條第一項ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレハ價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズシテ貨物又ハ證券ヲ輸出シタル者其ノ他該貨物又ハ證券ノ代金ヲ外國ヨリ受領スベキ者ハ其ノ代金ノ全部又ハ一部ヲ本邦ヘノ輸入貨物ノ代金ニ充當スルコトヲ得ズ
第四條 朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレハ本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ貨物ノ輸入ニ必要ナル決済ヲ爲ス爲外國ニ於テ有スル外貨證券若ハ外國通貨ヲ以テ表示スル預ケ金、貸付金其ノ他ノ債權ヲ處分シ又ハ此等ノモノヲ擔保トシテ外國ニ於テ外國通貨ヲ以テ表示スル借入金ヲ爲スコトヲ得ズ
第四條ノ二 朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレハ價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替

又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ本邦ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズル貨物ノ輸入ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 第一條乃至第四條ノ規定ニ依リ代金ノ決済ノ爲必要ナル取引又ハ行爲ニ付許可ヲ受ケタル貨物ヲ輸入スルコトキ
二 見本若ハ寄贈品トシテ又ハ博覽會ニ出品スル爲輸入スルコトキ
三 本邦ヨリ輸出シタル貨物ニシテ返送セラレタルモノヲ輸入スルコトキ
四 修繕ノ爲輸入スルコトキ
五 本邦ヨリ出漁セル船舶ノ漁獲物ヲ該船舶ニ依リ輸入スルコトキ
六 手荷物又ハ引越荷物ヲ輸入スルコトキ
七 官廳ノ必要ニ基キテ輸入スルコトキ
八 大正九年法律第五十三號第二條第一號第四號第五號及第二條ノ二ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受クル物品並ニ同法第六條ノ規定ニ依リ輸入スルコトヲ得ル物品ヲ輸入スルコトキ
九 前各號ニ該當スル場合ノ外一箇月ヲ通ジ價額百圓相當額以下ノ貨物ヲ輸入スルコトキ
大正九年法律第五十三號第二條ノ二第二號ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付テハ一年內ニ再輸出ヲ爲サズル

入税ヲ徵收セララル場合ニハ前項ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
第四條ノ三 第一條乃至第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル輸入前ニ之ヲ受テシ但シ前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第五條 外國爲替銀行第一條又ハ第二條ニ掲グル取引又ハ行爲ノ相手方ナル場合ニハ顧客ガ其ノ取引又ハ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルコト又ハ許可ヲ受クルノ要ナキコトヲ確認スベシ
第六條 昭和八年朝鮮總督府令第四十號第十八條第一項ノ規定ニ拘ラズ昭和十三年四月五日以後外國爲替銀行ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレハ外國(邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヲ除ク)ニ仕向ケタル信用狀ヲ發行スルコトヲ得ズ
第六條ノ三 昭和八年朝鮮總督府令第四十號第二十條ノ三ノ規定ニ拘ラズ昭和十四年一月六日以後兩商商ハ朝鮮總督ノ許可

ヲ受クルニ非ザレハ外國通貨又ハ外貨旅行小切手ノ買入ヲ爲スコトヲ得ズ
第六條ノ四 昭和十四年一月六日以後兩商商ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレハ外國通貨又ハ外貨旅行小切手ノ賣却ヲ爲スコトヲ得ズ
第六條ノ五 昭和八年朝鮮總督府令第四十號第十八條ノ三ノ規定ハ本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル取引又ハ行爲ニ付之ヲ準用ス
第七條 第一條乃至第四條、第六條及第六條ノ三ノ規定ニ依リ許可申請ニ關スル手續ニ付テハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第一條、第四條乃至第十一條、第十三條乃至第十五條、第十八條及第十九條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條前段ノ規定ニ依リ許可申請書ニハ適宜必要ナル事項ヲ記載スベシ
第七條ノ二 第四條ノ二、第六條ノ二及第六條ノ四ノ規定ニ依リ許可申請ニ關スル手續ニ付テハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第四條ノ二ノ規定ニ依リ許可申請書ニハ同令第十七條ノ規定ニ、第六條ノ二ノ規定ニ依リ許可申請書ニハ同令第十四條ノ規定ニ、第六條ノ四ノ規定ニ依リ許可申請書ニハ同令第四條ノ規定ニ準ジ

適宜必要ナル事項ヲ記載スベシ
 第八條 第一條第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ輸入貨物ニ關スル荷付爲替手形ノ決済ヲ爲サントスル者ハ該貨物ガ輸入後本令施行後輸入後二週間内ニ、該貨物ガ本令施行後輸入セラルル場合ハ輸入後二週間内ニ本令附屬書式第二號ニ準ジ其ノ輸入ニ關スル報告書一通ヲ作成シ直接朝鮮總督ニ提出スベシ

第九條 昭和十一年中ニ於テ價額通シテ五十萬圓以上ノ貨物ヲ本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘ輸入シタル者ハ本令附屬書式ニ準據シテ昭和十年及同十一年中ニ於ケル輸入貨物代金決済ノ實績ニ關スル報告書正副二通ヲ作成シ本令施行後一箇月内ニ最寄朝鮮銀行ヲ經テ朝鮮總督ニ提出スベシ

第十條 本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ貨物ノ輸入ニ必要ナル決済ヲ爲ス爲第一條乃至第四條ノ規定ニ依リ取引又ハ行爲ヲ爲ス者ハ本令附屬書式ニ準據シテ各月分ノ輸入報告書正副二通ヲ作成シ輸入地所管稅關(内地、臺灣、樺太又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ輸入ニ付テハ最寄朝鮮銀行)ヲ經テ翌月

十五日迄ニ朝鮮總督ニ提出スベシ但シ官廳ノ輸入スル貨物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十條ノ二 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ本邦ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マザル貨物ヲ本令施行地ニ輸入シタル者ハ前條ノ規定ニ依リ輸入報告書ヲ提出セラルル場合ヲ除クノ外前條ノ規定ニ準ジ輸入報告書ヲ提出スベシ但シ左ニ掲グル貨物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 慈善又ハ救恤ノ爲メ寄贈品
 二 官廳ノ輸入スル貨物
 三 手荷物又ハ引越荷物
 四 大正九年法律第五十三號第二條第四號、第五號及第二條ノ二第一號ニ掲グル物品並ニ同法第六條ノ規定ニ依リ輸入スル物品

第十一條 昭和八年朝鮮總督府令第四十號第二十七條ノ規定ハ本令ノ規定ニ依リ提出スベキ報告書ニ付テハ準用ス

從前ノ第二條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ取得シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之カ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲替ヲ買入ルルニ付テハ第一條ノ改正規定ニ拘ラズ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケルコトヲ要セズ

本令施行ノ際輸入若ハ外國ヨリ積出シタル貨物又ハ本令施行後一週間内ニ外國ヨリ積出シタル貨物ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

(昭和十二年朝鮮總督府令第三十四號)

附則
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行ノ際輸入若ハ外國ヨリ積出シタル貨物又ハ本令施行後一週間内ニ外國ヨリ積出シタル貨物ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

從前ノ第二條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ取得シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之カ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲替ヲ買入ルル爲メ場合ニ付テハ第一條ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケルコトヲ要セズ

(昭和十二年十二月十七日朝鮮總督府令第三十五號)
 附則
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 (昭和十三年三月二十八日朝鮮總督府令第三十一號)
 附則
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 (昭和十三年十二月二十六日朝鮮總督府令第二四十七號)
 (別記様式省略)

朝鮮ト滿洲國又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域トノ間ノ貨物ノ輸出入ニ關スル取引又ハ行爲及通關手續ニ基ク命令ニ關スル特例ノ件

(昭和十三年八月一日)
 朝鮮總督府令第五十二號
 八號改正
 昭和十四年七月七日朝鮮總督府令第五十八號改正

第一條 朝鮮ヨリ滿洲國ヘノ貨物ノ輸出ニ付昭和八年朝鮮總督府令第四十號第十三條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケベキ場合ハ同條ノ規定ニ拘ラズ稅關長ノ許可ヲ

受ケベシ
 前項ノ規定ニ依リ許可申請書ハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第十七條ノ規定ニ準ジ正副二通ヲ作成シ輸出申告ノ際稅關ニ之ヲ提出スベシ但シ郵便ニ依ル場合ニ於テハ差出郵便局ノ所在地ヲ管轄スル稅關ニ提出スベシ

第二條 滿洲國又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ朝鮮ヘノ貨物ノ輸入ニ必要ナル決済ヲ爲ス爲昭和十二年朝鮮總督府令第二號第一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケベキ場合ハ同條ノ規定ニ拘ラズ稅關長ノ許可ヲ受ケベシ

前項ノ規定ニ依リ許可申請書ハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第四條乃至第九條ノ規定ニ準ジ正副二通ヲ作成シ輸入申告ノ際稅關(郵便ニ依ル場合ニ於テハ郵便物通關手續第一條ニ掲グル郵便局ノ所在地ヲ管轄スル稅關)ニ之ヲ提出スベシ但シ貨物輸入前爲替ヲ買入レ又ハ通貨、外國通貨、小切手若ハ手形ノ送付若ハ携帶其ノ他送金スル場合又ハ第五條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ若ハ許可ヲ受ケズシテ滿洲國又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ朝鮮ニ仕向ケタル爲替ヲ取組マズシテ輸入シタル貨物ノ代金ヲ決済スル場合ハ該貨物ノ輸入申告ヲ爲スベキ

又ハ輸入申告ヲ爲シタル稅關(郵便ニ依ル場合ニ於テハ郵便物通關手續第一條ニ掲グル郵便局ノ所在地ヲ管轄スル稅關)ニ提出スベシ

第三條 滿洲國又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ朝鮮ヘノ貨物ノ輸入ニ必要ナル信用狀ヲ取得スル爲昭和十二年朝鮮總督府令第二號第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケベキ場合ハ同條ノ規定ニ拘ラズ稅關長ノ許可ヲ受ケベシ

前項ノ規定ニ依リ許可申請書ハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第十四條ノ規定ニ準ジ正副二通ヲ作成シ最寄稅關ニ之ヲ提出スベシ

第四條 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズシテ滿洲國又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘ貨物ヲ輸出シタル者其ノ他該貨物ノ代金ヲ滿洲國又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ受領スベキ者其ノ代金ノ全部又ハ一部ヲ滿洲國又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ朝鮮ヘノ輸入貨物ノ代金ニ充當スル爲昭和十二年朝鮮總督府令第二號第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケベキ場合ハ同條ノ規定ニ拘ラズ稅關長ノ許可ヲ受ケ

前項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ昭和八年朝鮮總督府令第四十一號第十八條ノ規定ニ準ジ正副二通ヲ作成シ該貨物ノ輸出申告ヲ爲シタル稅關(郵便ニ依リ輸出シタル場合ハ差出郵便局所在地ヲ管轄スル稅關)ニ之ヲ提出スベシ

第十條 及第十條ノ二ノ規定ニ依ル報告書ニシテ朝鮮ト滿洲國又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域トノ間ノ貨物ノ輸出入ニ關スルモノハ各同條ノ規定ニ拘ラズ輸出地又ハ輸入地所管稅關ニ提出スベシ但シ郵便局所ヲ經由スルコトヲ要ス

第十一條 陸接國境ニ由リ朝鮮ニ渡來スル旅行者本邦銀行券ヲ携帶輸入スル爲メ昭和八年朝鮮總督府令第四十號第十二條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケベキ場合ハ同條ノ規定ニ拘ラズ稅關長ノ許可ヲ受ケベシ

ヲ爲シタル取引又ハ行爲ニ付提出スベキ報告書ニ付テハ第六條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

附則 本令ハ昭和十四年一月六日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十三年十二月二十六日朝鮮總督府令第二百四十八號)

附則 本令ハ昭和十四年七月十日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十四年七月七日朝鮮總督府令第八號)

Table with columns: 輸入稅表番號, 品名. Items include 牛皮, 水牛皮, 馬皮, 豚皮, 生インディアンラッパ生ガタ, etc.

Table with columns: 品名, 品名. Items include 銅, 鉛, 錫, 水銀, 眞鍮及可銅, 木材.

(參照) 昭和十二年一月朝鮮總督府令第二號ハ輸入貨物代金ノ決済及外國爲替銀行ノ海外指圖ニ依ル支拂ノ制限ニ關スル外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件ナリ

臺灣外國爲替管理規則

(昭和八年四月二十六日) 臺灣總督府令第五十七號

附則

本令ニ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行ノ際既ニ爲シタル許可申請ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第一條 臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スルコトヲ得ズ

利益ヲ得ルコトヲ目的トシテ外國通貨、外國爲替(本邦ヨリ外國ニ仕向ケ又ハ外國ヨリ本邦ニ仕向ケタル爲替手形、小切手、支拂指圖書、電信爲替及郵便爲替ヲ謂フ但シ本邦ト邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域トノ間ノ間爲替ヲ除ク以下同ジ)又ハ外國ヨリ外國ニ仕向ケタル圓爲替ノ賣買ヲ爲スコトヲ得ズ

第三條 臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

一 邦貨ヲ對價トスル外國通貨、外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入

二 邦貨ヲ對價トスル外國爲替ノ賣却ニシテ外國爲替銀行ニ非ザル者ヲ相手方トスルモノ又ハ買爲替ノ相殺ヲ目的トスルモノ

三 外國通貨ヲ對價トスル外國爲替タル圓爲替ノ賣却

四 外國通貨ヲ對價トスル外國爲替タル圓爲替ノ買入ニシテ賣爲替ノ相殺ヲ目的トスルモノ

五 通貨、外國通貨、小切手又ハ手形ノ送付又ハ携帶其ノ他外國ニ對スル送金

ニシテ第一條及本條ノ他ノ各號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ

六 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地内ニ於テ爲ス支拂

第三條ノ二 外國ニ旅行セントスル者通貨、外國通貨、送金爲替又ハ信用狀(旅行小切手ヲ含ム以下同ジ)ヲ外國ニ携帶スルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ出發ニ際シ乗船港稅關官署ヲ經テ臺灣總督ニ報告スベシ

第三條ノ三 臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本邦銀行券ノ内百圓券ヲ外國ニ送付シ又ハ携帶スルコトヲ得ズ

第四條 左ニ掲グル場合ニハ第三條ノ規定ニ拘ラズ第三條ノ取引又ハ行爲ヲ爲スニ付臺灣總督ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス但シ第六號又ハ第十一號ニ掲グル場合ヲ除クノ外國通貨又ハ外國通貨ノ外國ヘノ送付又ハ携帶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 本邦ヨリノ貨物(證券ヲ除ク以下同ジ)本令ニ於テ證券トハ本邦又ハ外國ノ公債、社債、株式又ハ公債社債ノ利札ヲ謂フ)ノ輸出又ハ本邦ヘノ貨物ノ輸入ノ爲必要ナルトキ

二 再保險又ハ海上保險契約ニ基ク保險

金ノ支拂ヲ爲ス爲必要ナルトキ

三 本邦内ニ於テ支拂ハルル公債、社債若ハ銀行預金ノ利子又ハ金錢信託ノ利益ヲ外國ニ住所ヲ有スル權利者ニ送ル爲必要ナルトキ

四 契約上ノ義務トシテ外國ニ於テ六月以內ニ爲スベキ公債又ハ社債ノ元利拂基金交付ノ爲必要ナルトキ

五 外國ニ於テ特許權其ノ他ノ工業所有權ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲スニ必要ナル費用ヲ送ル爲必要ナルトキ

六 外國ニ旅行セントスル者其ノ旅費ニ充ツル爲其ノ取得シタル信用狀(第十一條第五號ノ規定ニ依リ取得シタルモノヲ除ク)ノ金額ト通ジ五百圓相當額以下ノ通貨、外國通貨又ハ送金爲替ヲ携帶スル爲必要ナルトキ

七 外國ニ旅行シ又ハ滞在スル者ニ對シ一年以內ノ所要ニ充ツベキ旅費、俸給、給料、手當、學費其ノ他之ニ類スル費用トシテ其ノ取得シタル信用狀ノ金額並ニ該旅行者又ハ滞在者ノ出發ニ際シ携帶シタル通貨、外國通貨、送金爲替及信用狀ノ金額ト通ジ千圓相當額以下

ヲ送ル爲必要ナルトキ又ハ本邦ニ滞在スル者外國ニ在ル家族ニ對シ一年以內ノ所要ニ充ツベキ生活費五百圓相當額以下ヲ送ル爲必要ナルトキ

八 臺灣總督ノ指定スル移民ガ其ノ移住定著ニ必要ナル費用ヲ送金スル爲又ハ移植民事業ヲ行フ會社其ノ他ノ法人ガ該移民ノ委託ヲ受ケ其ノ移住定著ニ必要ナル費用ヲ送金スル爲必要ナルトキ

九 本邦内又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ住所、本店又ハ支店事務所ヲ有スル者ノ該地域ニ於ケル事業又ハ營業ノ爲必要ナル資金ヲ該地域ニ送ル爲必要ナルトキ

十 本邦ニ於テ發行シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲爲替ヲ買入ルルトキ

十一 官廳ノ業務トシテ爲ストキ又ハ官廳ノ必要ニ基キテ爲ストキ

十二 他ノ各號ニ該當スル場合ノ外一年ヲ通ジ百圓相當額以下ノ金額ヲ送金シ又ハ支拂ヲ爲ス爲必要ナルトキ

第五條 銀行ハ第三條ノ規定ニ拘ラズ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スニ付臺灣總督ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

一 顧客(銀行ヲ含ム)ノ依頼ニ應ジ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入ヲ爲スコト

二 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ賣却ニ伴ヒ必要ナル決済ヲ爲ス爲邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入ヲ爲シ又ハ該地域ニ對スル送金ヲ爲スコト

三 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル取立爲替ノ取立代リ金ヲ該地域ヘ送金スルコト

四 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル送金爲替ノ支拂ヲ爲スコト

入シタル外貨證券又ハ本令第十二條第一項第一號、第三號若ハ第四號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ輸入シタル外貨證券ヲ本邦内ニ於テ取得スル場合及外國人ガ外國ニ於テ有スル資金ヲ以テ外貨證券ヲ取得スル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セズ内地、朝鮮又ハ樺太ニ於テ右ニ掲グル規定ニ相當スル資本逃避防止法又ハ外國爲替管理法ニ基ク命令ノ規定ニ依リ輸入シタル外貨證券ヲ本邦内ニ於テ取得スル場合亦同ジ

貸借ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ
 第九條 臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國通貨ヲ以テ表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ信託又ハ保險(再保險及海上保險ヲ除ク以下同ジ)ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ
 第十條 臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國通貨ヲ以テ表示スル地方債若ハ社債ヲ發行シ又ハ本邦内ニ在ル財產ヲ擔保トシテ外國ニ於テ外國通貨ヲ以テ表示スル借入金若ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ借入金ヲ爲スコトヲ得ズ但シ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ居住スル者ヨリ該地域ニ於テ邦貨ヲ以テ表示スル借入金ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 第十一條 臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國居住者ノ債務ニ付擔保ヲ供スルコトヲ得ズ但シ第六條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外國ニ在ル外貨證券ヲ擔保ニ供スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 第十二條 前項ノ規定ハ外國人ガ外國ニ於テ所有スル財產ヲ擔保ニ供スル場合ニハ之ヲ適用セズ
 第十三條 臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ信用狀ヲ取得

スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 一 本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ貨物ノ輸入ノ爲必要ナルトキ
 二 本邦ヨリノ貨物ノ輸出ノ爲必要ナルトキ
 三 再保險又ハ海上保險契約ニ基ク保險金ノ支拂ヲ爲ス爲必要ナルトキ
 四 外國ニ旅行スル者ノ旅費ニ充ツル爲該旅行者ノ携帶スル通貨、外國通貨及送金爲替ノ金額ト通ジ五百圓相當額以下ノ信用狀ヲ取得スルトキ
 五 官廳ヨリ支給ヲ受ケタル旅費其ノ他ノ給與ヲ携帶又ハ送付スル爲信用狀ヲ取得スルトキ
 六 外國ニ旅行シ又ハ滞在スル者ニ對シ一年以内ノ所要ニ充ツベキ旅費、俸給、給料、手當、學費其ノ他之ニ類スル費用トシテ第三條ニ掲グル取引又ハ行爲ノ目的物ノ金額並ニ該旅行者又ハ滞在者ノ出發ニ際シ携帶シタル通貨、外國通貨、送金爲替及信用狀ノ金額ト通ジ五百圓相當額以下ヲ送ル爲必要ナルトキ
 第十四條 臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非ザ

レバ證券ヲ輸入シ又ハ輸出スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 一 本邦内ニ支拂地ヲ有スル證券ノ支拂ヲ受クル爲支拂期日前三月以内又ハ支拂期日以後ニ輸入スルトキ
 二 株主、取締役、公債所有者又ハ社債權者ガ内外ノ法令又ハ定款ノ規定ニ基キ義務トシテ又ハ權利ノ行使若ハ保全ノ爲提出スベキ株式、公債又ハ社債ノ當該會社、官公署又ハ其ノ財務代理人ニ送付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ
 三 前號ニ掲グル株式、公債又ハ社債ノ提出ニ伴ヒ當該會社、官公署又ハ其ノ財務代理人ヨリ株式、公債又ハ社債ヲ返付又ハ交付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ
 四 株式引受人又ハ公債若ハ社債ノ應募者ニ對シ之ニ交付スベキ株式又ハ公債若ハ社債ヲ送付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ
 五 邦貨ヲ以テ表示スル證券ヲ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘ輸出シ又ハ該地域ヨリ輸入スルトキ但シ公債又ハ社債ノ利札ノ輸出ヲ除ク
 第十六條 證券ヲ輸入シ又ハ輸出シタル者ハ別ニ定

ムル所ニ依リ二週間以内ニ臺灣總督ニ報告スベシ但シ外國ニ旅行セントスル者ハ出發前報告ヲ爲スコトヲ要ス
 第十二條ノ二 臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本邦銀行券ヲ輸入スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 一 旅行者ガ金額二百圓以下ヲ携帶輸入スルトキ
 二 官廳ノ必要ニ基キテ輸入スルトキ
 第十三條 本邦銀行券又ハ外國通貨ヲ輸入スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ携帶輸入ノ場合ニハ本令施行地ニ到着ノ際到着港稅關官署ヲ經テ、其ノ他ノ場合ニ於テハ輸入後二週間以内ニ輸入地所轄稅關官署ヲ經テ臺灣總督ニ報告スベシ
 第十四條 臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マズシテ貨物ノ輸出ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 一 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘ輸出スルトキ
 二 見本トシテ又ハ寄贈ノ爲輸出スルトキ
 三 委託販賣ノ爲輸出スルトキ又ハ委託販賣ノ爲輸入シタル貨物ヲ外國向轉送

若ハ返送スルトキ
 四 貨物輸出前本邦内ニ於テ其ノ代金ヲ外國ヨリ受領済ナルトキ又ハ本邦内ニ於テ外國ヨリ代金受領済ノ貨物ト取換ノ爲輸出スルトキ
 五 貨物輸出後二月以内ニ本邦内ニ於テ外國ヨリ其ノ代金ヲ確實ニ受領スル契約アルトキ
 六 本邦ヨリノ貨物ノ輸出又ハ本邦ヘノ貨物ノ輸入ノ爲必要ナル販賣口錢、損害賠償金其ノ他ノ費用ノ支拂ニ充ツル爲輸出スルトキ
 七 檢收後代金ノ確定スベキ性質ノ貨物ヲ輸出スルトキ
 八 郵便ニ依リ價額千圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ又ハ鐵道ニ依リ代金引換ノ取扱ノ下ニ輸出スルトキ
 九 代金取立手形ニ依リ代金ヲ取立テ直ニ之ヲ本邦ニ回金スル契約ノ下ニ一月ヲ通ジ價額二萬圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ
 十 官廳ノ必要ニ基キ輸出スルトキ
 十一 價額百圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ
 十二 商慣習ニ依リ外國爲替ヲ取組マザルトキ

十三 手荷物、引越荷物又ハ船用品、漁業用品ヲ含ム以下同ジ)ヲ輸出スルトキ
 外國ヨリ仕向ケラレタル信用狀ニ基キ本邦内ノ銀行ニ宛テタル爲替手形ヲ振出し之ヲ賣却シタルトキ又ハ本邦内ノ銀行ニ船積書類等ヲ提供シ代金ヲ受領シタルトキハ外國爲替ヲ取組ミタルモノト看做ス
 第十四條ノ二 價額ノ全部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズシテ貨物ヲ輸出スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出申告又ハ郵便差出ニ際シ稅關又ハ差出郵便局ヲ經テ臺灣總督ニ報告スベシ但シ左ニ掲グル物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 一 慈善又ハ救恤ノ爲ノ寄附品
 二 官廳ノ輸出スル物
 三 價額百圓以下ノ物
 四 手荷物、引越荷物又ハ船用品
 第十五條 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組ミ貨物ヲ輸出スル者ハ其ノ爲替取組ニ關シ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出申告又ハ郵便差出ニ際シ稅關又ハ差出郵便局ヲ經テ臺灣總督ニ報告スベシ但シ前條各號ニ掲グル物ニ

付テハ此ノ限ニ在ラズ
 前項ノ報告ヲ爲シタル者其ノ後爲替取組金額ヲ變更セザリシトキハ別ニ定ムル所ニ依リ輸出申告又ハ郵便差出後二週間以内ニ爲替取組先銀行ノ證明ヲ附シ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ臺灣總督ニ報告スベシ

第十三條ノ四 前條第一項ノ報告ヲ爲シタル者其ノ後爲替取組マズ又ハ爲替取組金額ヲ變更シタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ輸出申告又ハ郵便差出後二週間以内ニ爲替取組先銀行ノ證明ヲ附シ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ臺灣總督ニ報告スベシ但シ爲替取組金額ヲ變更シタル場合ニ在リテハ爲替取組先銀行ノ證明ヲ附スルコトヲ要ス

價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組ミ貨物ヲ輸出シタル者其ノ取組ミタル爲替ノ償還又ハ買戻ヲ爲シタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ臺灣總督ニ報告スベシ

第十四條 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズシテ貨物又

ハ證券ヲ輸出シタル者其ノ他該貨物又ハ證券ノ代金ヲ外國ヨリ受領スベキ者ハ其ノ代金ヨリ該貨物又ハ證券ニ付外國ニ於テ要シタル費用及本邦ヘノ輸入貨物ノ代金ニ充當シタルモノヲ除キ該貨物又ハ證券ノ仕向地ニ到着後五月以内ニ之ヲ本邦ニ回收スベシ但シ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ代金ノ充當及回收狀況ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月分ヲ翌月十五日迄ニ臺灣總督ニ報告スベシ

第十五條 本邦内ニ於テ所有スル外貨證券ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後三月以内ニ本邦内ニ於テ之ヲ賣却シ若ハ取立依頼ヲ爲シ又ハ本邦内ニ於テ之ガ支拂ヲ受ケベシ但シ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 外國ニ於テ所有スル外貨證券又ハ外國ニ於テ支拂ヲ受ケル外貨證券ノ利金若ハ配當金ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後三月以内ニ之ガ支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ賣却スベシ但シ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

外國ニ於テ所有スル外貨證券ヲ賣却シ若ハ之ガ支拂ヲ受ケ又ハ外貨證券ノ利金若

ハ配當金ヲ外國ニ於テ支拂ヲ受ケ若ハ之ヲ受取ル權利ヲ讓渡シタルトキハ其ノ代リ金ハ其ノ外貨證券、外貨證券ノ利金又ハ配當金ニ付外國ニ於テ要シタル費用トシテ支拂ヒタルモノヲ除キ二月以内ニ之ヲ本邦ニ取寄スル手續ヲ爲スベシ但シ其ノ金額通ジテ千圓相當額未滿ナル場合又ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條ノ二 臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ外國ニ在ル不動産、鑛業權、森林伐採權若ハ工業所有權又ハ外國ノ國籍ヲ有スル船舶ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本邦内又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ在ル財產ヲ處分シ該地域ニ在ル財產ヲ取得スルコトキ

二 一年ヲ通ジ價格五萬圓相當額以下ノ財產ヲ取得スルコトキ

三 取得スベキ財產ノ代金ヲ送金シ又ハ之ガ支拂ヲ爲ス爲第三條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ

四 鑛業權又ハ工業所有權ノ設定ヲ受ケルコトキ

五 相續又ハ遺贈ニ因リ取得スルコトキ

六 官廳ノ取得スルコトキ

前項ノ規定ハ外國人ガ無償ニテ又ハ外國ニ於テ所有スル財產ヲ以テ前項ニ掲グル財產ヲ取得スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十六條ノ三 臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ事業、營業若ハ出資ヲ讓受ケ、出資ヲ爲シ又ハ本邦内ニ在ル財產ヲ取得スル爲外國ニ在ル財產ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本邦内若ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ於ケル事業、營業若ハ出資ヲ讓受ケ又ハ本邦内若ハ該地域ニ於テ出資ヲ爲ス爲該地域ニ在ル財產ヲ處分スルコトキ

二 外國ニ於ケル事業、營業若ハ出資ヲ讓受ケ又ハ外國ニ於テ出資ヲ爲ス爲一年ヲ通ジ價額五萬圓相當額以下ノ財產ヲ處分スルコトキ

三 第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外貨證券ヲ取得スルコトキ

四 第六條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外貨證券ヲ處分スルコトキ

前項ノ規定ハ外國人ガ外國ニ於テ所有スル財產ヲ處分スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十七條 昭和十一年十二月一日以後既存又ハ新設ノ店舗ニ於テ外國爲替業務ヲ營マントスル銀行ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケベシ

昭和十一年十一月三十日迄ニ外國爲替業務ヲ營ム旨ノ届出ヲ爲シタル銀行又ハ前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル銀行ヲ外國爲替銀行ト謂ヒ其ノ外國爲替業務ヲ營ム店舗ハ臺灣總督之ヲ告示ス

外國爲替銀行其ノ全部又ハ一部ノ店舗ニ於ケル外國爲替業務ヲ廢止セントスルトキ又ハ其ノ外國爲替業務ヲ營ム店舗ノ名稱若ハ位置ヲ變更セントスルトキハ臺灣總督ニ届出ヅベシ此ノ場合臺灣總督ハ之ヲ告示ス

第十八條 外國爲替銀行ハ第三條、第六條、第七條及第十二條ノ規定ニ拘ラズ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スニ付臺灣總督ノ許可ヲ受ケルコトヲ要セズ

一 顧客銀行ヲ含ムノ依頼ニ應ジ外國通貨又ハ外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)ノ賣買ヲ爲スコト

二 前號ノ規定ニ依リ外國通貨又ハ外國爲替ノ賣買ニ伴ヒ必要ナル範圍ニ於テ

黃金調整ノ爲ニ外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)ノ賣買ヲ爲シ又ハ外國ニ對スル送金ヲ爲スコト

三 外國ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル取立爲替ノ取立代リ金ヲ外國ニ送金スルコト

四 外國ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル送金爲替ノ支拂ヲ爲スコト

五 外貨證券ノ支拂ヲ受ケル爲(顧客ノ取立依頼ニ基クモノヲ含ム)支拂期日前三月以内又ハ支拂期日以後ニ之ヲ輸出スルコト

第十四條ノ規定ハ外國爲替銀行ガ外貨證券ヲ輸出スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第六條ノ二、第十條ノ二、第十五條、第十六條、第二十四條ノ二及第二十四條ノ三ノ規定ハ外國爲替銀行ニハ之ヲ適用セズ

第十八條ノ二 外國爲替銀行第三條又ハ第十一條ニ掲グル取引又ハ行爲ノ相手方トナル場合ニハ顧客(銀行ヲ含ム)ガ其ノ取引又ハ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルコト又ハ許可ヲ受ケルノ要ナキコトヲ確認スベシ

第十八條ノ三 臺灣總督ハ必要ト認ムルトキハ事項及人ヲ指定シテ本令ニ定ムル取引又ハ行爲ノ制限ヲ免除スルコトヲ得

第十九條 外國爲替銀行ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月ニ於ケル外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)ノ賣買、邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ賣買、取立爲替ノ取扱、送金爲替ノ支拂、信用狀ノ發行等ニ關スル明細書ヲ翌月十五日迄ニ臺灣總督ニ提出スベシ

外國爲替銀行ニ非ザル銀行ハ前項ニ準ジ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ賣買、取立爲替ノ取扱、送金爲替ノ支拂、信用狀ノ發行等ニ關スル明細書ヲ提出スベシ

第二十條 外國爲替銀行ハ別ニ定ムル所ニ依リ毎日ノ外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)賣買高及賣持又ハ買持ノ高等ヲ三日以内ニ臺灣總督ニ報告スベシ但シ外國ニ在ル店舗ノ分ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依リ旬毎ニ通計シ三日以内ニ本店ヨリ臺灣總督ニ報告スルヲ以テ足ル

第二十二條ノ二 業トシテ外國通貨ノ賣買ヲ

爲ス者(銀行ヲ除ク)ハ昭和十一年十二月三十一日迄ニ其ノ業務ヲ營ム店舗ヲ臺灣總督ニ届出ツベシ

昭和十一年十二月一日以後業トシテ外國通貨ノ賣買ヲ爲サントスル者ハ豫メ其ノ業務ヲ營ムベキ店舗ヲ臺灣總督ニ届出ツベシ

前二項ノ規定ニ依リ業トシテ外國通貨ノ賣買ヲ爲ス旨ノ届出ヲ爲シタル者ヲ兩替商ト謂ヒ其ノ業務ヲ營ム店舗ノ變更及廢止ハ豫メ之ヲ臺灣總督ニ届出ツベシ

第二十條ノ三 兩替商又ハ銀行ハ第三條及第七條ノ規定ニ拘ラズ其ノ業務上外國通貨又ハ外貨旅行小切手ノ買入ヲ爲スニ付臺灣總督ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

第二十條ノ四 兩替商外國通貨又ハ外貨旅行小切手ノ賣却ヲ爲ス場合ニハ相手方ガ其ノ買入ニ付本令其ノ他外國爲替管理法ニ基ク命令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルコト又ハ許可ヲ受クルノ要ナキコトヲ確認スベシ

第二十一條 證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ヲ主タル業トスル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月ニ於ケル外貨證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ニ關スル明細書ヲ翌月十五日迄ニ臺灣總督ニ提出スベシ

督ニ提出スベシ

第二十二條 昭和十二年十二月一日ニ外國居住者ト邦貨ヲ以テ表示スル預金又ハ消費貸借ノ契約ヲ爲シ居ル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ本令施行後一月以内ニ臺灣總督ニ報告スベシ但シ其ノ金額千圓未満ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 本令施行後本邦内又ハ外國ニ於テ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲シタル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月分ヲ翌月十五日迄ニ臺灣總督ニ報告スベシ但シ各號ノ取引又ハ行爲毎ニ其ノ目的物ノ金額通ジテ千圓相當額未満ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 外國通貨ノ取得又ハ處分
二 外國爲替ノ取得又ハ處分
三 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ取得又ハ處分
四 前各號ニ包含スル方法ニ依ラザル外國ニ對スル送金
五 外貨證券ノ取得又ハ處分
六 信用狀ノ發行又ハ取得
七 外國通貨ヲ以テ表示スル債權(外國爲替及外貨證券タルモノヲ除ク)又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對ス

ル債權ノ讓受

八 外國通貨ヲ以テ表示スル預金又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヘノ預金ノ預入又ハ引出

九 外國通貨ヲ以テ表示スル貸付金又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヘノ貸付金ノ貸付又ハ回收

十 外國通貨ヲ以テ表示スル信託ノ委託又ハ受託

十一 外國通貨ヲ以テ表示スル保險ノ契約ノ締結

十二 外國通貨ヲ以テ表示スル地方債又ハ社債ノ發行又ハ償還

十三 外國通貨ヲ以テ表示スル預り金又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ預り金ノ受入又ハ拂戻

十四 外國通貨ヲ以テ表示スル借入金又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ借入金ノ借入又ハ返済

十五 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地内ニ於テ爲ス支拂又ハ之ガ受領

外國ニ旅行セントスル者ハ前項ノ期限ニ拘ラズ出發前報告ヲ爲スベシ

第二十四條 前條ノ規定ハ第一項第二號ヲ

除クノ外國人ガ外國ニ於テ爲シタル取引又ハ行爲ニ付之ヲ適用セズ

第二十四條ノ二 本令施行地内ニ於テ外國居住者ト交互計算勘定其ノ他ノ相殺勘定ヲ有スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月ニ於ケル其ノ内容ヲ翌月十五日迄ニ臺灣總督ニ報告スベシ

第二十四條ノ三 外國ニ於テ事業又ハ營業ヲ爲ス者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ事業又ハ營業ニ關シ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ外國ニ於テ生シタル收入支出及本邦トノ間ノ送金其ノ他資金移動ノ状況並ニ各期末ニ於テ外國ニ有スル資産負債ノ内容ヲ臺灣總督ニ報告スベシ

前項ノ規定ニ依リ臺灣總督ニ提出スベキ報告書ハ各期間經過後一月以内ニ之ヲ當該地ヨリ發送シ本店又ハ之ニ準ズルモノニ於テ之ヲ接受後遲滞ナク提出スベシ

第二十四條ノ四 外國ニ財産(外貨證券、預金、貸付金及信託ノ受益權ヲ除ク)ヲ有スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ財産ニ關シ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ於ケル増減ノ内容及各期末ニ於ケル現在高ヲ臺灣總督ニ報告

スベシ但シ該財産ノ期末現在高通ジテ一萬圓相當額未満ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ官廳又ハ外國ニ於テ事業若ハ營業ヲ爲ス者ニ之ヲ適用セズ

前條第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 第十九條、第二十一條及第二十三條ノ規定ニ依リ外國ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付臺灣總督ニ提出スベキ明細書又ハ報告書ハ翌月十五日迄ニ之ヲ當該地ヨリ發送シ本店ニ於テ其ノ接受後遲滞ナク提出スベシ

第二十六條 外國通貨、外國爲替若ハ外貨證券ヲ有スル者、外國通貨ヲ以テ表示スル預金、消費貸借、信託若ハ保險ノ契約ヲ爲シ居ル者又ハ外國居住者ト邦貨ヲ以テ表示スル預金若ハ消費貸借ノ契約ヲ爲シ居ル者本令施行地内ニ住所ヲ有スルニ至リタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ翌月十五日迄ニ臺灣總督ニ届出ツベシ但シ其ノ金額千圓相當額未満ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ外國爲替以外ノモノニ付テハ外國人ニ之ヲ適用セズ

第二十七條 本令ニ依リ一定ノ期間内ニ明細書又ハ報告書ヲ提出スベキ義務ヲ負フ者變異其ノ他ノ已ムヲ得ザル事故ニ由リ其ノ期間内ニ提出スルコト能ハザルトキハ其ノ事故止ミタルトキ其ノ事由ヲ具シテ遲滞ナク提出スベシ

第二十八條 臺灣總督必要アリト認ムルトキハ事項及人ヲ指定シテ本令ニ定ムルモノノ外報告ヲ徵シ又ハ本令ニ定ムル報告ヲ免除シ若ハ報告ノ期限ヲ延長スルコトヲ得

第二十九條 臺灣總督必要アリト認ムルトキハ官吏ヲシテ何人ニ對シテモ外國爲管理法第一條ノ禁止若ハ制限又ハ同法第四條ノ處分命令ニ關シ必要ナル事項ニ付其ノ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十條 臺灣總督ハ左ニ掲グル財産ヲ有スル者ニ對シ本令ニ定ムルモノノ外之ヲ臺灣總督ノ指定スル者ニ賣却シ其ノ他之ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ其ノ處分ノ禁止若ハ制限ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本令ノ規定ニ依リ臺灣總督ノ許可ヲ受クル場合及臺灣總督ニ報告スベキ場合ノ手續ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第三十二條 本令ハ昭和八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十三條 本令ノ規定ニ依リ各月分ニ付キ提出スベキ明細書又ハ報告書ハ昭和八年四月分ヨリ之ヲ提出スベシ

第三十四條 昭和八年三月以前ノ各月分ニ付昭和七年府令第三十四號臺灣資本逃避防止規則第七條、第八條、第九條第二項又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ明細書又ハ報告書ヲ提出セザリシ者ニ付テハ仍同令ヲ適用ス同令第三條第三項ノ規定ニ依リ報告書ヲ提出セザリシ者ニ付亦同ジ

第三十五條 第二十二條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ提出スベキ明細書又ハ報告書ニシテ特ニ遠隔ノ地ノ分ニ付テハ郵便ニ依リ本令ノ規定ヲ知り得ベキ月ノ翌月十五日迄ニ當該地ヲ發送スルヲ以テ足ル

第三十六條 昭和六年府令第七十一號又ハ昭和七年府令第三十四號臺灣資本逃避防止規則ノ規定ニ依リ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタル者ハ當該取引又ハ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三十七條 昭和六年府令第六十七號及昭和六年府令第七十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前同令ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍同令ニ依ル

第三十八條 昭和十二年十一月三十日以前ニ邦貨ノ強制通用力ヲ有シタル地域ハ本令ノ適用ニ付テハ當分ノ内之ヲ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ト看做ス

臺灣外國爲管理規則施行細則

(昭和八年五月一日 臺灣總督府令第六十號)

清奉 昭和十一年十二月臺灣總督府令第九十八號改正
昭和十二年七月臺灣總督府令第六十二號改正
昭和十二年十二月二十五日臺灣總督府令第八十一號改正
昭和十三年六月九日臺灣總督府令第六十五號改正
昭和十三年十月八日臺灣總督府令第二百二十七號改正
昭和十四年六月二十八日臺灣總督府令第七十九號改正

第一條 昭和八年府令第五十七號臺灣外國爲管理規則(以下單ニ規則ト稱ス)ノ規定ニ依リ取引又ハ行爲ニ付臺灣總督ノ許可ヲ受ケントスル者ハ本令ノ規定ニ依リ正副二通ノ許可申請書ヲ作成シ最寄臺灣銀行(本店及各支店ヲ謂フ以下同ジ)ヲ經テ臺灣總督ニ提出スベシ但シ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ手續ニ依リ許可ヲ受クルコト業務上其ノ他ノ事由ニ依リ著シク支障アル場合ハ其ノ事情ヲ臺灣總督ニ申出ヅルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ臺灣總督ハ特別ノ手續ヲ定ムルコトアルベシ

第二條 規則第一條第一項ノ規定ニ依ル金貨幣又ハ金地金ノ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 輸出セントスル金貨幣又ハ金地金ノ種類、數量及價額
- 三 荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 輸出セントスル物ガ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 五 輸送ノ方法、積出港、仕向港及積載船名、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出

郵便局名

六 輸出ノ豫定年月日、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出ノ豫定年月日

七 輸出ノ目的其ノ他輸出ヲ必要トスル事由

八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第三條 規則第一條第一項ノ規定ニ依ル金貨幣又ハ金地金ヲ主タル材料ノ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載シ積出港稅關官署(郵便ニ依ル場合ニハ最寄稅關官署)ヲ經テ之ヲ臺灣總督ニ提出スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 輸出セントスル金貨幣又ハ金地金ヲ主タル材料ノ種類、數量、價額及金ノ含有量

三 前條第三號乃至第八號ニ記載スル事項

外國ニ旅行セントスル者ノ携帶スル手廻品及身邊裝飾品ハ前項ノ手續ニ依ラズ乘船前現品ヲ當該稅關官吏ニ呈示シテ其ノ許可ヲ受クルコトヲ得

第三條ノ二 規則第一條第二項ノ規定ニ依ル金貨幣ノ鑄造ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 金貨幣ノ種類及數量
- 三 鑄造ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 金貨幣ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 五 鑄造シタルモノノ處分先
- 六 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第四條 規則第三條第一號ノ規定ニ依ル外國通貨ノ買入ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 外國通貨ノ種類、金額及所在地
- 三 賣渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 四 買入ノ豫定期限
- 五 買入ノ目的其ノ他買入ヲ必要トスル事由
- 六 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第五條 規則第三條第一號又ハ同條第二號ノ規定ニ依ル外國爲替ノ買入又ハ賣却ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
- 二 爲替ノ種類及金額
- 三 爲替ノ受取人ノ住所、職業及氏名又

ハ商號

四 爲替ノ支拂地、支拂期日並ニ支拂人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 現物又ハ豫約ノ別及豫約ニ在リテハ受渡期

六 取引ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號

七 買入又ハ賣却ノ豫定期

八 買入又ハ賣却ノ目的其ノ他買入又ハ賣却ヲ必要トスル事由

九 其ノ他参考ト爲ルベキ事項

第六條 規則第三條第一號ノ規定ニ依ル邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 前條第一號乃至第四號ニ記載スル事項

二 賣渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

三 買入ノ豫定期

四 買入ノ目的其ノ他買入ヲ必要トスル事由

五 其ノ他参考ト爲ルベキ事項

第七條 規則第三條第三號又ハ第四號ノ規定ニ依ル圓爲替ノ買入又ハ賣却ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 爲替ノ種類、金額及對價トシテ支拂ヒ又ハ受取ルベキ外國通貨ノ種類

三 第五條第三號乃至第九條ニ記載スル事項

第八條 規則第五條ノ規定ニ依ル外國ニ對スル送金ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 送金ノ方法

三 送金額

四 受取人アル場合ニハ其ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 他人ニ託スル場合ニハ其ノ取扱者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 送金ノ豫定期

七 送金ノ目的其ノ他送金ヲ必要トスル事由

八 其ノ他参考ト爲ルベキ事項

第八條ノ二 規則第三條ノ三ノ規定ニ依ル銀行券ノ送付又ハ携帶ニ關スル許可申請書ニハ前條ノ規定ニ準ジ適宜必要ナル事項ヲ記載スベシ

外國ニ旅行セントスル者ハ乘船前項ノ規定ニ依ル許可申請書一通ヲ乘船港稅關

官署ヲ經テ臺灣總督ニ提出スルコトヲ得

第九條 規則第六條ノ規定ニ依ル外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地内ニ於テ爲ス支拂ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 委託者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

三 支拂金額

四 支拂委託ノ方法

五 支拂ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 支拂ノ豫定期

七 立替支拂ニ在リテハ其ノ代リ金回收ノ方法及豫定期

八 支拂人ト支拂委託者トノ關係及支拂ヲ委託セラレ之ヲ引受ケタル理由

九 其ノ他参考ト爲ルベキ事項

第十條 規則第六條又ハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル外貨證券ノ有償取得又ハ處分ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 外貨證券ノ名稱、金額、數量及所在地

三 對價タル通貨等ノ種類及豫定期

四 外貨證券ノ受渡又ハ擔保差入等ノ地

五 取引ノ相手方又ハ媒介人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 取得、賣却又ハ擔保差入等ノ豫定期

七 取得、賣却又ハ擔保差入等ヲ必要トスル事由

八 其ノ他参考ト爲ルベキ事項

第十一條 規則第七條ノ規定ニ依ル外國通貨ヲ以テ表示スル債權ノ讓受ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 債權ノ種類及金額

三 債務者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四 豫定期

五 讓渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 受渡ノ豫定期

七 讓受ノ目的其ノ他讓受ヲ必要トスル事由

八 其ノ他参考ト爲ルベキ事項

第十二條 規則第八條又ハ第九條ノ規定ニ依ル預金、消費貸借、信託又ハ保險ノ契約ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 預金種高ノ最高限度又ハ消費貸借、信託若ハ保險ノ契約金額

三 契約ノ種類及豫定主要條件

四 他人ノ計算ニ於ケルモノニ在リテハ其ノ者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 契約ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 契約ノ豫定期

七 契約ノ目的其ノ他契約ヲ必要トスル事由

八 其ノ他参考ト爲ルベキ事項

前項ノ許可申請書ハ當事者雙方ヨリ提出スルモノトス但シ當事者ノ一方ガ本令施行地外ニ在ルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 規則第十條ノ規定ニ依ル地方債若ハ社債ノ發行又ハ借入金ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 地方債若ハ社債發行豫定期又ハ借入金額及豫定主要條件

三 擔保物ノ種類、數量及所在地

四 地方債若ハ社債ノ豫定發行地又ハ豫定借入地

五 契約ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 地方債若ハ社債發行又ハ借入ノ豫定期

七 地方債若ハ社債發行又ハ借入ノ目的其ノ他地方債若ハ社債發行又ハ借入ヲ必要トスル事由

八 其ノ他参考ト爲ルベキ事項

第十三條ノ二 規則第十條ノ二ノ規定ニ依ル擔保提供ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 擔保提供ノ豫定期

三 擔保物ノ種類、數量及所在地

四 債務者タル外國居住者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 債權者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 債務ノ金額及主要條件

七 擔保提供ヲ必要トスル事由

八 其ノ他参考ト爲ルベキ事項

第十四條 規則第十一條ノ規定ニ依ル信用狀ノ取得ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 信用狀ノ種類、金額及主要條件

三 信用狀ニ依ル手形振出人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四 信用狀發行者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 五 取得ノ豫定期
 六 取得ノ目的其ノ他取得ヲ必要トスル事由
 七 旅行信用狀ニ在リテハ旅行ノ豫定計畫及同一ノ旅行ノ爲他ニ取得スル旅行信用狀アルトキ又ハ別ニ攜帶若ハ送付スル旅費アルトキハ其ノ金額
 八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 第十五條 規則第十二條第一項ノ規定ニ依ル證券ノ輸入又ハ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 證券ノ名稱、數量及所在地
 三 證券ヲ取得シタル原因及時期
 四 證券ノ發送人及名宛人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 五 證券ガ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 六 輸送ノ方法及輸入ニ在リテハ郵便差出地又ハ輸入港及豫定積載船名、輸出ニ在リテハ差出郵便局名又ハ積出港及豫定積載船名

七 輸入又ハ輸出ノ豫定期但シ郵便ニ依リ輸出スルモノニ在リテハ差出ノ豫定期
 八 證券ガ賣買ノ目的タルモノニ在リテハ其ノ代金決済ノ方法及豫定期
 九 輸入又ハ輸出ノ目的其ノ輸入又ハ輸出ヲ必要トスル事由
 十 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 第十六條 證券ヲ携帶輸入セントスル者ハ本令施行地ニ到着ノ際前條ノ規定ニ依ル輸入許可申請書正副二通ヲ到着港稅關官署ヲ經テ臺灣總督ニ提出スルコトヲ得
 第十六條ノ二 規則第十二條ノ二ノ規定ニ依ル本邦銀行券ノ輸入ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 銀行券ノ名稱、種類、數量及金額
 三 銀行券ヲ取得シタル原因及時期
 四 銀行券ノ發送人及名宛人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 五 銀行券ガ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 六 輸送ノ方法、積出港、輸入港及積載船名

七 輸入ノ豫定期
 八 輸入ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
 九 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 前項ノ許可申請書ハ正副二通ヲ輸入地所轄稅關官署ヲ經テ臺灣總督ニ提出スベシ
 第十七條 規則第十三條第一項ノ規定ニ依ル價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 輸出貨物ノ品名、數量及價額
 三 荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 四 貨物ガ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 五 輸送ノ方法、積出港及積載船名但シ郵便ニ依ルモノニ在リテハ其ノ旨及差出郵便局名
 六 貨物ノ代金ノ受領ノ方法及見込時期
 七 本邦内ニ在ル者ヨリ代金ヲ支拂フ受取ル場合ニハ其ノ支拂人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 八 他人ガ外國ヨリ代金ヲ受領スル場合ニハ其ノ者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

九 輸出ノ豫定期但シ郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出ノ豫定期
 十 外國爲替ヲ取組マザル理由
 十一 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 前項ノ許可申請書ハ積出港稅關官署(郵便又ハ鐵道ニ依ル場合ニハ差出郵便局又ハ積出港所在地ヲ管轄スル稅關官署)ヲ經テ臺灣總督ニ提出スベシ但シ業務上其ノ他ノ事由ニ依リ著シク支障アル場合ハ最寄稅關官署ヲ經テ提出スルコトヲ得
 第十八條 規則第十四條第一項但書ノ規定ニ依ル價額ノ全部又ハ一部ニ付爲替ヲ取組マズシテ輸出シタル貨物又ハ證券ノ代金ノ不回收又ハ回收期間延長ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 他人ガ輸出申告又ハ郵便差出ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 三 荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 四 輸出貨物ノ品名又ハ輸出證券ノ名稱、數量、價額及送り狀金額
 五 輸出ノ時期及輸送ノ方法
 六 輸出貨物又ハ證券ノ仕向地及到着時

七 不回收金額又ハ回收期間延長ヲ必要トスル金額
 八 回收期間延長ノ場合ニ在リテハ回収ノ見込時期及方法
 九 不回收又ハ回收期間延長ヲ必要トスル理由
 十 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 前項ノ許可申請書ニシテ貨物ニ關スルモノニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス
 第十八條ノ二 規則第十五條又ハ第十六條第一項各但書ノ規定ニ依ル外貨證券等ノ賣却、取立依頼又ハ支拂金受領ノ期間延長ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 外貨證券ノ名稱、數量及所在地
 三 外貨證券、外貨證券ノ利金又ハ配當金ノ支拂期日及支拂金額
 四 期間延長ヲ必要トスル金額
 五 賣却、取立依頼又ハ支拂金受領ノ見込時期
 六 期間延長ヲ必要トスル理由
 七 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 第十八條ノ三 規則第十六條第二項但書ノ

規定ニ依ル外貨證券等ノ代リ金ノ不回收又ハ取寄期間延長ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 外貨證券ノ名稱、數量及所在地
 三 外貨證券、外貨證券ノ利金又ハ配當金ノ賣却又ハ支拂金受領ノ時期及金額
 四 賣却先又ハ支拂人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 五 不取寄金額又ハ取寄期間延長ヲ必要トスル金額
 六 取寄期間延長ノ場合ニ在リテハ取寄ノ見込時期及方法
 七 不取寄又ハ取寄期間延長ヲ必要トスル理由
 八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 第十八條ノ四 規則第十六條ノ二ノ規定ニ依ル不動産等ノ取得ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ
 一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 二 取得スル不動産ノ種類、數量及所在地
 三 取得ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
 四 對價タル通貨等ノ種類、數量、價額

及所在地

五 取得ノ豫定期時

六 取得ヲ必要トスル事由

七 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十八條ノ五 規則第十六條ノ三ノ規定ニ依ル財產ノ處分ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 出資先又ハ事業、營業、出資ノ讓受若ハ財產ノ取得ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號

三 出資又ハ出資ノ讓受ノ場合ニハ出資額及出資先ノ事業又ハ營業ノ財產及損益ノ狀況

四 事業又ハ營業ノ讓受ノ場合ニハ事業場又ハ營業場ノ所在地並ニ事業又ハ營業ノ種類、財產及損益ノ狀況

五 財產ノ取得ノ場合ニハ財產ノ種類、數量、價額及所在地

六 讓受又ハ取得ノ對價タル通貨等ノ種類、數量、價額及所在地

七 處分スル財產ノ種類、數量、價額及所在地

八 處分及出資、讓受又ハ取得ノ豫定期時

九 處分及出資、讓受又ハ取得ヲ必要トスル事由

十 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十八條ノ六 規則第十七條第一項ノ規定ニ依リ外國爲替業務ヲ營ムントスル場合ニ於ケル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 申請銀行ノ住所及商號

二 外國爲替業務ヲ營ムントスル店舗ノ名稱及所在地

三 前號ノ店舗ニ於ケル外國爲替業務開始ノ時期

四 外國爲替業務ヲ營ムコトヲ必要トスル理由

五 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十八條ノ七 規則第十七條第三項ノ規定ニ依ル届出書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 届出銀行ノ住所及商號

二 外國爲替業務ヲ廢止セントスル場合ニ在リテハ店舗ノ名稱及所在地、名稱又ハ位置ノ變更ノ場合ニ在リテハ新舊名稱又ハ新舊所在地

三 廢止又ハ變更ノ時期

四 廢止又ハ變更ヲ必要トスル理由

五 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十八條ノ八 規則第二十條ノ二第一項ノ規定ニ依ル届出書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一 届出者ノ住所、氏名又ハ商號及他ノ職業ヲ併セ營ム者ニ在リテハ其ノ職業

二 届出者法人ナルトキハ資本金、出資者ノ氏名及出資金額

三 業務ヲ營ム店舗ノ名稱及其ノ所在地

四 業務ヲ開始シタル時期

五 外國ニ本店、支店其ノ他ノ營業所又ハ取引店ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ名稱及所在地

六 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

規則第二十條ノ二第二項ノ規定ニ依ル届出書ノ記載ニ付テハ前項ノ規定ヲ、同條第三項ノ規定ニ依ル届出書ノ記載ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十九條 法人ノ代表者、代理人、使用者其ノ他ノ從業者ガ外國ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付許可ヲ申請スル場合ニハ法人ノ本店又ハ主たる事務所ヨリ申請書ヲ提出スベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ取引又ハ行爲ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號ヲモ記載スベシ

人ノ代理人、使用者其ノ他ノ從業者ガ外國ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付許可ヲ申請スル場合ニハ本人又ハ使用主ヨリ申請書ヲ提出スベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ取引又ハ行爲ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號ヲモ記載スベシ

國ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付許可ヲ申請スル場合ニハ本人又ハ使用主ヨリ申請書ヲ提出スベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ取引又ハ行爲ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號ヲモ記載スベシ

第二十條 規則第一條第三項、第十二條第二項、第十三條ノ二、第十三條ノ四第一項若ハ第二項、第十九條、第二十條、第二十一條、第二十三條、第二十四條ノ二又ハ第二十四條ノ四第一項ノ規定ニ依リ臺灣總督ニ提出スベキ明細書又ハ報告書ハ別ニ定ムルモノノ外各別記様式ニ準據シテ正副二通ヲ作成シ規則第一條第三項、第十三條ノ二、第十三條ノ四第一項及第二項ノ規定ニ依リ報告書ヲ除キ最寄臺灣銀行ヲ經テ提出スベシ

規則第三條ノ二、第十二條ノ三、第十三條ノ三第一項及第二項ノ規定ニ依リ臺灣總督ニ提出スベキ報告書ハ別記様式ニ準據シテ一通ヲ作成シ提出スベシ

規則第十四條第二項ノ規定ニ依リ臺灣總督ニ提出スベキ報告書ハ別記様式ニ準據シテ一通ヲ作成シ直接提出スベシ

規則第二十四條ノ三第一項ノ規定ニ依リ臺灣總督ニ提出スベキ報告書ハ正副二通ヲ作成シ最寄臺灣銀行ヲ經テ提出スベシ

規則第二十二條又ハ第二十六條第一項ノ規定ニ依リ報告書又ハ届出書ハ規則第二十三條ノ規定ニ依リ各報告書ノ様式ニ準據シテ作成スベシ

規則第十七條第三項又ハ第二十條ノ二ノ規定ニ依ル届出書及前項ノ報告書又ハ届出書ハ正副二通ヲ作成シ最寄臺灣銀行ヲ經テ提出スベシ

前各項ノ手續ニ依リ報告スルコト業務上其ノ他ノ事由ニ依リ著シク支障アル場合ハ其ノ事情ヲ臺灣總督ニ申出ヅルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ臺灣總督ハ特別ノ手續ヲ定ムルコトアルベシ

第二十一條 昭和七年府令第三十五號臺灣資本逃避防止規則施行細則第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リスタンプノ押捺ヲ受ケザルモノニ付テハ所有者其ノ他ノ利害關係人ハ最寄臺灣銀行ニ證券ヲ呈示シテ別記様式ノスタンプノ押捺ヲ受クルコトヲ得

第二十二條 規則第十二條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケテ輸入シタル外貨證券ニシテ同條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタルモノニ付テハ所有者其ノ他ノ利害關係人ハ最寄臺灣銀行ニ證券ヲ呈示シ別記様式ノスタンプノ押捺ヲ受クルコトヲ得

第二十三條 官廳ハ臺灣總督ノ許可ヲ得テ前二條ノ規定ニ該當セザル外貨證券ニ別記様式ノスタンプノ押捺ヲ受クルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年府令第三十五號臺灣資本逃避防止規則施行細則ノ規定ニ依リ提出セル許可申請書ハ當該事項ニ關スル本令ノ規定ニ依リ提出セルモノト看做ス

附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十三年九月三十日以前ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付提出スベキ報告書ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル(昭和十三年十月八日臺灣總督府令第百二十七號)

附則

本令ハ昭和十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十四年六月二十八日臺灣總督府令第七十九號)
 (樣式省略)

臺灣外國爲替管理臨時措置規則

(昭和十二年一月十六日)
 臺灣總督府令第三號

沿革
 昭和十一年七月二十一日臺灣總督府令第六十號改正
 昭和十二年八月三十一日臺灣總督府令第七十七號改正
 昭和十二年十二月二十五日臺灣總督府令第百八十二號改正
 昭和十三年三月三十日臺灣總督府令第三十號改正
 昭和十三年十月八日臺灣總督府令第百二十八號改正

輸入貨物代金ノ決済及外國爲替銀行ノ海外

指圖ニ依ル支拂ノ制限ニ關スル外國爲替管理
 理法ニ基テ命令ノ件左ノ通定ム

- 第一條 臺灣外國爲替管理規則(以下規則ト稱ス)第四條第一號及第十一號ノ規定ニ拘ラズ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ貨物ノ輸入ニ必要ナル決済ヲ爲ス爲規則第三條ニ據グル取引又ハ行爲(本令施行前締結シタル外國爲替ノ豫約ノ實行ヲ含ム)ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 - 一 販賣以外ノ目的ヲ以テ一月ヲ通ジ金額五十圓相當額以下ノ取引又ハ行爲ヲ爲ストキ
 - 二 第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ取得シタル信用狀又ハ同條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ取得シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲爲替ヲ買入ルルトキ
 - 三 本令施行ノ際輸入貨物又ハ外國ヨリ積出濟ノ貨物ニ關スル荷付爲替手形ノ決済ノ爲必要ナルトキ
 - 四 本令施行後一週間内ニ外國ヨリ積出シタル貨物ニ關スル荷付爲替手形ノ決済ノ爲本令施行前締結シタル外國爲替

ノ豫約ノ實行ヲ爲ストキ

- 第二條 規則第十一條第一號ノ規定ニ拘ラズ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ貨物ノ輸入ノ爲必要ナル信用狀ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ販賣以外ノ目的ヲ以テシ其ノ金額一月ヲ通ジ五十圓相當額以下ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第三條 規則第十四條第一項ノ規定ニ拘ラズ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズシテ貨物又ハ證券ヲ輸出シタル者其ノ他該貨物又ハ證券ノ代金ヲ外國ヨリ受領スベキ者ハ其ノ代金ノ全部又ハ一部ヲ本邦ヘノ輸入貨物ノ代金ニ充當スルコトヲ得ズ
- 第四條 臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ貨物ノ輸入ニ必要ナル決済ヲ爲ス爲外國ニ於テ有スル外貨證券若ハ外國通貨ヲ以テ表示スル預ケ金、貸付金其ノ他ノ債權ヲ處分シ又ハ此等ノモノヲ擔保トシテ外國ニ於テ外國通貨ヲ以テ表示スル借入金ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條ノ二 臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルニ非

- ザレバ價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ本邦ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズル貨物ノ輸入ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 第一條乃至第四條ノ規定ニ依リ代金ノ決済ノ爲必要ナル取引又ハ行爲ニ付許可ヲ受ケタル貨物ヲ輸入スルトキ
 - 二 見本若ハ寄附品トシテ又ハ博覽會ニ出品スル爲輸入スルトキ
 - 三 本邦ヨリ輸出シタル貨物ニシテ返送セラレタルモノヲ輸入スルトキ
 - 四 修繕ノ爲輸入スルトキ
 - 五 本邦ヨリ出漁セル船舶ノ漁獲物ヲ該船舶ニ依リ輸入スルトキ
 - 六 手荷物又ハ引越荷物ヲ輸入スルトキ
 - 七 官廳ノ必要ニ基キテ輸入スルトキ
 - 八 前各號ニ該當スル場合ノ販賣以外ノ目的ヲ以テ一月ヲ通ジ價格五十圓相當額以下ノ貨物ヲ輸入スルトキ
- 第四條ノ三 第一條乃至第四條ノ規定ニ依リ許可ハ貨物ノ輸入前ニ之ヲ受ケベシ但シ前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 外國爲替銀行第一條又ハ第二條ニ

- 據グル取引又ハ行爲ノ相手方トナル場合ニハ顧客ガ其ノ取引又ハ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルコト又ハ許可ヲ受ケタルノ要ナキコトヲ確認スベシ
- 第六條 外國爲替銀行ハ規則第十八條第一項ノ規定ニ拘ラズ昭和十三年四月五日以後臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ規則第三條、第六條、第七條又ハ第十二條ニ據グル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第六條ノ二 外國爲替銀行ハ昭和十三年四月五日以後臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ外國(邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヲ除ク)ニ仕向ケタル信用狀ヲ發行スルコトヲ得ズ
- 第六條ノ三 規則第二十條ノ三ノ規定ニ拘ラズ昭和十三年十月十五日以後兩特商ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ外國通貨又ハ外國旅行小切手ノ買入ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第六條ノ四 昭和十三年十月十五日以後兩特商ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ外國通貨又ハ外貨旅行小切手ノ賣却ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第六條ノ五 規則第十八條ノ三ノ規定ハ本

令ニ依リ許可ヲ受ケベキ取引又ハ行爲ニ

- 付之ヲ準用ス
- 第七條 第一條乃至第四條、第六條及第六條ノ三ノ規定ニ依リ許可申請ニ關スル手續ニ付テハ臺灣外國爲替管理規則施行細則(以下施行細則ト稱ス)第一條、第四條乃至第十一條、第十三條乃至第十五條、第十八條及第十九條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條前段ノ規定ニ依リ許可申請書ニハ適宜必要ナル事項ヲ記載スベシ
- 第七條ノ二 第四條ノ二、第六條ノ二及第六條ノ四ノ規定ニ依リ許可申請ニ關スル手續ニ付テハ施行細則第一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第四條ノ二ノ規定ニ依リ許可申請書ニハ施行細則第十七條ノ規定ニ、第六條ノ二ノ規定ニ依リ許可申請書ニハ施行細則第十四條ノ規定ニ、第六條ノ四ノ規定ニ依リ許可申請書ニハ施行細則第四條ノ規定ニ準ジ適宜必要ナル事項ヲ記載スベシ
- 第八條 第一條第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ輸入貨物ニ關スル荷付爲替手形ノ決済ヲ爲セントスル者ハ該貨物ガ輸入濟ナル場合ハ本令施行

後二週間以内ニ、該貨物が本令施行後輸入セラルル場合ハ輸入後二週間以内ニ別記第二號様式ニ準ジ其ノ輸入ニ關スル報告書一通ヲ作成シ直接臺灣總督ニ提出スベシ

第九條 昭和十一年中ニ於テ價額通ジテ五十萬圓以上ノ貨物ヲ本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘ輸入シタル者ハ別記第一號様式ニ依リ昭和十年及十一年中ニ於ケル輸入貨物代金決済ノ實績ニ關スル報告書正副二通ヲ作成シ本令施行後一月以内ニ最寄臺灣銀行ヲ經テ臺灣總督ニ提出スベシ

第十條 本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ貨物ノ輸入ニ必要ナル決済ヲ爲ス爲第一條乃至第四條ノ規定ニ依リ取引又ハ行爲ヲ爲ス者ハ別記第二號様式ニ依リ各月分ノ輸入報告書正副二通ヲ作成シ輸入港所轄稅關官署(郵便又ハ鐵道ニ依ルモノニ付テハ輸入地所轄稅關官署、内地、朝鮮、樺太又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ輸入ニ付テハ最寄臺灣銀行)ヲ經テ翌月十五日迄ニ臺灣總督ニ提出スベシ但シ官廳ノ輸入スル貨物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十條ノ二 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ本邦ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マザル貨物ヲ本令施行地ニ輸入シタル者ハ前條ノ規定ニ依リ輸入報告書ノ提出セラルル場合ヲ除クノ外前條ノ規定ニ準ジ輸入報告書ヲ提出スベシ但シ左ニ掲グル貨物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一 慈善又ハ救恤ノ爲ノ寄贈品
二 官廳ノ輸入スル貨物
三 手荷物又ハ引越荷物
第十一條 規則第二十八條ノ規定ハ本令ニ依リ提出スベキ報告書ニ付之ヲ準用ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ當分ノ内其ノ效力ヲ有ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行ノ際輸入濟若ハ外國ヨリ積出濟ノ貨物又ハ本令施行後五日以内ニ外國ヨリ積出シタル貨物ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
從前ノ第二條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ取得シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲替ヲ

買入ルルニ付テハ第一條ノ規定ニ拘ラズ臺灣總督ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ(昭和十二年十二月二十五日臺灣總督府令第四百八十二號)

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行ノ際輸入濟若ハ外國ヨリ積出濟ノ貨物又ハ本令施行後五日以内ニ外國ヨリ積出シタル貨物ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
從前ノ第二條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ取得シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲替ヲ買入ルルニ付テハ第一條ノ規定ニ拘ラズ臺灣總督ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ(昭和十三年十月八日臺灣總督府令第四百二十八號)(別記様式省略)

外國爲替管理法ニ基ク命令及同法ニ關スル施行手續

(昭和八年四月二十九日 樺太廳令第七號)

沿革 昭和十一年九月十八日樺太廳令第五十二號改正

外國爲替管理法ニ基ク命令及同法ニ關スル施行手續ニ付テハ昭和八年大藏省令第七號及昭和八年大藏省令第八號ヲ準用ス但シ同令中大藏大臣トアルハ樺太廳長官、東京所在店舗トアルハ豊原所在店舗、昭和八年大藏省令第八號第二十二條中最寄日本銀行トアルハ日本銀行小樽支店、昭和十二年大藏省令第一號第十條ノ輸入報告書ノ提出ハ輸入港所管稅關經由トシ昭和八年大藏省令第八號第一條及第二十條中最寄日本銀行ヲ經由スベキ規定ハ之ヲ除ク

附則

本令ハ昭和八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス昭和七年樺太廳令第三十號第三條又ハ第四條ノ規定ニ依リスタンプノ押捺ヲ受ケ得ル外貨證券ニシテ未ダ其ノ押捺ヲ受ケザルモノニ付テハ所有者其ノ他ノ利害關係人ハ日本銀行小樽支店ニ證券ヲ呈示シテ昭和八年

外國爲替管理法(樺太、關東州)

大藏省令第八號附屬様式ノスタンプノ押捺ヲ受クルコトヲ得
昭和六年樺太廳令第四十七號及昭和六年樺太廳令第四十八號ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前同令ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍同令ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十二年九月十八日樺太廳令第五十二號)

關東州外國爲替管理令

(昭和八年九月十六日 勅令第二百四十一號)

沿革 昭和九年十二月二十六日勅令第三百九十五號改正 昭和十二年十一月三十日勅令第六百八十五號改正

第一條 關東州ニ於ケル外國爲替管理ニ關シテハ外國爲替管理法ニ依ル但シ同法中政府トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使、外國トアルハ本令施行地外、本邦内トアルハ本令施行地内、外國居住者トアルハ本令施行地外ニ居住スル者、本法トアルハ本令トス
第二條 本令ニ於テ依ルコトヲ定メタル外國爲替管理法中外國通貨トハ本邦貨幣、日本銀行兌換券、朝鮮銀行券及臺灣銀行券以外ノ通貨ヲ謂フ
第三條 大使ハ本令ニ定ムルモノノ外外國爲替管理ニ關シ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得
第四條 大使ハ本令ニ依ル其ノ職權ノ一部ヲ以テ關東州廳長官ニ委任スルコトヲ得

附則

本令施行ノ期日ハ關東長官之ヲ定ム(昭和八年關東廳令第四十七號ニ依リ同年十月五日ヨリ施行)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和九年十二月二十六日勅令第三百九十五號)

附則

本令ハ昭和十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十二年十一月二十日勅令第六百八十五號)

關東州外國爲替管理規則

(昭和十二年十月八日)
關東局令第九十五號

沿革

昭和十二年十二月一日關東局令第九十一號改正
昭和十三年三月二十九日關東局令第九十二號改正
昭和十三年九月十三日關東局令第七十六號改正
昭和十三年十一月八日關東局令第九十一號改正
昭和十四年七月八日關東局令第六十九號改正
昭和十四年七月二十四日關東局令第七十四號改正

第一條 滿洲國駐劄特命全權大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ本令施行地外内地朝鮮、臺灣、樺太、滿洲國、關東州ニ輸出スルコトヲ得ズ但シ大使ノ許可ヲ受ケ鑄造スル場合

ハ此ノ限ニ在ラズ
第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケテ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出手續又ハ郵便差出ニ際シ滿洲國稅關又ハ差出郵便局所ヲ經テ大使ニ報告スベシ
第二條 商取引上ノ必要其ノ他ノ實需ニ基クコトナク邦貨又ハ滿洲國國幣ト稱スル爲替相場ノ變動ニ依リ利益ヲ得ルコトヲ目的トシテ外國通貨國幣ヲ除ク、外國爲替本令施行地ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル爲替手形、小切手、支拂指圖書、電信爲替及郵便爲替ヲ謂フ但シ本令施行地内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ノ間ノ圓爲替又ハ本令施行地外ヨリ本令施行地外ニ仕向ケタル圓爲替又ハ國幣爲替ノ買賣ヲ爲スコトヲ得ズ
第三條 一 邦貨又ハ國幣ヲ對價トスル外國通貨又ハ外國爲替ノ買入
二 邦貨又ハ國幣ヲ對價トスル外國爲替ノ賣却ニシテ外國爲替銀行ニ非ザル者ヲ相手方トスルモノ又ハ買爲替ノ相殺

ヲ目的トスルモノ
三 外國通貨ヲ對價トスル外國爲替タル圓爲替又ハ國幣爲替ノ賣却
四 外國通貨ヲ對價トスル外國爲替タル圓爲替又ハ國幣爲替ノ買入ニシテ賣爲替ノ相殺ヲ目的トスルモノ
五 通貨、滿洲國通貨、外國通貨、小切手又ハ手形ノ送付又ハ携帶其ノ他本令施行地外内地、朝鮮、臺灣、樺太ニ對シテ送金ニシテ第一條及本條ノ他ノ各號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ
六 本令施行地外内地、朝鮮、臺灣、樺太ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地内ニ於テ爲ス支拂
第三條ノ二 本令施行地外内地、朝鮮、臺灣、樺太ニ旅行セントスル者通貨、滿洲國通貨、外國通貨、送金爲替及信用狀、旅行小切手ヲ本令施行地外内地、朝鮮、臺灣、樺太ニ携帶スルコトハ別ニ定ムル所ニ依リ出發ニ際シ關東州廳ヲ經テ大使ニ報告スベシ
第三條ノ三 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本邦銀行券及滿洲國紙幣ノ内百圓券ヲ本令施行地外内地、朝鮮、臺灣、樺太ニ送付シ又ハ携帶スルコトヲ得ズ
第四條 左ニ掲グル場合ニハ第三條ノ規定ニ拘ラズ第三條ノ取引又ハ行爲ヲ爲スニ付

大使ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ但シ第三號又ハ第六號ニ掲グル場合ヲ除クノ外通貨、滿洲國通貨又ハ外國通貨ノ本令施行地外ヘノ送付又ハ携帶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一 本令施行地外内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ニ於テ發行シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲爲替ヲ買入ルルコトキ
六 官廳ノ業務トシテ爲ストキ又ハ官廳ノ必要ニ基キテ爲ストキ
七 前各號ニ該當スル場合ノ外一年ヲ通シ百圓相當額以下ノ金額ヲ送金シ又ハ支拂ヲ爲ス爲必要ナルトキ
第五條 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國通貨ヲ以テ表示スル公債社債株式又ハ公債社債ノ利息ヲ謂フ但シ外國通貨ヲ以テ表示スルモノハ之ヲ外國通貨ト看做ス以下同ジ
有價ニテ取得スルコトヲ得ズ
昭和八年十月五日ニ本令施行地内ニ在リタル外貨證券又ハ關東州外國爲替管理規則中從前ノ第七條第一項及本令第十一條第一項ノ規定ニ依リ適法ニ轉移シタル外貨證券ヲ本令施行地内ニ於テ取得スル場合及外國人滿洲人ガ本令施行地外内地、朝鮮、臺灣、樺太ニ於テ有スル資金ヲ以テ外貨證券ヲ取得スル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セズ
第五條ノ二 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレ

ルコトキ又ハ本令施行地内ニ滞在スル者本令施行地外ニ在ル家族ニ對シ一年內ノ所要ニ充ツベキ生活費千圓相當額以下ヲ送金爲必要ナルトキ
五 本令施行地外内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ニ於テ發行シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲爲替ヲ買入ルルコトキ
六 官廳ノ業務トシテ爲ストキ又ハ官廳ノ必要ニ基キテ爲ストキ
七 前各號ニ該當スル場合ノ外一年ヲ通シ百圓相當額以下ノ金額ヲ送金シ又ハ支拂ヲ爲ス爲必要ナルトキ
第五條 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國通貨ヲ以テ表示スル公債社債株式又ハ公債社債ノ利息ヲ謂フ但シ外國通貨ヲ以テ表示スルモノハ之ヲ外國通貨ト看做ス以下同ジ
有價ニテ取得スルコトヲ得ズ
昭和八年十月五日ニ本令施行地内ニ在リタル外貨證券又ハ關東州外國爲替管理規則中從前ノ第七條第一項及本令第十一條第一項ノ規定ニ依リ適法ニ轉移シタル外貨證券ヲ本令施行地内ニ於テ取得スル場合及外國人滿洲人ガ本令施行地外内地、朝鮮、臺灣、樺太ニ於テ有スル資金ヲ以テ外貨證券ヲ取得スル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セズ
第五條ノ二 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレ

本令施行地外内地、朝鮮、臺灣、樺太ニ在ル外貨證券ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ第十八條第一項ノ規定ニ依リ支拂期日到来後ニ賣却スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ規定ハ外國人滿洲人ニ之ヲ適用セズ
第六條 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ邦貨又ハ國幣ヲ對價トシテ外國通貨ヲ以テ表示スル債權外國爲替及外貨證券ヲ讓受クルコトヲ得ズ
第七條 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テ何人ノ計算ニ於テスルラ間ハズ外國通貨ヲ以テ表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ預金又ハ消費貸借ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ
第八條 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國通貨ヲ以テ表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ信託又ハ保險再保險及海上保險ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ
第九條 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國通貨ヲ以テ表示スル地方債若ハ社債ヲ發行シ又ハ本令施行地外内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ニ在ル財產ヲ擔保トシテ本令施行地外内地、朝鮮、臺灣、樺太ニ於テ外國通貨ヲ以テ表示スル借入金若ハ邦貨又ハ國幣ヲ以テ表示スル本令施行地外内地、朝鮮、臺灣、

樺太及滿洲國ヲ除クニ居住スル者ヨリノ借入金ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條ノ二 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ居住スル者ノ債務ニ付擔保ヲ供スルコトヲ得ズ但シ第五條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受テ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ在ル外貨證券ヲ擔保ニ供スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ外國人滿洲人ガ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ在テ所有スル財產ヲ擔保ニ供スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十條 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ信用狀内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ニ仕向ケタル取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本令施行地若ハ滿洲國ヘノ貨物ノ輸入又ハ本令施行地若ハ滿洲國ヨリノ貨物ノ輸出ノ爲ニ必要ナルトキ

二 本令施行地外ニ旅行スル者ノ旅費ニ充ツル爲該旅行者ノ攜帶スル通貨滿洲國通貨外國通貨及送金爲替ノ金額ト通ジ五百圓相當額以下ノ信用狀ヲ取得スルトキ

三 官廳ヨリ支給ヲ受ケタル旅費其ノ他ノ給與ヲ攜帶又ハ送付スル爲信用狀ヲ

取得スルトキ

四 本令施行地外ニ旅行シ又ハ滞在スル者ニ對シ一年内ノ所要ニ充ツベキ旅費供給給料手當學費其ノ他之ニ類スル費用トシテ第三條ニ掲グル取引又ハ行爲ノ目的物ノ金額並ニ該旅行者又ハ滞在者ノ出發ニ際シ攜帶シタル送金爲替及信用狀ノ金額ト通ジ五百圓相當額以下ヲ送ル爲必要ナルトキ

第十一條 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ證券ヲ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ輸入シ又ハ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ輸出スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本令施行地内ニ支拂地ヲ有スル證券ノ支拂期日以後ニ輸入スルトキ

二 株主取締役公債所有者又ハ社債權者方内外ノ法令又ハ定款ノ規定ニ基キ義務トシテ又ハ權利ノ行使若ハ保全ノ爲提出スベキ株式公債又ハ社債ヲ當該會社官公署又ハ其ノ財務代理人ニ送付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ

三 前號ニ掲グル株式公債又ハ社債ノ提出ニ伴ヒ當該會社官公署又ハ其ノ財務代理人ヨリ株式公債又ハ社債ヲ返付又ハ交付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ

四 株式引受人又ハ公債若ハ社債ノ應募者ニ對シ之ニ交付スベキ株式又ハ公債若ハ社債ヲ送付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ

五 邦貨又ハ國幣ヲ以テ表示スル證券ヲ滿洲國ヘ輸出シ又ハ滿洲國ヨリ輸入スルトキ但シ公債及社債ノ輸出ヲ除ク

證券ヲ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ輸入シ又ハ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ輸出シタル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ二週間内ニ大使ニ報告スベシ但シ本令施行地外ニ旅行セントスル者ハ出發前報告ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條ノ二 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ本邦銀行券及滿洲國紙幣ヲ輸入スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 旅行者ガ金額二百圓以下ヲ攜帶輸入スルトキ

二 官廳ノ必要ニ基キテ輸入スルトキ

第十一條ノ三 本邦銀行券滿洲國紙幣又ハ外國通貨ヲ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヨリ輸入スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ攜帶輸入ノ場合ハ本令施行地ニ到着ノ際其ノ他ノ場合ハ輸入後二週間内ニ關東州廳ヲ經テ大使ニ報告スベシ

第十二條 大使ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マズシテ貨物ヲ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ輸出スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 見本トシテ又ハ寄贈ノ爲輸出スルトキ

二 委託販賣ノ爲輸出スルトキ又ハ委託販賣ノ爲輸入シタル貨物ヲ本令施行地外向轉送若ハ返送スルトキ

三 貨物輸出前本令施行地内ニ於テ其ノ代金ヲ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ受領シタルトキ又ハ本令施行地内ニ於テ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ代金受領済ノ貨物ト取換ノ爲輸出スルトキ

四 貨物輸出後二月内ニ本令施行地内ニ於テ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ其ノ代金ヲ確實ニ受領スル契約ヲルトキ

五 本令施行地若ハ滿洲國ヨリノ貨物ノ輸出又ハ本令施行地若ハ滿洲國ヘノ貨物ノ輸入ノ爲ニ必要ナル販賣口錢損害賠償金其ノ他ノ費用ノ支拂ニ充ツル爲輸出スルトキ

六 檢收後代金ノ確定スベキ性質ノ貨物ヲ輸出スルトキ

七 郵便ニ依リ價額千圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ又ハ鐵道ニ依リ代金引換ノ取扱ノ下ニ輸出スルトキ

八 代金取立手形ニ依リ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ代金ヲ取立テ直チニ之ヲ本令施行地ニ回金スル契約ノ下ニ一月ヲ通ジ價額二萬圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ

九 官廳ノ必要ニ基キテ輸出スルトキ

十 價額百圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ

十一 手荷物引越荷物又ハ船用品用品ヲ含ム以テ輸出スルトキ

本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ仕向ケラレタル信用狀ニ基キ本令施行地内ノ銀行ニ宛テタル爲替手形ヲ振出シ之ヲ賣却シタルトキ又ハ本令施行地内ノ銀行ニ積蓄額等ヲ提供シ代金ヲ受領シタルトキハ外國爲替ヲ取組ミタルモノト看做ス

第十三條 價額ノ全部ニ付外國爲替ヲ取組マズシテ貨物ヲ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ輸出スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出手續又ハ郵便差出ニ際シ滿洲國稅關又ハ差出郵便局所ヲ經テ大使ニ報告スベシ但シ左ニ掲グル物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 慈善又ハ救恤ノ爲ノ寄贈品

二 官廳ノ輸出スル物

三 價額百圓以下ノ物

第十四條 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組ミ貨物ヲ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ輸出スル者ハ其ノ爲替取組ニ關シ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出手續又ハ郵便差出ニ際シ滿洲國稅關又ハ差出郵便局所ヲ經テ大使ニ報告スベシ但シ前條各號ニ掲グル物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ報告ヲ爲シタル者其ノ後爲替取組金額ヲ變更セザリシトキハ別ニ定ムル所ニ依リ輸出手續又ハ郵便差出後二週間内ニ爲替取組先銀行ノ證明ヲ附シ滿洲國稅關又ハ差出郵便局所ヲ經テ大使ニ報告スベシ

第十五條 前條第一項ノ報告ヲ爲シタル者其ノ後爲替取組マズ又ハ爲替取組金額ヲ變更シタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ輸出手續又ハ郵便差出後二週間内ニ滿洲國稅關又ハ差出郵便局所ヲ經テ大使ニ報告スベシ但シ爲替取組金額ヲ變更シタル場合ニ在リテハ爲替取組先銀行ノ證明ヲ附スルコトヲ要ス

價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組ミ貨物ヲ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ輸出シタル者其ノ取組ミタル爲替ノ價

還又ハ買戻ヲ爲シタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ滿洲國稅關又ハ差出郵便局所ヲ經テ運送ナク大使ニ報告スベシ

第十六條 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マズシテ貨物又ハ證券ヲ本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太、滿洲國ヲ除クニ輸出シタル者其ノ他該貨物又ハ證券ノ代金ヲ本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太、滿洲國ヲ除クニ受領スベキ者ハ其ノ代金ヨリ該貨物又ハ證券ニ付本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太、滿洲國ヲ除クニ於テ要シタル費用及本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太、滿洲國ヲ除クニヨリ本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太、滿洲國ヲ除クニ輸入貨物ノ代金ニ充當シタル金額ヲ除キ該貨物又ハ證券ノ仕向地ニ到着後五月内ニ之ヲ本令施行地ニ回收スベシ但シ大使ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ代金ノ充當及回收狀況ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月分ヲ翌月十五日迄ニ大使ニ報告スベシ

第十七條 本令施行地、内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ニ於テ所有スル外貨證券ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後三月内ニ本令施行地、内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ニ於テ之ヲ賣却シ若ハ取立依頼ヲ爲シ又ハ本令施行地、内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ニ於テ之ガ支拂ヲ受ケ

ベシ但シ大使ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除クニ於テ所有スル外貨證券又ハ本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除クニ於テ支拂ヲ受ケタル外貨證券ノ利益若ハ配當金ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後三月内ニ之ガ支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ賣却スベシ但シ大使ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除クニ於テ所有スル外貨證券ヲ賣却シ若ハ之ガ支拂ヲ受ケ又ハ外貨證券ノ利益若ハ配當金ヲ本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除クニ於テ支拂ヲ受ケ若ハ之ヲ受取ル權利ヲ讓渡シタルトキハ其ノ代り金ハ其ノ外貨證券、外貨證券ノ利益又ハ配當金ニ付本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除クニ於テ支拂ヒタルモノヲ除キ二月内ニ之ヲ本令施行地ニ取寄スル手續ヲ爲スベシ但シ其ノ金額通ジテ千圓相當額未滿ナル場合又ハ大使ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條ノ二 大使ノ許可ヲ受ケタルモノ非ザレバ本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除クニ在ル不動産、礦業權、森林伐採權若ハ工業所

有權又ハ本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除クニ國籍ヲ有スル船舶ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 一年ヲ通ジ價額五萬圓相當額以下ノ財産ヲ取得スルトキ

二 取得スベキ財産ノ代金ヲ送金シ又ハ之ガ支拂ヲ爲ス爲第三條又ハ第十條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ

三 礦業權又ハ工業所有權ノ設定ヲ受ケルトキ

四 相続又ハ遺贈ニ因リ取得スルトキ

五 官廳ノ取得スルトキ

前項ノ規定ハ外國人 滿洲人ガ無價ニテ又ハ本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除クニ於テ有スル財産ヲ以テ前項ニ掲グル財産ヲ取得スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十八條ノ三 大使ノ許可ヲ受ケタルモノ非ザレバ事業、營業若ハ出資ヲ讓受ケ、出資ヲ爲シ又ハ本令施行地内ニ在ル財産ヲ取得スル爲本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除クニ在ル財産ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除クニ在ル事業、營業若ハ出資ヲ讓受ケ又ハ本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除クニ於テ

出資ヲ爲ス爲一年ヲ通ジ價額五萬圓相當額以下ノ財産ヲ處分スルトキ

二 第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外貨證券ヲ取得スルトキ

三 第五條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外貨證券ヲ處分スルトキ

前項ノ規定ハ外國人 滿洲人ガ本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除クニ於テ所有スル財産ヲ處分スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十九條 昭和十二年十月八日以後既存又ハ新設ノ店舗ニ於テ外國爲替業務ヲ營業マントスル銀行ニ準ズル者ハ大使ノ許可ヲ受ケベシ

昭和十二年十月七日迄ニ外國爲替業務ヲ營業目ノ届出ヲ爲シ若ハ許可ヲ受ケタル銀行又ハ前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル銀行ヲ外國爲替銀行ト謂ヒ其ノ外國爲替業務ヲ營業ム店舗ハ大使之ヲ告示ス

外國爲替銀行其ノ全部又ハ一部ノ店舗ニ於ケル外國爲替業務ヲ廢止セントスルトキ又ハ其ノ外國爲替業務ヲ營業ム店舗ノ名稱若ハ位置ヲ變更セントスルトキハ豫メ大使ニ届出ツベシ此ノ場合大使ハ之ヲ告示ス

第二十條 外國爲替銀行ハ第三條、第五條、第六條及第十一條ノ規定ニ拘ラス左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スニ付大使ノ許可

ヲ受ケルコトヲ要セズ

一 顧客ノ依頼ニ應ジ外國通貨又ハ外國爲替業務上外國爲替ニ買賣ヲ爲スコト

二 前號ノ規定ニ依リ外國通貨又ハ外國爲替ノ買賣ニ伴ヒ必要ナル範圍ニ於テ資金調達ノ爲ニ外國爲替業務上外國爲替ノ買賣ヲ爲シ又ハ本令施行地外ニ對スル送金ヲ爲スコト

三 本令施行地外ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル取立爲替ノ取立代り金ヲ本令施行地外ニ送金スルトキ

四 本令施行地外ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル送金爲替ノ支拂ヲ爲スコト

五 外貨證券ノ支拂ヲ受ケル爲顧客ノ取寄メニ支拂期日前三月内又ハ支拂期日以後ニ之ヲ輸出スルトキ

第十六條ノ規定ハ外國爲替銀行ガ外貨證券ヲ輸出スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十七條及第十八條ノ規定ハ外國爲替銀行ニハ之ヲ適用セズ大使必要ト認ムルトキハ第一項ノ取引又ハ行爲ニ付許可ヲ受ケシムルコトヲ要ス

第二十一條 外國爲替銀行第三條又ハ第十條ノ規定ニ依リ取引又ハ行爲ニ付本令施行地外ニ取寄メニ付ケタルコト又ハ許可ヲ受ケタルノ要ナキコトヲ確認スベシ

第二十一條ノ二 大使ハ必要ト認ムルトキハ事項及人ヲ指定シテ本令ニ定ムル取引又ハ行爲ノ制限ヲ免除スルコトヲ得

第二十二條 外國爲替銀行ハ別ニ定ムル所ニ依リ毎日ノ外國爲替業務上外國爲替ニ及本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國トノ間ノ爲替ノ買賣、取立爲替ノ取扱、送金爲替ノ支拂、信用狀ノ發行等ニ關スル明細書ヲ三日内ニ大使ニ提出スベシ

第二十三條 外國爲替銀行ハ別ニ定ムル所ニ依リ毎日ノ外國通貨及外國爲替業務上モノヲ含ムノ買賣高及賣持又ハ買持ノ高等ヲ三日内ニ大使ニ報告スベシ

第二十四條 (削除)

第二十五條 (削除)

第二十六條 證券ノ買賣又ハ其ノ媒介ヲ主タル業トスル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月ニ於ケル外貨證券ノ買賣又ハ其ノ媒介ニ關スル明細書ヲ翌月十五日迄ニ大使ニ提出スベシ

第二十六條ノ二 昭和十三年三月一日ニ本令施行地外 内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヲ除クニ居住スル者ト邦貨又ハ國幣ヲ以テ表示スル預金又ハ消費貸借ノ契約ヲ爲シ居ル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ本令施行後一月内ニ大使ニ報告スベシ但シ其ノ金額千圓未滿ナル場

合此ノ限ニ在ラス

第二十七條 本令施行後本令施行地ノ内外ニ於テ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲シタル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月分ヲ翌月十五日迄ニ大使ニ報告スベシ但シ各號ノ取引又ハ行爲毎ニ其ノ目的物ノ金額通ジテ千圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 外國通貨ノ取得又ハ處分
- 二 外國爲替ノ取得又ハ處分
- 三 前各號ニ包含スル方法ニ依ラザル本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ對スル送金
- 四 外貨證券ノ取得又ハ處分
- 五 信用狀ノ發行又ハ取得
- 六 外國通貨ヲ以テ表示スル債權外國爲替券タル又ハ邦貨若ハ國幣ヲ以テ表示スル本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ居住スル者ニ對スル債權ノ讓受
- 七 外國通貨ヲ以テ表示スル預ケ金又ハ邦貨若ハ國幣ヲ以テ表示スル本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ居住スル者ニ對スル預ケ金ノ預ケ入又ハ引出
- 八 外國通貨ヲ以テ表示スル貸付金又ハ邦貨若ハ國幣ヲ以テ表示スル本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ居住スル者ニ對スル貸付金ノ貸付

ノ貸付金ノ貸付又ハ回收

- 九 外國通貨ヲ以テ表示スル信託ノ委託又ハ受託
- 十 外國通貨ヲ以テ表示スル保險ノ契約ノ締結
- 十一 外國通貨ヲ以テ表示スル地方債又ハ社債ノ發行又ハ償還
- 十二 外國通貨ヲ以テ表示スル預リ金又ハ邦貨若ハ國幣ヲ以テ表示スル本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ居住スル者ヨリノ預リ金ノ受入又ハ拂戻
- 十三 外國通貨ヲ以テ表示スル借入金又ハ邦貨若ハ國幣ヲ以テ表示スル本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ居住スル者ヨリノ借入金ノ借入又ハ返済
- 十四 本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地内ニ於テ爲ス支拂又ハ之ガ受領

ト交互計算勘定其ノ他相殺勘定ヲ有スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月ニ於ケル其ノ内容ヲ翌月十五日迄ニ大使ニ報告スベシ

第二十八條ノ三 本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ於テ事業又ハ營業ヲ爲ス者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ事業又ハ營業ニ關シ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ於テ生ジタル收入支出及本令施行地トノ間ノ送金其ノ他資金移動ノ狀況並ニ各期末ニ於テ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ有スル資産負債ノ内容ヲ大使ニ報告スベシ

前項ノ規定ニ依リ大使ニ提出スベキ報告書ハ各期間經過後一月内ニ之ヲ當該地ヨリ發送シ本店又ハ之ニ準ズル者ニ於テ其ノ接受後遲滞ナク提出スベシ

第二十八條ノ四 本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ於テ事業又ハ營業ヲ爲ス者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ財産ニ關シ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ於ケル増減ノ内容及各期末ニ於ケル現在高ヲ大使ニ報告スベシ但シ該財産ノ期末現在高通ジテ一萬圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ官廳又ハ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ニ於テ事業若ハ營業ヲ爲ス者ニハ之ヲ適用セズ

第二十八條ノ五 第二十七條ノ規定ニ依リ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ於ケル取引又ハ行爲ニ付大使ニ提出スベキ報告書ハ翌月十五日迄ニ之ヲ當該地ヨリ發送シ本店又ハ之ニ準ズルモノニ於テ其ノ接受後遲滞ナク提出スベシ

第二十九條 外國通貨、外國爲替若ハ外貨證券ヲ有スル者、外國通貨ヲ以テ表示スル預金、消費貸借、信託若ハ保險ノ契約ヲ爲シ居ル者又ハ本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ居住スル者ト邦貨若ハ國幣ヲ以テ表示スル預金若ハ消費貸借ノ契約ヲ爲シ居ル者本令施行地内ニ住所ヲ有スルニ至リタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ翌月十五日迄ニ大使ニ届出ヅベシ但シ其ノ金額千圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ外國爲替以外ノモノニ付テハ外國人ヲ除クニ付テ之ヲ適用セズ

第三十條 本令ニ依リ一定ノ期間内ニ明確書又ハ報告書ヲ提出スベキ義務ヲ負フ者

變災其ノ他ノ已ムラ得ザル事故ニ因リ其ノ期間内ニ提出スルコト能ハザルトキハ其ノ事故止ミタルトキ其ノ事由ヲ具シテ遲滞ナク提出スベシ

第三十一條 大使必要ト認ムルトキハ事項及人ヲ指定シテ本令ニ定ムルモノノ外報告ヲ徵シ又ハ本令ニ定ムル報告ヲ免除シ若ハ報告ノ期限ヲ延長スルコトアルベシ

第三十二條 大使必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ何人ニ對シテモ關東州外國爲替管理令ニ於テ依リコトヲ定メタル外國爲替管理法第一條ノ禁止若ハ制限又ハ同法第四條ノ處分命令ニ關シ必要ナル事項ニ付其ノ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲サシムルコトアルベシ

第三十三條 大使ハ左ニ掲グル財産ヲ有スル者ニ對シ本令ニ定ムルモノノ外之ヲ大ニ使ノ指定スル者ニ資却シ其ノ他之ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ其ノ處分ノ禁止若ハ制限ヲ爲スコトヲ得

一 金地金、外國通貨又ハ外國爲替
二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ邦貨若ハ國幣ヲ以テ表示スル本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ居住スル者ニ對スル債權

三 本令施行地外内地朝鮮臺灣樺太及滿洲國ヲ除クニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ガザルモノ

第三十四條 本令施行地内ニ住所又ハ營業

所若ハ事務所ヲ有スル者ノ内地、朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付テハ該地域ノ外國爲替管理法ノ適用ヲ受ケル場合ニ於テハ第一條、第三條及第五條ノ規定ヲ適用セズ

第三十五條 外國爲替管理法ニ基キ命令ノ規定ニ依リ大藏大臣、朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官ノ許可ヲ取ケタル取引又ハ行爲ニ付テハ本令ノ規定ニ依リ大使ノ許可ヲ受ケルコトヲ要セズ

第三十六條 (削除)

第三十七條 本令ニ依リ大使ノ許可ヲ受ケル場合及大使ニ報告スベキ場合ノ手續ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十二條乃至第十五條ノ規定ハ昭和十二年十月十三日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前後ノ規定ニ依リ爲シタル處分
又ハ手續中ノモノハ本令ノ定ムル處ニ依リ
處分シ又ハ手續シタルモノト看做ス
(昭和十二年十二月一日關東局令第百一十二號)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第二十八條ノ二ノ改正規定ニ依リ提出スベ
キ報告書ハ昭和十三年四月分ヨリ、第二十
八條ノ三及第二十八條ノ四ノ改正規定ニ依
リ提出スベキ報告書ハ昭和十三年一月ヨリ
六月迄ノ期間ノ分ヨリ之ヲ提出スベシ
(昭和十三年三月二十九日關東局令第百一十二號)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十三年九月十三日關東局令第七十六號)

附則

本令ハ昭和十三年十一月十五日ヨリ之ヲ施
行ス
(昭和十三年十一月八日關東局令第九十一號)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十四年七月八日關東局令第六十九號)

附則

本令ハ昭和十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十四年七月二十四日關東局令第七十四號)

關東州外國爲替管理規則施行
細則

(昭和十二年十月八日
關東局令第九十六號)

昭和十二年十二月一日關東局令第百一十二號改正
昭和十三年三月二十九日關東局令第十三號改正
昭和十三年八月一日關東局令第六十八號改正
昭和十三年九月十三日關東局令第七十七號改正
昭和十三年十一月八日關東局令第九十一號改正
昭和十四年七月二十四日關東局令第七十五號改正
第一條 關東州外國爲替管理規則 以下規則
ノ規定ニ依リ取引又ハ行爲ニ付滿洲國駐
節特命全權大使ノ許可ヲ受ケントスル者
ハ本令ニ依リ正副二通ノ許可申請書ヲ作
成シ滿洲中央銀行大連支行ヲ經テ大使ニ
提出スベシ
前項ノ手續ニ依リ許可ヲ受ケルコト業務

上其ノ他ノ事由ニ因リ著シク支障アル場
合ハ其ノ事情ヲ大使ニ申出ヅルコトヲ得
此ノ場合ニ於テハ大使ハ特別ノ手續ヲ定
ムルコトアルベシ
第二條 規則第一條第一項ノ規定ニ依ル金
貨幣、金地金ノ輸出ニ關スル許可申請書
ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二 輸出セントスル金貨幣又ハ金地金ノ
種類、數量及價額
三 荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
四 輸出セントスル物ガ他人ノ所有ニ屬
スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業
及氏名又ハ商號
五 輸送ノ方法、輸出地、仕向地及船舶
ニ依ルモノニ在リテハ積載船名、郵便
ニ依ルモノニ在リテハ差出郵便局所名
六 輸出ノ豫定年月日、郵便ニ依ルモノ
ニ在リテハ差出ノ豫定年月日
七 輸出ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事
由
八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
第三條 規則第一條第一項ノ規定ニ依ル金
ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸
出ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記
スベシ
一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 輸出セントスル金ノ合金又ハ金ヲ主
タル材料トスル物ノ種類、數量、價額及
金ノ含有量
三 前條第三號乃至第八號ニ掲グル事項
本令施行地外ニ旅行セントスル者ノ携帶
スル手廻品及身邊裝飾品ハ前項ノ手續ニ
依ラズ現品ヲ當該官吏ニ呈示シテ其ノ許
可ヲ受ケルコトヲ得
第三條ノ二 規則第一條第二項ノ規定ニ依
ル金貨幣ノ鑄造ニ關スル許可申請書ニハ
左ノ事項ヲ記載スベシ
一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二 金貨幣ノ種類及數量
三 鑄造ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又
ハ商號
四 金貨幣ノ所有者ノ住所、職業及氏名
又ハ商號
五 鑄造シタルモノノ處分先
六 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第四條 規則第三條第一號ノ規定ニ依ル外
國通貨ノ買入ニ關スル許可申請書ニハ左
ノ事項ヲ記載スベシ
一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二 外國通貨ノ種類、金額及所在地
三 賣渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
四 買入ノ豫定期期
五 取引ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事
由
第六條 規則第三條第三號又ハ同條第四號
ノ規定ニ依ル圓爲替又ハ國幣爲替ノ買入
又ハ賣却ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事
項ヲ記載スベシ
一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二 爲替ノ種類、金額及對價トシテ支拂
ヒ又ハ受取ルベキ外國通貨ノ種類

六 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
第五條 規則第三條第一號又ハ同條第二號
ノ規定ニ依ル外國爲替ノ買入又ハ賣却ニ
關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載ス
ベシ
一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二 爲替ノ種類及金額
三 爲替ノ受取人ノ住所、職業及氏名又
ハ商號
四 爲替ノ支拂地及支拂期日並ニ支拂人
ノ住所、職業及氏名又ハ商號
五 現物又ハ豫約ノ別及豫約ニ在リテハ
受渡期
六 取引ノ相手方ノ住所、職業及氏名又
ハ商號
七 買入又ハ賣却ノ豫定期期
八 買入又ハ賣却ノ目的其ノ他之ヲ必要
トスル事由
九 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第七條 規則第三條第五號ノ規定ニ依ル本
令施行地外ニ對スル送金ニ關スル許可申
請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二 送金ノ方法
三 送金額
四 受取人アル場合ニハ其ノ住所、職業
及氏名又ハ商號
五 他人ニ託スル場合ニハ其ノ取扱者ノ
住所、職業及氏名又ハ商號
六 送金ノ豫定期期
七 送金ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事
由
第八條 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
第八條 規則第三條第六號ノ規定ニ依ル本
令施行地外ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本
令施行地内ニ於テ爲ス支拂ニ關スル許可
申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二 委託者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
三 支拂金額
四 支拂委託ノ方法
五 支拂ノ相手方ノ住所、職業及氏名又
ハ商號
六 支拂ノ豫定期期

七 立替支拂ニ在リテハ其ノ代リ金回收ノ方法及豫定期

八 支拂人ト支拂委託者トノ關係及支拂ヲ委託セラレ之ヲ引受ケタル理由

九 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第八條ノ二 規則第三條ノ三ノ規定ニ依ル本邦銀行券及滿洲國紙幣ノ送付又ハ携帶ニ關スル許可申請書ニハ第七條ノ規定ニ準シ適宜必要ナル事項ヲ記載スベシ

本令施行地外ニ旅行セントスル者ハ出發ノ際前項ノ規定ニ依ル許可申請書一通ヲ當該官吏ヲ經テ大使ニ提出スルコトヲ得

第九條 規則第五條又ハ第五條ノ二ノ規定ニ依ル外貨證券ノ有價取得又ハ處分ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 外貨證券ノ名稱、金額、數量及所在地

三 對價タル通貨等ノ種類及豫定期

四 外貨證券ノ受渡又ハ擔保差入等ノ地

五 取引ノ相手方又ハ媒介人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 取得、賣却又ハ擔保差入等ノ豫定期

七 取得、賣却又ハ擔保差入等ヲ必要トスル事由

八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十條 規則第六條ノ規定ニ依ル外國通貨ヲ以テ表示スル債權ノ讓受ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 債權ノ種類及金額

三 債務者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四 豫定期

五 讓渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 讓受ノ豫定期

七 讓受ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由

八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十一條 規則第七條又ハ第八條ノ規定ニ依ル預金、消費貸借、信託又ハ保險ノ契約ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 預金種高ノ最高限度又ハ消費貸借、信託若ハ保險ノ契約金額

三 契約ノ種類及豫定期

四 他人ノ計算ニ於ケルモノニ在リテハ其ノ者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 契約ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 契約ノ豫定期

七 契約ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由

八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

前項ノ許可申請書ハ當事者雙方ヨリ提出スルモノトス但シ當事者ノ一方ガ本令施行地外ニ在ルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 規則第九條ノ規定ニ依ル地方債若ハ社債ノ發行又ハ借入金ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 地方債若ハ社債發行豫定期又ハ借入豫定期及豫定主要條件

三 擔保物ノ種類、數量及所在地

四 地方債若ハ社債ノ豫定發行地又ハ豫定借入地

五 契約ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 地方債若ハ社債發行又ハ借入ノ豫定期

七 地方債若ハ社債發行又ハ借入ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由

八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十二條ノ二 規則第九條ノ二ノ規定ニ依ル擔保提供ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 擔保提供ノ豫定期

三 擔保物ノ種類、數量及所在地

四 債務者タル本令施行地外ニ居住スル者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 債權者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 債務ノ金額及主要條件

七 擔保提供ヲ必要トスル理由

八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十三條 規則第十條ノ規定ニ依ル信用狀ノ取得ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 信用狀ノ種類、金額及主要條件

三 信用狀ニ依ル手形振出人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四 信用狀發行所ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 取得ノ豫定期

六 取得ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由

七 旅行信用狀ニ在リテハ旅行ノ豫定計畫、同一ノ旅行ノ爲ニ取得スル旅行信用狀アルトキハ其ノ金額及別ニ携帶又ハ送付スル旅費アルトキハ其ノ金額

八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十四條 規則第十一條ノ規定ニ依ル證券ノ輸入又ハ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 證券ノ名稱、數量及所在地

三 證券ヲ取得シタル原因及時期

四 證券ノ發送人及名宛人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 證券カ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 輸送ノ方法、輸入ニ在リテハ郵便差出地又ハ輸入地及船舶ニ依ルモノニ付テハ豫定積載船名、輸出ニ在リテハ差出郵便局名又ハ輸出地及船舶ニ依ルモノニ付テハ豫定積載船名

七 輸入又ハ輸出ノ豫定期、郵便ニ依リ輸出スルモノニ在リテハ差出ノ豫定期

八 證券カ賣買ノ目的タルモノニ在リテハ其ノ代金決済ノ方法及豫定期

九 輸入又ハ輸出ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由

十 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十五條 規則第十一條ノ二ノ規定ニ依ル本邦銀行券及滿洲國紙幣ノ輸入ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 本邦銀行券ノ名稱及本邦銀行券又ハ滿洲國紙幣ノ種類、數量及金額

三 本邦銀行券又ハ滿洲國紙幣ヲ取得シ

タル原因及時期

四 本邦銀行券又ハ滿洲國紙幣ノ發送人及名宛人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 本邦銀行券又ハ滿洲國紙幣カ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

六 輸送ノ方法、輸出地、輸入地並ニ船舶ニ依ルモノニ在リテハ積載船名、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出及配達郵便局名

七 輸入ノ豫定期

八 輸入ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由

九 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

本邦銀行券及滿洲國紙幣ヲ携帶輸入セントスル者ハ本令施行地ニ到着ノ際前項ノ許可申請書正副二通ヲ當該官吏ヲ經テ大使ニ提出スルコトヲ得

第十六條 規則第十二條第一項ノ規定ニ依ル預金ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 輸出貨物ノ品名、數量及價額

三 荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四 貨物カ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 輸送ノ方法、輸出地及船舶ニ依ルモノニ在リテハ積載船名、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出郵便局名

六 貨物ノ代金ノ受領ノ方法及見込時期

七 本令施行地内ニ在ル者ヨリ代金ノ支拂ヲ受クル場合ニハ其ノ支拂人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

八 他人カ本令施行地外ヨリ代金ヲ受領スル場合ニハ其ノ者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

九 輸出ノ豫定期、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出ノ豫定期

十 外國爲替ヲ取組マザル理由

十一 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十七條 規則第十六條第一項但書ノ規定ニ依ル價額ノ全部又ハ一部ニ付爲替ヲ取組マズシテ輸出シタル貨物又ハ證券ノ代金ノ不回收又ハ回収期間延長ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 他人カ輸出手續又ハ郵便差出ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

三 荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四 輸出貨物ノ品名又ハ輸出證券ノ名稱、數量、價額及送り狀金額

五 輸出ノ時期及輸送ノ方法

六 輸出貨物又ハ證券ノ仕向地及到着時期

七 不回收金額又ハ回収期間延長ヲ必要トスル金額

八 回収期間延長ノ場合ニ在リテハ回収ノ見込時期及方法

九 不回收又ハ回収期間延長ヲ必要トスル理由

十 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十八條 規則第十七條但書又ハ第十八條第一項但書ノ規定ニ依ル外貨證券等ノ賣却、取立依頼又ハ支拂金受領ノ期間延長ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 外貨證券ノ名稱、數量及所在地

三 外貨證券、外貨證券ノ利息又ハ配當金ノ支拂期日及支拂金額

四 期間延長ヲ必要トスル金額

五 賣却、取立依頼又ハ支拂金受領ノ見込時期

六 期間延長ヲ必要トスル理由

七 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十九條 規則第十八條第二項但書ノ規定ニ依ル外貨證券等ノ代り金ノ不取寄又ハ取寄期間延長ニ關スル許可申請書ニハ左

ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 外貨證券ノ名稱、數量及所在地

三 外貨證券、外貨證券ノ利息若ハ配當金ノ賣却又ハ支拂金受領ノ時期及金額

四 賣却先又ハ支拂人ノ住所、職業及氏名又ハ商號

五 不取寄金額又ハ取寄期間延長ヲ必要トスル金額

六 取寄期間延長ノ場合ニ在リテハ取寄ノ見込時期及方法

七 不取寄又ハ取寄期間延長ヲ必要トスル理由

八 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十九條ノ二 規則第十八條ノ二ノ規定ニ依ル不動産等ノ取得ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 取得スル不動産等ノ種類、數量及所在地

三 取得ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號

四 對價タル通貨等ノ種類、數量、價額及所在地

五 取得ノ豫定期

六 取得ヲ必要トスル理由

七 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十九條ノ三 規則第十八條ノ三ノ規定ニ依ル財產ノ處分ニ關スル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號

二 出賣先、事業、營業若ハ出賣ノ讓受又ハ財產ノ取得ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號

三 出賣又ハ出賣ノ讓受ノ場合ニ出賣額及出賣先ノ事業又ハ營業ノ財產及損益ノ狀況

四 事業又ハ營業ノ讓受ノ場合ニハ事業又ハ營業ノ所在地、種類、財產及損益ノ狀況

五 財產ノ取得ノ場合ニハ財產ノ種類、數量、價額及所在地

六 讓受又ハ取得ノ對價タル通貨等ノ種類、數量、價額及所在地

七 處分スル財產ノ種類、數量、價額及所在地

八 處分及出賣、讓受又ハ取得ノ豫定期

九 處分及出賣、讓受又ハ取得ヲ必要トスル理由

十 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第二十條 規則第十九條第一項ノ規定ニ依リ外國爲替業務ヲ管マントスル場合ニ於ケル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 申請銀行ノ住所及商號

二 外國爲替業務ヲ管マントスル店舗ノ名稱及所在地

三 前號ノ店舗ニ於ケル外國爲替業務開始ノ豫定期

四 外國爲替業務ヲ管ムコトヲ必要トスル理由

五 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第二十一條 規則第十九條第三項ノ規定ニ依ル届出書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 届出銀行ノ住所及商號

二 外國爲替業務ヲ廢止セントスル場合ニ在リテハ店舗ノ名稱及所在地、名稱又ハ位置ノ變更ノ場合ニ在リテハ新舊名稱又ハ新舊所在地

三 廢止又ハ變更ノ豫定期

四 廢止又ハ變更ヲ必要トスル理由

五 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第二十二條 (削除)

第二十三條 法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本令施行地外ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付許可ヲ申請スル場合ニハ法人ノ本店、主タル事務所又ハ大連所在店舗ヨリ申請書ヲ提出スベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ取引又ハ行爲ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號ヲモ記載スベシ

人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本令施行地外ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付許可ヲ申請スル場合ニハ本人又ハ使用人ヨリ申請書ヲ提出スベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ取引又ハ行爲ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號ヲモ記載スベシ

第二十四條 規則第一條第三項、第十一條第二項、第十三條乃至第十五條第一項、同條第二項、第十六條第二項、第二十二條、第二十三條、第二十六條、第二十七條、第二十八條ノ二又ハ第二十八條ノ四第一項ノ規定ニ依リ大使ニ提出スベキ明細書又ハ報告書ハ別記様式ニ依リ正副二通ヲ作成シテ規則第一條第三項、第十三條乃至第十五條第一項又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル報告書ヲ除キ滿洲中央銀行大連支行ヲ經テ之ヲ提出スベシ

前項ノ規定ニ依ルコト業務上其ノ他ノ事由ニ依リ著シク支障アル場合ハ其ノ事情ヲ大使ニ申出ヅルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ大使ハ特別ノ手續ヲ定ムルコトアルベシ

規則第三條ノ二又ハ第十一條ノ三ノ規定ニ依リ大使ニ提出スベキ報告書ハ別記様式ニ依リ一通ヲ作成シテ之ヲ提出スベシ

規則第二十八條ノ三第一項ノ規定ニ依リ

大使ニ提出スベキ報告書ハ正副二通ヲ作成シ滿洲中央銀行大連支行ヲ經テ之ヲ提出スベシ
規則第二十六條ノ二又ハ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ大使ニ提出スベキ報告書又ハ届出書ハ規則第二十七條ノ規定ニ依ル各報告書ノ書式ニ準ジ作成スベシ
規則第十九條第三項ノ規定ニ依ル届出書及前項ノ報告書又ハ届出書ハ正副二通ヲ作成シ滿洲中央銀行大連支行ヲ經テ之ヲ提出スベシ

第二十五條 關東州外國爲替管理規則施行細則中從前ノ第十九條ノ規定ニ依リスタンプノ押捺ヲ受ケ得ル外貨證券ニシテ未ダ其ノ押捺ヲ受ケザルモノニ付テハ所有者其ノ他ノ利害關係人ハ最寄朝鮮銀行ニ證券ヲ呈示シ別記様式ノスタンプノ押捺ヲ受ケルコトヲ得
第二十六條 關東州外國爲替管理規則中從前ノ第七條第一項又ハ規則第十一條第一項ノ規定ニ依リ適法ニ輸入シタル外貨證券ニシテ同條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタルモノニ付テハ所有者其ノ他ノ利害關係人ハ最寄朝鮮銀行ニ呈示シ別記様式ノスタンプノ押捺ヲ受ケルコトヲ得但シ輸入許可ニ際シスタンプノ押捺ヲ受ケルコトヲ得ザル旨ヲ定メタルトキハ此ノ

限ニ在ラス
第二十七條 官廳ハ大使ノ同意ヲ得テ前二條ノ規定ニ該當セザル外貨證券ニ別記様式ノスタンプノ押捺ヲ受ケルコトヲ得
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ規定ニ依リ提出セル許可申請書ハ當該事項ニ關スル本令ノ規定ニ依リ提出セルモノト看做ス
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前從前ノ規定ニ依リ爲シタル處分又ハ手續中ノモノハ本令ノ定ムル所ニ依リ處分シ又ハ手續シタルモノト看做ス
(昭和十二年十二月二日關東局令第九十一號)

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十三年三月一日以前ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付提出スベキ規則第二十七條ノ規定ニ依ル外貨證券所有高増減報告書、外貨預ケ金高増減報告書、外貨貸付金高増減報告書、外貨表示ノ保險契約報告書又ハ外貨借入金高増減報告書及規則第十六條ノ規定ニ依ル代金充當及回收報告書ノ様式ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十四年七月八日關東局令第七十七號)
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十四年七月二十四日關東局令第七十五號)
(別記様式省略)

關東州外國爲替管理令ニ基ク臨時措置ニ關スル命令ノ件
(昭和十二年十月八日 關東局令第九十七號)
沿革
昭和十二年十二月十一日關東局令第九十一號
改正
昭和十三年三月二十九日關東局令第十四號
改正
昭和十三年十一月八日關東局令第九十二號
改正

關東州外國爲替管理規則 以下規則

第一條 關東州外國爲替管理規則 以下規則
第四條第一號及第六號ノ規定ニ拘ラズ滿洲國駐劄特命全權大使ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ本令施行地外内地朝鮮、臺灣、樺太、日本令施行地又ハ滿洲國(ノ貨物ノ輸入ニ必要ナル決済ヲ爲ス爲規則第三條ニ據テ取引又ハ行爲爲替ノ豫約ノ實行ヲ含ム)ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラス
一 一月ヲ通ジ金額五十圓相當額以下ノ取引又ハ行爲ヲ爲ストキ
二 第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ取得シタル信用狀又ハ同條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ取得シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲替ヲ買入ルルトキ
三 本令施行ノ際輸入済ノ貨物又ハ本令

施行地外ヨリ積出済ノ貨物ニ關スル荷付爲替手形ノ決済ノ爲必要ナルトキ
四 本令施行後一週間内ニ本令施行地外ヨリ積出シタル貨物ニ關スル荷付爲替手形ノ決済ノ爲本令施行前締結シタル外國爲替ノ豫約ノ實行ヲ爲ストキ
第二條 規則第十條第一號ノ規定ニ拘ラズ大使ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ本令施行地外内地朝鮮、臺灣、樺太、日本令施行地又ハ滿洲國(ノ貨物ノ輸入ノ爲必要ナル信用狀ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ其ノ金額一月ヲ通ジ五十圓相當額以下ナル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第三條 規則第十六條第一項ノ規定ニ拘ラズ大使ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マズシテ貨物又ハ證券ヲ本令施行地外内地朝鮮、臺灣、樺太、日本令施行地又ハ滿洲國(ノ輸出シタル者其ノ他該貨物又ハ證券ノ代金ヲ本令施行地外内地朝鮮、臺灣、樺太、日本令施行地又ハ滿洲國(ノ輸入シタル者其ノ他該貨物又ハ證券ノ代金ニ充當スルコトヲ得ズ
第四條 大使ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ本令施行地外内地朝鮮、臺灣、樺太、日本令施行地又ハ滿洲國(ノ輸入ニ必要ナル決済ヲ爲ス爲本令施行地外内地朝鮮、臺灣、樺太、日本令施行地又ハ滿洲國(ノ輸出シタル者其ノ他該貨物又ハ證券ノ代金ヲ本令施行地外内地朝鮮、臺灣、樺太、日本令施行地又ハ滿洲國(ノ輸入シタル者其ノ他該貨物又ハ證券ノ代金ニ充當スルコトヲ得ズ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十三年三月二十九日關東局令第十三號)
附則
本令ハ昭和十三年八月十日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十三年八月一日關東局令第六十八號)
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十三年九月十三日關東局令第七十七號)
附則
本令ハ昭和十三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十三年十月三十一日以前ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付提出スベキ報告書ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
(昭和十三年十一月八日關東局令第九十二號)
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十四年七月八日關東局令第七十七號)
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十四年七月二十四日關東局令第七十五號)
(別記様式省略)

第五條ノ二 第一條乃至第四條ノ規定ニ依ル許可ハ貨物ノ輸入前ニ之ヲ受クベシ但シ前條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 外國爲替銀行ノ外國爲替銀行ニ準ズル第一條又ハ第二條ニ掲グル取引又ハ行爲ノ相手方ト爲ル場合ニハ顧客ガ其ノ取引又ハ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルコト又ハ許可ヲ受ケルノ要ナキコトヲ確認スベシ

第七條 規則第二十條第一項ノ規定ニ拘ラズ昭和十三年四月五日以後外國爲替銀行ハ大使ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ規則第三條、第五條、第六條及第十一條ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第七條ノ二 昭和十三年四月五日以後外國爲替銀行ハ大使ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ本令施行地外内地朝鮮、臺灣、樺太、ケタル信用狀ヲ發行スルコトヲ得ズ

第七條ノ三 規則第二十一條ノ二ノ規定ハ本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケベキ取引又ハ行爲ニ付之ヲ準用ス

第八條 第一條乃至第四條及第七條ノ規定ニ依ル許可申請ニ關スル手續ニ付テハ關東州外國爲替管理規則施行細則以下施行細則第一條、第四條乃至第十條、第十二條乃至第十四條、第十七條及第二十三條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條前段ノ規定ニ依ル

許可申請書ニハ適宜必要ナル事項ヲ記載スベシ

第九條 第五條及第七條ノ規定ニ依ル許可申請ニ關スル手續ニ付テハ施行細則第一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ同細則第十六條ノ規定ニ準ジ、第七條ノ二ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ同細則第十三條ノ規定ニ準ジ適宜必要ナル事項ヲ記載スベシ

第十條 昭和十一年中ニ於テ價額通ジテ五萬圓以上ノ貨物ヲ本令施行地外内地朝鮮、臺灣、樺太及滿洲國ヨリ本令施行地又ハ滿洲國へ輸入シタル者ハ別記様式第一號ニ依リ昭和十年、同十一年及同十二年九月中ニ於ケル輸入貨物代金決済ノ實額ニ關スル報告書一通ヲ作成シ本令施行後一月内ニ大使ニ提出スベシ

第十一條 本令施行地外内地朝鮮、臺灣、樺太ヨリ貨物ヲ輸入スル者第一條乃至第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキハ許可證ヲ輸入手續又ハ郵便受取ニ際シ滿洲國稅關又ハ配達郵便局所ニ呈示スベシ

第十二條 本令施行地外内地朝鮮、臺灣、樺太ヨリ本令施行地又ハ滿洲國へノ貨物ノ輸入ニ必要ナル決済ヲ爲ス爲第一條乃至第四條ノ規定ニ依ル取引又ハ行爲ヲ爲ス者

ハ別記様式第二號ニ準據シテ各月分ノ輸入報告書正副二通ヲ作成シ滿洲國稅關又ハ配達郵便局所ヲ經テ翌月十五日迄ニ大使ニ提出スベシ但シ官廳ノ輸入スル貨物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ヲ本令施行地外内地朝鮮、臺灣、樺太及ヨリ本令施行地ニ輸入シタル者ハ前條ノ規定ニ依ル輸入報告書ノ提出アリタル場合ヲ除クノ外前條ノ規定ニ準ジ輸入報告書ヲ提出スベシ但シ左ニ掲グル物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 慈善又ハ救恤ノ爲ノ寄附品

二 官廳ノ輸入スル物

三 價額五十圓以下ノ物

四 手荷物又ハ引越荷物

第十四條 第一條第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ本令施行地又ハ滿洲國へノ輸入貨物ニ關スル荷付爲替手形ノ決済ヲ爲サントスル者ハ該貨物ガ輸入濟ナル場合ハ本令施行後一週内ニ、該貨物ガ本令施行後輸入セラルル場合ハ輸入後一週内ニ別記様式第二號ニ準ジ其ノ輸入ニ關スル報告書一通ヲ作成シテ大使ニ提出スベシ

第十五條 規則第三十一條ノ規定ハ本令ノ

規定ニ依リ提出スベキ報告書ニ付之ヲ準用ス

第十六條 滿洲國內ニ住所又ハ營業所若ハ事務所ヲ有スル者ノ本令施行地内ニ於テ爲ス行爲ニ付テハ該地域ノ外國爲替管理法ノ適用ヲ受ケル場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用セズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年關東局令第一號ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前同令ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

從前ノ規定ニ依リ大使ノ許可ヲ受ケタル者ハ當該取引又ハ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

從前ノ規定ニ依リ提出セル許可申請書ハ當該事項ニ關スル本令ノ規定ニ依リ提出セルモノト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從者ノ規定ニ依リ爲シタル處分又ハ手續中ノモノハ本令ノ定ムル所ニ依リ處分シ又ハ手續シタルモノト看做ス

(昭和十二年十二月十一日關東局令第百一十一號)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行ノ際輸入濟若ハ本令施行地外ヨリ積出濟ノ貨物又ハ本令施行後一週内ニ本令施行地外ヨリ積出シタル貨物ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

從前ノ第二條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ取得シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲爲替ヲ買入ルルニ付テハ第一條ノ規定ニ拘ラズ大使ノ許可ヲ受ケタルコトヲ要セズ

(昭和十三年三月二十九日關東局令第十四號)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際輸入濟若ハ本令施行地外ヨリ積出濟ノ貨物又ハ本令施行後一週内ニ本令施行地外ヨリ積出シタル貨物ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

(昭和十三年十一月八日關東局令第九十三號)

(別記様式省略)

獨逸國生産品ノ輸入ニ關スル關東州外國爲替管理令ニ基ク命令ノ件

(昭和十四年三月二十五日)

關東局令第十一號

獨逸國生産品ノ輸入ニ關スル關東州外國爲

替管理令ニ基ク命令ノ件左ノ通定ム

獨逸國ヨリ獨逸國生産品ヲ本令施行地ニ輸入セントスル者ハ昭和十二年關東局令第九十七號ニ依ル手續ヲ爲スノ外輸入手續又ハ郵便受取ニ際シ左ノ書類ヲ大連稅關又ハ配達郵便局ニ提出スベシ但シ大連稅關長又ハ配達郵便局長ニ於テ之ヲ提出スルコト能ハザル理由アリト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 當該物品ハ獨逸國生産品ナル旨ノ輸出者ノ保證ヲ記載セルインボイスノ寫

二 輸出者ガ獨逸國外國爲替法令ニ基キライヒスバンクニ提出シタル輸出爲替申告書A號ノ寫ニシテライヒスバンクノ原本受領證明アルモノ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年關東局令第二十一號ハ之ヲ廢止ス

(參照)

昭和十二年五月關東局令第二十一號ハ對獨逸國生産品ニ關スル及同十二年十月關東局令第九十七號ハ關東州外國爲替管理令ニ基ク命令ノ件ナリ

樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律關係法令

明治四十五年法律第二十三號中改正法律案、即ち樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律ニ付キマシテ、委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告

衆議院

樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律ニ付キマシテ、政府ノ說明ヲ聽キ且ツ參考資料ノ提出ヲ求メ、質疑應答ヲ重ネテ...

貴族院

伯耆田正博君 只今上程セラレマシタ明治四十五年法律第二十三號中改正法律案ニ對シマスル特別委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ朝鮮事業公債法中改正法律案ノ委員會ニ併託ニ相成ラタ...

對シマシテ政府ハ、帝國燃料興業會社ヲ樺太ニ誘致シテ、相當大規模ニテヤラセタイ、而シテ民間會社モ亦資本的ニ結合シテヤラシタイ、併シナガラ何處迄モ帝國燃料株式會社ヲ母體トシテヤラセタイ、斯ウ云フ答辯デゴザイマシタ、第三ニ、帝國燃料株式會社ニ於ケル事業計畫ニ付テ質問ガゴザイマシタ、之ニ對シマシテ政府ハ、第一期計畫トシテ年産百二十萬、トシテ採掘ニ依リ、二十三萬、キロリットルノ石油ヲ製造スル...

ノ收入ノ使途、油田調査ノ狀況、石油試掘ニ對スル政府ノ方針、我が國ニ於ケル液體燃料政策、液化事業ノ現況及ビ將來ノ計畫等ニ付キマシテ質問ガゴザイマシタ、全部運送計畫ニ關シテ、質問ガゴザイマシタ、討論ニ入り、二名ノ委員ヨリ同一ノ意味ノ御意見ガゴザイマシタ、即チ採掘料ノ價格決定ニ當テハ、商工省ト慎重ニ協議シ、以テ公正妥當ナル價格ヲ決定スルヤウ、特ニ注意シテ買ヒタイト云フ御意見ノ下ニ、贊成ノ意思ヲ表示サレマシタ、外ニハ御意見ガゴザイマセヌデ、採掘ニ入り、全會一致可決スベキモノト決シマシタ、次ニ只今上程サレマシタ地方鐵道法中改正法律案及軌道法中改正法律案ノ特別委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、是等ノ法案モ同ジク朝鮮事業公債法中改正法律案ノ委員會ニ併託ニナリマシタ、委員會ハ前後三四回開會致シマシタ、是等ノ法案ノ内容ヲ申上ゲマス、現行地方鐵道法ハ商法ノ特別規定トシテ、地方鐵道會社及軌道會社ニ對シテ株金全額拂込前ト雖モ主務大臣ノ認可ヲ受ケ、線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲メ其ノ資本ヲ増加シ得ルコトヲ認メ、又利益配當ニ關シマシテ、所謂後配株ヲ發行シ得ルコトトシテ居ルノデアリマスガ、改正商法ハ一般ノ同種ノコトヲ認メマシタノデ、右特別規定ヲ廢シマシテ、地方鐵道會社及軌道會社モ商法ノ一般ノ規定ニ從ヒ、主務大臣...

ノ認可ヲ要セズ自由ニ爲シ得ルヤウニシタノデアリマス、又主務大臣ハ現在ノ交通機關ノ發達ノ實情ニ鑑ミ、必要ニ應ジ自動車トノ運送運輸ヲモ命ジ得ルコトトシ、又交通事業ノ機能ノ増進ヲ圖ル爲メ、運賃其ノ他ニ關スル運輸協定ヲモ命ジ得ルコトトシタノデアリマス、又地方鐵道又ハ軌道ノ買収又ハ補償ニ際シ交付スベキ買収代價又ハ補償金ハ、五分利附國債證券ヲ以テ交付スルコトニナラセタリトデアリマスガ、今日ハ此ノ國債證券方著シク減少シマシタノデ、臨時金利ノ狀態ニ應ジテ發行セラル、モノヲ以テ交付シ得ルコトトシタノデアリマス、又陸運ニ關スル鐵道大臣ノ權限ガ増大スルニ伴ヒ、中央ノ事務モ著シク繁雜ナルニ至ラタリトシテ營業方面ニ屬スルモノヲ、地方鐵道局長ニ委任スルコトヲ得ルコトトシタノデアリマス、又地方鐵道ニ對スル營業繼續補償ノ際ノ補給金ノ限度百分ノ七ヲ百分ノ五ニ改メタノデアリマス、質問ノ要點ヲ申上ゲマス、軌道法ハ馬車鐵道或ハ其ノ他小サイ鐵道ヲ監督スル爲メ起ラタ法規デアリ、之ニ反シテ地方鐵道法ハ日本鐵道、山陽鐵道、關西鐵道等、比較的大キナ鐵道ヲ監督スル爲メ起ラタ法規デアリ、然ルニ今日ノ狀態ハ何レガ軌道力、地方鐵道力減シ不明ニナラセ居ル、例ヘバ東京ノ地下鐵道ハ地方鐵道、大阪ノ地下鐵道ハ...

軌道デアル、又大阪鐵道、阪和鐵道ハ地方鐵道デアル、阪急、阪神ハ軌道デアル、サウシテ軌道ハ軌道法ニ依テ監督ハ鐵道大臣、内務大臣デアリ、地方鐵道ハ地方鐵道法ニ依リ監督ハ鐵道大臣トナラシメ、誠ニ複雜多岐デアル、今日ニ於テハ最早地方鐵道、軌道ノ區別ヲ設ケル必要ガナイト考ヘルガ政府ハドウ考ヘルカ、政府ハ交通行政ニ付テハ應分努力シテ居ルガ、監督行政ニ付テハ十分注意シテ居ルガ、之ヲ統一スル考ハナイカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ内務大臣、鐵道大臣カラ同意味ノ御答辯ガオガイマシタ、監督行政ニ付テモ是非統一シテ行キタイ、併シナガラナカクムツカシイ問題デアルカラシテ、十分研究シテ努力シタイ、斯ウ云フ御答辯ゴザイマシタ、又大陸交通政策ト云フカ、日滿支ノ交通政策中、最も重要ナモノハ鐵道政策デアルト思フガ、政府ハドウ云フ風ニヤラシメ、日滿支運輸連絡上、又輸送力増進ノ意味カラシテ、政府ハ東京、下關間ニ廣軌線ヲ設ケムトスルヤウニ聞イテ居ルガ、果シテサウデアラカ、斯ウ云フ御質問ガアリマシタ、日滿支ノ鐵道政策ニ付テハ、政府トシテハ萬遺憾ナキヤウ努力シテ居ル、鐵道ノ軌幅ニ付テモ非常ニ苦心シ、ソレノ間ニ合セテヤラシメ、東京、下關間ニ於ケル人的、物的兩方面ノ輸送力増進ニ付テハ、特ニ頭ヲ悩マシテ居ル、愈々大陸經營

ニ乘リ出スカラニハ、單ニ部分的ノ改良、車輛ノ増加等デハ間ニ合ハナイ、十分餘裕アル計畫ヲ立テ行カケレバナラスト思フ、政府ハ東京、下關間ニ廣軌線ヲ設ケルト云フコトヲ定メテハ居ラナイ、白紙デアアルガ、併シ省内地モ熱心ニ考究シツ、アリ、又審議會ニ於テモ御質問ヲ顧ミ、善處シテ行キタイト思フテ居ル、斯ウ云フ御答辯デアリマシタ、次ニ現今ノ輸送力不足ニ對スル對策如何ト云フ御質問ガアリマシタ、政府ハ、事變下軍事輸送ニ對スル爲、貨物運送ヲ先ニシテ旅客運送ヲ後ニシタ爲、一般旅客ニ不便ヲ生ゼシメタコトハ誠ニ遺憾デアアル、併シナガラ漸次軍事輸送モ整備シテ來、又一方今迄機材ガ不足シテ居タ爲、車輛ヲ思フヤウニ遺ルコトガ出來ナカッタケレドモ、段々出來ルヤウニナリ、此ノ二月頃ニハ相當出來ルヤウニナリ、昭和十四年度ニ於テハ機關車五百二十二、電氣機關車十七、客車四百四十八、電車六十、貨車一萬二千五百七十七、計一萬三千四百零四輛決定デアラ、來年ニハ相當增加ガ出來ル見込デアアル、又終夜運轉シテ不足ヲ補フテ見タラドウカト云フ御意見モアルガ、果シテ終夜運轉シテ需要ガアルカナイカ疑問デアアル、是ハ民間ノ交通事業者トモ能ク相談シテ善處シテ行キタイ、團體旅行ハ成ルベク遠慮シテ賣ヒ、又遊覽ノ爲ニ便宜ヲ計ラテ居ラトナラモ止メテ、一般旅客ニ充ツルヤ

ウニシテ居ル、斯ウ云フ御答辯デアリマシタ、其ノ他陸上交通事業調整法ノ實績並ニ今後ノ方針、又省營自動車ノ經營方針等ニ詳細ナル御質問ガアリマシタガ、速記録ニ譲リマス、討論ニ入りマシテ一委員ヨリ、事變下輸送力不足ハ已ムヲ得ナイトスルケレドモ、長期戦ニ入ツタ今日、銃後ノ護タル國民ガ其ノ爲ニ受ケル不便餘リニ大デアラ、活動セムトシテ其ノ活動ヲ殺ガレルコトハ事變ニ影響スル所甚大デアラカラシテ、政府ハ輸送力不足ニ對スル對策ニ付テハ、慎重考慮ヲ拂ヒテ實ヒタイト云フ希望ヲ付ケマシテ贊成セラレマシタ、又一委員ヨリ今回ノ改正ハ已ムヲ得ナイト思フガ、不十分デアアル、未ダ根本的改正ノ方法ハアリハシナイカ、例ヘバ最早今日ハ地方鐵道軌道ノ區別ハ不要デアラカラシテ、地方鐵道法、軌道法ヲ一本ニスルト云フガ如キ方法ハアリハシナイカ、故ニ政府ハ將來ニ於テ根本的改正ヲ爲スコトヲ考ヘテ實ヒタイト云フ希望ヲ述ベラレマシテ兩案ニ贊成セラレマシタ、採決ニ入りマシテ全會一致可決スベキモノト決シマシタ、右御報告申上ゲマス

明治四十五年法律第二十三號中改正法律(樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル件)

(昭和十四年三月二十三日) 法律第十 八 號

第一條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ樺太ニ於テ人造石油製造事業法第二條ノ規定ニ依リ人造石油製造事業ノ許可ヲ受ケタル會社ニ對シテハ行政官廳其ノ採掘料ヲ定メ之ヲ許可スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

明治四十五年六月二十二日法律第二十二號樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律
第一條第一項及第二項
樺太ニ於テハ主務大臣ノ指定シタル區域内ノ石炭採掘ニ付採掘料ヲ徵收ス
前項ノ區域内ニ於ケル石炭ノ採掘ハ其ノ採掘料ヲ徵收人札ニ付シ採掘者ニ之ヲ許可ス

明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘ニ關スル件中改正

(昭和十四年八月四日) 樺太廳令第七十五號

明治四十五年樺太廳令第二十四號中左ノ通改正ス

第十六條

樺太ニ於テ人造石油製造事業法第二條ノ規定ニ依リ人造石油製造事業ノ許可ヲ受ケタル會社明治四十五年法律第二十三號第一條第二項但書ノ規定ニ依リ石炭採掘ノ許可ヲ受ケントスルトキハ該業法ニ依ル採掘監督ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ
一 人造石油製造工場ノ名稱、位置
二 製造設備、製造能力、主要製品ノ種類、數量
三 事業計畫遂行上必要ナル石炭採掘見込量、用途別石炭使用見込量
四 其ノ他事業ノ概要
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ相當スル金額

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律關係法令

昭和三十二年法律第六十四號中改正法律案(兌換銀行券ノ保證發行限...

衆議院

閣議久次郎君 只今議題トナリマシタハ法律案ニ付キマシテ、委員會ノ經過及...

等ヲ臨時軍事特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル件、昭和十二年...

貴族院

子爵高橋長實君 只今議題ト相成リマシタ法律案ノ中、便宜上先づ國債整理基金...

昭和三十二年法律第六十號中改正法律案(兌換銀行券ノ保證發行限...

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律

ホモウ一ツハ昭和十三年法律第八十七號中改正法律案、是ハ命令ニ定ムル所ニ依ツテ...

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律

理基金特別會計法ノ改正ヲ必要トシ、ソレニ連レテ他ノ二法律案ノ改正ヲ行フノデアリマス、今質疑應答ノ主ナルモノヲ申上ゲマスルト、委員諸君ヨリ、割引公債ノ發行高、額面ノ種類、償還年限及割引歩合等ニ付キ質シタル後、割引公債ノ利廻ヲ良クスルト、他ノ利付公債等ノ賣出ヲ阻害スルコトナキヤ等ノ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、發行高ハ二億圓ヲ目標トシテ居ル、額面ハ差當リ十圓、二十圓ノ種類ヲ考ヘテ居ルガ、償還期限及割引歩合ニ付テハ、利付公債ノ利廻等ヲ參照シ、又此ノ割引公債ニハ稅ガ課カラヌ等ノ點ヲ考慮ニ入レテ、適當ニ定メタイト思フ、假ニ三分五厘ノ複利計算ニ依リテ期限ヲ九年トシマスルト、十圓ノ公債ヲ七圓程度デ發行スルコトトナルガ、是ハ新シキ試ミデアルノデ、其ノ成績ヲ見ナガラ、徐々ニ發行シテ行ク積リデアルカラ、他ノ利付公債等ニ惡影響ヲ與フルヤウナコトハナイト考ヘル、又將來多額ノ公債發行ヲ必要トスル今日ノ狀況ニ於テハ、成ルベク大衆ニ持タセルヤウ誘導スルコトガ肝要ト思フニ依リ、國債ノ種類ニ「ヴァラエティ」ヲ設ケテ、民衆ノ希望ニ應ジ得ルコトハ、國債消化ノ一助トモナリ、他面又公債ノ利子ヲ貯蓄スル形トナル故、貯蓄獎勵ニモナルモノデアアル、併シテ

ガラノガ償還期ニ當テハ、一時ニ多額ノ割引差額ヲ支出スルコトナリ、國債償還ノ計畫上適當ナルニ付、之ヲ避クル爲ニ改正ヲ爲スト共ニ、國債ノ消滅時効ニ關スル現行ノ規定、並ニ國債ノ買入償還ヲ爲ス場合ノ買入價格ノ決定方法ニ關スル現行規定ニ付テモ、ソレハ改正ヲ要スル部分ガアルトノ答デアリマシタ、尙一委員ヨリ、明治三十九年法律第三十四號ノ改正ノ結果、第九條ノ但書ヲ削除セラレタガ、是ハ無期限トナルノデアアルカ、又既發公債ノ消滅時効ノ五箇年ハ如何相成ルモノデアアルカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ、今回ノ割引發行ニ依ル公債ハ十箇年トスル考デアアル、又從來ノ小額公債ハ、五箇年ト云フノハ短カ過ぎルト思フ故、總テ十箇年トスル意圖デアアル、從テ既發ノモノハソレダケ延ビル譯デアルト云フ御答辯デアリマシタ、尙詳細ハ速記録ニ依テ御了承ヲ願ヒマス、斯クシテ質疑ヲ終リ、討論ニ入りマシタ處、何等ノ異議モナク、採決ノ結果三法案トモ、全會一致可決ト相成リマシタ、次ニ昭和十三年法律第六十四號中改正法律案外五案ノ審議ノ模様及結果ヲ御報告申上ゲマス、第一ニ、昭和十三年法律第六十四號中改正法律案ニ付キマシテ申上ゲマス、此ノ法案ノ要旨ノ大要ヲ申述ベマスルト、是ハ日本銀行ノ保

證發行限度ヲ五億圓増額致シマシテ、二十億圓ト致シマスル改正法律案デアリマス、次ニハ、朝鮮銀行ノ保證發行限度一億圓ヲ一億六千萬圓ニ擴張シ、又臺灣銀行ノ保證發行限度五千萬圓ヲ八千萬圓ト改正致ス法案デアリマス、第三ハ、關東州、朝鮮、臺灣、樺太等ノ各特別會計ニ於テ、今度ノ増稅ニ依リ收入スル額ノ内、勅令ノ定ムル所ノ金額ヲ各臨時軍事費特別會計ニ繰入レル法案デアリマス、第四ハ、一般會計ノ追加トシテ、公債三億六千三百萬圓ヲ更ニ追加發行スル法案デアリマス、第五ハ、滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲ニ三億四千七百六十八萬圓ノ公債ヲ増發スル法案デアリマス、最後ハ、軍人ノ死没者ノ遺族ニ交付スベキ特別賜金ノ交付公債ヲ發行セムトスル法案デアリマス、以上ノ六法案ニ付キマシテ、本委員會ニ於ケル審議ノ經過並ニ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲタイト思ヒマス、委員會ニ於キマシテハ、是等法案ヲ一括致シマシテ問題ニ致シマシテ、種々ナル質問應答ガアリマシタガ、詳細ハ總テ速記録ニ譲リタイト存ジマス、質疑ノ最モ集中サレタル點ハ、兌換券ノ急激ナル増發ニ對スル物價ノ關係、及ビ朝鮮銀行券ノ北支其ノ他ニ於ケル流通ノ中國聯合準備銀行券トノ關係、從テ

テ支那ニ於ケル法幣トノ關係等ニ對スル質問應答ガ行ハレマシタガ、詳細ハ全部速記録ニ譲リマス、斯クシテ質問ヲ終リマシテ、討論ニ入りマシタガ、何等異議モナク、採決ノ結果、全會一致本案ハ可決セラレマシタ、右御報告申上ゲマス

昭和十三年法律第二十三號中改正法律(關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル件)

(昭和十四年三月二十八日法律第三十四號)

第一條 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル所得稅、法人資本稅、清涼飲料稅、砂糖消費稅、取引所稅、出港稅、印紙稅又ハ臨時利得稅ノ昭和十三年度以降ノ増徴ニ因ル增收額及利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅、建築稅、遊興飲食稅又ハ遊興稅ノ創設ニ因ル收入額中勅令ノ定ムル金額ハ毎年度豫算ノ定ムル所

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入レルコトニ關スル法律

ニ依リテ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

昭和十三年三月二十日法律第二十二號關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入レルコトニ關スル法律

第一條 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル所得稅、法人資本稅、砂糖消費稅、取引所稅、出港稅又ハ臨時利得稅ノ今回ノ増徴ニ因ル昭和十三年度以降ノ增收額ト利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、特別入場稅及物品稅ノ創設ニ因ル昭和十三年度以降ノ收入額ト合計額ヨリ豫算ヲ控除シタル剩餘ニ相當スル金額ハ其ノ八割ヲ限リ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リテ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

昭和十三年法律第二十三號關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入レル事ニ關スル法律施行期日ノ件

(昭和十四年二月七日勅令第二十八號)

昭和十三年法律第二十三號ハ昭和十四年二月十日ヨリ之ヲ施行ス

北支那開發株式會社法關係法令

北支那開發株式會社法第二十九條第三項ノ規定ニ依ル計算方法ニ關スル件

(昭和十四年二月二十八日 閣令 第一號)

第一條 北支那開發株式會社法第二十九條第一項ノ投資及融資ニ因ル收入ハ北支那開發株式會社ガ北支那開發株式會社法第十四條ノ規定ニ依ル投資及融資ニ基キ當該營業年度ノ決算ニ計上スル株式配當金、利益分配金、社債利息、貸付金利息其ノ他ノ收入ヲ合算シタルモノトス

第二條 北支那開發株式會社法第二十九條第一項ノ投資及融資ノ總額ハ當該營業年度ノ各日ニ於ケル投資及融資ノ總額ノ日割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

第三條 北支那開發株式會社法第二十九條第一項ノ投資及融資ノ總額中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金ニ依リタル部分ハ株式拂込金總額、社債前借金ヲ含ム以下同ジ)總額及積立金(法定準備金、従業員退職給與積立金其ノ他ノ積立金ヲ謂フ以下同ジ)總額ノ合計額ニ前營

- 二 通信ニ關スル事業
- 三 郵便ニ關スル事業
- 四 運送ニ關スル事業
- 五 製造、販賣及利用ニ關スル事業
- 六 勸業、外支那ニ於ケル經濟開發ヲ促進スル爲メニ統合團體ヲ必要トスル事業

第二十九條第一項及第二項

北支那開發株式會社ノ每營業年度ニ於ケル投資及融資ニ因ル收入ノ投資及融資ノ總額ニ對スル割合(以下收入割合ト稱ス)ガ年百分ノ六ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及以後五年間左ノ各號ノ金額ノ合計額ヲ限度トシ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ補給ス

一 投資及融資ノ總額中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金ニ依リタル部分ニ百分ノ七ヨリ收入割合ヲ減ジタル額ヲ乘ジテ得ベキ金額

二 投資及融資ノ總額中社債前借金(社債前借金ヲ含ム以下同ジ)ニ依リタル部分ニ百分ノ五ヨリ收入割合ヲ減ジタル額ヲ乘ジテ得ベキ金額

第一項ノ投資及融資ニ因ル收入ノ投資及融資ノ總額並ニ其ノ中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金ニ依リタル部分及社債前借金ニ依リタル部分ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

北支那開發株式會社所得稅又ハ營業收益稅ノ免除ヲ受ケントスルトキノ申請ニ關スル件

(昭和十三年十一月三十日 大藏省令第六十七號)

北支那開發株式會社北支那開發株式會社法

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

昭和十三年四月三十日法律第八十一號北支那開發株式會社法抄録
第十四條 北支那開發株式會社ハ左ノ事業ノ主要ナルモノニ對シ投資又ハ融資ヲ爲シ其ノ經營ヲ統括シ經營スルモノトス
一 交通運輸及通信ニ關スル事業

第三十一條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ營業收益稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ所得稅法第二十四條又ハ營業收益稅法第十一條ノ規定ニ依ル所得又ハ純益金額ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

昭和十三年四月三十日法律第八十一號北支那開發株式會社法抄録
第三十一條 北支那開發株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

金資金特別會計法關係法令

金資金特別會計法中改正法律案ニ對スル貴衆兩院委員長報告

衆議院

板谷順助君 只今議題トナリマシタル法案ニ對シテ、委員會ノ審議ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、第一ニ北海道拓殖銀行法中改正法律案ニ付キマシテ御報告申上ゲマス、先づ法案ノ内容ヲ簡單ニ説明致シマス、北海道拓殖銀行ハ明治三十二年北海道開發ノ爲ニ特殊ノ使命ヲ持チ、不動產金融ヲ根幹トシテ普通銀行業務ヲ併セ營ムコトヲ任務トシテ生レ出タリ、銀行ノ營業ニ對シテ、創立ノ當時ハ不動產貸付ニシテ、短期普通貸付五分ノ一デアリマシタス...

委員會ハ數回ニ互リマシテ慎重審議實疑應答ガ行ハレタノデアリマス、其ノ中第一ニ特殊銀行トシテ不動產年賦貸付ガ根幹トシテ居ル、然ルニ短期貸付ガ減少ヲシ、短期貸付ガ増加シテ居ルノデアリガ、今回ノ改正ハ本來ノ使命デアリ其ノ目的ニ副ハナイデハナイカ、隨テ短期貸付制限撤廢ノ結果、長期貸付ハ閉却セラレハシナイカ、又其ノ場合政府ハ如何ナル法律ニ依ツテ之ヲ取締ルカ、第二ニ割引手形ニハ何等ノ制限ハナイガ、預金増加ノ結果、短期貸付ガ預金ニ隨テ増加シテ居ルハシナイカ、將來本來ノ目的デアアル所ノ農村不動產ノ長期金融ノ需要ガ増シテ來タ場合ニ於テ、其ノ回收ハ困難デハナイカ、第三ニ制限ハ撤廢サレ、普通銀行業務ヲ營ム場合、他ノ地方銀行ノ分野ニ立入り過シハシナイカ、又半官半民ノ特殊銀行ニ統制ヲ加ヘ、費用ヲ省キ、安イ金利ノ資ヲ民間ニ使ハセムコトハ出來ナイカ、右ノ質問ニ對シマシタル大臣竝ニ政府委員ノ答辯ノ概要ヲ申上ゲマス...

マシテハ、今回ノ改正ハ預金増加ノ結果デアリ、預金増加ニハ自ラ限度ガアル、短期貸付ニ對シテ注意シテ遺憾ナキヤウニヤラス方針デアアル、又第三ノ質問ニ對シマシテハ、銀行ノ分野ヲ明ニスルコトニハ全然同意デアアル、此ノ點ニ付テハ十分ニ考ヘル、又一經濟地方ニ於テ澤山ノ銀行ガ設立シテ居ルコトハ、基礎ヲ危カスル處ガアルノデ、出來ルダケ合併ノ方針ヲ執ツテ來タノデアリガ、特殊銀行ハソレノ違ツテ使命ヲ持ツテ居ルノデアリカラ、只今合併ノ考ハナイト云フ御答辯ガアツタノデアリマス、更ニ又事務的ノ主ナル質問ト致シマシテハ、第一不動產擔保ノ貸出ニ付テ、鑑定價格ノ三分ノ二以內トナツテ居ルガ、査定ガ非常ニ低ク、實際賣買價格ノ三割五六分程度ニシカ過ラズ、隨テ鑑定ノ開發モ出來ズ、事業モ進捗セズガ、是ガ根本的ノ改善ヲ考ヘテ居ルカ、第二、北海道開發ノ目的ノ爲ニ、現在收入ナクトモ將來開クベキ見込アル未開ノ土地ニ對シ、此ノ銀行ヲ活用セシムベキ方法ハナイカ、又現在北海道ハ石炭ハ勿論、人造石油、アル、事業等國策事業ガ起リツツアルガ、生産擴充ヲ期スル爲メ積極的ニ貸出ヲ爲ス考ヘナイカ、三、低利金ノ時代ニ動銀ニ比較シテ拓殖銀行ノ利子ガ高イガ、モット引下ガシテハ如何、右ニ對シマシテ政府當局ノ答辯ノ概要ヲ申上ゲマス、第一、鑑定價格ノ低イト云フコトハ、不動產銀行ニ對スル共通ノ低イト云フアルガ、鑑定方法ニ付テハ十分研究ヲ進メ...

テ居ル、隨テ土地ノ實際ノ狀態ニ即シタル方法ヲ執ツテ非難ヲ除キタイト思フ、第二ノ答辯ト致シマシテハ、拓殖銀行ノ貸出ハ熱田如クニ限ラズ、或ル程度開墾シテ居レバ相當ノ貸付ハ致シテ居ルと思フガ、此ノ點ハ篤ト考ヘテ見タイ、又北海道ニ於ケル天然資源ノ開發ガ盛ニナツタガ、是等ノモノニ對スル金融ニ付テモ投資スル考デアル、第三ノ質問ニ對シマシテハ、金利ニ付テハ將來時代ノ要求ニ從ツテ出來ルダケ引下ヲ考慮シタイと思ツテ居ル、以上ノ御答辯ガアツタノデアリマス、其ノ他適切ナル問答モ行ハレテ居リマス、其ノ詳細ハ速記録ヲ御覽ノ上御諒承願ヒマス、斯クシテ質疑ハ終リ討論ニ入りマシテ、民政黨ヲ代表シテ宇賀四郎君ヨリ希望意見ヲ述べテ、附帶決議ヲシテ原案贊成ノ意ヲ表明セラレタノデアリマス、即チ其ノ附帶決議ハ...

アリマシタカラ、之ヲ朗讀致シマス、只今御決議アリマシタ所ハ政府ニ於キマシテモ篤ト承リマシタ、就キマシテハ此ノ機會ニ今後ノ監督方針トシテ、現ニ考ヘテ居リマス所ヲ一應申上ゲテ置キタイト存ジマス、北海道拓殖銀行ガ不動產銀行業務ヲ其ノ特質トスルモノデアリマス、政府ト致シマシテモ全く同様ニ考ヘテ居リマス、從ヒマシテ今回法律ヲ改正致シマシテ、短期貸出ニ對スル制限ヲ撤廢スルコトニ付キマシテハ、本委員會ニ於テ、本改正ノ結果ハ將來右ノ如キ本銀行ノ特色ガ失ハルニ至ル虞ガアルト云フ不安ヲ持タレテ居ルヤウデアリマス、其ノ御懸念ハ誠ニ御尤ノコトト考ヘルノデアリマス、政府ト致シマシテモ、今回短期貸出ニ對スル制限ガ撤廢セラレルニ於キマシテハ、將來一層此ノ點ニ關スル監督ヲ十分ニ致シマシテ、斯ル弊ニ陥ルコトガ無イヤウニ致シタイ考デアリマス、而シテ其ノ方法トシテハ、常時同行ノ業務ニ周知ナル注意ヲ拂フコトハ勿論デアリマスガ、特ニ此ノ際考ヘテ居リマス方法ト致シマシテハ、主務大臣ハ御承知ノ通り現在デモ監督上必要ナル命令ヲ發シ得ルノデアリマス、之ニ基キマシテ、同行ニ對シ其ノ不動產貸出ヲ監督スル應旨ニ於テ、例ハバ各店舗毎ニ不動產貸出ノ申込受理ノ狀況、之ニ對シテ貸出實行ノ狀況、拒絕シタモノノ狀況、處理未済ノモノノ狀況等ニ付テ、定期又ハ隨時ニ詳細ナル報告ヲ爲サシメ、之ヲ檢討シテ申込ニ對シ貸出率ノ特ニ低キ場合、申込金額ニ對シ貸出額ヲ特ニ少額ナ...

ル場合、貸出著シク遅延セル場合、拒絕セルモノトシテ多キ場合、處理ノ特ニ遅延セル場合等ニ付キマシテハ、特ニ詳細ニ其ノ事由ヲ調査シ、必要アル場合ニハ實地ニ檢査又ハ調査ヲモ風行スル等ノ方法ニ依リマシテ、本行ノ特色トスル不動產銀行業務ノ十分力ヲ盡サシメタイト思フノデアリマス、更ニ他ノ一面ニ於キマシテハ、同行トシテハ短期貸出ノ資源トナルモノハ預金デアリマス、カラ、今後ハ預金ノ取入狀況ニ付キマシテモ特ニ注意ヲ拂ヒマシテ、不自然ナル預金ノ取入ヲ行ツテ、不當ニ短期貸出ニ偏スルガ如キコトノナイヤウ十分監督致シタイ考デアリマス、即チ是ガ爲メハ今後ハ前述ノ貸出ノ場合ト同様ニ特ニ命令致シマシテ、各店舗毎ニ預金ノ増加狀況ニ付テ詳細ナル報告ヲ爲サシメ、特ニ預金増加ノ著シイモノ等ニ付キマシテハ、其ノ事由ヲ十分調査シ、必要ニ應ジテハ實地ニ調査ヲ行フ等ノ方法ニ依リ、不自然ナル預金ノ増加ニ伴フテ、短期貸出ニ偏倚致シマスコトヲ十分監督致シタイト考ヘテ居リマス、而シテ不動產貸出及ビ預金取入ノ兩方面ニ付テスル監督方法ヲ用フルナラバ、前述ノ如キ將來同行ガ短期貸出ニノミ走ツテ、同行ノ特質タル不動產業務ヲ没却スルガ如キコトハナイモノト考ヘルノデアリマス、御決議ノ次第モアリマス、今後十分留意シテ御應旨ニ添フヤウ萬全ヲ期シタイ考ヘテ居ル次第デアリマス、斯ウ云フ聲明ガアツタノデアリマス、向ホ委員會全員ヨリ希望ト致シマシテ、右附帶決議ニ對シ大藏大臣ヨリ直接...

本議場ニ於テ聲明アランコトヲ委員長ヨリ要求致シマス、以上御報告中上ダマス...

フガ、若シ必要アレバ處分シテモ活用スル積リデアルト答辯サレタノデアリマス、其ノ他産金政策ニ對シ、多數ノ委員ト商工大臣...

其ノ中拂込ガ一千二百五十萬圓トナリテ居ルノデアリマス、今回此ノ改正法案ニ依リテ八條ノ三ト云フモノヲ改正サレルノデアリ...

貴族院

子爵高橋是實君 只今議題トナリマシタ北海道拓殖銀行法中改正法律案及金資金特別會計法中改正法律案ノ、特別委員會ニ於ケル審議ノ經過...

ハ第十二條ニ拓殖債券發行高ハ不動産銀行業務ニ對スル貸出ヲ超ユルコトヲ得ズト云フ制限ヲ附ケテ居ルノデスカラ、今回ノ制限撤廢ニ依リ、普通銀行業務ニ對スル貸出ニ向ケラレスモノハ、從テ短期貸付ノ方ノ資金ト云フモノハ主トシテ同行ノ預金ニ依...

十三年十月ニ約八千八百餘萬圓デアツテ、拓殖銀行ノ預金ノ增加率ト殆ド相似キヲ居ルヤウナリ、決シテ惡影響ヲ與ヘテ居ルヤウナコトハナイト云フ答辯デアリマシタ、ソレカラ金利等ニ付テハ、銀行ト信用組合等ヲ包含シテ金融懇談會ニ於テ、十分協...

又ハ總額二千五百萬圓ヲ限リ日本産金振興株式會社株式ニ運用シ得ルコトナリテ居リマス、時局ニ鑑ミマシタ、此ノ運用ノ範圍ヲ一層擴大シ、以テ國債收支ノ改善及産金ノ増加等ニ資スル等、此ノ資金ノ適切ナル運用ヲ期スルモノデアリマス、而シテ同會計法ニ依レバ必要ナル費途ニ資金ヲ使用セムトスル場合ニハ、其ノ金額ヲ一般會計ニ繰入レ、更ニ一般會計ノ歳出トシテ該金額ヲ支出スルト云フコトニナリ...

預金部ニ對スル預金等ヲ豫定シテ居ルノダ
ト云フ御返事ガゴザイマシタ、尙委員ヨリ
勅令ノ定ムルモノト云フ中ニ銀ト云フコト
ガアルガ、是カラ政府ハ銀ヲ買上ゲル方針
デアアルカト云フ御質問ガアリマシタ、政府ハ
之ニ答ヘテ、今日直チニ銀ヲ買上ゲル
ト云フノデハナイ、銀ハ金ト一精ニ産出セ
ラレ、政府ノ買上ゲル金ニモ金銀混合ノモノガ
多イガ故ニ、銀ヲ買フト云フコトハ産金獎
勵ノ一助トモナリ、又國際貸借ノ上ニ金ト
一精ニ使用サレテ居ルノデアアルカラ、將來
必要ヲ生ジタル場合ニハ、此ノ資金ヲ運用
シ得ルヤウニ、豫定シテ置イタコトノデ
アルト云フ御答デゴザイマシタ、尙其ノ他
多ク有益ナル質問應答ガゴザイマシタガ、
是等ハ速記録ニ譲リマス、斯クシテ質問ヲ
終リ、別ニ討論モナク、採決ノ結果全會一
致、原案通り可決サレタノデアアリマス、右
簡單ナガラ御報告ヲ終リマス

金資金特別會計法中改正法律

昭和十四年三月二十五日
法律第二十四號

金資金特別會計法中左ノ通改正ス
第三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ規定ニ依リ本資金ヲ使用セントス
ルトキハ其ノ金額ヲ一般會計又ハ他ノ特
別會計ノ歳入ニ繰入レ當該會計ノ歳出ト
シテ拂出スベシ

第四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本資金ハ本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル
爲必要ナル金額ヲ除クノ外大臣ノ定
ムル所ニ依リ之ヲ金、國債、産金振興債
券、日本産金振興株式會社株式(額面總額
二千五百萬圓ヲ限ル)又ハ勅令ノ定ムル
モノニ運用スルコトヲ得

第五條中「一般會計」ノ下ニ「又ハ特別會計」
ヲ加フ

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

昭和十二年八月十一日法律第六十一號金資金特別
會計法抄録
第三條 本資金ハ總額五千萬圓ヲ限リ豫定ノ定ムル
所ニ依リ之ヲ經費ノ増加ヲ圖ル爲必要ナル經費ニ
使用スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ本資金ヲ使用セントスルトキハ
其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ繰入レ一般ノ歳出トシテ
拂出スベシ
第四條第一項
本資金ハ本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要ナ
ル金額ヲ除クノ外大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ
金、國債、産金振興債券又ハ總額二千五百萬圓ヲ限
リ日本産金振興株式會社株式ニ運用スルコトヲ得
第五條 本會計ニ於テハ資金運用利殖金及附屬利收

金資金ノ運用ニ關スル件

(昭和十四年三月三十一日
勅令第三百三十七號)

金資金ハ金資金特別會計法第四條第一項ノ
規定ニ依リ之ヲ左ニ掲グルモノニ運用スル
コトヲ得

- 一 銀
- 二 外貨
- 三 日本産金振興株式會社ニ對スル貸付金
- 四 大藏省預金部ヘノ預金

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

昭和十二年八月十一日法律第六十一號金資金特別
會計法抄録
第四條第一項
本資金ハ本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必
要ナル金額ヲ除クノ外大臣ノ定ムル所ニ
依リ之ヲ金、國債、産金振興債券、日本産金振興
株式會社株式(額面總額二千五百萬圓ヲ限ル)
又ハ勅令ノ定ムルモノニ運用スルコトヲ得

軍機保護法關係法令

續

軍機保護法施行規則中改正

(昭和十四年八月二十二日
海軍省令第二十一號)

軍機保護法施行規則中左ノ通改正ス

第五條第一號中(三)ヲ(四)トシ以下順次繰リ下
グ(二)ノ次ニ左ノ如ク加フ

(三)官場船渠田船岡村及同縣伊具郡北郷
村

同條第二號(一)中(三)乃至(五)ヲ(四)乃至(六)
ニ改ム

同條第三號中(二)乃至(五)ヲ(一)乃至(六)ニ改
ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

昭和十二年七月海軍省令第二十八號軍機
保護法施行規則抄録
第五條第一項

軍機保護法第十二條第一項ノ規定ニ依リ左
ニ掲グル行爲ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第
一號又ハ第二號ニ掲グル行爲ニ付テハ海軍
大臣ノ第三號又ハ第四號ニ掲グル行爲ニ付
テハ常陸鎮守府司令長官又ハ要港部司令官

ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一 左ニ掲グル區域ニ於ケル航空

(左記略)

二 左ニ掲グル區域内ノ雲ノ高さ、雲ノ厚
サ、雲ノ種類若ハ大氣ノ透明度又ハ同區
域ノ地温上層マストル若ハ雲面上層マ
ストル以上ノ空域ニ於ケル氣流速度若
ハ湿度ノ異常變態ヲ以テスル觀測(觀
測結果ノ作成ヲ含ム)又ハ觀測結果ノ
報告若ハ觀測日誌若ハ航空機ノ航
行者ハ航空ニ必要ナルモノ、官公立ノ氣
象ノ觀測所ニ於テ行フモノ、又ハ陸軍ニ
依リ官公立ノ氣象ノ觀測所ニ報告若ハ
通報スル行爲ヲモノヲ除ク

(一)前號(三)乃至(五)ニ掲グル區域

三 第一號(二)乃至(五)ニ掲グル區域内ノ水陸
ノ形狀若ハ地物ノ狀況ノ測量(測量
成果ノ作成ヲ含ム)又ハ測量成果ノ報
告若ハ測量日誌若ハ測量ノ地目地類ノ變遷、土地
ノ分食、境界ノ確定若ハ測量、倉庫ノ新
築、改築増築ノ爲必要ナルモノヲ除ク

軍馬資源保護法關係法令

軍馬資源保護法ニ對スル貴衆兩院
委員長報告

衆議院

東武電 只今上程ニナリマシタ軍馬資源保護法案外二件ニ付キマシテ、委員會ノ経過ト結果ニ付テ報告申上ゲマス、本委員會ハ二月十四日ヨリ昨日マデ引續キ十三回ニ互リ開會致シ、委員諸君ハ勿論政府委員ニ於テカセラレテモ、熱心ニ質問應答ヲ重ネ、慎重審議ヲ遂ゲタ次第デアリマス

法案ノ内容ヲ極ク簡單ニ申上ゲマス、今次支那事變ニ因リマシテ、我國ト致シマシテハ未嘗有ノ多數ノ馬ガ徵發セラレマシテ、支那各地ニ於テ大規模ノ作戰ニ供用サレタノデアリマス、其ノ結果軍用上ニ於テ幾多ノ貴キ經驗ヲ積マレマシテ、産業上國防上ニ於テ一夫ノ馬ガ徵發ヲ招來シタノデアリマス、其ノ内容トスル所ハ、國防上特ニ必要トスル馬ヲ軍用保護馬ト致シマシテ、是ガ飼養管理ハ一定ノ飼養料ヲ民間ニ助成シテ、又軍用保護馬ニハ一定ノ餉給ヲ行ハシメマシテ、軍馬ノ資質ノ向上普及ヲ圖ル爲メ、地方ニ於テキマシテハ餉給馬ノ競走ヲ爲サシメルト云フノデアリマス、尙ホ是ガ統制機關ト致シマシテハ、保護馬餉給ノ中央會ヲ組織スルト云フ、我國馬政計畫中劃期的ノ大法案デアリマス

又第二ノ種馬統制法案ハ、優良ナル種牡馬及種牝馬ヲ繁殖充實ヲ圖ル爲メ、種牡馬ヲ全部國有ト致シマシテ、種牝馬ニ對シテハ飼育者ニ相當ノ助成金ヲ交付スルト云フノデ、國有種牡馬ハ昭和二十年度マデニ七千五百頭ヲ國ニ於テ保有スルト云フノデアリマス

次ニ競馬法ノ臨時條例ニ關スル法律案ハ、現行競馬法ノ納付金ガ百分ノ八トアルノヲ、今度ハ百分ノ十一・五ニ增加スルト云フ法案デアリマス、昭和十四年度ニ於ケル種馬投資券賣得金ハ一億六千四百萬圓、昭和十三年度ニ於ケル實績ニ見キモノト推定致シマシテ、政府納付金見込額ガ約千七百八十七萬圓トナルノデアリマスガ、之ヲ前年度納付金ニ比較致シマスト、約七百六十三萬圓ト云フ増加額ニナル推定デアリマス、現在ノ時局ニ鑑ミマシテ、此ノ程度ノ引上ハ相當デアルト云フノデ、別段議論アリマセズシテ

實業廳答ノ大要トシテ主ナルモノニ二三ヲ申上ゲマス、先づ國防ヲ中心トセル馬政計畫ノ變革ハ已ムヲ得ザルト致シマシテモ、是ガ爲メ廣義國防上ノ産業ニ及ボス影響ハ尠カラズルモノガアルト思フガ、政府ハ之ニ對シテ如何ナル考ヲアルスルカ、陸軍大臣ノ答辯ハ、政府ハ有ニル方面ニ於テキマシテ十分ノ考慮ヲ拂ヒ、馬事施設ニ多額ノ經費ヲ增加致シマシテ、軍事産業共ニ兩全主義ヲ徹底スル方針デアル

二、今回ノ馬政方針ハ、重種種ニ偏シ、輕種ヲ輕ンズルモノアルガ、現在ハ已ムヲ

得ナイトシテモ、事變ガ終熄スル時ニハ、更ニ此ノ計畫ヲ變更スルノデハナイカト云フ質問デアリマシタガ、陸軍大臣ノ答辯ハ、今度ノ事變ニ對スル馬ノ體験ハ、極メテ貴重ナルモノガアルガ、此ノ體験ニ依ツテ馬政ノ大變革ヲ爲シタノデアリマス、事變終熄後ト雖モ本計畫ヲ變更スルヤウナコトハ斷ジテナイト明答セラレマシタ

三、國防ヲ中心トセル軍用保護馬ノ制度ハ、馬モ兵器モ同一ナレバ、軍馬餉給ニ必要ナル施設ハ軍事費ニ於テ支辨シテハドウカ、之ニ對シテハ、軍用保護馬ノ飼養ハ、一箇年三十七圓ト云フ極ク少額ノ補助ニナツテ居リマス、又馬ヲ曳付ケル一日ノ旅費ハ、三十錢ト云フ極ク少額ナ金デアツテ、生産者ヤ農家ニ多クノ犧牲ヲ拂ハシムル結果トナル虞ガアルガ、モウ少シ國防中心トシテ此ノ保護馬制度ヲ立ツルノナラバ、モウ少シ政府ハ思切ワタ施設ヲ爲シテハ如何ト云フコトデアリマシタガ、櫻内農林大臣ハ、先づ此ノ程度ニ於テ十分ハ申シマセマスガ、今後注意シテ、或ハ非常ニ十分ト云フヤウナコトガ分レバ、適當ニ考慮ヲ爲スト云フ答辯デアリマシタ

四、馬ノ改良ト生産トハ牧野ニ負フ所ガ非常ニ大キイノデアリマス、政府ハ國有林野ヲ開放シテ、牧野ノ擴充ニ努力スル意思ガアルカドウカト云フコトハ、是ハ最モ委員會ニ於テ各委員ヨリ熱心ニ質問應答ヲ重ネラレマシタ、政府ハ此ノ點ニ關シテハ、調査會モ設置シテアリ、目下研究中デアル、必ズ近々實現シテ、委員諸君ノ意ニ副フヤウ致シタイト考ヘテ居ル、斯様ニ力強クハツ

キリト此ノ點ハ答辯セラレマシタ

五、今回ノ競馬馬競走ノ實施ニ依リマシテ、從來ノ地方競馬百四十箇所バカリガ廢止サレルノデアリマス、競馬ノ主催團體タル畜産組合聯合會、又ハ畜産組合其ノ他ノ團體ニ於テ、尠カラズ債權債務ノ關係ヲ持ツテ居ルガ、今回ノ整理ニ當リマシテ政府ハ負債ノ償還又ハ整理ニ對シテ、十分ノ用意ト其ノ方針ガアルカドウカ、之ニ對シテハ政府ハ適當ナ資本ヲ以テ餘リ地方ニ轉送セテ振替ナイヤウニ致ス用意ガ十分アルト云フ答辯デアリマス

六、競馬馬競走ト地方競走ニ對シマシテ地方稅ヲ課スルト云フコトデアリマス、是ガ本委員會ニ於テ非常ニ重大ナ問題トナツタノデアリマスガ、競馬法ニ依リ日本競馬協會ノ競馬ニ對シマシテハ、同法第八條ニ於テ「地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ」トハツキリ明文ガアルノデアアル、即チ是ハ納付金ニ依ツテ納メテ居ルノデアアルカラ、地方稅ハ課セナイ、然ルニ今回ノ軍用保護馬競走ニ對シテハ地方稅ヲ課スル方針デアアル、斯様ナ説明デアリマシタ、委員會ハ全會一致其ノ不當ヲ難詰シタ結果、政府ト委員會トノ間ニ數次ノ懇談ヲ爲シマシテ、成ベク無修正デ全會一致ヲ協贊スル考デ非常ナ努力ヲ致シマシタノデアリマスガ、政府部内ニ於テハ各省ニ於テ一致ヲ見ルコトガ出来ナイノデ、已ムヲ得ズ茲ニ修正スルコトニナツタノデアリマス、修正案ヲ申上ゲマス

修正案

軍馬資源法第十一條第四項トシテ左ノ一

項ヲ加フ

競馬馬場ノ開設又ハ維持、競走ノ觀覽、優等馬票ノ發行又ハ購買、拂戻金又ハ賞金ノ交付又ハ受領其ノ他競馬馬競走ノ施行又ハ開催ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

採決ノ結果右修正案ヲ全會一致委員會ハ可決致シマシタ、其ノ他ノ法案ハ全部原案ヲ可決致シマシタ、詳細ハ速記録ニ據リマス、右御報告ヲ申上ゲマス

貴族院

伯爵瀨口直亮君 私ハ是ヨリ只今議題トナリマシタル軍馬資源保護法案外二案ノ特別委員會ノ経過ニ結果ニ付テ御報告申上ゲマス、本委員會ハ三月八日第一回ノ會議ヲ開キマシテ、爾後會議ヲ續クルコトト十一回、三月二十二日質疑ヲ終リマシテ討論ニ移リ、續イテ三案原案ヲ可決致シマシタ、只今ヨリ本委員會ニ於ケル経過ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、開會當初ニ於キマシタ農林大臣ヨリ三案ノ御説明ガゴザイマシタ、其ノ大體ハ本議場ニ於ケル御説明ト大差ゴザイマセスカラ、之ヲ申上ゲルコトハ省略致シマス、其ノ他質疑應答等モ十一回ニ互リ各般ノ事項ニ付キマシテ、可ナリ微ニ入り細ニ入ツテ質問應答ガ行ハレマシタ、從テ之ヲ詳細ニ只今申上ゲルコトハ

却テ繁多ニシテソレ程ノ效果ガナイト存ジマスカラシテ、極メテ大要ノミヲ申上ゲマシテ詳細ノコトハ速記録ニ就テ御承知ヲ願ヒタイト存ジマス、先づ軍馬資源保護法案並ニ種馬統制法案ノ内容ニ付テ一通リ申上ゲタイト存ジマス、是ハ今次ノ支那事變ニ於テキマシテ實感ナル實戰ノ經驗、軍備各般ノ施設ニ大變革ガ生ジマシタ爲メ、之ニ應ジマシテ從來ノ馬政計畫ヲ變更致シマシタ、新タ馬政計畫ヲ樹立致サレマシタト、モウ一ツハ今次事變ニ於ケル徵發馬ノ素質其ノ他其ノ馴致ノ方法等ニ付キマシテ是デ満足スルコトハ出来ナイト云フコトガ明カニナリマシテ、從テ是等ノ素質ノ向上ヲ圖リ、軍馬資源ノ充實ヲ期セナケレバナラナイト云フヤウニ立至リマシタノデ、之ニ關シマシテ陸軍當局ヨリシテ馬政局ニ對シマシタ、陸軍ノ要望事項ト云フモノヲ示サレマシタ、ソレガ此ノ馬政計畫ノ根本デアリマス、其ノ要旨ヲ申上ゲマス、ソレハ總テニ於テ六ツゴザイマス、第一ハ、競馬馬ノ生産ヲ第一義トシ、乘型馬ハ之ヲ制限スルコト、ソレカラ種類ハ、アングロノルマン、及ビ是ガ半血種ヲ適當トスル、第二ハ、種牡馬ハ原則トシテ國有トシ、其ノ種類及素質ヲ整理改善スルコト、第三、種牝馬ハ適當ノ保護獎勵ヲ加ヘテ、其ノ未實ヲ圖リ、軍馬ノ生産資源ヲ確保スルコト、四ハ軍用候補馬ノ民間ノ發賣ヲ容易ナラシム

ルト共ニ、其ノ能力ヲ向上シ、戰時遺體ニナカラシムルコト、第五ハ、競馬ハ種馬又ハ軍馬タルベキ資格ヲ有スル馬ニ限リ之ヲ出走セシムルコト、第六、外地及滿洲等ニモ此ノ國策ニ即應シ、速カニ有效適切ナル手段ヲ講ズルコト、以上ノ如キ六ツノ要望ガゴザイマシタ、之ニ基キマシテ、農林當局ニ於テ内地馬政計畫、同ジク實施要領、馬改良方針、産馬方針ト云フヤウナモノヲ立案サレマシテ、必要ニ應ジ馬政調査會ノ職ニ付シ、之ヲ確定サレマシタ、此ノ確定ヲ見マシタノガ根本トナリマシタ、此ノ確定源保護法案竝ニ種馬新制法案、此ノ二ツガ此ノ度立案サレ提出サレタ、種馬新制法案、ソコデ先ヅ軍馬資源保護法案カラシテ申上ゲマスト、是ハ政府ガ毎年馬ノ検査ヲ行フテ、之ニ合格シタモノヲ軍用保護馬ト指定シマシテ、之ヲ飼養スル者ニハ補助金ヲ交付スルト共ニ、競馬ヲ受クルト云フ義務ヲ負ハセマシテ、其ノ競馬ト申シマスノハ、普通競馬ト、競馬競技トニ分チマシテ、普通競馬ハ地方長官ガ之ヲ主管シテ、平均一箇月二回ノ割合ヲ軍馬ニ必要ナル能力及訓練ノ向上維持ヲ圖ルコトヲ目的トシマス、競馬競技ト云フハ普通競馬ヲ受ケタル軍用保護馬ノ能力及訓練ヲ審査シ、併セテ之ニ關スル知識普及ヲ圖ル目的トシテ行ハレマスト、是ハ二ツツニ分レマシテ、第一ハ優等馬ノ投票ヲ伴ハザルモノ、

第二ハ優等馬ノ投票ヲ伴フモノ、此ノ二ツデゴザイマス、此ノ初メノ方ノモノハ主トシテ競馬ノ爲ニ行フモノデアリマス、ソレカラ第二ノ優等馬ノ投票ヲ伴フモノハ、主トシテ乘型馬ノ爲ニ行フモノデアリマス、是ハ北海道三箇所、一府縣一箇所以内デ年二回以内、其ノ期間ハ毎回四日以内ト云フコトニ定メラレテ居リマス、尙之ニ出場シ得ルモノハ、地方長官ノ指定シタル軍用候補馬ニ限ルコトトシ、此ノ競技ニハ入場者ヨリ入場料ヲ取り、又入場者ニ對シテハ額面金額三圓以下ノ優等馬票ヲ發行シ得ルコトトナラテ居リマス、此ノ馬票ト申シマスノハ恰モ競馬法ニ依ル競馬ニ於ケル馬券ト同様ノモノデゴザイマシテ、其ノ發賣數、拂戻額其ノ他總テノ取締ニ關シテハ、殆ド競馬法ト同様デゴザイマス、尙此ノ競馬ノ施行者ハ馬票ノ發行ニ依リ得タル金額ノ百分ノ二十五以内ノ金額ヲ取得スルコトトガ出來、其ノ中ヨリ勅令ノ定ムル所ニ依リマシテ、納付金ヲ軍用候補馬競馬中央會ニ納付スルコトトナラテ居リマス、是等ニ依リマシテ同會デハ競馬競技ノ健全ナル發達ヲ圖リ、馬用候補馬ノ能力及訓練ノ向上ニ資シ、軍馬ニ關スル知識ノ普及ヲ期スル爲、總テノ施設ヲ行フコトトナラテ居リマス、尙之ニ關シマシテ、衆議院ハ本法案第十一條ニ修正ヲ加ヘ、次ノ一條ヲ挿入致シマシタ、即チ競馬場ノ開設又ハ維持、競走ノ

觀賽、優等馬票ノ發行又ハ購買、拂戻金又ハ賞金ノ交付又ハ受領其ノ他競馬場競走ノ施行又ハ開催ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ、斯ウ云フ修正ヲ加ヘマシタ、次ニ種馬統制法案ニ付キマシテ申上ゲマス、本法案ハ種馬ヲ整備シ其ノ配合ヲ統制シ、馬ノ改良増殖ヲ圖ルコトヲ目的トシマシテ、總テ馬ノ種付事業ハ政府之ヲ管掌シ、種牡馬ハ國ニ於テ所有スルコトヲ原則トシ、種牡馬ニ非レバ絕對ニ種付ニ供用スルコトガ出來ナイコトトナラテ居リマス、尙種牡馬ノ方ニ關シマシテハ、民有ノ種牡馬ヲ検査シ、優良種牡馬ヲ指定シ、政府ハ必要ニ應ジ馬ノ配合ノ統制上、必要ナル命令ヲ發シ、又ハ處分ヲ爲シ得ルコトトナラテ居リマス、種馬ノ輸出及移出ヲ制限スル外、毎年民間種馬ノ検査ヲ行ヒ、其ノ指定ヲ取消スコトガ出來ルコトトナラテ居リマス、尙之ガ實施ニ關スル諸般ノ手續、罰則等ガ規定サレテ居リマス、最後ニ競馬法ノ臨時條例ニ關スル法案ニ付テ申上ゲマス、本法案ハ支那事變ノ間、日本競馬會ガ政府ニ納付スベキ金額ヲ百分ノ一・五以内、競馬會ガ取得スル金額ヲ百分ノ一・八以内ニ増加セムトスルモノデアリマス、是ヨリ委員會ニ於キマシテ行ハレマシタ質稟應答ノ大要ヲ申上ゲマス、總テ詳細ハ先程申上ゲマシタ通り速記録ニ付テ御承知ヲ願ヒマス、殆ド十日、十日ニ互リマシテ質稟應答ガ可ナリ

群シテ行ハレ、且其ノ中ニハ筆記ヲ中止致シマシタコトモ、種馬新制法案、是ハ申上ゲルコトノ出來マセヌノヲ遺憾ト致シマスガ、大體ニ於テ最モ集中致シマシタ要點ハ、次ノ馬券及馬票ノ問題デゴザイマス、是ハ一々ノ問答等ヲ省キマシテ、各委員ヨリ御質問ニナリ、ソレニ應ジテ政府ノ御答辯ニナリマシタコトヲ綜合シテ申上ゲマスト、馬券ト云フモノハ如何ニモ醇風美俗ニ反スル、何トカシテ馬券ヲ廢メテ馬政計畫ヲ立テルコトガ出來マイカト云フ御質問ニ對シマシテ、政府ヨリ馬券ノ制度ガ思ハシクナイト云フコトハ御同感デアラガ、ソレガ爲ニ此ノ弊害ハ出來ルダケ減少シ、避ケルコトニ努力シ、其ノ取締及總テノコトニ付テ深甚ナル注意ヲ拂テ實施スルコトト致シマスガ、目下ノ狀況ニ於テハ馬券ヲ全廢スルト云フコトハ可ナリ困難デアラ、直チニ實施スルコトハ不可能デアラケレドモ、將來之ニ關シテ何等カ良イ方法ガ見付カテ、馬券ト云フモノヲ廢シテモ、馬政ガ十分ニ立ツト云フヤウニナリマスレバ、ソレニ向テ進ムノニ吝カデナイト云フ結局ノ御答辯デゴザイマス、之ニ矢張り關聯致シマシテ、先程申上ゲマシタ競馬場競走ニ馬票ヲ附スルト云フコトニ付テモ、可ナリ反對ナル御質問ガゴザイマシタ、元來地方競馬ト申シマスノハ法律ガ一ツモ認メマセヌ所ノ、内務及農林省ノ省令ニ依ッテ行ハレテ居ルモ

ノデゴザイマス、然ルニ此ノ度此ノ軍馬資源保護法案ニ依リマシテ、新タニ四十數箇所ト云フモノヲ馬票ヲ發行スル競馬場ト云フモノヲ認メマシテ、結局法律ニ於テハ新シク馬票ノ附イテ所ノ競馬ヲ認メルコトトナラテ、是ハ社會風教上甚ダ面白クナイ、之ニ付テ政府ハドウ云フ風ニ考ヘラル、カト云フ御質問ニ對シマシテ、政府當局ヨリハ、地方競馬ト云フモノガ只今迄弊害ガ非常ニ多イト云フコトハ、政府ニ於テモ是ハ認メル、併シ諸種ノ事情ヨリシテナカク、之ガ整理絶減ト云フコトハ出來ナカク、然ルニ今同此ノ軍馬資源保護法案ニ依リマシテ、新タニ全ク今迄ト違フ所ノ競馬場競走ト云フモノガ出來マシテ、此ノ機會ニ於テ今迄ノ地方競馬ト云フモノハ全廢シテ、詰リ數ニ於テモ半數以下ニ減リ、實際ニ於テハ此ノ取締其ノ他ヲ強化シテ、弊害ヲ減少スルト云フコトハ政府デ企圖スル所デアラカラシテ、理想ヨリ言ヘバ固ヨリ是等ヲ全廢スルノガ或ハ宜イカモ知レナイケレドモ、現狀ニ於テ之ル全廢スルコトハ相當諸種ノ關係上困難デアラカラシテ、先ヅ此ノ程度ニ於テ我慢ラシテ貰ヒタイ、將來ニ於テハ方法サヘ見付カレバ、之ヲ逐次廢メテ行クト云フコトニ付テハ、政府ハ固ヨリ反對スルモノデハナイト云フ御話デアリマス、ソレカラ尙一委員ヨリ馬政ノ計畫ヲ立テラレテ、競馬場即チ、アングロノルマン種ニ日本ノ

馬ヲ改良シ、出來レバ種ノ固定ヲ圖ラウト云フノハ能ク分リマシタケレドモ、實際今日本競馬會デ行フ所ノ、競馬ニ出走スル馬ハ「サラブレッド」ガ主體デアラテ、ソレニ幾分、アングロアラブノ系統ノ馬ガ入テ居ル、サウシテ行クト是ハ軍馬ニモナラナイガ、ドウ云フ意味デ此ノ競馬ヲ許サレ、且色々ナル問題ニナラテ居ル所ノ馬券迄許サレテ、競馬ヲ盛ニ行ハレテ居ルコト云フ御質問ニ對シマシテ、政府ハ競馬：是ヨリ競馬ト申シマスノハ日本競馬會ニ於テ行フ競馬デ、其ノ競馬ニ出走スル馬ガ「サラブレッド」及「アングロアラブ」ノ系統デアルト云フコトハモウ周知ノ事實デアラ、是ハ何ニ役立ツカト云フト、輕イ所ノ種馬ヲ其ノ中カラ選定スル、元來中間種、即チ「アングロノルマン」ヲ主體ト致シマシテモ、馬ヲ改良スル上ニ於テハドウシテモ「サラブレッド」及「アラブ」ノ血ヲ入レテ行カナケレバ立派ナル馬ハ出來マセヌ、少數ノ血ヲ入レテ之ヲ改良スル爲ニハ、極メテ優秀ナル、十分此ノ馬ノ改良ニ役立ツ馬デナケレバ國ノ馬ト云フモノハ良クナラナイ、此ノ能力其ノ他ニ於テ新規優秀ナルモノヲ得ル爲ニハ、ドウシテモ競馬ヲ行テ公衆ノ面前ニ於テ價値ナル競走ヲ行テ、其ノ中カラ選定ブノガ一番良イ方法デアラカラシテ、詰リ競馬ニ於ケル「サラブレッド」及「アングロアラブ」ト云フモノハ、國ノ馬政計畫ニ基イ

テ産馬方針ニ依リ、之ニ要スル改良ノ根據トナルベキ種馬ヲ得ル爲ニ行フモノデアラ...

ノ五ヲ必要ニ應ジテ、農林省ニ於テ此ノ趣旨ニ依リマシテ、地方稅ヲ今迄取テ居...

成立ヲ望ムコト亦決シテ他ノ者ニハ劣ラナイ熱意ヲ持テ居ル、併シナガラ此ノ鍛鍊馬...

ナイ、尙質稟應答ノ問答中ニ於テ政府ハ屢、何等カノ方法ガアレバ、此ノ馬券馬票等ニ...

シテ、慎重研究ノ上善處致シタイト存ジマス、斯クノ如キ農林大臣ノ發言ガアリマシ...

ノ定ムル鍛鍊ヲ受ケシムルコトヲ要ス第六條 本法ニ依ル軍用保護馬ノ鍛鍊ハ普...

鍛鍊馬競走ヲ行フコトヲ得ル鍛鍊馬場ノ數ハ一府縣一箇所以内、北海道三箇所以内トス

鍛鍊馬競走ノ施行ハ鍛鍊馬場毎ニ年二回以內トシ其ノ期間ハ毎回四日以內トス

第九條 鍛鍊馬競走ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ指定シタル軍用保護馬ニ非ザレバ出場セシムルコトヲ得ズ

第十條 鍛鍊馬競走ノ施行者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ入場者ヨリ入場料ヲ徵收スベシ

鍛鍊馬競走ノ施行者ハ鍛鍊馬場ニ於テ入場者ニ對シ額面金額三圓以下ノ優等馬票ヲ額面金額ヲ以テ發行スルコトヲ得

優等馬票ノ發行ハ鍛鍊馬競走一競技ニ付一人一枚ヲ限リ單式優等馬票及複式優等馬票ヲ發行スル場合ニ於テハ鍛鍊馬競走一競技ニ付一人一枚ヲ限ル

優等馬票ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ズ
學生生徒又ハ未成年者ニ對シ優等馬票ヲ發行スルコトヲ得ズ

當該鍛鍊馬競走ニ於ケル勅令ヲ以テ定ムル施行委員又ハ當該鍛鍊馬競走ニ關スル騎乗者其ノ他鍛鍊馬競走ノ事務ニ從事スル者ニ對シ亦前項ニ同ジ

鍛鍊馬競走ノ施行者ハ優等馬票ノ發行者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該競技

ニ付テノ優等馬票ノ發行ニ依リ得タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ拂戻ヲ爲スモノトス但シ其ノ金額ハ優等馬票ノ額面金額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

優等馬票ノ的中者無キ場合ニ於ケル優等馬票ノ發行ニ依リ得タル金額又ハ前項但書ノ規定ニ依リ生ジタル超過金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ優等馬票ヲ購買シタル者ニ拂戻スベシ

前二項ノ拂戻金ノ債權ハ一年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第十一條 鍛鍊馬競走ノ施行者優等馬票ヲ發行シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ發行ニ依リ得タル金額ノ百分ノ二十五以內ノ金額ヲ收得スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鍛鍊馬競走ノ施行者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ納付金ヲ軍用保護馬競練中央會ニ納付スベシ

前項ノ納付金ハ軍用保護馬競練中央會ノ目的ヲ達スル爲メ必要ナル經費ニ充ツルコトヲ要ス

鍛鍊馬場ノ開設又ハ維持、競走ノ觀覽、優等馬票ノ發行又ハ購買、拂戻金又ハ賞金ノ交付又ハ受領其ノ他鍛鍊馬競走ノ施行又ハ開催ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第十二條 軍用保護馬競練中央會ハ法人ト

シ鍛鍊馬競走ノ健全ナル發達ヲ圖リ以テ軍用保護馬ノ能力及訓練ノ向上ニ資スルト共ニ軍馬ノ資質ニ關スル知識ノ普及ヲ期スルコトヲ目的トス

軍用保護馬競練中央會ハ全國ヲ通ジ一箇トシ第八條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ヲ以テ之ヲ組織ス

軍用保護馬競練中央會成立シタルトキハ會員タル資格ヲ有スル者ハ總會員トス

第十三條 政府ハ軍用保護馬競練中央會ノ保有スル資金ガ勅令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ政府ニ納付セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ納付金ハ國稅帶納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十四條 軍用保護馬競練中央會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

軍用保護馬競練中央會ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セズ

第十五條 本法ニ定ムル所ノ外軍用保護馬競練中央會ノ設立、登記、管理、監督、解散、清算其ノ他軍用保護馬競練中央會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 行政官廳ハ鍛鍊馬競走ノ施行者ニ對シ鍛鍊馬競走ノ施行ニ關シ監督上必要ナル勅令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條 政府ハ鍛鍊馬競走ノ施行者又ハ軍用保護馬競練中央會ニ對シ鍛鍊馬競走ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 政府ハ鍛鍊馬競走ノ施行者又ハ其ノ役員若ハ施行委員ノ行爲ガ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 第八條第二項ノ許可ヲ取消
二 鍛鍊馬競走ノ停止
三 優等馬票發行ノ停止又ハ制限
四 施行委員ノ職務執行ノ停止

第十九條 軍用保護馬ハ政府ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ之ヲ輸出シ又ハ移出スルコトヲ得ズ第二條第一項ノ檢定ニ合格シタル馬ニ付勅令ヲ以テ定ムル期間内亦同ジ

第二十條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年軍用保護馬ノ檢査ヲ行ヒ之ニ合格セザルモノニ付軍用保護馬ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第二條第二項ノ規定ハ前項ノ檢査ニ之ヲ準用ス

第二十一條 政府ハ第二條第一項ノ檢定又ハ前條第一項ノ檢査ノ爲メ必要アリト認ムルトキハ區域及期間ヲ指定シ馬ノ移動ヲ制限スルコトヲ得

第二十二條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル馬ニ付テ之ヲ適用セズ

一 當歳ノモノ又ハ明ケ十八歳以上ノモノ
二 國又ハ道府縣ノ所有ニ係ルモノ
三 前二號ノ外勅令ヲ以テ定ムルモノ
第二十三條 軍用保護馬ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ軍用保護馬ノ指定ハ其ノ效力ヲ失フ

一 明ケ十八歳ニ達シタルトキ
二 輸出又ハ移出セラレタルトキ
三 國又ハ道府縣ノ所有ト爲リタルトキ
四 前二號ノ外勅令ヲ以テ定ムル場合

第二十四條 市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル馬ニ付馬籍ニ其ノ旨記載スベシ

一 第二條第一項ノ檢定ニ合格シタルモノ
二 軍用保護馬ニ指定セラレタルモノ又ハ軍用保護馬ノ指定ヲ取消セラレタルモノ若ハ其ノ指定ノ效力ヲ失ヒタルモノ

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

一 鍛鍊馬競走ニ關シ第八條第二項ノ許可ヲ受ケズシテ優等馬票ヲ發行シ又ハ之ニ類似ノ行爲ヲ爲シタル者

二 第十八條第三號ノ停止又ハ制限ニ違反シ優等馬票ヲ發行シタル者

三 鍛鍊馬競走ニ關シ常習シテ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭博ヲ爲シタル者
四 第十條第六項ニ掲グル者ニシテ前號ニ規定スル行爲ノ相手方ト爲リタルモノ

第二十六條 鍛鍊馬競走ノ施行委員鍛鍊馬競走ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第九條ノ規定ニ違反シ同條ニ規定スル軍用保護馬ニ非ザル馬ヲ鍛鍊馬競走ニ出場セシメタル者
二 第十條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ制限ニ違反シ優等馬票ヲ發行シタル者

三 第十條第五項又ハ第六項ノ規定ニ違反シ優等馬票ヲ發行シタル者

四 第十條第六項ニ掲グル者ニシテ優等馬票ヲ購買シタルモノ

五 第十條第七項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シ拂戻金ヲ交付シタル者

六 第二十五條第一號乃至第三號ノ一ニ規定スル行為ノ相手方ト爲リタル者

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シ優等馬票ヲ購買シタル者

二 第十條第五項ニ掲グル者ニシテ優等馬票ヲ購買シタルモノ

三 優等馬票ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者

四 第十條第七項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル拂戻金ノ交付ヲ受ケタル者

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第二條第一項ノ檢定、第七條第一項ノ普通鍛鍊又ハ第二十條第一項ノ檢査ニ應ゼザル者

二 第二條第一項ノ檢定、第七條第一項ノ普通鍛鍊又ハ第二十條第一項ノ檢査ヲ拒ミ、妨ガ又ハ忌避シタル者

三 第二十一條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者

第三十一條 軍用保護馬鍛鍊中央會ノ役員又ハ鍛鍊馬競走ノ施行委員ガ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十二條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十三條 法律ノ規定ニ依ラザル馬ノ競走ニ關シ優等馬票、勝馬投票券若ハ之ニ類似ノモノヲ發賣シ又ハ之ニ類似ノ行為ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

第三十四條 法人又ハ人ノ代理人、店主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第二十七條又ハ第三十條第一號若ハ第三號ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ル

ルコトヲ得ズ

第三十五條 第二十七條並ニ第三十條第一號及第三號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第三十七條 鍛鍊競技ノ施行者又ハ鍛鍊馬競走ノ施行委員第十六條、第十七條又ハ第十八條第四號ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

軍用保護馬鍛鍊中央會ノ役員第十五條ノ規定ニ依ル命令又ハ第十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第三十八條 本法ニ於テ市町村又ハ市町村長トアルハ市制第六條ノ市及市制第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區又ハ區長トシ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村又ハ町村長ニ準ズベキモノトス

附則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付命令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十四年七月一日勅令第四百二十八號ニヨリ第三十三條ノ規定ハ昭和十五年一月一日ヨリ、其ノ他ノ規定ハ昭和十四年七月三日ヨリ施行)

軍用保護馬鍛鍊中央會ハ本法公布ノ日ニ於テ現ニ優勝馬投票ニ依リ景品券ヲ發行スル競馬施行ノ許可ヲ受ケ居ル畜産組合聯合會又ハ畜産組合ガ第三十三條ノ規定ノ施行ニ關シ當該競馬場ニ付爲ス設備ノ處分其ノ他ノ整理ニ關シ勅令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル事業ヲ行フコトヲ得

軍馬資源保護法施行令

(昭和十四年七月一日勅令第四百二十九號)

第一條 軍用保護馬ノ鍛鍊ハ特ニ軍用保護馬ノ負擔力、敏捷力及持久力ノ向上維持ヲ圖ルト共ニ集團馴致ヲ完全ナラシムルコトヲ本旨トシテ之ヲ實施スベシ

第二條 軍馬資源保護法第三條ノ手當ハ馬一頭ニ付三十五錢トシ同條ノ旅費ハ馬一頭ニ付往復路程ヲ通算シ一里ニ滿ツル毎

ニ五錢トス

第三條 軍馬資源保護法第七條第三項ノ補償金ハ普通鍛鍊ノ施行ニ因リ軍用保護馬死亡シ又ハ普通鍛鍊ノ施行ニ因ル傷害ノ爲軍用保護馬ノ指定ヲ取消サルニ至リタル場合其ノ馬ノ所有者ニ對シ之ヲ交付ス

第四條 前條ノ補償金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ文書ニ依リ地方長官ヲ經由シ農林大臣ニ之ヲ申請スベシ

前項ノ規定ニ依ル申請書ハ當該軍用保護馬死亡シタル日又ハ當該軍用保護馬ノ指定ヲ取消アリタル日ヨリ三月以内ニ地方長官ニ之ヲ提出スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル申請書ノ提出アリタルトキハ地方長官ハ補償審査員ノ認定シタル其ノ馬ノ死亡又ハ傷害ノ原因、傷害ノ程度及價額並ニ當該認定ニ對スル其ノ意見及其ノ評定シタル補償見積額ヲ具シ之ヲ農林大臣ニ申達スベシ

農林大臣ハ前項ノ規定ニ依リ補償審査員ノ認定並ニ地方長官ノ意見及評定ヲ參酌シ補償金ノ額ヲ決定ス

補償金ノ最高金額ハ馬一頭ニ付七百圓トス

第五條 前條ノ補償審査員ハ獸醫師一人、當該申請ニ係ル軍用保護馬ノ飼養場所ノ

在ル市町村ノ市町村長又ハ吏員一人及普通鍛鍊ノ關係指導員一人トシ同條ノ規定ニ依リ申請アリタル都府地方長官ノ命令ニ

補償審査員ニハ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ給スルコトヲ得

第六條 馬ノ生産者又ハ飼育者ヲ以テ組織スル畜産組合(以下馬ニ關スル畜産組合ト稱ス)及其ノ組織スル畜産組合聯合會(以下馬ニ關スル畜産組合聯合會ト稱ス)ハ鍛鍊競技ニシテ優等馬ノ投票ニ關スル施設ヲ行ハザルモノ(以下一般鍛鍊競技ト稱ス)ヲ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上施行スベシ但シ地方長官ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ一般鍛鍊競技ニハ第八條第一項ノ規定ニ依リ指定ヲ受ケタル軍用保護馬ニシテ當該畜産組合又ハ畜産組合聯合會ノ區域内ニ飼養場所ノ在ルモノニ限り出場セシムルモノトス

第一項但書ノ規定ニ依リ馬ニ關スル畜産組合又ハ畜産組合聯合會ガ一般鍛鍊競技ヲ施行セザル場合ニ於テハ地方長官ハ第八條第一項ノ規定ニ依リ指定ヲ受ケタル軍用保護馬ニシテ當該畜産組合又ハ畜産

組合聯合會ノ區域内ニ飼養場所ノ在ルモノニ付北海道、府縣其ノ他適當ナル團體ニ對シ一般鍛鍊競技ノ施行ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外北海道、府縣其ノ他政府ノ指定スル團體ノ行フ一般鍛鍊競技ニ付テハ農林大臣ノ定ムル所ニ依ル

第七條 軍馬資源保護法第八條第二項ノ畜産組合聯合會又ハ畜産組合ニ關スル畜産組合聯合會又ハ畜産組合ニ關スル第八條 地方長官ハ軍用保護馬ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニ限リ鍛鍊競技出場馬ニ指定スルコトヲ得

一 明ケ四歳以上ナルコト

二 當該地方長官ノ管轄スル區域(北海道ニ在リテハ農林大臣ノ指定スル區域)内ニ於テ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ普通鍛鍊ヲ受ケ其ノ成績良好ナルコト

三 農林大臣ノ定ムル所ニ依リ行フ馬體検査ニ於テ鍛鍊競技出場ヲ適當ト認メラレタルコト

前項ノ規定ニ依リ鍛鍊競技出場馬ニ指定セラレタル軍用保護馬ハ同項第一號ノ區域内ニ於ケル鍛鍊競技ニ限リ之ヲ出場セシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル指定ハ其ノ翌年其ノ馬ニ付テ軍馬資源保護法第二十條第一項ノ検査ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

第九條 鍛鍊競技ニシテ優等馬ノ投票ニ關スル施設ヲ伴フモノ(以下鍛鍊馬競走ト稱ス)ノ施行者ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ優等馬票ノ發行ニ依リ得タル金額ノ百分ノ二十以內ノ金額ヲ收得スルコトヲ得但シ鍛鍊馬競走ノ施行者ガ當該鍛鍊馬場所在ノ北海道、府縣又ハ市町村ニ對シ寄附金ヲ納付スル場合ニ限リ農林大臣ノ認可ヲ受ケ百分ノ二十ヲ超ユル歩合ノ金額ヲ收得スルコトヲ得

第十條 鍛鍊馬競走ノ施行者ハ優等馬票ノ發行ニ依リ得タル金額ノ百分ノ十五以內ニ於テ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ算出シタル金額ヲ當該鍛鍊馬競走ノ終了後一月以內ニ軍用保護馬競走中央會ニ納付スベシ

第十一條 農林大臣ハ設立委員ヲ命ジ軍用保護馬競走中央會ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第十二條 設立委員ハ定數ヲ作り農林大臣ニ軍用保護馬競走中央會設立ノ認可ヲ申請スベシ

軍用保護馬競走中央會ハ前項ノ認可アリタル時成立ス

第十三條 定數ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所

四 役員ニ關スル規定

五 參與會ニ關スル規定

六 事業及其ノ執行ニ關スル規定

七 資産及會計ニ關スル規定

八 定款ノ變更ニ關スル規定

第十四條 軍用保護馬競走中央會ハ其ノ成立ノ日ヨリ三週間以內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 目的

二 名稱

三 事務所

四 成立ノ年月日

五 資産ノ總額

六 會頭、副會頭、理事及監事ノ氏名及住

所

前項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ三週間以內ニ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス但シ同項第五號ニ掲グル事項ニ付テハ毎會計年度末日ノ現在ニ依リ會計年度終了後一月以內ニ登記ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

本令ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所選滞ナク之ヲ公告スベシ

第十五條 軍用保護馬競走中央會ノ清算終了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スベシ

前項ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第十六條 民法第四十四條、第四十五條、第二項第三項、第四十七條、第四十八條、第五十條、第五十四條、第五十五條、第五十七條、第六十八條第一項及第七十條乃至第八十三條並ニ非訟事件手續法第三十五條、第三十六條、第三十七條ノ二、第一百

七條、第一百九條乃至第二百二十二條、第三百六條乃至第三百八條、第四百二十二條乃至第四百五十七條及第四百七十五條乃至第四百七十七條ノ規定ハ軍用保護馬競走中央會ニ之ヲ準用ス

第十七條 軍用保護馬競走中央會ニ左ノ役員ヲ置ク

會頭 一人

副會頭 二人以內

理事 若干人

監事 若干人

第十八條 會頭ハ軍用保護馬競走中央會ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副會頭ハ會頭事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ會頭缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副會頭及理事ハ會頭ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ軍用保護馬競走中央會ノ業務ヲ掌理ス

監事ハ軍用保護馬競走中央會ノ業務ヲ監査ス

第十九條 會頭、副會頭及理事ハ農林大臣ノ命ニ依リ之ヲ命ズ

監事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ參與會ニ於テ其ノ候補者ヲ選舉シ農林大臣之ヲ命

會頭、副會頭及理事ノ任期ハ五年、監事ノ任期ハ三年トス

第二十條 軍用保護馬競走中央會ニ參與會ヲ置ク

參與ノ員數及任期ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

參與ハ定款ノ定ムル所ニ依リ會員之ヲ互選ス

第二十一條 定款ノ變更ハ參與會ノ議決ヲ經ベシ

前項ノ議決ハ參與ノ三分ノ二以上出席スルニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

定款ノ變更ハ農林大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十二條 軍用保護馬競走中央會ハ農林大臣之ヲ監督ス

第二十三條 軍用保護馬競走中央會ハ左ニ掲グル事項ニ付農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

一 收支豫算

二 借入金

三 債務ノ保證

四 不動産ノ取得又ハ處分

第二十四條 農林大臣ハ軍用保護馬競走中

中央會ニ對シ定款又ハ收支豫算ノ變更ヲ命
ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ
爲スコトヲ得

第二十五條 本令ニ定ムルモノノ外軍用保
護馬鍛鍊中央會ニ關シ必要ナル事項ハ農
林大臣之ヲ定ム

第二十六條 第五條中市町村又ハ市町村長
トアルハ市制第六條ノ市及市制第八十二
條第三項ノ市ニ在リテハ區又ハ區長ト
ス

本令ニ於テ市町村又ハ市町村長トアルハ
町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村又
ハ町村長ニ準ズベキモノトス

附則

第二十七條 本令ハ昭和十四年七月三日
リ之ヲ施行ス

第二十八條 軍馬資源保護法附則第二項ニ
規定スル競馬場ノ設備ノ處分其ノ他ノ整
理ヲ爲ス畜産組合聯合會又ハ畜産組合ガ
軍用保護馬鍛鍊中央會ニ對シ其ノ成立ノ
日ヨリ一年以内ニ農林大臣ノ定ムル所ニ
依リ申出ヲ爲シタル場合ニ於テ軍用保護
馬鍛鍊中央會必要アリト認ムルトキハ當
該競馬場ニ付左ノ事業ヲ行フコトヲ得
一 競馬場ノ用地、馬場設備、建物、工作

物又ハ備品ニ關スル賃借契約ノ條件ノ
緩和ニ關スル協定ノ斡旋又ハ其ノ解約
ノ斡旋

二 競馬場ノ用地、馬場設備、建物、工作
物又ハ備品ノ賃借、買入又ハ建設ニ因
リ負擔シタル私法上ノ金錢債務ノ條件
ノ緩和ニ關スル協定ノ斡旋

三 競馬場ノ用地、馬場設備、建物、工作
物又ハ備品ノ賣却ノ斡旋
四 第一號及第二號ノ斡旋ニ關シ必要ナ
ル債務ノ保證

五 競馬場ノ用地、馬場設備、建物、工作
物若ハ備品ニ關スル賃借契約ノ解約ニ
伴フ原狀回復ノ義務其ノ他ノ債務又ハ
第二號ノ債務ノ辨濟ニ要スル費用ニ對
スル補給金ノ交付

六 競馬場ノ用地、馬場設備、建物、工作
物又ハ備品ノ買入又ハ借入
七 前各號ニ掲グルモノノ外整理ニ關シ
必要ナル事業

軍用保護馬鍛鍊中央會前項第四號乃至第
七號ニ掲グル事業ヲ行ハントスルトキハ
農林大臣ノ認可ヲ受クベシ
農林大臣前項ノ認可ヲ爲サントスルトキ

ハ地方競馬整理審查會ニ諮問スベシ
農林大臣ハ軍用保護馬鍛鍊中央會ニ對シ
第一項ニ規定スル事業ノ實施ニ關シ必要
ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十九條 地方競馬整理審查會ハ農林大
臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ前條第
三項ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタ
ル事項其ノ他軍用保護馬鍛鍊中央會ガ軍
馬資源保護法附則第二項ノ規定ニ基キテ
爲ス地方競馬場ノ整理ノ事業ニ關スル重
要事項ヲ調査審議ス

第三十條 審查會ハ會長一人及委員十八人
以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十一條 會長ハ農林大臣ヲ以テ之ニ充
ツ
委員ハ農林大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グル
者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

一 關係各廳高等官
二 軍用保護馬鍛鍊中央會ノ役員
三 學識經驗アル者
第三十二條 會長ハ會務ヲ總理ス
會長事故アルトキハ農林大臣ノ指名スル
委員其ノ職務ヲ代理ス
第三十三條 審查會ニ幹事ヲ置ク農林大臣
ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
第三十四條 審查會ニ書記ヲ置ク農林大臣
之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第三十五條 軍用保護馬鍛鍊中央會成立當
時ノ理事ノ任期ハ第十九條第三項ノ規定
ニ拘ラス五年以内ニ於テ定款ヲ以テ別ニ
之ヲ定ムルコトヲ得

軍用保護馬鍛鍊中央會成立當時ノ理事ハ
第十九條第二項ノ規定ニ拘ラス農林大臣
之ヲ命ズ

軍馬資源保護法施行規則

(昭和十四年七月一日
農林陸軍省令第一號)

第一章 總則

第一條 軍用保護馬ハ左ノ各號ノ資格ヲ具
備スルコトヲ要ス

一 馬體各部ノ對稱宜シキヲ得低身、廣
軀體質強健、筋腱良ク發育シ肢勢正
良、關節堅牢、蹄質堅韌、持久力ニ富ミ
性質溫順惡癖ナク悍威アリ飼養管理容
易ニシテ其ノ用途ニ應ジ左ニ掲グル資
質ヲ具フルコト
乘馬 長頸短背胸深ク肩斜ニシテ後

驅力アリ運動輕快歩樣低伸調大ナ
ルコト

競馬 體量豐ニシテ厚頸長頸強筋充
實シ力量ニ富ミ步樣確實ナルコト
駄馬 頭頸高カラズ鬃甲著シク突起
スルコトナク背腰短直力アリ特ニ
溫順ニシテ使役容易ナルコト

二 年齢ハ明ケ三歲以上明ケ十七歲以下
ナルコト
三 體高ハ明ケ五歲以上ノモノニ付乘馬
ニ在リテハ一・四八米以上一・五八米以
下、砲兵競馬ニ在リテハ一・五〇米以上
一・六〇米以下、戰列駄馬ニ在リテハ
一・四五米以上一・五五米以下、輜重競
駄馬ニ在リテハ一・四三米以上一・五三
米以下ナルコト但シ馬體各部ノ對稱良
好ナルモノニ付テハ多少伸縮スルコト
ヲ得

四 驢馬又ハ牡馬ナルコト但シ牡馬ニ在
リテハ軍用保護馬ニ指定後八月以內ニ
去勢スベキモノナルコトヲ要ス
第二條 軍馬資源保護法第二十二條第三號
ノ規定ニ依リ同法ヲ適用セザル馬ハ左ニ
掲グル馬トス
一 徵發令第十四條第一號乃至第四號ニ
掲グル馬
二 種馬統制法ニ依リ種牡馬、候補種牡
馬、優良種牝馬又ハ候補優良種牝馬ニ

指定セラレタル馬

第三條 市町村長ハ左ニ掲グル場合ニ於テ
ハ必要ナル事項ヲ其ノ馬ノ馬籍ノ履歷備
ニ朱書スベシ
一 第十五條第一項ノ規定ニ依リ軍用保
護馬檢定ニ合格シタル旨通告アリタル
トキ
二 第二十五條第二項又ハ第三項ノ規定
ニ依リ軍用保護馬ニ指定シタル旨通告
アリタルトキ
三 第二十七條第二項又ハ第三項ノ規定
ニ依リ軍用保護馬ノ指定ヲ取消シタル
旨通告アリタルトキ
四 第二十八條第二項ニ於テ準用セラル
ル第二十五條第二項ノ規定ニ依リ軍用
保護馬ノ指定ノ效力ヲ失ハシムル決定
ヲ爲シタル旨通告アリタルトキ
五 第九十九條第二項ノ規定ニ依リ軍用
保護馬ガ輸出又ハ移出セラレタル旨通
告アリタルトキ
六 軍用保護馬ガ國又ハ道府縣ノ所有ト
爲リ又ハ徵發令第十四條第一號乃至第
四號ニ該當スルニ至リタルコトヲ知リ
タルトキ
七 軍用保護馬ガ明ケ十八歲ニ達シタル
トキ

第四條 本則ニ於テ飼養者トハ馬ノ所有者
ガ其ノ馬ノ飼養場所ノ在ル市町村ニ居住
スルトキハ所有者トシ馬ノ所有者ガ其ノ

馬ノ飼養場所ノ在ル市町村外ニ居住スル
場合ニ於テ馬籍法第七條ノ規定ニ依ル管
理人アルトキハ管理人トス

第五條 軍馬資源保護法第五條ノ命令ヲ以
テ定ムル者トハ前條ニ規定スル管理人其
ノ他其ノ馬ノ飼養ヲ爲ス者トス

第六條 本則ニ於テ市町村又ハ市町村長ト
アルハ市制第六條ノ市及市制第八十二條
第三項ノ市ニ在リテハ區又ハ區長トシ町
村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村又ハ
町村長ニ準ズベキモノトス

第二章 軍用保護馬檢定及軍用保護
馬檢査

第七條 軍用保護馬檢定ハ定期檢定及臨時
檢定ノ二種トス

定期檢定ハ毎年一回總テノ明ケ二歳ノ牡
馬ニ付之ヲ行フ
臨時檢定ハ馬政局長官必要アリト認メタ
ルトキ明ケ三歳以上明ケ十六歳以下ノ馬
ニ付之ヲ行フ

第八條 軍用保護馬檢定ハ馬政局長官檢定
委員ヲシテ之ヲ行ハシム

檢定委員ハ馬政局部内ノ職員一人及地方
廳ノ職員一人ヲ以テ之ヲ組織シ馬政局部
内ノ職員タル委員ハ馬政局長官、其ノ他
ノ委員ハ地方長官之ヲ命ズ
檢定委員ヲ補助スル爲補助員ヲ置キ馬政
局部内又ハ地方廳ノ職員ノ中ヨリ馬政局

長官又ハ地方長官之ヲ命ズ

第九條 檢定ノ期日、場所及區域其ノ他必
要ナル事項ハ馬政局長官地方長官ノ意見
ヲ徴シ之ヲ定ム

地方長官ハ檢定期日十五日前迄ニ前項ノ
事項ヲ告示シ且市町村長ニ通告ス

緊急ノ必要アル場合ニ於テハ檢定委員ハ
檢定ノ期日又ハ場所ヲ變更スルコトヲ得
此ノ場合ニ於テハ檢定委員ハ遲滞ナク檢
定ノ期日又ハ場所ヲ市町村長ニ通告スベ
シ

第十條 市町村長前條第二項ノ通告ヲ受ケ
タルトキハ様式第一號ニ依ル檢定通知書
ヲ檢定期日三日前述ニ檢定ヲ受クベキ馬
ノ飼養者ニ交付スベシ

市町村長前條第三項ノ通告ヲ受ケタルト
キハ遲滞ナク檢定通知書ヲ交付其ノ他ノ
方法ニ依リ其ノ旨檢定ヲ受クベキ馬ノ飼
養者ニ通知スベシ

第十一條 前條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタ
ル者ハ其ノ指定ニ從ヒ其ノ馬ヲ檢定場ニ
牽付ケ檢定ヲ受クベシ
馬ノ疾病、傷損其ノ他已ムラ得ザル事由
ニ因リ馬ヲ檢定場ニ牽付クルコト能ハザ
ルトキハ其ノ馬ノ飼養者ハ檢定期日迄ニ
事由ヲ具シ其ノ旨市町村長ニ届出ツベシ

第十二條 市町村長ハ様式第二號ニ依リ出

場馬ノ連名簿ヲ作成シ檢定ノ際之ヲ檢定
委員ニ提出スベシ

前條第二項ノ届出アリタル馬ニ付テハ市
町村長ハ檢定當日其ノ名稱、飼養者ノ氏
名及事由ヲ檢定委員ニ通告スベシ

第十三條 馬政局長官ハ第十一條第二項ノ
届出アリタル馬ニ付別ニ期日及場所ヲ定
メ檢定ヲ行フコトアルベシ

第十四條 檢定委員ハ檢定ヲ爲シタル馬ノ
前蹄ニ様式第三號ニ依リ烙印スベシ但シ
第二十四條ノ規定ニ依リ指定ヲ爲シタル
トキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 檢定委員ハ市町村毎ニ檢定終了
後遲滞ナク檢定ニ合格シタル馬ノ名稱ヲ
當該市町村長ニ通告スベシ

市町村長前項ノ通告ヲ受ケタルトキハ其
ノ旨告示シ且其ノ馬ノ飼養者ニ通知スベ
シ

第十六條 島嶼又ハ馬ノ數寡ナル地方ニ
於ケル檢定ニ付テハ前九條ノ規定ニ依ラ
ザルコトヲ得

第十七條 軍用保護馬檢査ハ定期檢査及臨
時檢査ノ二種トス
第十八條 定期檢査ハ毎年一回各軍用保護
馬ニ付之ヲ行フ
定期檢査ハ馬政局長官檢査委員ヲシテ之
ヲ行ハシム
第九條乃至第十三條及第十五條ノ規定ハ

定期檢査ニ、第八條第二項及第三項ノ規
定ハ前項ノ檢査委員ニ之ヲ準用ス

第十九條 臨時檢査ハ疾病ニ罹リ又ハ傷害
ヲ受ケタル軍用保護馬ニ付地方長官必要
アリト認メタルトキ檢査委員ヲシテ之ヲ
行ハシム

前項ノ檢査委員ハ一人トシ地方廳ノ職員
ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ズ

第二十條 地方長官臨時檢査ヲ行ヒタルト
キハ其ノ成績ヲ馬政局長官ニ報告ス

第三章 軍用保護馬ノ指定、取消及
失効

第二十一條 軍用保護馬ノ指定ハ軍用保護
馬檢定ニ合格シタル馬ニ付檢定成績ノ優
劣ニ從ヒ上位ノモノヨリ之ヲ爲スモノト
ス

第二十二條 市町村長ハ其ノ市町村ニ飼養
場所ノ在ル馬ニ付毎年十二月三十一日現
在ニ依リ其ノ年ノ軍用保護馬檢定ニ合格
シ未ダ軍用保護馬ノ指定ヲ受ケザルモノ
ノ様式第四號ニ依ル軍用保護馬檢定合格
馬連名簿三通ヲ作成シ翌年一月十五日迄
ニ之ヲ地方長官ニ提出スベシ

第二十三條 地方長官ハ前條ノ規定ニ依リ
提出セラレタル軍用保護馬檢定合格馬連
名簿ノ中二通ヲ郡市別ニ取纏メ一月三十
一日迄ニ之ヲ馬政局長官ニ送付ス

馬政局長官ハ前項ノ規定ニ依リ提出セラ
レタル軍用保護馬檢定合格馬連名簿ニ付
軍用保護馬ノ指定ヲ爲スモノトス

第二十四條 馬政局長官特ニ必要アリト認
ムルトキハ軍用保護馬檢定後直ニ軍用保
護馬ノ指定ヲ爲スコトアルベシ

第二十五條 馬政局長官第二十三條第二項
ノ規定ニ依リ軍用保護馬ノ指定ヲ爲シタ
ルトキハ其ノ馬ノ名稱及飼養者ノ住所氏
名ヲ其ノ馬ノ飼養地ヲ管轄スル地方長官
ニ通告ス

地方長官前項ノ通告ヲ受ケタルトキハ其
ノ旨其ノ馬ノ飼養場所ノ在ル市町村ノ市
町村長ニ通告ス

馬政局長官前條ノ規定ニ依リ軍用保護馬
ノ指定ヲ爲シタルトキハ其ノ馬ノ名稱及
飼養者ノ住所氏名ヲ其ノ馬ノ飼養地ヲ管
轄スル地方長官及其ノ馬ノ飼養場所ノ在
ル市町村ノ市町村長ニ通告ス

市町村長前二項ノ通告ヲ受ケタルトキハ
其ノ旨告示シ且其ノ馬ノ飼養者ニ通知ス
ベシ

第二十六條 地方長官ハ軍用保護馬ノ前蹄
ニ様式第五號ニ依リ烙印ス

第二十七條 馬政局長官軍馬資源保護法第
二十條第一項ノ規定ニ依リ軍用保護馬ノ
指定ヲ取消シタルトキハ第三項ノ規定ス
ル場合ヲ除クノ外其ノ馬ノ名稱及飼養者
ノ住所氏名ヲ其ノ馬ノ飼養地ヲ管轄スル

地方長官ニ通告ス

地方長官前項ノ通告ヲ受ケタルトキハ其
ノ旨其ノ馬ノ飼養場所ノ在ル市町村ノ市
町村長ニ通告ス

馬政局長官軍用保護馬檢査後直ニ軍用保
護馬ノ指定ヲ取消シタルトキハ其ノ馬ノ
名稱及飼養者ノ住所氏名ヲ其ノ馬ノ飼養
地ヲ管轄スル地方長官及其ノ馬ノ飼養場
所ノ在ル市町村ノ市町村長ニ通告ス

市町村長前二項ノ通告ヲ受ケタルトキハ
其ノ旨告示シ且其ノ馬ノ飼養者ニ通知ス
ベシ

第二十八條 軍馬資源保護法第二十三條第
四號ノ規定ニ依リ軍用保護馬ノ指定ノ効
力ヲ失フ場合ハ左ニ掲グル場合トス

一 軍用保護馬ガ第二條各號ノ一ニ該當
スルニ至リタルトキ

二 軍用保護馬ガ正當ノ事由ナクシテ軍
用保護馬檢査ニ出場セザル場合ニ於テ
馬政局長官其ノ指定ノ效力ヲ失ハシム
ル決定ヲ爲シタルトキ

第二十九條 軍用保護馬ガ其ノ指定ヲ取消
サレタルトキ又ハ指定ノ效力ヲ失ヒタル
トキハ地方長官ハ第二十六條ノ規定ニ依
リ爲シタル其ノ馬ノ烙印ヲ抹消ス

第四章 飼養補助金

第三十條 軍馬資源保護法第四條ノ補助金(以下飼養補助金ト稱ス)ハ當該年ノ軍用保護馬定期検査ノ日ニ於テ現ニ軍用保護馬ヲ飼養スル者ニシテ其ノ馬ノ飼養期間ガ引續キ六月以上ニ互ルモノニ對シ之ヲ交付ス

第三十一條 飼養補助金ノ額ハ軍用保護馬一頭ニ付五十圓以内ニ於テ其ノ資格ニ依リ別ニ定ムル金額トス

第三十二條 飼養補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ其ノ馬ノ馬籍簿本ヲ添附シ毎年其ノ馬ノ軍用保護馬定期検査終了後一月以内ニ之ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第三十三條 飼養補助金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ既ニ交付シタル飼養補助金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ

一 法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ
二 飼養補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

第五章 普通鍛鍊

第三十四條 地方長官ハ市町村毎ニ其ノ區域内ノ軍用保護馬ノ幼駒及壯馬ニ分チ二十頭ヲ標準トシテ班ヲ組織シ班毎ニ普通鍛鍊ヲ施行ス

特別ノ事由アルトキハ地方長官ハ隣接スル二以上ノ市町村ノ區域内ノ軍用保護馬ヲ合シ又ハ幼駒及壯馬ヲ合シ班ヲ組織スルコトヲ得

幼駒ノ班ニ編入スベキ軍用保護馬ハ明ケ三歳及明ケ四歳ノモノトシ壯馬ノ班ニ編入スベキ軍用保護馬ハ明ケ五歳以上ノモノトス但シ明ケ四歳ノ軍用保護馬ニシテ發育良好ナルモノハ之ヲ壯馬ノ班ニ編入スルコトヲ妨ゲズ

地方長官必要アリト認ムルトキハ數班ヲ合シテ普通鍛鍊ヲ施行スルコトヲ得

第三十五條 地方長官ハ前條ノ規定ニ依リ組織シタル各班ニ付普通鍛鍊指導員一人ヲ設置シ普通鍛鍊ノ指導ニ當ラシム

第三十六條 地方長官ハ毎年馬政局長官ノ承認ヲ受ケテ翌年度ノ普通鍛鍊事業計畫ヲ定メ三月十五日迄ニ之ヲ關係市町村長ニ通告ス

第三十七條 地方長官前條ノ普通鍛鍊事業計畫ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ豫メ馬政局長官ノ承認ヲ受ケベシ

地方長官普通鍛鍊事業計畫ヲ變更シタルトキハ其ノ旨關係市町村長ニ通告ス

第三十八條 市町村長ハ毎月普通鍛鍊事業計畫ニ從ヒ翌月ニ於ケル普通鍛鍊ノ施行期日及集合場所ヲ定メ之ヲ告示シ且軍用保護馬ノ飼養者ニ通知スベシ

市町村長普通鍛鍊ノ施行期日又ハ集合場所ヲ變更シタルトキハ施行期日三日前迄ニ其ノ旨告示シ且軍用保護馬ノ飼養者ニ通知スベシ

第三十九條 軍用保護馬ノ飼養者ハ普通鍛鍊ノ施行ノ當日所定ノ集合場所ニ軍用保護馬ヲ牽付ケ普通鍛鍊指導員ノ指導ニ從ヒ普通鍛鍊ヲ受ケシムベシ但シ軍用保護馬鍛鍊技出場ノ爲當該市町村内ニ在ラザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

軍用保護馬ノ疾病、傷痍其ノ他已ムラ得ザル事由ニ因リ施行ノ當日所定ノ集合場所ニ軍用保護馬ヲ牽付ケルコト能ハザルトキハ飼養者ハ事由ヲ具シ遲滞ナク其ノ旨市町村長ニ届出ツベシ前項但書ノ場合亦同シ

第四十條 普通鍛鍊ニ出場シタル軍用保護馬ニ付テハ其ノ飼養者ニ對シ一頭一回ニ付三十五錢以上ノ出場手当ヲ給ス

第四十一條 普通鍛鍊指導員ハ毎月普通鍛鍊施行報告書ヲ作成シ翌月十日迄ニ之ヲ地方長官及市町村長ニ提出スベシ

地方長官ハ三月毎ニ其ノ管轄スル區域内ノ普通鍛鍊施行成績書ヲ作成シ之ヲ馬政局長官ニ提出ス

第四十二條 普通鍛鍊ノ施行ニ關聯シテ軍

四 出場ヲ希望スル鍛鍊競技

市町村長ハ前項ノ申請書ニ様式第七號ニ依リ普通鍛鍊指導員ノ作成シタル普通鍛鍊成績證明書ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ進達スベシ

第四十六條 地方長官ハ鍛鍊上特ニ必要アリト認ムル軍用保護馬ニ付テハ前條ノ規定ニ依リ申請ナキ場合ト雖モ其ノ馬ヲ鍛鍊技出場馬ニ指定スルコトヲ得

第四十七條 軍馬資源保護法施行令第八條第一項ノ規定ニ依リ鍛鍊技出場馬ニ指定スルコトヲ得ル軍用保護馬ハ第三十四條ノ規定ニ依リ組織セラレタル同一ノ班ニ於テ引續キ六回以上壯馬ノ普通鍛鍊ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第四十八條 軍馬資源保護法施行令第八條第一項第三號ノ馬體検査ハ其ノ馬ニ付テ行フ軍用保護馬定期検査ト同日ニ地方長官之ヲ行フ

前項ノ馬體検査ニハ其ノ馬ノ普通鍛鍊成績證明書ヲ作成シタル普通鍛鍊指導員ヲ立會ヘシム

第四十九條 鍛鍊技出場馬ノ指定ハ鍛鍊競技ニシテ優等馬ノ投票ニ關スル施設ヲ又ハ鍛鍊技ニシテ優等馬ノ投票ニ關スル施設ヲ伴フモノ(以下鍛鍊馬競走ト稱ス)ニ分チ之ヲ爲スモノトス

第五十條 地方長官鍛鍊技出場馬ノ指定

ヲ爲シタルトキハ其ノ馬ノ名稱、所有者ノ住所氏名及出場シ得ル鍛鍊技ヲ告示シ且其ノ馬ノ所有者ニ通知ス

地方長官ハ鍛鍊馬競走ノ出場馬ニ指定シタル軍用保護馬ニ付テハ其ノ馬ノ名稱、種類、性、毛色、年齢、特徴及飼養場所並ニ其ノ所有者ノ住所氏名ヲ農林大臣ニ報告ス

第五十一條 地方長官鍛鍊技出場馬ニ指定シタル軍用保護馬ノ保護上必要アリト認ムルトキハ其ノ指定ヲ取消スコトヲ得

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ取消ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 鍛鍊技ニ於テハ馬體検査、調教審査及能力審査ヲ行フベシ

馬體検査ハ主トシテ體型、榮養及管理ノ良否ニ付、調教審査ハ主トシテ扶助ニ對スル從順性並ニ歩度及步調ノ確實性ニ付、能力審査ハ一般鍛鍊技ニ在リテハ主トシテ持久性並ニ音響及物體ニ對スル馴致ノ良否ニ付、鍛鍊馬競走ニ在リテハ主トシテ速力ニ付審査スルモノトス

第五十三條 鍛鍊技ニ於ケル出場馬ノ成績ノ順位ハ馬體検査、調教審査及能力審査ノ結果ヲ綜合シ之ヲ決定スルモノト

第六章 鍛鍊競技

第一節 通則

第四十五條 軍用保護馬ノ所有者其ノ馬ニ付鍛鍊技出場馬ノ指定ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ニ其ノ馬ノ馬籍簿本ヲ添附シ第四十七條ノ規定スル所ニ依リ普通鍛鍊ヲ受ケタル市町村ノ市町村長ヲ經由シ之ヲ地方長官ニ提出スベシ

一 馬ノ名稱

二 年齢

三 飼養場所

ス

第二節 一般鍛鍊競技

- 第五十四條 軍馬資源保護法第八條第一項ニ掲ぐる者一般鍛鍊競技ヲ施行セントスルトキハ施行日一月前迄ニ左ニ掲ぐる事項ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ申請スベシ
 - 一 施行ノ日時及場所
 - 二 鍛鍊競技場ノ施設
 - 三 出場區域及出場見込馬數
 - 四 競技ノ種類別ノ回數並ニ競技ノ條件、審査ノ要領及賞金額又ハ賞品ノ種類
 - 五 審査委員ノ氏名
 - 六 入場料ヲ徴收スルトキハ其ノ金額
 - 七 競技施行ニ關スル收支豫算
- 一般鍛鍊競技ノ施行者前項ノ規定ニ依ル申請書ニ記載シタル前項各號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ
- 第五十五條 一般鍛鍊競技ノ施行者ハ入場者一人ニ付二十錢ヲ超ユル入場料ヲ徴收スルコトヲ得ズ
- 第五十六條 一般鍛鍊競技ニハ出場見込ノ軍用保護馬ノ數四十頭以上アルコトヲ要ス

ス

- 第五十七條 軍馬資源保護法施行令第六條第一項ニ規定スル畜産組合ハ其ノ施行スベキ一般鍛鍊競技ノ出場見込馬數四十頭ニ滿タザル場合ニ於テハ他ノ畜産組合ト聯合シテ一般鍛鍊競技ヲ施行スルコトヲ得
- 第五十八條 軍馬資源保護法施行令第六條第一項ニ規定スル畜産組合又ハ畜産組合聯合會同條同項ノ規定ニ依リ施行スベキ一般鍛鍊競技ハ其ノ畜産組合又ハ畜産組合聯合會ノ區域ヲ出場區域トスルコトヲ要ス
 - 一 畜産組合ニシテ府縣ヲ其ノ區域トスルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ區域ヲ出場區域トスル一般鍛鍊競技及郡市又ハ之ニ準ズル地域毎ニ之ヲ出場區域トスル一般鍛鍊競技ヲ施行スベシ
 - 一 畜産組合聯合會ニシテ北海道ヲ其ノ區域トスルモノハ第一項ノ規定ニ拘ラス軍馬資源保護法施行令第八條第一項第二號ノ農林大臣ノ指定スル區域毎ニ之ヲ出場區域トスル一般鍛鍊競技ヲ施行スベシ
- 第五十九條 一般鍛鍊競技ニ於ケル競技ハ乘馬競技、鞍馬競技及駄馬競技ノ三種トス

- 第六十條 一般鍛鍊競技ノ施行者ハ競技終了後一月以内ニ左ニ掲ぐる事項ヲ地方長官ニ報告スベシ
 - 一 各競技ノ出場馬數
 - 二 各競技ノ競技ノ條件並ニ受賞馬ノ名稱、種類、性、年齢、體高、胸圍、管圍、所有者、騎乘者、賞金額、賞品ノ種類及順位
 - 三 競技施行ニ關スル收支實績
- 第六十一條 左ニ掲ぐる場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ旨農林大臣ニ報告ス
 - 一 第五十四條ノ認可ヲ爲シタルトキ
 - 二 前條ノ報告アリタルトキ
- 第六十二條 一般鍛鍊競技ノ施行ニ要スル費用ハ其ノ施行者ノ負擔トス
- 軍用保護馬鍛鍊中央會ハ前項ノ費用ヲ補助スルモノトス

第三節 鍛鍊馬競走

- 第六十三條 軍馬資源保護法第八條第二項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲ぐる事項ヲ具シ農林大臣ノ許可ヲ申請スベシ
 - 一 鍛鍊馬場所在ノ場所
 - 二 鍛鍊馬場及其ノ附近ノ見取圖
 - 三 鍛鍊馬場設備ノ位置、構造及圍面
 - 四 鍛鍊馬場設備ニ要スル費用ノ見積額及其ノ支辨方法
 - 五 入場者及入場料ニ關スル事項

- 六 鍛鍊馬競走ノ實施ニ關スル規程
- 七 優等馬票ノ發行及拂戻金ノ交付ニ關スル規程
- 八 前各號ノ外軍馬資源保護法施行令第九條ノ寄附金ヲ納付セントスルトキハ之ニ關スル事項
- 鍛鍊馬競走ノ施行者前項ノ規定ニ依ル申請書ニ記載シタル前項各號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ
- 第六十四條 鍛鍊馬競走ノ實施ニ關スル規程ニハ左ニ掲ぐる事項ヲ記載スベシ
 - 一 出場馬ニ關スル事項
 - 二 施行委員ノ職務ニ關スル事項
 - 三 番組ノ編成ニ關スル事項
 - 四 馬體審査、調教審査及能力審査ニ關スル事項
 - 五 負擔重量、加増距離等競技ノ條件ニ關スル事項
 - 六 馬ノ所有者及騎乘者ニ關スル事項
 - 七 場内ノ取締ニ關スル事項
 - 八 前各號ノ外必要ナル事項
- 第六十五條 優等馬票ノ發行及拂戻金ノ交付ニ關スル規程ニハ左ニ掲ぐる事項ヲ記載スベシ
 - 一 優等馬票ノ額面金額、様式及發行方法ニ關スル事項

- 二 軍馬資源保護法第十一條第一項ノ規定ニ依リ收得スル金額ニ關スル事項
- 三 軍馬資源保護法第十條第七項及第八項ノ規定ニ依ル拂戻金ノ交付方法
- 四 前各號ノ外必要ナル事項
- 第六十六條 鍛鍊馬競走ノ施行者鍛鍊馬競走ヲ開催セントスルトキハ其ノ都度農林大臣ノ認可ヲ受クベシ
 - 一 開催ノ日時
 - 二 各競技ノ番組、種類、名稱、距離、賞金額、賞品ノ種類及競技ノ條件
 - 三 施行委員ノ氏名
 - 四 開催ニ關スル收支豫算
- 第一項ノ認可ヲ受ケタル者前項ノ規定ニ依ル申請書ニ記載シタル前項各號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ
- 第六十七條 鍛鍊馬競走ノ施行者ハ前條第二項第三號ノ施行委員トシテ左ニ掲ぐるモノヲ設置スベシ
 - 一 審査委員(馬體審査委員、調教審査委員及能力審査委員)
 - 二 發走委員
 - 三 檢査委員

- 四 馬場取締委員
- 五 場内取締委員
- 六 優等馬投票委員
- 前項ノ能力審査委員、發走委員及優等馬投票委員ハ軍用保護馬鍛鍊中央會ノ專門職員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ要ス
- 第六十八條 鍛鍊馬競走ニ於ケル競技ハ駈步競技、速步競技及障礙競技ノ三種トス
- 第六十九條 駈步競技ノ距離ハ千五百米以上三千米以下トシ速步競技ノ距離ハ千二百米以上二千四百米以下トス
- 第七十條 鍛鍊馬競走ノ競技ノ回數ハ一日ニ付十二回以内トス
- 第七十一條 鍛鍊馬競走ノ施行者入場料ヲ徴收セントスルトキハ其ノ額ニ付農林大臣ノ認可ヲ受クベシ
- 鍛鍊馬競走ノ施行者ハ農林大臣ノ許可ヲ受ケ入場料ヲ徴收セザル者ヲ定ムルコトヲ得
- 第七十二條 鍛鍊馬競走ノ施行者ハ左ニ掲ぐる者ニ各別ノ徽章ヲ交付シ鍛鍊馬場内ニ於テ常ニ之ヲ佩用セシムベシ
 - 一 有料入場者
 - 二 無料入場者
 - 三 軍馬資源保護法第十條第五項ニ掲ぐる者

ル者

四 軍馬資源保護法第十條第六項ニ掲グル者

五 優等馬票發行所及拂戻金交付所ノ係員

第七十三條 優等馬票發行所及拂戻金交付所ハ鍛鍊馬場内ニ之ヲ設ケ且軍馬資源保護法第十條第三項及第四項ニ規定スル事項ノ取締ニ必要ナル設備ヲ爲スベシ

第七十四條 優等馬票ノ發行ハ當該競技ノ能力審査ニ出場スベキ馬ノ確定シタル後之ヲ開始シ馬ガ競技ノ出發點ヲ發走スル前之ヲ締切ルベシ

第七十五條 優等馬票ノ發行ノ後當該競技ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ヲ生ジタルトキハ其ノ投票ヲ無効トシ鍛鍊馬場ノ施行者ハ額面金額ヲ以テ優等馬票ノ買戻ニ應ズベシ發行シタル優等馬票ニ表示セラレタル馬場ニ出デザルトキ又ハ馬場ニ出デタル馬場施行委員ノ宣告ニ依リ競技ヨリ除外セラレタルトキハ其ノ馬ニ對スル優等馬票ニ付亦同ジ

一 發走スベキ馬一頭ト爲リタルコト
二 競技成立セザルコト
三 競技ニ優等馬ナキコト

第七十六條 鍛鍊馬競走ノ施行者各競技ニ付投票ヲ締切リタルトキハ遲滞ナク各馬ニ對スル優等馬票ノ發行金額(單式優等馬投票法及複式優等馬投票法ヲ併セ用フル場合ニ於テハ其ノ各々ニ區分シタルモノ)ヲ揭示スベシ

第七十七條 單式優等馬投票法ニ於テハ能力審査ニ於テ第一著、第二著及第三著ト爲リタル馬(優等馬票發行開始ノ時ニ於テ競技ニ出場スベキ馬七頭以下五頭以上ナルトキハ第一著及第二著ト爲リタル馬、優等馬票發行開始ノ時ニ於テ競技ニ出場スベキ馬四頭以下ナルトキハ第一著ト爲リタル馬)ヲ以テ優等馬トス

第一著、第二著及第三著ト爲リタル馬ヲ以テ優等馬トスル場合ニ於テ第一著又ハ第二著ト爲リタル馬二頭アルトキハ次著順以下ノ馬ハ之ヲ一著順(二頭ヲ超ユルトキハ其ノ超ユタル頭數一頭毎ニ更ニ一著順)宛線下ゲタル著順ノ馬ト看做ス第一著及第二著ト爲リタル馬ヲ以テ優等馬トスル場合ニ於テ第一著ト爲リタル馬二頭以上アルトキ亦同ジ

第七十八條 單式優等馬投票法及複式優等馬投票法ヲ併セ用フル場合ニ於テ優等馬票發行開始ノ時ニ於テ競技ニ出場スベキ馬四頭以下ナルトキハ其ノ競技ニ付複式優等馬票ヲ發行スルコトヲ得ス

第七十九條 優等馬確定シタルトキハ當該競技ニ對スル優等馬票ノ發行ニ依リ得タル金額(單式優等馬投票法及複式優等馬投票法ヲ併セ用フル場合ニ於テハ其ノ各々ニ區分シタルモノ)ニ付左ノ區分ニ依リ軍馬資源保護法第十條第七項ノ規定ニ依リ交付スベキ拂戻金ヲ算出シ優等馬票の中者ニ對シ優等馬票引換ニ之ヲ交付スベシ但シ其ノ金額ハ優等馬票額面金額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

一、單式優等馬投票法ニ在リテハ附録ニ定ムル第一號算式ニ依リ各優等馬ニ對スル優等馬票ノ拂戻金額ヲ算出シ之ヲ當該優等馬ニ對スル各優等馬票ノ額面金額ニ按分シタルモノヲ以テ拂戻金トス

分シタルモノヲ以テ拂戻金トス

三 乙式拂戻金算出方法ニ依ル複式優等馬投票法ニ在リテハ附録ニ定ムル第一號算式ニ依リ各優等馬ニ對スル優等馬票ノ拂戻金率ヲ算出シ之ヲ當該優等馬ニ對スル各優等馬票ノ額面金額ニ乗ジタルモノヲ以テ拂戻金トス

前項各號ノ規定ニ依リ拂戻金ノ算出ヲ爲ス場合ニ於テ優等馬投票ノ中者無キ優等馬アルトキハ其ノ算出ニ付之ヲ優等馬ニ非ザルモノト看做ス

第八十條 軍馬資源保護法第十條第八項ノ規定ニ依リ拂戻金ヲ爲スベキ場合ニ於テハ左ノ金額ヲ馬場ニ出デタル馬ニシテ優等馬以外ノモノニ對シ投票シタル者ニ對シ其ノ優等馬票ノ額面金額ニ應ジ拂戻金トシテ優等馬票引換ニ之ヲ交付スベシ

一 優等馬票ノ發行ニ依リ得タル金額ニ在リテハ其ノ金額ヨリ同法第十一條第一項ノ規定ニ依リ取得スルコトヲ得ル金額ヲ控除シタル殘額

二 超過金ニ在リテハ其ノ金額

第八十一條 前一條ノ規定ニ依リ拂戻金ヲ交付スル場合ニ於テ其ノ交付上ノ基礎タル金額ニ付農林大臣ノ許可ヲ受ケ定メタル額ニ滿タザル端數アルトキハ其ノ端數ヲ切捨テ拂戻金ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ端數切捨ニ因リ生ジタル金額ハ鍛鍊馬競走施行者ノ收入トス

第八十二條 本則ニ於テ優等馬票ノ發行ニ依リ得タル金額トハ優等馬票ノ發行金額ヨリ第七十五條ノ規定ニ依リ買戻ニ應ズベキ金額ヲ控除シタルモノヲ謂フ

第八十三條 鍛鍊馬競走ノ施行者ハ優等馬票ノ受拂及優等馬票ノ發行金額ノ出納ヲ明瞭ナラシムル爲ニ必要ナル帳簿ヲ別ニ備フベシ

第八十四條 鍛鍊馬競走ノ施行者ハ鍛鍊馬競走終了後一月以内ニ左ニ掲グル事項ヲ農林大臣ニ報告スベシ

一 出場登録馬數並ニ馬體審査馬數、調教審査馬數及能力審査馬數
二 馬體審査ヲ受ケタル馬ノ名稱、性及年齢
三 各競技ニ於ケル受賞馬ノ名稱、種類、性、年齢、體高、胸圍、管圍、所有者、騎乗者、賞金額、賞品ノ種類、順位、競技距離、速度及負擔重量又ハ加増距離

四 入場者ノ員數及入場料ノ金額ニ付第七十二條第一號乃至第三號ニ掲グル者ノ區分

五 各競技ニ於ケル優等馬票ノ發行金額及發行枚數、第七十五條ノ規定ニ依リ買戻ニ應ズベキ金額、發行ニ依リ得タル金額並ニ第七十九條及第八十條ノ規定ニ依リ交付スベキ拂戻金ノ總額

六 鍛鍊馬競走開催ニ關スル收支實績前項第五號ニ掲グル事項ハ單式優等馬投票法及複式優等馬投票法ヲ併セ用フル場合ニ於テハ優等馬投票法ノ種類別ニ之ヲ記載スベシ

第八十五條 鍛鍊馬競走ノ施行者ハ鍛鍊馬競走ニ關スル收入支出ヲ他ノ會計ト區分シ特別ニ經理スベシ

前項ノ規定ニ依リ鍛鍊馬競走ノ特別會計ノ收支豫算ハ前年度二月末日迄ニ農林大臣ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ收支豫算ヲ變更セントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

鍛鍊馬競走ノ特別會計ノ收支決算ハ次年度ノ六月三十日迄ニ之ヲ農林大臣ニ報告スベシ

第八十六條 鍛鍊馬競走ノ施行者ハ優等馬

票ノ發行ニ依リ得タル金額ヨリ軍用保護馬鍛鍊中央會ニ納付スベキ金額及鍛鍊馬競走ノ施行ニ要シタル經費ヲ控除シタル殘額ヲ翌年度ノ馬ニ關スル施設ニ必要ナル經費ニ支出スベシ但シ農林大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

ニ經理スベシ
前條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ馬事施設ノ特別會計ニ之ヲ準用ス
第八十七條 軍馬資源保護法施行令第十條ノ規定ニ依リ納付スベキ金額ハ優等馬票ノ發行ニ依リ得タル金額ヲ左ノ各級ニ區分シ選次ニ各率ヲ適用シテ算出スルモノトス

鍛鍊馬競走ヲ開シタル日數四ノ場合	鍛鍊馬競走ヲ開シタル日數三ノ場合	鍛鍊馬競走ヲ開シタル日數二ノ場合	鍛鍊馬競走ヲ開シタル日數一ノ場合	納付金算出率
十萬圓以下ノ金額	七萬五千圓以下ノ金額	五萬圓以下ノ金額	二萬五千圓以下ノ金額	百分ノ一・五%
十萬圓ヲ超ユル金額	七萬五千圓ヲ超ユル金額	五萬圓ヲ超ユル金額	二萬五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ八・五
二十萬圓ヲ超ユル金額	十五萬圓ヲ超ユル金額	十萬圓ヲ超ユル金額	五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ九・五
三十萬圓ヲ超ユル金額	二十萬圓ヲ超ユル金額	十五萬圓ヲ超ユル金額	十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十一・五
四十萬圓ヲ超ユル金額	三十萬圓ヲ超ユル金額	二十萬圓ヲ超ユル金額	十五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十三・五
五十萬圓ヲ超ユル金額	四十萬圓ヲ超ユル金額	三十萬圓ヲ超ユル金額	二十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十五・五
六十萬圓ヲ超ユル金額	五十萬圓ヲ超ユル金額	四十萬圓ヲ超ユル金額	三十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十七・五
七十萬圓ヲ超ユル金額	六十萬圓ヲ超ユル金額	五十萬圓ヲ超ユル金額	四十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十八・五
八十萬圓ヲ超ユル金額	七十萬圓ヲ超ユル金額	六十萬圓ヲ超ユル金額	五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十八・五
九十萬圓ヲ超ユル金額	八十萬圓ヲ超ユル金額	七十萬圓ヲ超ユル金額	六十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十九・〇

第七章 軍用保護馬鍛鍊中央會
第八十八條 軍用保護馬鍛鍊中央會ハ其ノ成立後遲滯ナク事業ノ執行並ニ庶務、會計及資産ノ管理ニ關スル規程ヲ定メ農林大臣ノ認可ヲ受ケベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
第八十九條 軍用保護馬鍛鍊中央會ハ鍛鍊馬競走ノ能力審査委員、發走委員及優等馬投票委員タルベキ專門職員ヲ設置スベシ
前項ノ職員ノ任免ニ付テハ農林大臣ノ認可ヲ受ケベシ
第九十條 軍用保護馬鍛鍊中央會ハ左ノ方法ニ依リ其ノ資金ヲ管理スベシ但シ日常ノ經費ニ必要ナル資金ハ此ノ限ニ在ラズ
一 國債證券又ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ買入
二 農林大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金
第九十一條 軍用保護馬鍛鍊中央會ノ事業年度ハ一年トシ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス
第九十二條 軍用保護馬鍛鍊中央會ハ毎年二月末日迄ニ翌年度ノ收支豫算ノ認可ヲ

農林大臣ニ申請スベシ

軍用保護馬鍛鍊中央會收支豫算ヲ變更セントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受ケベシ收支豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第九十三條 軍用保護馬鍛鍊中央會ハ每事業年度終了後三月以内ニ農林大臣ニ決算報告及資金管理狀況報告ヲ爲スベシ

第八章 軍用保護馬ノ輸出及移出
第九十四條 軍用保護馬檢定ニ合格シ未ダ軍用保護馬ノ指定ヲ受ケザル馬ハ農林大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ檢定ノ日ヨリ一年間之ヲ輸出シ又ハ移出スルコトヲ得ズ

第九十五條 軍馬資源保護法第十九條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ第二項ニ規定スル法人ヲ除クノ外左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ニ其ノ馬ノ馬籍簿本ヲ添附シ其ノ馬ノ飼養地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シテ之ヲ農林大臣ニ提出スベシ
一 馬ノ名稱、性、毛色、年齢及飼養場所

二 所有者ノ住所氏名

三 輸出又ハ移出先
四 輸出又ハ移出ノ目的
五 輸出又ハ移出ノ時期
六 積出港及陸揚港

農林大臣ノ指定スル馬ノ改良増殖ヲ目的トスル法人ニシテ馬ノ輸出又ハ移出ニ關スル事業ヲ行フモノ軍馬資源保護法第十九條ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ其ノ馬ノ飼養地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ農林大臣ニ提出スベシ
一 輸出又ハ移出ノ見込頭數
二 前項第三號乃至第六號ニ掲グル事項ル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第九十六條 輸出又ハ移出ノ許可ヲ受ケタル者農林大臣ノ指定スル期間内ニ其ノ馬ヲ輸出シ又ハ移出セザルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ
第九十七條 輸出又ハ移出ノ許可ヲ受ケタル者許可申請書ニ記載シタル第九十五條第一項第三號乃至第六號又ハ同條第二項

第九十八條 輸出又ハ移出ノ許可ヲ受ケタル者其ノ馬ヲ輸出シ又ハ移出シタルトキハ遲滯ナク左ニ掲グル事項ヲ農林大臣ニ報告スベシ
一 輸出又ハ移出許可ノ年月日
二 馬ノ名稱
三 積出港及積出港出航ノ年月日
第九十五條第二項ノ法人ハ前項ノ規定ニ依リ報告書ニ其ノ馬ノ馬籍簿本ヲ添付スベシ

第九十九條 農林大臣前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ其ノ旨其ノ馬ノ最後ノ飼養地ヲ管轄スル地方長官ニ通告ス
地方長官前項ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ旨其ノ馬ノ最後ノ飼養場所ノ在リタル市町村ノ市町村長ニ通告ス

第一百條 本令ハ軍馬資源保護法施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第一百一條 軍用保護馬ハ當分ノ内第一條ノ規定ニ拘ラズ用役ニ支障ナキ限り同條第一號ニ規定スル資格ヲ具備セザル馬又ハ牝馬タルコトヲ妨グズ

附則

第一百條 本令ハ軍馬資源保護法施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第一百一條 軍用保護馬ハ當分ノ内第一條ノ規定ニ拘ラズ用役ニ支障ナキ限り同條第一號ニ規定スル資格ヲ具備セザル馬又ハ牝馬タルコトヲ妨グズ

第二百二條 昭和十四年ノ軍用保護馬定期検査ハ第七條第二項ノ規定ニ拘ラズ明ケ二歳以上明ケ十六歳以下ノ牡馬、明ケ三歳以上明ケ十六歳以下ノ騾馬及明ケ四歳以上明ケ十六歳以下ノ牝馬ニ付之ヲ行フ但シ國、北海道、府縣、畜産組合聯合會又ハ畜産組合ガ昭和十三年又ハ昭和十四年ニ於テ種付ヲ受ケタル旨證明シタル牝馬ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ證明ヲ爲シタル者ハ遲滞ナク其ノ旨其ノ馬ノ飼養場所ノ在ル市町村ノ市町村長ニ通知スベシ

第二百三條 軍用保護馬定期検査ハ昭和十四年ニ限り之ヲ行ハズ

第二百四條 飼養補助金ハ昭和十四年度ニ限り第三十條ノ規定ニ拘ラズ軍用保護馬ニ指定セラレタル馬ヲ昭和十四年ノ軍用保護馬定期検査ノ日現ニ飼養スル者ニシテ其ノ馬ノ飼養期間ガ引續キ三月以上ニ互ルモノニ對シ之ヲ交付ス

第二百五條 第三十二條中軍用保護馬定期検査終了後一月以内トアルハ昭和十四年度ニ限り軍用保護馬指定ノ日ヨリ一月以内トス

第二百六條 昭和十四年度ノ普通鍛鍊事業計畫ハ第三十六條ノ規定ニ拘ラズ當該道府縣ニ於ケル軍用保護馬定期検査終了後一月以内ニ地方長官之ヲ囑フ市町村長ニ通告ス

第二百七條 昭和十五年ノ軍用保護馬定期検査ノ日迄ノ間ニ於テハ軍馬資源保護法施行令第八條第一項第三號ノ馬體検査ハ第四十八條第一項ノ規定ニ拘ラズ隨時之ヲ行フコトヲ得

第二百八條 昭和十四年度ニ於ケル鍛鍊馬競走ノ特別會計ノ收支豫算ノ認可ノ申請ニ付テハ第八十五條第二項ノ期限ニ依ラザルコトヲ得

第二百九條 軍用保護馬鍛鍊中央會ハ軍馬資源保護法附則第二項ノ規定ニ依リ行フ事業ニ關スル收入支出ヲ他ノ會計ト區分シ特別ニ經理スベシ

第三百十條 軍馬資源保護法施行令第二十八條第一項ニ規定スル畜産組合聯合會又ハ畜産組合ノ軍用保護馬鍛鍊中央會ニ對スル申出ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書

類ヲ添附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スベシ

一 資産負債及事業經營ノ狀況

二 整理計畫ノ細目

第三百十一條 軍用保護馬鍛鍊中央會軍馬資源保護法施行令第二十八條第二項ノ規定ニ依リ農林大臣ノ認可ヲ受ケテ行フ事業執行ノ方法ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ承認ヲ受クベシ

第三百十二條 軍用保護馬鍛鍊中央會ハ每事業年度終了後三月以内ニ軍馬資源保護法施行令第二十八條第一項各號ノ事業ノ成績ヲ當該競馬場毎ニ農林大臣ニ報告スベシ

(附録省略)

軍馬資源保護法施行令八條第一項 第二號ノ區域指定

(昭和十四年八月二十九日 農林省告示第二百八十八號)

東部區
 釧路市及帶廣市並ニ釧路國支廳、十勝支廳及根室支廳各管内

中部區
 旭川市並ニ上川支廳、留萌支廳、宗谷支廳及網走支廳各管内

西部區
 札幌市、函館市、小樽市及室蘭市並ニ石狩支廳、渡島支廳、檜山支廳、後志支廳、空知支廳、膽振支廳及日高支廳各管内

軍馬資源保護法施行規則第九十五條第二項ニ規定スル法人指定

(昭和十四年七月二十四日 農林省告示第二百二十五號)

社團
 法人帝國馬匹協會

軍用保護馬鍛鍊中央會登記取扱手續

(昭和十四年七月一日 司法省令第二十九號)

第一條 軍用保護馬鍛鍊中央會ニ關スル登記ノ事務ハ商業登記ヲ取扱フ登記所ニ於テ之ヲ取扱フ

第二條 軍用保護馬鍛鍊中央會登記簿ハ附録第一號様式ニ依リ地方裁判所長ニ於テ之ヲ調製スベシ

第三條 受附帳ハ附録第二號様式ニ依リ毎年之ヲ調製スベシ

第四條 事務所ノ新設又ハ移轉ニ因リ軍馬

資源保護法施行令第十四條第一項ニ定ムル登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙中豫備欄ニ其ノ事由ヲ記載スベシ

第五條 行政區畫又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ登記官吏ハ登記用紙中變更欄ニ新舊ノ名稱及變更アリタル旨ヲ記載シ之ニ捺印スベシ

第六條 商業登記取扱手續第六條乃至第二十七條、第二十一條第五項、第二十三條乃至第四十四條乃至第四十四條ノ三、第四十四條ノ六、第四十四條ノ八乃至第四十四條ノ十、第四十四條ノ十一第二項第三項、第四十五條、第四十六條、第四十九條ノ三及第五十條(不動産登記法施行細則第三十八條ノ規定ヲ除ク)ノ規定ハ軍用保護馬鍛鍊中央會ノ登記ニ之ヲ準用ス

附則
 本令ハ軍馬資源保護法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 (附録省略)

軍用保護馬衛生蹄蹄施設獎勵規則

(昭和十四年九月二十二日 農林省令第四十三號)

第一條 農林大臣ハ軍用保護馬ノ衛生及蹄蹄ニ關スル施設ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ每年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

第二條 獎勵金ハ道府縣ノ左ニ掲グル費用ニ對シ之ヲ交付ス

一 軍用保護馬ノ衛生及蹄蹄ニ關スル專任技術員設置ニ要スル費用

二 軍用保護馬ノ疾病豫防又ハ治療ニ要スル費用

三 軍用保護馬ノ削蹄又ハ裝蹄ニ要スル費用

四 軍用保護馬ノ衛生及蹄蹄ニ關スル事務ニ要スル費用

第三條 獎勵金ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ交付ス

一 前條第一號及第四號ノ費用ニ對スルモノニ在リテハ其ノ費用ノ三分ノ二以内

二 前條第二號ノ費用ニ對スルモノニ在リテハ其ノ費用ノ五分ノ四以内

三 前條第三號ノ費用ニ對スルモノニ在リテハ其ノ費用ノ範圍内ニ獎勵金ハ特ニ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ前項各號ノ割合ヲ超エテ之ヲ交付スルコトアルベシ

第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル道府縣ハ申請書ニ左ニ掲グル書類ヲ添附シ毎年二月末日迄ニ之ヲ農林大臣ニ提出スベシ

一 事業計畫書

二 收支豫算書

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣前條第一項ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ翌年度六月三十日迄ニ事業成績書及收支決算書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第七條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ

一 本則ノ規定ニ違反シタルトキ

二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

四 支出額ガ豫算額ニ違セザルトキ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條中二月末日迄トアルハ昭和十四年度ニ限り昭和十四年十月三十一日迄トス

軍用資源秘密保護法關係法令

國境取締法案及軍用資源秘密保護法案ニ對スル衆議院委員長報告

肥田碩司君 只今議題トナリマシタ兩法案ノ委員會ニ於ケル經過竝ニ結果ノ大要ヲ御報告申上ゲマス

本法案ハ國防軍事上共ニ重要ナノデアリマシテ、第一ノ國境取締法案ハ、最近ノ國際情勢ヨリ見テ、防諜ト公安ノ萬全ヲ期スル爲ニハ、國境ノ出入ヲ嚴重ニ取締ル必要ガアリ、殊ニ陸境方面ニハ、其ノ完備ヲ圖ルノ急務ヲ感ジタカラデアリマス、第二ノ軍用資源秘密保護法案ハ、國情ニ關スル重要ナル秘密ヲ外國ニ知ラレタノデハ、國家總力戰ノ進行ニ支障ヲ來スノミナラズ、軍用ノ資源ガ一々外國ニ知ラレテハ、軍事目的達成ノ上ニ非常ニ妨ゲトナルノデアリマスカラ、此ノ法律ヲ制定シテ、軍用資源秘密ノ保護ニ萬全ヲ期スル爲デアリマス

審議ノ内容ハ速記録ニ依ツテ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマスガ、主要ナ一二點ニ付テ申上ゲマスレバ、軍用資源秘密保護法ニ付テハ、斯ル法律ニ依ラズトモ軍機保護法、又ハ國家總動員法ニ依ツテ取締ルコトガ出來ルノデハナイカト云フ點デアリマシタガ、

軍用資源秘密保護法

之ニ對シテ政府ハ、軍機保護法ハ主トシテ取締ル問題ニ付テ取締ル目的ニ出發シ、國家總動員法ニ付テハ外國人ニスパイヲ取締ルコトニ支障ガアルニ依ツテ、此ノ法律ヲ必要トスル旨ノ答辯ガアリ、更ニ又此ノ法律ニ依ル命令事項ハ實體法ニ關レル點ガ多イガ、其ノ内容ヲ示サレタイトノ希望ガアリ、政府ハ悉ク其ノ命令事項ノ内容ヲ詳細ニ示サレマシタ、即チ本委員會ニ於テハ、極メテ委員ト政府トノ間ニ率直ナ質問答辯ガ和ヤカニ行ハレマシテ、討論ニ入り、滿場一致原案通り可決致シマシタ、此段御報告申上ゲマス

國境取締法案及軍用資源秘密保護法案ニ對スル貴族院委員長報告

山川雄夫君 只今上程サレマシタ國境取締法案及軍用資源秘密保護法案ニ付キマシテ、特別委員會ニ於ケル審議ノ經過及結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ去ル十三日ニ第一回ノ會合ヲ開キマシテ、前後五回ニ互リ慎重審議ヲ致シタノデアリマス、其ノ間政府ノ要求ニ依リマシテ、速記ヲ停止スルコト數回、秘密會ヲ開イタコトガ三回ニ及ンダノデアリマス、委員會ニ於ケル審議ノ順序ニ從ヒマシテ、先ヅ軍用資源秘密保護法案ニ付テ申上ゲタイト思ヒマス、此ノ法案ノ提出ノ理由ハ、本議場ニ於テ陸軍大

臣カラ御説明ガアリマシタカラ、茲ニハ繰返シマセヌガ、此ノ法案ノ立法ノ趣意ヲ明カニスル爲ニ、委員會ニ於テ政府當局ノ説明セラレタ主ナ點ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス、即チ第一ニハ、本法案ノ保護スル對象ハ國防上秘密ヲ要スル數多キ資源ノ中デ、軍用ニ供シ又ハ軍用ニ供スベキモノノ中カラ、特ニ軍ニ取ツテ重要ナル資源ノ範圍ニ限定シテ居ルト云フコトデアリマス、第二ニハ、取締ルべき範圍ハ本法案ニ具體的ニ列舉シテ、又取締ル努力メテ其ノ範圍ヲ局限シマシテ、行キ過ギヲ防グト云フコトデアリマス、而シテ政府ハ委員會ニ於キマシテ本法實施ノ爲ニ必要ナル勅令及命令事項ノ要綱ヲ詳シク示シタノデアリマス、第三ニハ、秘密トナスベキ事柄ハ、大體昭和十三年度以降ノモノニ限ルト云フコトデアリマス、第四ニハ、取締ル爲ニ商取引、行政上ノ措置、學術ノ研究等ニ出來ルダケ支障ヲ來サナイヤウニ、特ニ考慮シテ居ルト云フコトデアリマス、第五ハ、秘密ハ外國ニ漏洩スルノヲ除クノヲ本旨ト致シマシテ、秘密保護上差支ナイ限りハ日本人ニ話ラシ、又ハ秘密ヲ交付スルコトハ取締ラナイ趣意ヲ以テ立案シテ居ルト云フコトデアリマス、本法案ハ其ノ目的カラ申シマシテモ、其ノ内

容カラ見テモ極メテ重要ナルモノガアルノ
デアリマスカラ、質問ハ多岐ニ互テ熱心
ニ行ハレタノデアリマス、竝ニハ其ノ主ナル
モノヲ二三申上ゲマシテ、他ハ速記録ニ讓
リタイト考ヘテ居リマス、本法案自體ニ付
キマシテハ、委員會ニ於テハ何レモ其ノ必
要ヲ認メマシテ、寧ろ其ノ制定ノ遅キヲ感
ズルト云フ意ヲデアリマシタガ、本法案ノ
運用ニ付キマシテハ種々ノ質問ガアッタ
デアリマス、第一ハ、本法案運用ニ付キマ
シテ關係各省間ニ如何ナル連絡ヲ取ルヤト
云フ問題デアリマス、之ニ對シマシテハ軍
用資源秘密ノ指定、重要設備ノ秘匿ノ爲ノ
措置等ニ付キマシテハ、陸海軍省ガ中心ト
ナリマシテ、豫メ各省ト協議シテ緊密ナ連
絡ヲ取ル、又取締ニ付テハ内務省ガ主トナ
テ陸海軍省ト連絡シテ之ニ當リ、憲兵モ之
ニ携ルノデアリマスガ、警察官ト憲兵トノ
間ニハ十分ニ連絡ヲ取ルコトニ注意スル、
要スルニ取締ノ上ニ於テ、本法ノ目的ヲ能
ク達成スルコトニ努ムルト共ニ、他面行通
ギヲ防止シ、且取締上苛酷ニ流ル、コトナ
キヤウニ致シテ、人ヲ見テ「ス、バイ」ナリト云
フヤウナ感ジヲ起サセナイヤウニ努ムルト
云フ御答デアッタノデアリマス、第二ハ、
警察ノ取締ノ上カラ見マシテ、上ノ命ズル

所ガ必ズシモ下ニ徹底シナイ、ソレデ兎角
取締ガ杓子定規ニ流ル、弊ガアルト云フコ
トカラ、今日ノ經濟組織ガ今ノ現状ニ即シ
ナイ、又本法案行ノ上ニモ十分デハナイト云
フコトデ、政府ハ此ノ際警察機構ヲ再檢討
スル用意アリヤ否カト云フ質問デアリマス、
政府ノ答辯ハ、本法案施行ニ關シマシテハ、
警察官ノ取締振ニ付テ、十分訓示シテ萬遺
憾ナキヲ期スル、而シテ警察機構ノ改善ニ
付キマシテハ篤ト研究ヲ加ヘテ、時勢ニ應
ジテ其ノ機構ノ活用ヲ圖ルコトニ努メタイ
ト云フコトデアリマス、第三ハ、(一三)ノ
委員カラノ質問デアリマスガ、其ノ要領ハ、
本法ノ趣旨ハ徒ニ罪人ヲ作ルノデハナク、本法
ノ目的ハ所ヲ達成スルノアルノデ、本法ハ
國防上軍ノ秘密ニ關スルト云フコトデ、之ガ取
締ニ當ル者モ動モスレバ苛細ニ流レ、又國
民モ徒ニ恐怖心ニ驅ラレテ、其ノ極或ハ國
民相互ノ間ニ猜疑心ヲ起スノ虞ナシトハシ
ナイ、仍テ本法施行ニ當リマシテハ、豫メ國
民一般ニ本法ノ精神及内容ヲ十分能ク知ラ
シメ、又指導取締ノ任ニ當ル者ニ對シマシ
テモ、同様出來ルダケ之ヲ周知セシメテ、
適正ナル措置ヲ執ル必要ガアルノデ、政府
ノ考ハ如何ト云フコトデアリマス、政府ハ
之ニ全然同意ノ意ヲ表シマシテ、取締ニ當

ル官吏ニ對シマシテハ勿論、廣ク一般國民
ニ周知セシムルコトハ極メテ必要ナリト認
ムルカラ、有ラユル手段ヲ講ジテ之ガ徹底
ニ努ムル考デアルト云フ御答デアリマシ
タ、次ニ防諜關係、防諜訓練或ハ一般ノ防
諜團ノ指導方法等ニ付キマシテモ色々質問
ガアリマシテ、ソレレ、詳細ナル御答ガ
アッタノデアリマス、更ニ本法ノ各條文ニ付
テ詳細ナリ有益ナ質問ガアリマシタガ、此
ノ質問ニ依テ明カニナッタ點ハ、本法ハ知
ラザル者ハ罰シナイ、過失ヲ罪シナイト云
フコトデアリマス、此ノ外ニ條文ノ解釋、
内容等ニ付テハ應答ハ速記録ニ讓リタイト
考ヘテ居リマス、次ニ國境取締法、此ノ法
案ハ我が國境取締規定ノ不備ニ乘ジマシテ、
帝國ノ利益ニ背反スル行動ヲ爲サムトスル
者ガ少クナイノデアリマス、今日ノ國際情
勢上、國境ノ出入取締ニ遺憾ナキヲ期スル
爲ニ提案サレタモノデアリマス、本法案ニ
對スル質問ハ多クハ速記録ヲ停止シ、又ハ秘
密會ニ於テ爲サレタノデアリマス、公開ノ
席上ニ於テ行ハレタ質問ノ主ナルモノハ、
國境ニ沿フテ設ケラルベキ出入制限地帯内
ニ於ケル住民ノ取扱ニ關スル件、又最近數
年間ニ於ケル越境人員等ニ關スルコトデア
リマシタガ、是等ハ總テ速記録ニ付テ御承

軍用資源秘密保護法

(昭和十四年三月二十五日
法律第二十五號)

第一條 本法ハ國防目的達成ノ爲軍用ニ供
スル(軍用ニ供スベキ場合ヲ含ム)以下之
ニ同ジ)人及物的資源ニ關シ外國ニ秘
匿スルコトヲ要スル事項ノ漏泄ヲ防止ス
ルヲ以テ目的トス

第二條 陸軍大臣又ハ海軍大臣(官廳ノ管
理ニ屬スルモノニ係ルトキハ勅令ノ定ム
ル所ニ依リ主務大臣)ハ左ニ掲グルモノ
ニ就キ命令ヲ以テ軍用資源秘密ヲ指定ス
ルハ當該事項又ハ圖書物件ノ管理者又ハ之
ニ準ズベキ者ニ對スル通知ヲ以テ之ヲ爲
ス

一 全國(關東州及南洋群島ヲ含ム)以下
之ニ同ジ)又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ
供スル重要ナル物資ノ生産額、生産能
力、生産能力判定資料タル設備ノ種類
別數(之ヲ判定シ得ベキ比率ヲ含ム)以
下之ニ同ジ)及政府ノ決定シタル生産
計畫並ニ此等ヲ表示スル圖書物件
二 兵器ヲ生産スル工場事業場又ハ之ニ
轉用スルコトヲ得ル工場事業場ノ當該

兵器ノ生産額、生産能力並ニ生産能力
判定資料タル重要ナル設備ノ種類別數
及其ノ設備ニ屬スル從業者ノ總數(之
ヲ判定シ得ベキ比率ヲ含ム)以下之ニ同
ジ)又ハ種類別數並ニ此等ヲ表示スル
圖書物件

三 兵器以外ノ軍用ニ供スル重要ナル物
資ヲ生産スル工場事業場又ハ之ニ轉用
スルコトヲ得ル工場事業場ノ當該物資
ノ生産額、生産能力、生産能力判定資料
タル重要ナル設備ノ種類別數及其ノ設
備ニ屬スル從業者ノ總數又ハ種類別數
並ニ政府ノ決定シタル生産計畫並ニ此
等ヲ表示スル圖書物件

四 全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供ス
ル重要ナル物資ノ貯藏額及貯藏設備
ノ貯藏能力、此等ノ判定資料タル重要
ナル貯藏設備ノ當該物資ノ貯藏額及貯
藏能力、政府ノ決定シタル當該物資ノ
貯藏計畫並ニ此等ヲ表示スル圖書物
件

五 政府ガ貯藏セシメタル軍用ニ供スル
重要ナル物資ノ貯藏額、政府ガ當該物
資ヲ貯藏セシメタル貯藏設備ノ貯藏能
力、政府ノ決定シタル當該物資ノ貯藏
命令等ニ係ル貯藏計畫並ニ此等ヲ表示

知ヲ願ヒタイノデアリマス、斯クテ質疑ヲ
終リマシテ、討論ニ入りマシタガ、討論ニ
於キマシテハ數名ノ委員カラ賛意ヲ表スル
ト共ニ希望ヲ開陳セラレタノデアリマス、
其ノ希望ハ何レモ本法運用上ノ注意ニ關ス
ルコトデアリマシテ、大體左ノ通り要約ス
ルコトガ出來ルト考ヘテ居リマス、一ツハ
本法ニ依ル取締ノ實ニ當ル者、殊ニ内務省
局ガ取締實施ノ上ニ宜シキヲ失テ、國民ノ
間ニ萬一猜疑心ヲ起サウナコトガアレバ、
却テ國力ヲ弱メルト云フコトニナルノデア
ルカラ、嚴ニ過チナキヤウ注意サレタイコ
ト、二ハ本法實施ノ結果、國民經濟上ノ發
展及生産力ノ擴充ニ支障ヲ及スコトナキヤ
ウ特ニ留意セラレタイコト、三ハ本法ノ精
神及内容ヲ取締ノ任ニ當ル者、及ビ一般國
民ニ徹底セシメルノ措置ヲ執ラレテ、國民
總體ノ精神ヲ以テ官民一致、和ヤカニ本
法ノ實行ヲ期スベキコトト云フノデアリマ
ス、委員會ハ討論ヲ終リマシテ採決ニ入
リ、滿場一致異議ナク兩案ヲ可決致シタ
デアリマス、右御報告ヲ申上ゲマス

スル圖書物件
 六 全國若ハ一地方又ハ重要ナル港灣ニ於ケル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ輸入額及政府ノ決定シタル輸入計畫並ニ此等ヲ表示スル圖書物件
 七 全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル特殊技能者其ノ他ノ重要ナル人的資源ノ總數又ハ種類別數及此等ヲ表示スル圖書物件
 八 全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル航空機、自動車又ハ馬ノ總數又ハ種類別數及此等ヲ表示スル圖書物件
 九 軍用ニ供スル重要ナル鐵道ノ輸送能力及輸送能力判定資料タル輸送統計、此等ヲ表示スル圖書物件並ニ軍用ニ供スル重要ナル鐵道ノ施設又ハ車輛ニ關スル重要ナル記録圖表及其ノ内容
 十 軍用ニ供スル重要ナル飛行場又ハ其ノ附屬設備ニ關スル重要ナル記録圖表及其ノ内容
 十一 軍用ニ供スル船舶ニ於ケル特殊設備ニ關スル重要ナル記録圖表及其ノ内容
 十二 軍用ニ供スル重要ナル通信連絡系統及其ノ通信能力、此等ヲ表示スル圖書物件並ニ軍用ニ供スル重要ナル通信

設備又ハ其ノ設備ノ通信能力若ハ連絡系統ニ關スル重要ナル記録圖表及其ノ内容
 十三 陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ命令若ハ委囑ニ依ル重要ナル試驗研究又ハ軍事上秘匿ヲ要スル發明考案ニ關スル事項及圖書物件
 十四 軍事上秘匿ヲ要スル氣象ニ關スル重要ナル事項及圖書物件
 十五 特ニ秘匿ノ措置ヲ要スル第二號乃至第五號及第九號乃至第十二號ニ規定スル設備、第十三號ノ試驗研究ニ關スル設備並ニ此等ノ機構及性能並ニ此等ヲ表示スル圖書物件
 第三條 軍用資源秘密トシテ秘匿スルノ要ナキニ至リタルモノニ付テハ其ノ指定ヲ解除ス
 前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル解除ノ場合ニ之ヲ準用ス
 軍用資源秘密ニ關シテ政府ノ公表シタルモノアルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ内容ト爲リタル部分ニ限リ其ノ指定ノ解除アリタルモノト看做ス
 第四條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用資源秘密ニ關スル圖書

物件ニ一定ノ標記ヲ附セシムルコトヲ得
 第五條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第二條第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ニ關スル設備ヲ秘匿スル爲ニ必要アルトキハ其ノ管理若ハ之ニ準ズベキ者ニ對シ當該設備ノ遮蔽其ノ他之ヲ秘匿スルニ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得
 第六條 陸軍大臣又ハ海軍大臣(官廳ノ管理ニ屬スルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣)ハ第二條第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ニ關スル設備ヲ秘匿スル爲ニ必要アルトキハ命令ヲ以テ之ニ付立入又ハ測量、攝影、模造若ハ錄取又ハ其ノ複製若ハ複製ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
 第七條 政府ハ軍用資源秘密ヲ秘匿スル爲ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用資源秘密ヲ記載スル登記簿ノ閲覧又ハ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ制限スルコトヲ得
 第八條 政府ハ第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ヲ秘匿スル爲ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法令ニ基ク出願、申請、報告、届出等ヲ爲シ又ハ立入、検査、質問等ヲ受ケル場合ニ

付軍用資源秘密ノ開示又ハ交付ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
 第九條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第五條ノ規定ニ依ル命令ニ係ル事項ニ關シ當該設備ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ニ對シ報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ立入り、検査ヲ爲シ若ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲サシムルコトヲ得
 第十條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第五條ノ規定ニ依ル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス
 前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第十一條 外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニスル目的ヲ以テ軍用資源秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
 第十二條 業務ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニスルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス
 外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニスル目的ヲ以テ軍用資源秘密ヲ

探知シ又ハ收集シタル者之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニスルコトトキ亦前項ノ同ジ
 前二項ニ規定スル理由以外ノ理由ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニスルコトトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス
 第十三條 業務ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千元以下ノ罰金ニ處ス
 前項ニ規定スル理由以外ノ理由ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十四條 第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十五條 軍用資源秘密ヲ外國又ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄スル爲ニ探知シ、收集シ又ハ漏泄スルコトヲ目的トシテ團體ヲ組織シタル者又ハ其ノ團體ノ指導者タル任務ニ從事シタル者ハ五年以下

ノ懲役ニ處ス
 情ヲ知リテ前項ノ團體ニ加入シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス
 第十六條 第六條ノ規定ニ依リ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十七條 第五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十八條 第七條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者及第九條ノ規定ニ依リ立入若ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ノ同ジ
 第十九條 第十一條及第十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第二十條 第十一條、第十五條又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者未ダ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除ス
 第二十一條 第五條ノ規定ニ依リ秘匿ノ措置ヲ命ゼラレタル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ業務ニ關シ第七條又ハ第十八條第二項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮